

家族と性と多様性にかんする全国アンケート (全国 SOGI 調査)

報告書

JSPS 科研費 (JP21H04407)

「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為抽出調査の実施」

研究チーム編

2025 年 3 月

本報告書の引用について

本報告書の引用にあたっては、出典として、以下の情報を含めてください。

日本語の場合：

釜野さおり・岩本健良・小山泰代・申知燕・武内今日子・千年よしみ・平森大規・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和，
2025，『家族と性と多様性にかんする全国アンケート（全国 SOGI 調査）報告書』 JSPS 科研費 JP21H04407
「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為抽出調査の実施」研究チーム（代表 釜野さおり），早稲田大学
SOGI 調査研究所。

- ・ メディア等において、出典を短縮する必要がある場合

釜野ほか，2025，『家族と性と多様性にかんする全国アンケート報告書』 科研費「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為抽出調査の実施」研究チーム。

英語の場合（Citation Suggestion in English）：

Kamano, Saori, Takeyoshi Iwamoto, Yasuyo Koyama, Jiyeon Shin, Kyoko Takeuchi, Yoshimi Chitose, Daiki Hiramori, Hiromi Fujii, Kana Fuse, and Masakazu Yamauchi. 2025. *Report of the National Survey of Family, Gender/Sexuality, and Diversity*. JSPS Kakenhi JP21H04407 “Constructing a Demography of Sexual Orientation and Gender Identity: Nationwide Random Sampling Survey” Research Team (PI: Saori Kamano). Tokyo: SOGI Research Institute, Waseda University.

- ※ 本調査の実施にあたっては、令和 3 年度～6 年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（一般・基盤研究（A））「[性的指向と性自認の人口学の構築－全国無作為抽出調査の実施](#)」（課題番号 [JP21H04407](#)）の助成を受けました。
- ※ 本調査は、国立社会保障・人口問題研究所 研究倫理審査委員会の承認を受けて実施しました（承認番号 IPSS-IBRA #22002）。

目次

はじめに	1
本報告書について	3
I 調査の結果	5
1 性的指向と性自認のあり方	5
出生時の性別【問 53】と現在の性自認【問 54】	5
性的指向アイデンティティ【問 55】	7
出生時の性別にみた、性的指向アイデンティティ【問 55】	7
年齢別にみた、性的指向アイデンティティ【問 55】	8
性的指向アイデンティティを「決めたくない・決めていない」理由【問 55①】	8
出生時の性別にみた、性的指向アイデンティティを「決めたくない・決めていない」理由【問 55①】	9
恋愛感情を抱く、性的に惹かれる、セックスの相手の性別【問 56】	10
2 家族・性のあり方についての認識と考え方	12
身近な同性愛者や性別を変えた人についての考え方【問 52】	12
同性愛者【問 57】や性別を変えた人【問 58】が、身近にいるか否かの認識	12
家族と性の多様性に関わる制度についての考え方【問 59】	15
居住する自治体のパートナーシップ制度の認知【問 60(1)】	26
居住する自治体のパートナーシップ制度利用に対する関心【問 60(2)】	28
3 男女の役割・家族についての考え方	30
男女の役割と家族についての考え【問 51】	30
4 心身の健康	41
現在の健康状態【問 11】	41
喫煙習慣【問 12】	42
飲酒頻度【問 13】	44
飲酒に関わる経験【問 14】	46
慢性的な病気・長期的な健康問題【問 15】	47
最近 1 か月の心の状態【問 16】	50
最近 1 か月の心の状態（K6 値）【問 16】	53
希死念慮・自殺念慮・自殺未遂経験【問 17】【問 18】	55
小学校から高校時代に経験した不快な冗談・からかい、暴力的行為【問 19】	59
大人になってから経験した不快な冗談・からかい、暴力的行為【問 20】	61
5 パートナー関係と家族形成	63
一緒に暮らしている人の数【問 35】	63
家族構成【問 35①】	64
現在のパートナー関係【問 36】【問 37】【問 38】【問 39】	67
パートナーの呼称【問 35】【問 36】【問 37】【問 38】【問 39】	70

婚姻やそれに準じる関係の解消や死別の経験【問 40】	70
結婚等についての希望【問 41】	72
交際についての希望【問 42】	74
子どもの数【問 43】と今後の希望【問 44】	76
出産や子どもを持つことについての経験【問 45】	77
6 親の状況と親との関係	80
父親・母親が最後に通った学校【問 31】	80
回答者の父母の国籍【問 32】	81
父親・母親の現在の居住地【問 33】	82
両親との同別居【問 33】	84
親との会話頻度【問 34】	86
7 離家と引っ越し	88
回答者の生まれた国【問 24】と現在の国籍【問 25】	88
親と離れて暮らした経験【問 26】	88
はじめて親と離れて暮らした時の年齢【問 26】	90
はじめて親と離れて暮らした時の理由【問 26①】	91
はじめて親と離れて暮らした時の居住地【問 26②】	92
中学校卒業時点での居住地【問 27】	94
5 年前の居住地【問 28】	96
今後の引っ越しの希望【問 62】	97
引っ越したい理由【問 63】	99
希望する引っ越し先【問 64】	100
5 年以内に引っ越す可能性【問 65】	102
8 教育経験	104
最後に通った（または現在通っている）学校【問 29】	104
中学 3 年生の頃の成績【問 30】	105
9 仕事と働き方	106
就業状況【問 1】	106
仕事をしていない理由【問 1①】	107
従業上の地位【問 2】	109
産業（勤務先の事業）【問 3】	111
職業（職種）【問 4】	112
勤務先の規模【問 5】	113
勤務先における役職【問 6】	113
勤続年数【問 7】	114
週あたりの労働時間【問 8】	115
休職・無職の経験【問 9】	116
仕事で得た収入（年収）【問 10】	117

1 0 経済状況	118
住宅【問 61】	118
世帯収入【問 46】	119
貯蓄【問 47】	121
経済的困難【問 48】	122
日常の困りごと【問 49】	124
心配ごとを聞いてくれる相手【問 21】	126
経済的援助を得られる相手【問 22】	127
生活満足感【問 50】	129
II 調査方法	131
対象者の抽出	131
調査票の配布と回収	133
回収状況	133
III 付録	135
調査書類一覧	135
調査にかんする発表資料	135

本調査は、多様な性的指向や性自認のあり方、交際や結婚経験などが、人びとの心身の健康、経済状況、居住地移動の経験や希望、子どもをもつことの経験や希望、親との関係などの生活実態や意識と、どのように関連しているのかを明らかにすることを旨として、2023 年 2～3 月、日本に居住する 18～69 歳の方を住民基本台帳から層化二段無作為抽出法によって 18,000 人抽出し、実施したものです。

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、アセクシュアル（LGBTA）を含む性的マイノリティが日本社会で直面する課題については、性的マイノリティを対象にした量的調査や、聞き取り調査などを通じて明らかにされつつあります。しかし、厳密な統計的手順を踏まえたデータに基づいて日本における性的マイノリティの割合を推定することや、性的マイノリティと、そうでない人との生活実態や意識を比較することが可能な研究は限られていました。そこで、私たちの研究チームでは 2019 年 1～2 月に大阪市で回答者を住民基本台帳から無作為に抽出した調査（<https://www.osaka-chosa.jp/>）を実施し、大阪市民の性的指向と性自認のあり方の分布を示し、性的指向と性自認のあり方による、こころの状態の比較などを行いました。

しかし、2019 年の調査結果は大阪市民の状況に限られていたため、日本全体についてはわかりませんでした。そこで、今回日本全国に住む無作為に抽出した 18～69 歳の 18,000 人を対象に調査を実施し、性的指向や性自認のあり方、異性・同性との交際や結婚経験など人びとの生活実態や意識との関連について検討することにしました。

この調査の設計の特徴は、以下のとおりです。

第 1 に、本調査では性的指向と性自認のあり方についてさまざまな設問を通してたずねているため、何割の人が自分自身を同性愛者であると認識しているか、何割の人が男性と女性の両方に性的に惹かれるのか、何割の人が出生時の性別に違和感をもっているのか、何割の人が同性/異性の恋人と交際した経験があるのか、等の点について、明らかにすることができます。

第 2 に、性的指向や性自認のあり方が異なることで、生活実態や意識にどのような違いが生じるのかについて、統計的に比較することができます。つまり性的マイノリティの生活実態と意識には、性的マイノリティ以外の人たちと比べ、統計的に意味がある違いがあるのかを検証できます。特に、性的指向や性自認のあり方との関連がこれまで明らかにされてこなかった、結婚や交際の経験と希望、子どもをもつことの経験と希望、居住地移動の経験と希望など、人口学的な事項との関連を確認することができます。

第 3 に、対象者を日本全国から無作為に抽出しているため、日本全体にあてはまる結果を得ることが期待できます。信頼性のあるデータを得るためには、綿密に設計された調査票が重要です。本研究では、とりわけ回答者が性的マイノリティであるかそうでないかに関わらず、誰もが性的指向や性自認のあり方を的確に回答できるような質問項目を開発するために、多くの人びとの協力を得て予備調査を実施するなど、慎重に準備を重ねてきました。また、本調査は、結婚や交際の問いにおいて、その相手を男性と女性に限定せず、どちらにも属さない性別の人も含めてとらえることができるように設計しました。

本研究チームでは、本調査の成果のもっとも重要な点は、以下の 2 点にあると考えています。第一に、日本の社会学的な学術調査や国・自治体による世論調査・実態調査で従来用いられてきた抽出方法で、回答者の性的指向や性自認のあり方をたずねる問いを含めて、全国調査を実施することができたことです。第二に、回答者の性的指向と性自認のあり方別に、生活や意識にかんするさまざまな項目の回答を集計すると、性的マイノリティとそうでない人びととの間で、違いがみられた項目が多く観察された点です（「本報告書について」を参照）。これらの違いには、国内外の先行研究で指摘されてきたものと親和性のあるものあれば、今回日本ではじめて検討された内容も含まれます。この 2 点から、今後日本において、本調査と同様の

設計で大規模調査を定期的の実施すれば、性的マイノリティの実態について、これまで欠けていた性的マイノリティでない人びとの比較を通じた統計的な知見の蓄積が可能となることが示唆されます。特に、おおむね 6 割以上の回収率が担保される国の調査や全数調査である国勢調査において、性的指向と性自認のあり方をたずねる問いを含めることによって性的マイノリティについて得られる知見は計り知れません。また、新規であれ、既存の調査であれ、自治体による調査、研究者による学術的調査でも、無作為抽出を行う調査で性的指向と性自認のあり方をたずねる設問を含め、データを蓄積していくことが望まれます。

本研究チームにおけるこの全国調査の試みが、今後の日本の性的指向と性自認のあり方にかんする量的研究の土台となり、その発展につながればこの上ない幸いです。

最後になりましたが、本調査は、多くの方々のご協力によって可能となりました。まず、調査票を受け取って回答するか否かを検討してくださった全国の約 1 万 8 千人の皆さま、そして実際に回答をお送りくださった 5 千人を超える皆さまに、厚くお礼を申し上げます。皆さまのご協力があったこそ、本調査が実現し、今回、報告書の形で集計結果を提示することができました。この調査に先立ち、2019 年に本研究チームが実施した「大阪市の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」（大阪市民調査）にご協力いただいた大阪市民および大阪市に感謝申し上げます。この経験がなければ、全国調査の実施にたどり着くことはできませんでした。また、本調査の企画段階においては、60 歳以上の方を対象とした「認知インタビュー」を実施しました。性的指向・性自認のあり方の設問に対し、貴重なご意見をくださった協力者の皆さまに改めてお礼を申し上げます。

そのほか、調査の企画から報告書の完成までの間、たくさんの方々にお力添えいただきました。調査業務を委託した一般社団法人新情報センターの安藤昌代さん、鷹野莉早さんをはじめとする皆さまには、対象者の抽出から調査書類の確認、印刷、発送、回収、データ入力からデータ作成の一連のプロセスを的確に進めていただきました。早稲田大学の研究総合支援室には研究費の執行手続きでお力添えいただきました。国立社会保障・人口問題研究所、特に人口動向研究部の皆さんにはさまざまな形でサポートいただきました。研究倫理委員会の関係者にもお世話になりました。

調査対象者用のホームページの作成と調査書類のデザインを担ってくださった STUDIO PANAGRAM の星野テルカズさんには、「実施側が伝えたいことより、依頼された人が何を知りたいのか、何に不安を覚えるのかを第一に考えるべきだ」と教えていただきながら、完成に導いていただきました。ホームページのイラストでは高梨世理さん、写真の撮影では中沢さんにお世話になりました。内容を説明する文章は研究協力者である吉仲宗さんに多くを執筆していただきました。

調査票の翻訳では、林静芳さん（中国語、繁体・簡体）、伊敷エリザナ美恵子さん（ポルトガル語）、T さん（ベトナム語）、園崎寿子さん（タガログ語）に大変お世話になりました。ハングルへの翻訳では、研究メンバーの申知燕さんに貴重な時間を費やしていただきました。英語への翻訳のネイティブ・チェックでは Connor Gilroy さんにお世話になりました。そして、報告書のまとめにあたっては、早稲田大学の研究補佐員、片桐美恵さんには図表の作成、体裁の統一などの作業のみならず、一部、本文の執筆にもご協力いただきました。すべての方々のお名前を挙げることはできませんが、さまざまな形で関わってくださった皆さまに、感謝いたします。

2025 年 3 月 31 日

※ 本調査の実施にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査委員会による承認を受けています。（承認番号 IPSS-IBRA#22002）

本報告書における表記について

- 原則として、回答者が選んだ選択肢に基づく分類の場合には「 」を使い、複数の問いの回答の組み合わせをもとに研究チームで分類した場合は「 」をつけています。このほか、調査票の質問や選択肢（あるいはそれらの省略形）については、「 」を用いています。
- 上の方針に従い、出生時の性別は問 53 の選択肢をもとにしているので「男」、「女」と表記します。自認する性別の男性と女性については、出生時の性別（問 53）、自認する性別がそれと同じか否か（問 54）、同じでない場合の現在の自認（問 54 付問）をたずねる 3 問への回答の組み合わせから判断しているため、「男性」、「女性」と表記しますが、「男性・女性にあてはまらない」については問 54 付問の選択肢に基づくため、「 」を使っています。トランスジェンダーとシスジェンダーについても、回答者自身がそのトランスジェンダーである、あるいはシスジェンダーであると回答したのではなく、出生時の性別（問 53）、自認する性別がそれと同じか否か（問 54）、同じでない場合の現在の自認（問 54 付問）をたずねる 3 問から判断しているため「トランスジェンダー」、「シスジェンダー」と表記します。
- 性的指向アイデンティティの問いの選択肢については、以下のように表記しています。
 - 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない「異性のみに性愛感情を抱く人」→「異性愛者」
 - ゲイ・レズビアン・同性愛者「同性のみに性愛感情を抱く人」→「同性愛者」または「ゲイ・レズビアン・同性愛者」
 - バイセクシュアル・両性愛者「男女どちらにも性愛感情を抱く人」→「両性愛者」または「バイセクシュアル・両性愛者」
 - アセクシュアル・無性愛者「誰に対しても性愛感情を抱かない人」→「無性愛者」または「アセクシュアル・無性愛者」
 - 決めたくない・決めていない → 「決めたくない・決めていない」
 - 質問の意味がわからない → 「質問の意味がわからない」
- 集計結果の記載にあたっては、回答者が現在認識する性別を、自認する性別または性自認、シスジェンダー・トランスジェンダー別をシス・トランス別、性的指向アイデンティティ別を性的指向別と、略記する場合があります。
- 複数選択可の問い（複数の選択肢を選ぶことが可能な問い）では、特に説明がない限り、有効回答者である 5,339 人のうち、その選択肢を選んだ人の割合が示されています。また、その問い自体に回答しなかった人数を参考までに示しています。たとえば、図表タイトルの「図表 52 この 1 年間の飲酒に関わる経験：「ある」と回答した人の割合（全体 [n=5,339、無回答 172 人]）」は、「イッキ飲みをした」、「酔いつぶれてしまった」、「飲みすぎて、嘔吐してしまった」、「飲みすぎて、記憶をなくした」のそれぞれの選択肢を選んだ割合を 5,339 人に対する割合として表示し、この問い自体に無回答だった人（「いずれの経験もない」も含めて、いずれの選択肢も選ばなかった人）が 172 人であったことを示しています。

本報告書の留意点

- ・ 本報告書に掲載されている数値や本文は、今後分析の過程でデータが精査されることにより、変更されることがあります。
- ・ 本報告書では、調査票でたずねた問いの大半について、年齢および性的指向・性自認のあり方によって回答者を分けた上で結果を示しています。回答者の年齢、自認する性別、シスジェンダー・トランスジェンダー別、性的指向アイデンティティ別に、クロス集計の形で数値が示されていますが、いずれも回答分布の結果を記述的に示したものであり、因果関係を示すものではない点に注意が必要です。今後の研究で、これらの属性等による違いについて、他の要因を考慮した分析や、統計的検定等を行なっていく予定です。
- ・ 集計に用いる自認する性別およびシスジェンダー・トランスジェンダーの特定方法については、p.6 をご覧ください。性的指向アイデンティティの集計においては、選択肢 2 の「同性愛者」と選択肢 3 の「両性愛者」を合わせた結果を「同性愛者・両性愛者」として示しています（下記の表を参照）。
- ・ 自認する性別では「男性・女性にあてはまらない」人の実数が少ない、シスジェンダー・トランスジェンダー別では「トランスジェンダー」の実数が少ない、性的指向アイデンティティ別では「同性愛者・両性愛者」や「無性愛者」の実数が少ないことも、結果をみるさいには留意すべき点です（下記の表を参照）。
- ・ 性的指向アイデンティティの選択肢の「決めたくない・決めていない」と「質問の意味がわからない」については、各項目の性的指向アイデンティティ別の集計結果を示す図表には数字を表示していますが、本文では言及していません。性的指向アイデンティティの問いで、これらの選択肢を選んだ回答者の特徴や、「決めたくない・決めていない」を選択した人に対する追加の質問で明らかになるであろうクエスチョニングやクィア的なアイデンティティをもつ人かどうかを考慮した分析は、今後の課題とします。
- ・ 本調査の結婚やそれに準ずる関係にかんする問いでは、その相手を男性と女性に限定せず、どちらにも属さない性別の人も含めてとらえることができるように設計しました。また、結婚やそれに準ずる関係、交際や同棲・同居については、複数の関係にある可能性も念頭においた設問を用いました。今後、これらの設問の妥当性や、多様なパートナーシップをとらえる設問のあり方についての検討を行う予定です。

本概要で集計に用いた属性（年齢 10 歳階級、自認する性別、シスジェンダー・トランスジェンダー別、性的指向アイデンティティ別）の各カテゴリーの該当者数（n）は、以下のとおりです。

年齢 10 歳階級、自認する性別、シスジェンダー・トランスジェンダー別、性的指向アイデンティティ別、該当者数

年齢10歳階級	n	自認する性別	n	シス・トランス別	n	性的指向アイデンティティ	n
18～19歳	116	男性	2,304	シスジェンダー	5,267	異性愛者	4,218
20～29歳	687	女性	2,971	トランスジェンダー	32	同性愛者・両性愛者	114
30～39歳	995	男性・女性にあてはまらない	24	不詳	40	無性愛者	49
40～49歳	1,241	不詳	40			決めたくない・決めていない	299
50～59歳	1,221					質問の意味がわからない	603
60～70歳	1,077					不詳	56
不詳	2						
合計	5,339	合計	5,339	合計	5,339	合計	5,339

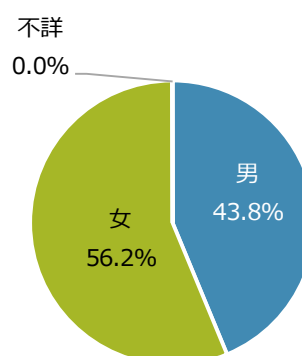
I 調査の結果

1 性的指向と性自認のあり方

出生時の性別【問 53】と現在の性自認【問 54】

問 53 では、出生時の戸籍・出生届の性別をたずねました。「男」が 43.8%（2,336 人）、「女」が 56.2%（3,001 人）、不詳が 0.0%（2 人）でした¹。

図表 1 出生時の戸籍・出生届の性別 [n=5,339]



性自認については、問 54 で、現在の自分の性別を、出生時の性別と同じだととらえているかを質問しました。それぞれの選択肢（複数選択可）を選んだ割合をみると、「出生時の性別と同じ」は 98.6%（5,263 人）、「別の性別だととらえている」は 0.3%（17 人）、「違和感がある」は 0.7%（35 人）、不詳は 0.7%（38 人）でした。問 54 を複数回答可能としたことを考慮して回答を分類すると、「出生時の性別と同じ」のみを選んだ人は 98.4%（5,252 人）、選んだ回答に「別の性別だととらえている」と「違和感がある」のいずれかあるいは両方が含まれていたのは 0.9%（49 人）、不詳は 0.7%（38 人）でした。

次に、問 54 で選んだ回答に「別の性別だととらえている」と「違和感がある」のいずれかあるいは両方が含まれていた 49 人に、問 54 付問で、今の認識に最も近い性別をたずねました。これらの回答を出生時の性別で分けて人数を整理したのが、図表 2 です。出生時の性別が「男」で、現在の認識が「女」である人は 4 人、「男性・女性にあてはまらない」と回答した人は 10 人でした。出生時の性別が「女」で、現在の認識が「男」だと回答した人は 4 人、「男性・女性にあてはまらない」と回答した人は 14 人でした。

図表 2 出生時の性別でみた、今の認識に近い性別

今の認識に近い性別	出生時の性別	
	男	女
男	4	4
女	4	12
男性・女性にあてはまらない	10	14
不詳	1	0
合計	19	30

※問 54 で選んだ回答に「別の性別だととらえている」と「違和感がある」のいずれかあるいは両方が含まれていた 49 人

¹ 問 53 の性別に回答しなかった 19 人のうち、抽出時に用いた住民基本台帳の情報で性別を確認できた 17 人については、その情報によって補完しました（男 5 人、女 12 人）。

図表 2-a と図表 2-b では、出生時の性別ごとに、問 54 および問 54 付問への回答を整理しました。なお集計にあたっては、住民基本台帳の性別情報による補完を行っていない出生時の性別の回答を用いました。出生時の性別が「男」（出生時男性）である回答者のうち、「今の認識にもっとも近い性別」が「女」である 4 人と「男性・女性にあてはまらない」である 10 人を合わせた 14 人を「トランスジェンダー」とみなすと、出生時男性 2,331 人の中の「トランスジェンダー」割合は 0.6%となります。また、出生時の性別が「女」（出生時女性）である回答者のうち、「今の認識にもっとも近い性別」が「男」である 4 人と、「男性・女性にあてはまらない」である 14 人の合計 18 人を「トランスジェンダー」とみなすと、出生時女性 2,989 人の中の「トランスジェンダー」割合は 0.6%となります。

回答者の自認する性別については、問 53、問 54、問 54 付問の回答をもとにし、図表 2-c に記載した方針で特定しました。自認する性別が「男性」は 2,304 人、「女性」は 2,971 人、「男性・女性にあてはまらない」人は 24 人でした。

図表 2-a 出生時男性の、今の性別の認識 [n=2,331]

出生時の性別と同じ		2,295		
別の性別だととらえている、違和感がある 19人	今の認識	男	4	98.7%
		不詳	1	
		女	4	0.6%
		男性・女性にあてはまらない	10	
不詳		17	0.7%	
合計		2,331	100.0%	

「シスジェンダー」

「トランスジェンダー」

図表 2-b 出生時女性の、今の性別の認識 [n=2,989]

出生時の性別と同じ		2,955		
別の性別だととらえている、違和感がある 30人	今の認識	女	12	99.3%
		不詳	0	
		男	4	0.6%
		男性・女性にあてはまらない	14	
不詳		4	0.1%	
合計		2,989	100.0%	

「シスジェンダー」

「トランスジェンダー」

図表 2-c 自認する性別 [n=5,339]

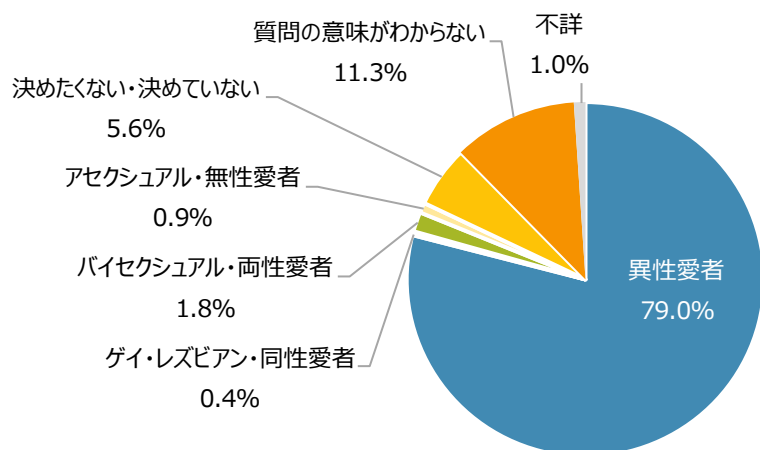
「男性」	出生時男性、出生時の性別と同じ	2,295
	出生時男性、別の性別だととらえている・違和感がある、今の認識は「男」	4
	出生時男性、別の性別だととらえている・違和感がある、今の認識は不詳	1
	出生時女性、別の性別だととらえている・違和感がある、今の認識は「男」	4
	合計	2,304
「女性」	出生時女性、出生時の性別と同じ	2,955
	出生時女性、別の性別だととらえている・違和感がある、今の認識は「女」	12
	出生時女性、別の性別だととらえている・違和感がある、今の認識は不詳	0
	出生時男性、別の性別だととらえている・違和感がある、今の認識は「女」	4
	合計	2,971
「男性・女性にあてはまらない」	出生時男性、別の性別だととらえている・違和感がある、今の認識は「男性・女性にあてはまらない」	10
	出生時女性、別の性別だととらえている・違和感がある、今の認識は「男性・女性にあてはまらない」	14
	合計	24
不詳		40
合計		5,339

性的指向アイデンティティ【問 55】

問 55 では、回答者の性的指向アイデンティティを、図表 3 に示した選択肢を用いてたずねました。「異性愛者」と回答した人がもっとも多く 79.0%（4,218 人）でした。また、「ゲイ・レズビアン・同性愛者」と回答した人は全体の 0.4%（19 人）、「バイセクシュアル・両性愛者」は 1.8%（95 人）、「アセクシュアル・無性愛者」は 0.9%（49 人）、「決めたくない・決めていない」は 5.6%（299 人）、「質問の意味がわからない」は 11.3%（603 人）、不詳は 1.0%（56 人）でした。

図表 3 性的指向アイデンティティの分布 [n=5,339]

異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人]	79.0%
ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]	0.4%
バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]	1.8%
アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]	0.9%
決めたくない・決めていない	5.6%
質問の意味がわからない	11.3%
不詳	1.0%



出生時の性別にみた、性的指向アイデンティティ【問 55】

性的指向アイデンティティへの回答を出生時の性別で分けると、「異性愛者」の割合は、「男」で 80.0%、「女」で 78.3%です。「ゲイ・レズビアン・同性愛者」の割合は、「男」で 0.5%、「女」で 0.2%、「バイセクシュアル・両性愛者」の割合は「男」で 0.9%、「女」で 2.4%、「アセクシュアル・無性愛者」の割合は、「男」0.3%、「女」1.4%でした。また、「決めたくない・決めていない」を選んだ割合は、「男」で 4.7%、「女」で 6.3%、「質問の意味がわからない」を選んだ割合は、「男」で 12.9%、「女」で 10.0%でした。

図表 3-a 出生時の性別にみた、性的指向アイデンティティの分布 [「男」n=2,336、「女」n=3,001]

	男	女
異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人]	80.0%	78.3%
ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]	0.5%	0.2%
バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]	0.9%	2.4%
アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]	0.3%	1.4%
決めたくない・決めていない	4.7%	6.3%
質問の意味がわからない	12.9%	10.0%
不詳	0.7%	1.3%

年齢別にみた、性的指向アイデンティティ【問 55】

性的指向アイデンティティへの回答を年齢別に分けてみると、「異性愛者」の割合は、18～19 歳（72.4%）から 50～59 歳（82.4%）にかけて高くなっている一方で、60～70 歳で 74.2%と低くなっています。「ゲイ・レズビアン・同性愛者」の割合は 30～39 歳でもっとも高い 0.8%でした。「バイセクシュアル・両性愛者」の割合は 18～19 歳で 8.6%ともっとも高く、年齢が高くなるにつれて割合が低くなっています。「アセクシュアル・無性愛者」の割合は 20～29 歳で 1.6%ともっとも高く、30～39 歳も 1.5%と 20～29 歳とほぼ変わりません。一方、18～19 歳では 0.0%でした。「決めたくない・決めていない」を選んだ割合は 18～19 歳で 8.6%ともっとも高く、40～49 歳をのぞいて年齢が高くなるにつれて割合が低くなっています。「質問の意味がわからない」を選んだ割合は 60～70 歳で 18.7%ともっとも高く、20～29 歳以降ではおおむね年齢が高くなるにつれて割合が高くなっています。18～19 歳では 10.3%でした。60～70 歳で「異性愛者」の割合が低いのは、「質問の意味がわからない」を選んだ割合が 60～70 歳で高いことによるものと考えられます。

図表 3-b 年齢別にみた、性的指向アイデンティティの分布 [18～19 歳 n=116、20～29 歳 n=687、30～39 歳 n=995、40～49 歳 n=1,241、50～59 歳 n=1,221、60～70 歳 n=1,077]

	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～70歳
異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない【異性のみに性愛感情を抱く人】	72.4%	78.3%	79.7%	80.3%	82.4%	74.2%
ゲイ・レズビアン・同性愛者【同性のみに性愛感情を抱く人】	0.0%	0.6%	0.8%	0.4%	0.1%	0.1%
バイセクシュアル・両性愛者【男女どちらにも性愛感情を抱く人】	8.6%	3.9%	2.5%	1.9%	0.6%	0.3%
アセクシュアル・無性愛者【誰に対しても性愛感情を抱かない人】	0.0%	1.6%	1.5%	1.1%	0.5%	0.3%
決めたくない・決めていない	8.6%	8.4%	5.7%	6.8%	4.7%	3.1%
質問の意味がわからない	10.3%	6.7%	9.4%	9.3%	11.1%	18.7%
不詳	0.0%	0.4%	0.3%	0.2%	0.7%	3.4%

性的指向アイデンティティを「決めたくない・決めていない」理由【問 55①】

問 55 付問では、性的指向アイデンティティを「決めたくない・決めていない」回答者に対してその理由を、図表 4 に示した選択肢を用いてたずねました。「自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない」と回答した人がもっとも多く 62.9%（188 人）でした。また、「使われていた用語や、質問の意味がわからなかった」と回答した人は全体の 16.1%（48 人）、「まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている、1 つに決められない」は 8.4%（25 人）、「自分は異性愛者ではなく、クィア、パンセクシュアルなど、別のアイデンティティをもっている」は 2.7%（8 人）、「その他」は 9.4%（28 人）、不詳は 0.7%（2 人）でした。

図表 4 性的指向アイデンティティを「決めたくない・決めていない」理由の分布 [n=299]

自分は異性愛者ではなく、クィア、パンセクシュアルなど、別のアイデンティティをもっている	2.7%
まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている、1 つに決められない	8.4%
自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない	62.9%
使われていた用語や、質問の意味がわからなかった	16.1%
その他	9.4%
不詳	0.7%

出生時の性別にみた、性的指向アイデンティティを「決めたくない・決めていない」理由【問 55①】

性的指向アイデンティティを「決めたくない・決めていない」理由を出生時の性別で分けてみると、「自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない」の割合は、「男」で 56.9%、「女」で 66.3%です。「使われていた用語や、質問の意味がわからなかった」の割合は、「男」で 25.7%、「女」で 10.5%、「まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている、1 つに決められない」の割合は「男」で 7.3%、「女」で 8.9%、「自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない」の割合は、「男」4.6%、「女」1.6%でした。また、「その他」を選んだ割合は、「男」で 4.6%、「女」で 12.1%、不詳は、「男」で 0.9%、「女」で 0.5%でした。

図表 4-a 出生時の性別にみた、性的指向アイデンティティを「決めたくない・決めていない」理由の分布
 [「男」n=109, 「女」n=190]

	男	女
自分は異性愛者ではなく、クア、パンセクシュアルなど、別のアイデンティティをもっている	4.6%	1.6%
まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている、1 つに決められない	7.3%	8.9%
自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない	56.9%	66.3%
使われていた用語や、質問の意味がわからなかった	25.7%	10.5%
その他	4.6%	12.1%
不詳	0.9%	0.5%

恋愛感情を抱く、性的に惹かれる、セックスの相手の性別【問 56】

問 56 では、「恋愛感情を抱く相手」、「性的に惹かれる相手」、「セックスの相手」の性別を、(ア)これまでと(イ)最近の 5 年間についてたずねました。ここでは、出生時男性と出生時女性に分けて集計します。

出生時の性別が男性の回答者の「恋愛感情を抱く相手」、「性的に惹かれる相手」、「セックスの相手」をみると、〈これまで〉についても〈最近の 5 年間〉においても、「女性のみ」がもっとも多く、おおむね 9 割前後です。ただし〈最近の 5 年間〉の「恋愛感情を抱く相手」や「セックスの相手」で「女性のみ」は若干少なく、それぞれ 83.6%、80.4%です。

「女性のみ」の次に高い割合を示すのは、〈これまで〉の「恋愛感情を抱く相手」や「性的に惹かれる相手」については「ほとんどが女性」（3.4%、3.3%）である一方、〈これまで〉の「セックスの相手」については「セックスをしたことがない」（6.8%）です。〈最近の 5 年間〉では、「女性のみ」の次に高い割合を示すのは「誰に対しても恋愛感情を抱いたことがない」（8.5%）、「誰に対しても性的に惹かれたことがない」（3.3%）、「セックスをしたことがない」（14.4%）など、「ない」ことを示す項目です。

「男性のみ」、「ほとんどが男性」、「男性と女性同じくらい」の割合は、「恋愛感情を抱く相手」、「性的に惹かれる相手」、「セックスの相手」のいずれも 1%未満であり、それら割合を合計しても 1%前後でした。

図表 5-a 出生時の性別が男性の回答者の恋愛感情、性的惹かれ、セックスの相手の性別 [n=2,336]

恋愛感情を抱く相手	これまで	最近の5年間
誰に対しても恋愛感情を抱いたことがない	2.6%	8.5%
男性のみ	0.4%	0.4%
ほとんどが男性	0.2%	0.3%
男性と女性同じくらい	0.4%	0.5%
ほとんどが女性	3.4%	2.4%
女性のみ	90.9%	83.6%
1～6にあてはまらない	1.2%	2.6%
結婚している	0.0%	0.1%
(恋愛感情が) わからない	0.0%	0.0%
不詳	0.9%	1.6%
合計	100.0%	100.0%

性的に惹かれる相手	これまで	最近の5年間
誰に対しても性的に惹かれたことがない	1.2%	3.3%
男性のみ	0.5%	0.5%
ほとんどが男性	0.3%	0.3%
男性と女性同じくらい	0.6%	0.6%
ほとんどが女性	3.3%	3.0%
女性のみ	92.3%	88.7%
1～6にあてはまらない	0.8%	1.7%
結婚している	0.0%	0.1%
(性的惹かれが) わからない	0.0%	0.0%
不詳	1.0%	1.7%
合計	100.0%	100.0%

セックスの相手	これまで	最近の5年間
セックスをしたことがない	6.8%	14.4%
男性のみ	0.5%	0.6%
ほとんどが男性	0.1%	0.1%
男性と女性同じくらい	0.2%	0.1%
ほとんどが女性	1.3%	0.9%
女性のみ	89.3%	80.4%
1～6にあてはまらない	0.6%	1.7%
結婚している	0.0%	0.0%
不詳	1.2%	1.8%
合計	100.0%	100.0%

*「結婚している」および「わからない」は「1～6 にあてはまらない」のあとに用意した自由記述欄に書かれた回答で一定数出現したものを抜き出して示している。

次に、出生時の性別が女性の回答者の「恋愛感情を抱く相手」、「性的に惹かれる相手」、「セックスの相手」をみると、〈これまで〉でも〈最近の5年間〉でも、「男性のみ」がもっとも多く、おおむね7～8割台です。ただし〈最近の5年間〉のほうが〈これまで〉よりも少なく、「恋愛感情を抱く相手」「性的に惹かれる相手」「セックスの相手」で「男性のみ」の割合は、それぞれ71.1%、71.8%、69.9%です。

「男性のみ」の次に高い割合を示すのは、〈これまで〉の「恋愛感情を抱く相手」や「性的に惹かれる相手」では「ほとんどが男性」（9.7%、8.0%）に対し、〈これまで〉の「セックスの相手」では「セックスをしたことがない」（8.0%）でした。〈最近の5年間〉では、「男性のみ」の次に高い割合を示すのは「誰に対しても恋愛感情を抱いたことがない」（19.5%）、「誰に対しても性的に惹かれたことがない」（16.6%）、「セックスをしたことがない」（23.4%）など、「ない」とを示す項目です。なお、出生時の性別が男性の回答者に比べ、〈これまで〉と〈最近の5年間〉の差が大きくなっています。

「女性のみ」、「ほとんどが女性」、「男性と女性同じくらい」の割合は、「恋愛感情を抱く相手」、「性的に惹かれる相手」、「セックスの相手」のいずれにおいても1%前後であり、それら割合を合計しても1～2%でした。

図表 5-b 出生時の性別が女性の回答者の恋愛的感情、性的感情、セックスの相手の性別 [n=3,001]

恋愛感情を抱く相手	これまで	最近の5年間
誰に対しても恋愛感情を抱いたことがない	2.8%	19.5%
男性のみ	83.7%	71.1%
ほとんどが男性	9.7%	3.4%
男性と女性同じくらい	1.0%	0.6%
ほとんどが女性	0.4%	0.3%
女性のみ	0.2%	0.4%
1～6にあてはまらない	0.9%	2.8%
結婚している	0.0%	0.2%
(恋愛感情が) わからない	0.1%	0.1%
不詳	1.1%	1.7%
合計	100.0%	100.0%

性的に惹かれる相手	これまで	最近の5年間
誰に対しても性的に惹かれたことがない	4.6%	16.6%
男性のみ	82.8%	71.8%
ほとんどが男性	8.0%	4.7%
男性と女性同じくらい	1.3%	1.4%
ほとんどが女性	0.5%	0.3%
女性のみ	0.2%	0.3%
1～6にあてはまらない	1.1%	2.7%
結婚している	0.0%	0.1%
(性的感情が) わからない	0.1%	0.0%
不詳	1.4%	2.0%
合計	100.0%	100.0%

セックスの相手	これまで	最近の5年間
セックスをしたことがない	8.0%	23.4%
男性のみ	87.2%	69.9%
ほとんどが男性	1.2%	0.6%
男性と女性同じくらい	0.2%	0.1%
ほとんどが女性	0.1%	0.1%
女性のみ	0.3%	0.3%
1～6にあてはまらない	0.9%	2.8%
結婚している	0.0%	0.0%
不詳	2.1%	2.7%
合計	100.0%	100.0%

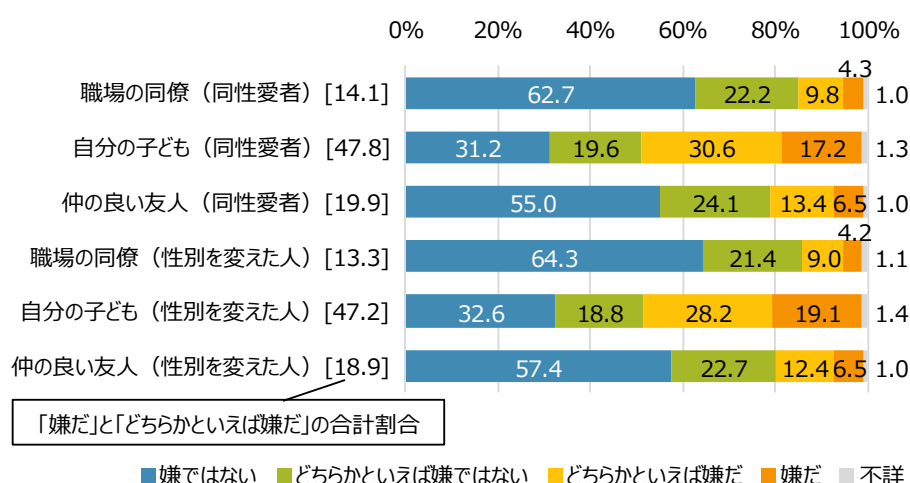
*「結婚している」および「わからない」は「1～6にあてはまらない」のあとに用意した自由記述欄に書かれた回答で一定数出現したものを抜き出して示している。

2 家族・性のあり方についての認識と考え方

身近な同性愛者や性別を変えた人についての考え方【問 52】

問 52 では、職場の同僚、自分の子ども、仲の良い友人が同性愛者だった場合にどう思うか、また性別を変えた人だった場合にどう思うかを、「嫌ではない」、「どちらかといえば嫌ではない」、「どちらかといえば嫌だ」、「嫌だ」の 4 つの選択肢を用いてたずねました。「嫌だ」と「どちらかといえば嫌だ」の割合の合計は、職場の同僚が同性愛者だった場合（「職場の同僚（同性愛者）」）、あるいは性別を変えた人だった場合（「職場の同僚（性別を変えた人）」）ではそれぞれ 14.1%、13.3%、仲の良い友人が同性愛者だった場合（「仲の良い人（同性愛者）」）、あるいは性別を変えた人だった場合（「仲の良い人（性別を変えた人）」）ではそれぞれ 19.9%、18.9%でした。このように、同僚や友人が性的マイノリティの場合に否定的な感情を示す人は 2 割未満です。一方で、自分の子どもが同性愛者だった場合（「自分の子ども（同性愛者）」）、あるいは性別を変えた人だった場合（「自分の子ども（性別を変えた人）」）には、その割合はそれぞれ 47.8%、47.2%と約半数に及びます。

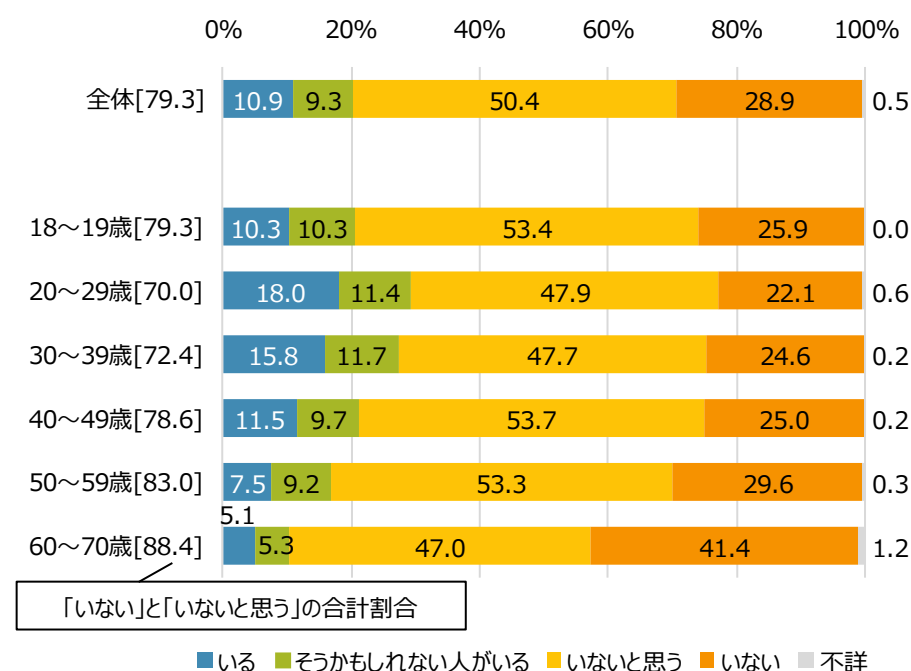
図表 6 身近な人が同性愛者・性別を変えた人だったらどう思うか [n=5,339]



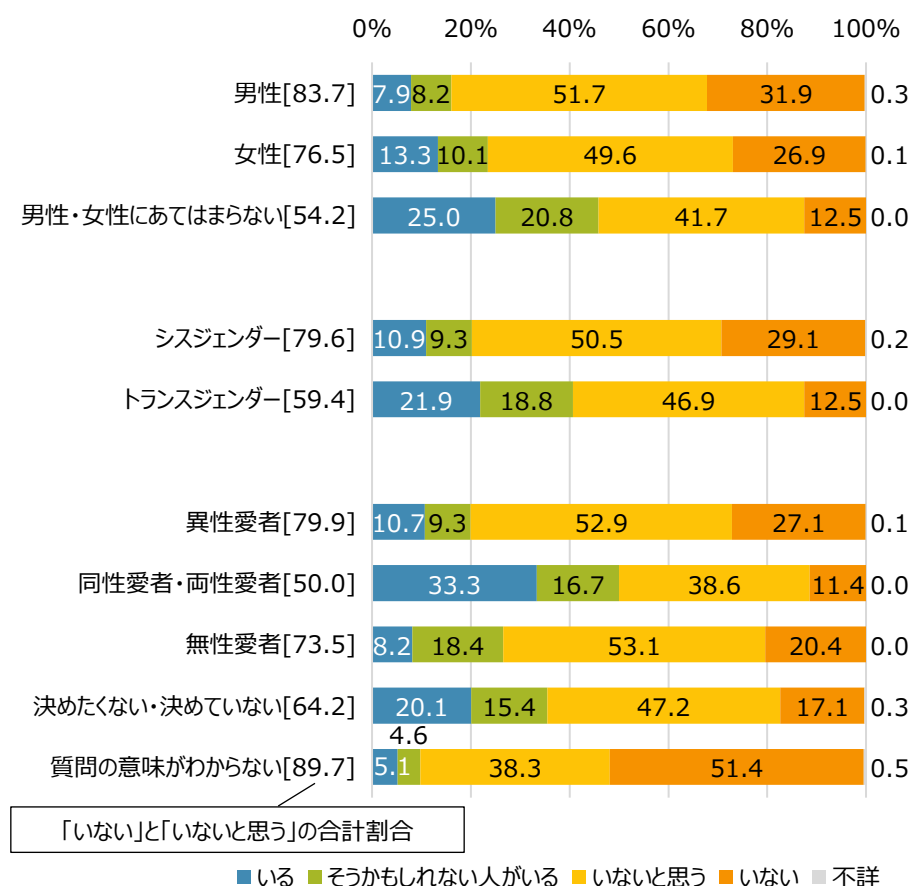
同性愛者【問 57】や性別を変えた人【問 58】が、身近にいるか否かの認識

問 57 と問 58 では、身近な人の中に性的マイノリティがいるか否かについて、「いる」、「そうかもしれない人がいる」、「いないと思う」、「いない」の 4 つの選択肢を用いてたずねました。身近に同性愛者がいるか否かについてたずねた問 57 では、「いる」は全体で 10.9%、10 代から 40 代までは 10%を超えており、20 代で 18.0%、30 代で 15.8%、40 代で 11.5%、10 代で 10.3%であるのに対し、50 代では 7.5%、60 代では 5.1%でした。これを自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別でみると、「いる」が高いのは、「男性・女性にあてはまらない」（25.0%）、[トランスジェンダー]（21.9%）、「同性愛者・両性愛者」（33.3%）でした。

図表 7 身近に同性愛者がいるか否か（全体、年齢別）[n=5,339]

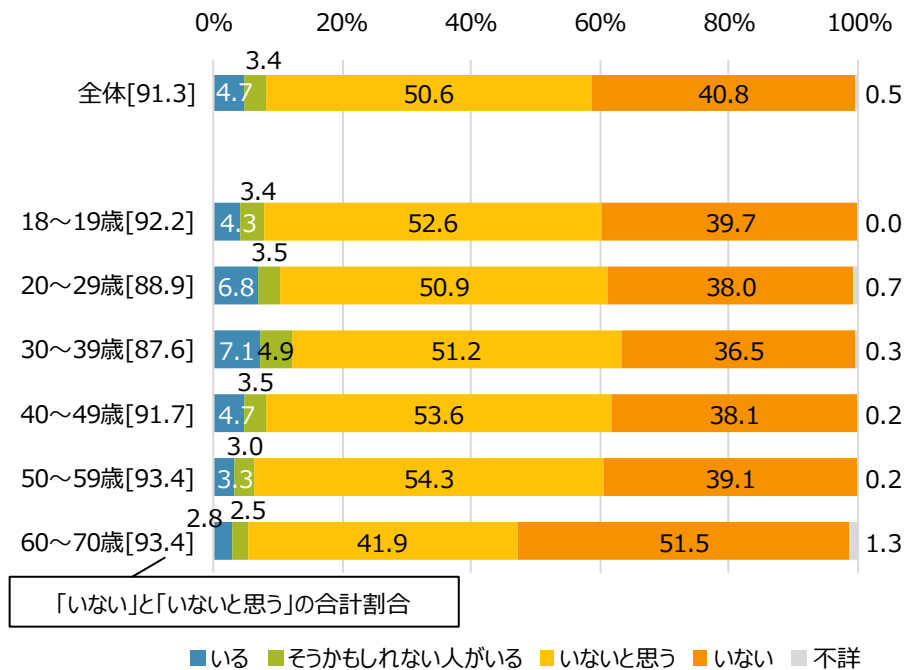


図表 8 身近に同性愛者がいるか否か（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



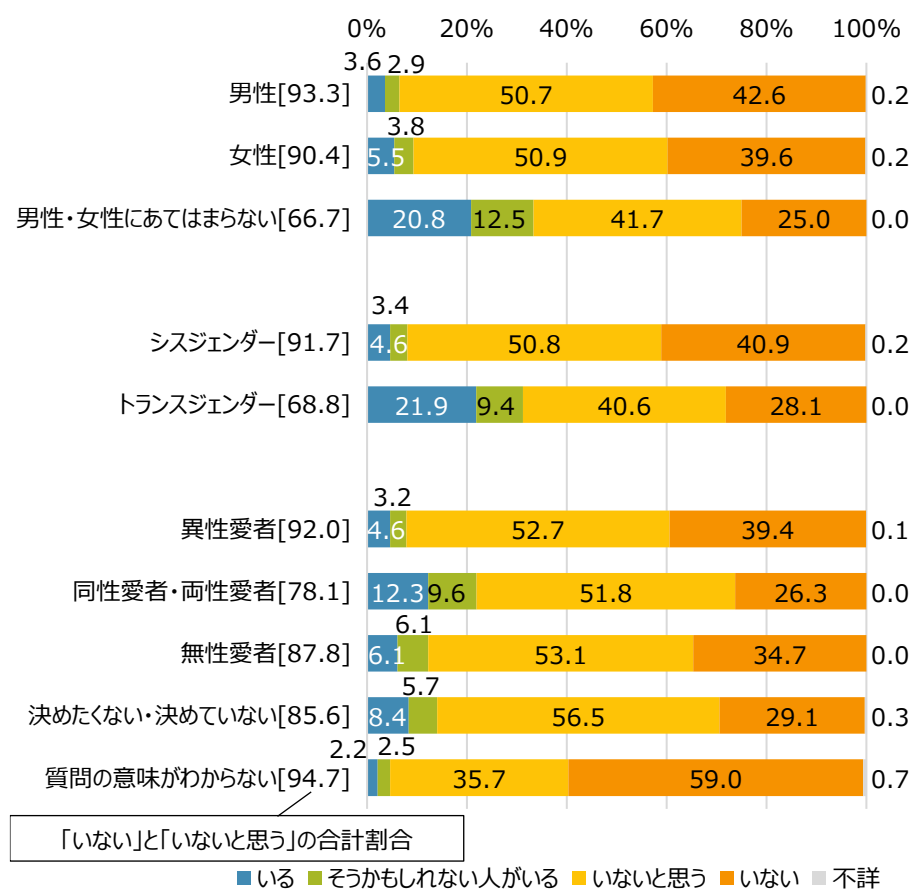
身近に性別を変えた人あるいはそうしようと考えている人がいるか否かについてたずねた問 58 では、前述の身近に同性愛者がいるか否かに比べ、「いる」が低く、全体で 4.7%、相対的に値の高い 20 代と 30 代でも 7%前後でした。自認する性別、シス・トランスの別、性的指向アイデンティティ別に分けてみると、「いる」が高いのは、「男性・女性にあてはまらない」の 20.8%、[トランスジェンダー] の 21.9%、「同性愛者・両性愛者」の 12.3%でした。他方で、「いない」もしくは「いないと思う」は（図表上では各カテゴリーのあとに [] で表記）、「男性・女性にあてはまらない」では 66.7%、[トランスジェンダー] では 68.8%でした。

図表 9 身近に性別を変えた人あるいはそうしようと考えている人がいるか否か（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 10 身近に性別を変えた人・そうしようと考えている人がいるか否か

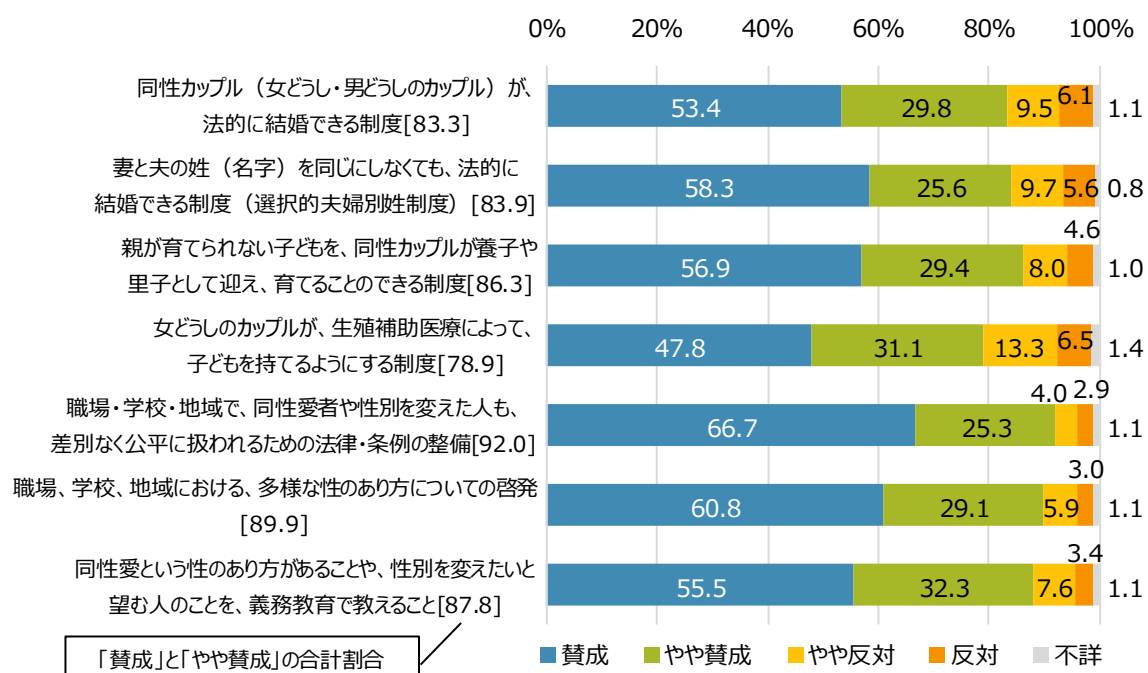
(自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別) [n=5,339]



家族と性の多様性に関わる制度についての考え方【問 59】

問 59 では、家族と性の多様性に関わる制度や取り組みにかんする 7 つの項目を提示し、それぞれに対する考え方を「賛成」、「やや賛成」、「やや反対」、「反対」の 4 つの選択肢から選んでもらいました。7 項目のいずれも、「賛成」または「やや賛成」と答えた割合（以下、賛成割合）は 75%を超えており、4 人中 3 人はそれらの考え方に賛同していることがわかりました。賛成割合の高い順に項目を並べると、もっとも高いのは賛成割合が 90%を超える「職場・学校・地域で、同性愛者や性別を変えた人も、差別なく公平に扱われるための法律・条例の整備」（92.0%）であり、次いで賛成割合が 90%に満たないものの 85%を超える「職場、学校、地域における、多様な性のあり方についての啓発」（89.9%）、「同性愛という性のあり方があることや、性別を変えたいと望む人のことを義務教育で教えること」（87.8%）、「親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里子として迎え、育てることのできる制度」（86.3%）、さらには賛成割合が 80%を超える「妻と夫の姓（名字）を同じにしなくても、法的に結婚できる制度（選択的夫婦別姓制度）」（83.9%）、「同性カップル（女どうし・男どうしのカップル）が法的に結婚できる制度」（83.3%）であり、もっとも賛成割合が低いとはいえ約 80%とみなせる「女どうしのカップルが、生殖補助医療などによって、子どもを持てるように支援する」（78.9%）の順番でした。

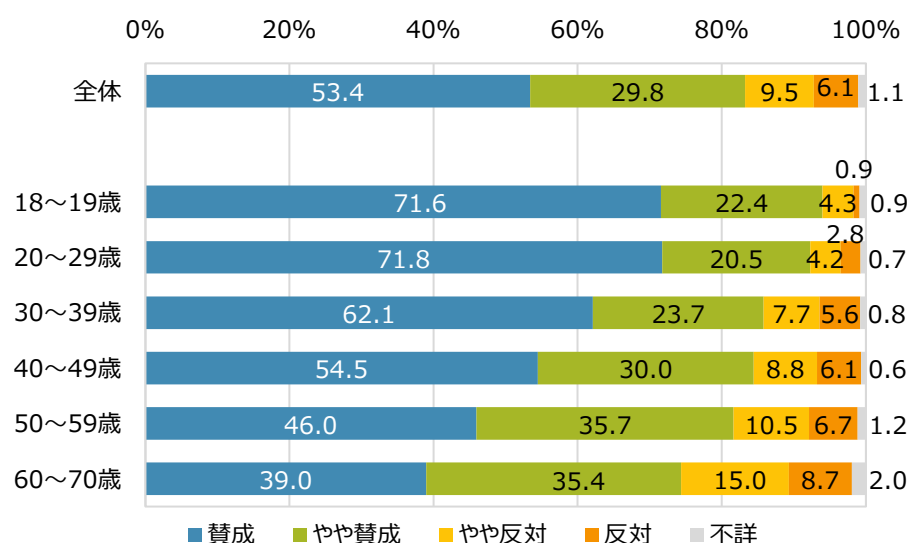
図表 11 家族と性の多様性に関わる制度についての考え方に対する賛否 [n=5,339]



以下では、7つの項目についての考え方について、年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみていきます。

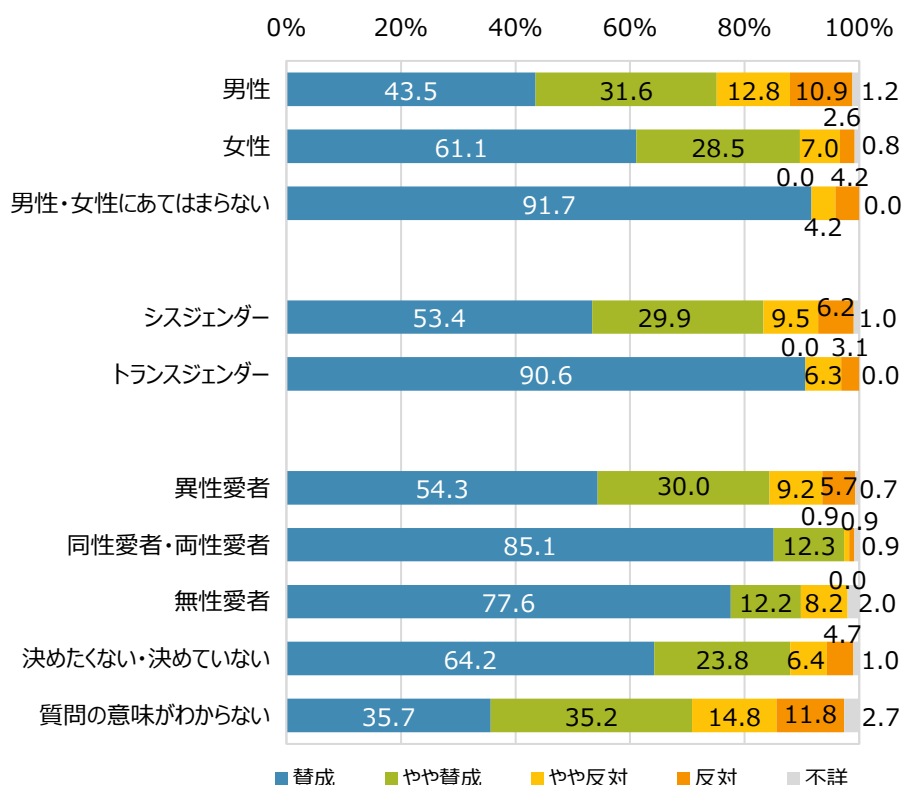
「同性カップル（女どうし・男どうしのカップル）が、法的に結婚できる制度」については、全体では「賛成」が53.4%、「やや賛成」が29.8%、「やや反対」が9.5%、「反対」が6.1%です。「賛成」を年齢別にみると、10代で71.6%、20代で71.8%に対して60代で39.0%と、年齢が若いほうが高い傾向がみられます。

図表 12 「同性カップル（女どうし・男どうしのカップル）が、法的に結婚できる制度」に対する賛否（全体、年齢別） [n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「賛成」をみると、[男性]（43.5%）と[女性]（61.1%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（91.7%）で高く、[シスジェンダー]（53.4%）よりも[トランスジェンダー]（90.6%）で高く、「異性愛者」（54.3%）よりも「同性愛者・両性愛者」（85.1%）と「無性愛者」（77.6%）で高く、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられましたが、どのグループでも「賛成」と「やや賛成」を合わせた「賛成割合」は7割以上でした。

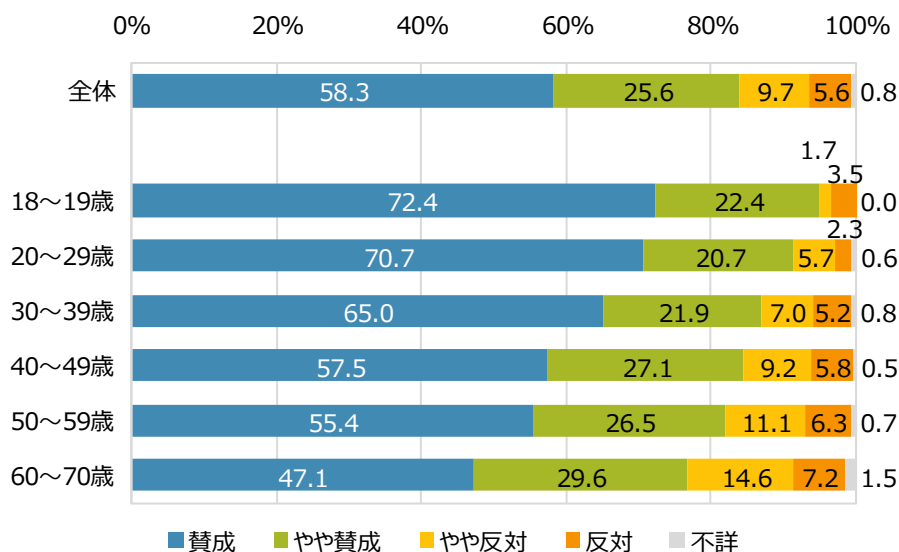
図表 13 「同性カップル（女どうし・男どうしのカップル）が、法的に結婚できる制度」に対する賛否
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



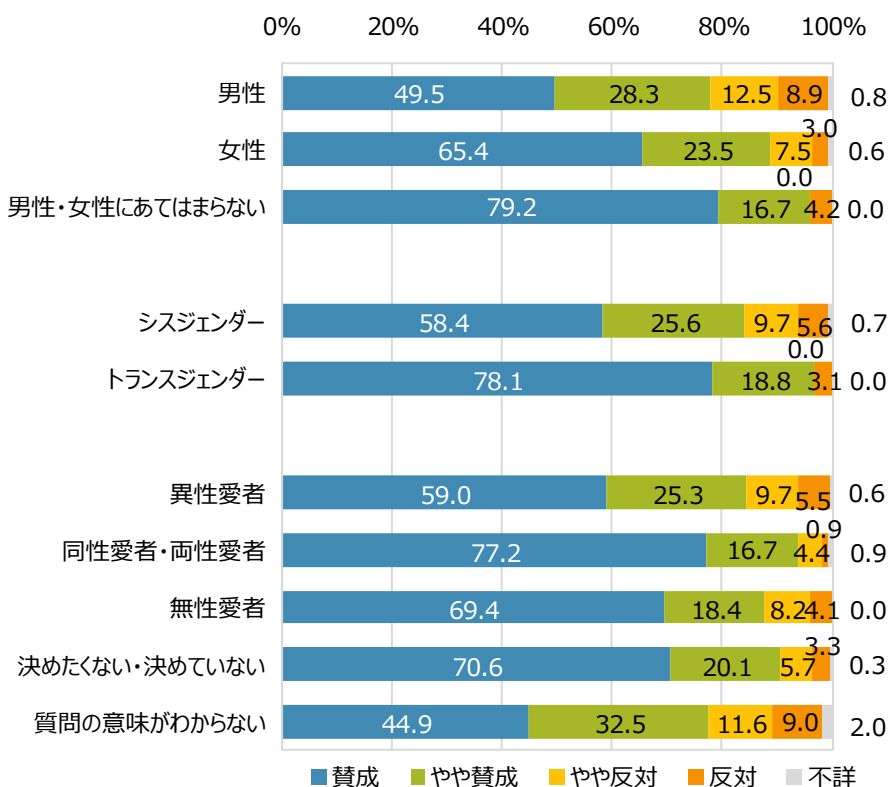
「妻と夫の姓（苗字）を同じにしなくても、法的に結婚できる制度（選択的夫婦別姓制度）」については、全体では「賛成」が 58.3%、「やや賛成」が 25.6%、「やや反対」が 9.7%、「反対」が 5.6%です。「賛成」を年齢別にみると、10代で 72.4%、20代で 70.7%に対して 60代で 47.1%と、年齢が若いほうが高くなっています。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「賛成」をみると、[男性]（49.5%）よりも[女性]（65.4%）と「男性・女性にあてはまらない」（79.2%）で高く、[シスジェンダー]（58.4%）よりも[トランスジェンダー]（78.1%）で高く、「異性愛者」（59.0%）よりも「同性愛者・両性愛者」（77.2%）と「無性愛者」（69.4%）で高く、[女性] や性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

図表 14 「妻と夫の姓（苗字）を同じにしなくても、法的に結婚できる制度（選択的夫婦別姓制度）」に対する賛否
（全体、年齢別） [n=5,339]

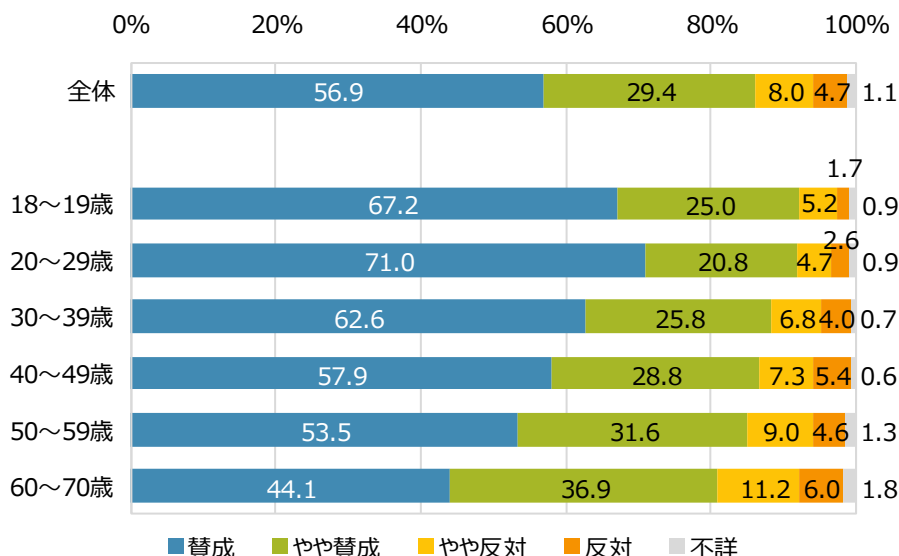


図表 15 「妻と夫の姓（苗字）を同じにしなくても、法的に結婚できる制度（選択的夫婦別姓制度）」に対する賛否
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]



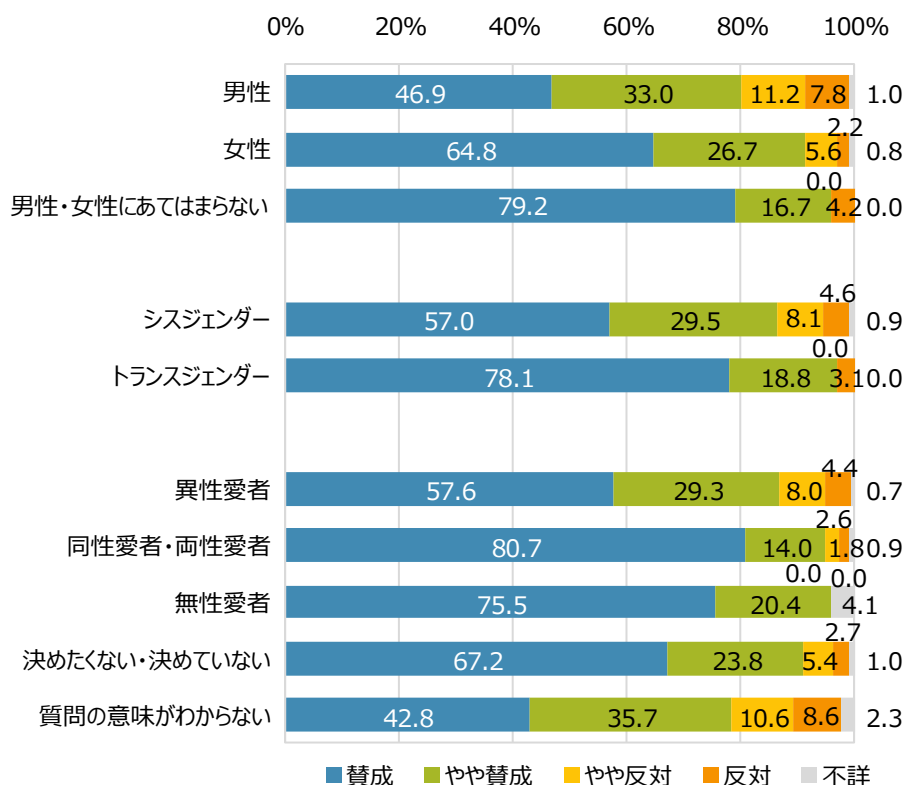
「親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里子として迎え、育てることができる制度」については、全体では「賛成」が56.9%、「やや賛成」が29.4%、「やや反対」が8.0%、「反対」が4.7%です。「賛成」を年齢別にみると、10代で67.2%、20代で71.0%に対して、60代で44.1%と、年齢が若いほうが高い傾向がみられます。

図表 16 「親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里子として迎え、育てることができる制度」に対する賛否
(全体、年齢別) [n=5,339]



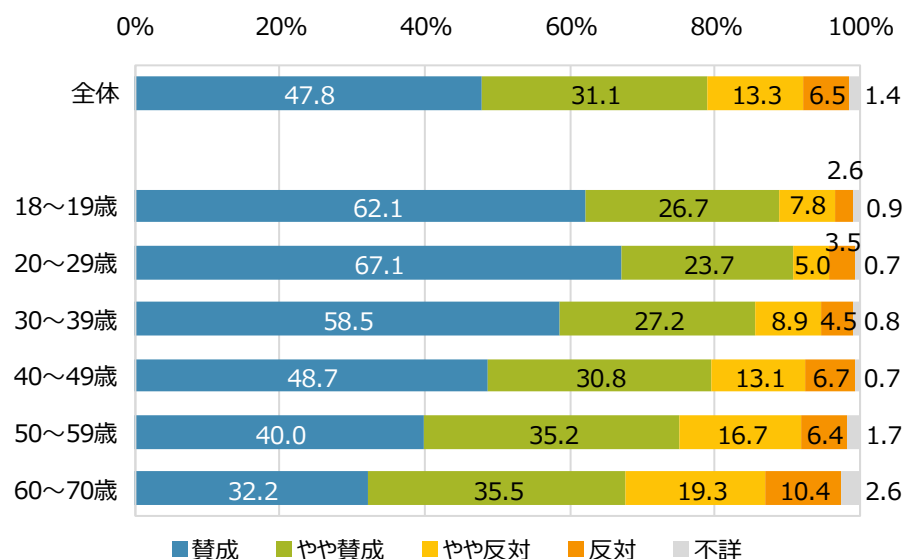
自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「賛成」をみると、[男性]（46.9%）よりも[女性]（64.8%）と「男性・女性にあてはまらない」（79.2%）で高く、[シスジェンダー]（57.0%）よりも[トランスジェンダー]（78.1%）で高く、「異性愛者」（57.6%）よりも「同性愛者・両性愛者」（80.7%）と「無性愛者」（75.5%）で高く、[女性]や性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

図表 17 「親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里子として迎え、育てることができる制度」に対する賛否
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]



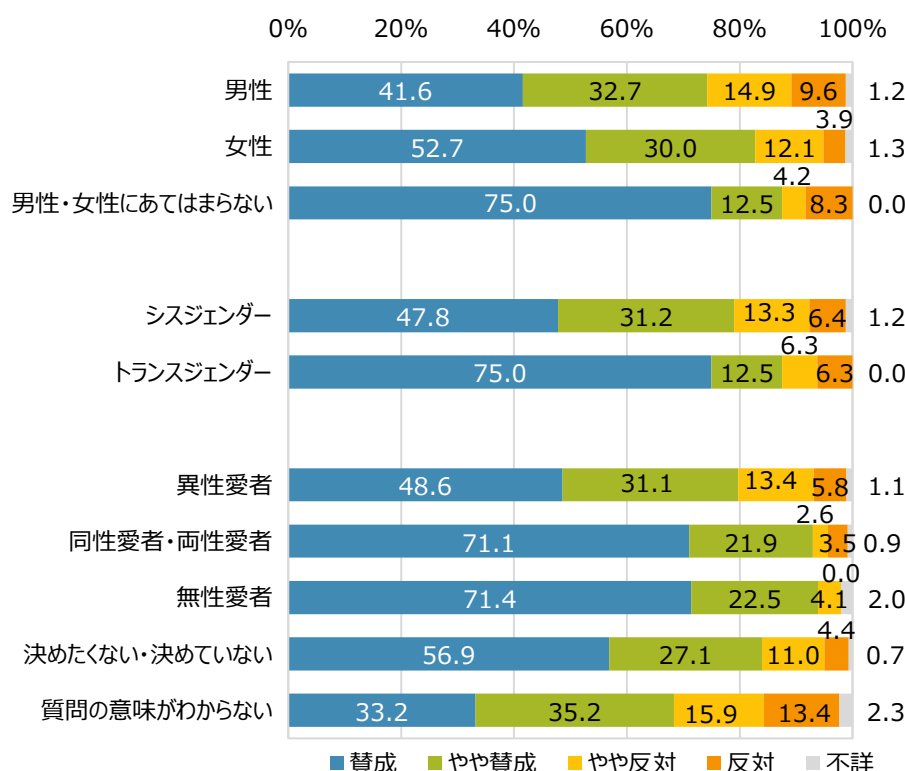
「女どうしのカップルが、生殖補助医療などによって、子どもを持てるようにする制度」については、全体では「賛成」が 47.8%、「やや賛成」が 31.1%、「やや反対」が 13.3%、「反対」が 6.5%です。「賛成」を年齢別にみると、10代で 62.1%、20代で 67.1%に対して 60代で 32.2%、年齢が若いほうが高い傾向がみられます。

図表 18 「女どうしのカップルが、生殖補助医療などによって、子どもを持てるようにする制度」に対する賛否
（全体、年齢別） [n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「賛成」をみると、[男性]（41.6%）よりも[女性]（52.7%）と「男性・女性にあてはまらない」（75.0%）で高く、[シスジェンダー]（47.8%）よりも[トランスジェンダー]（75.0%）で高く、「異性愛者」（48.6%）よりも「同性愛者・両性愛者」（71.1%）と「無性愛者」（71.4%）で高く、[女性] や性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

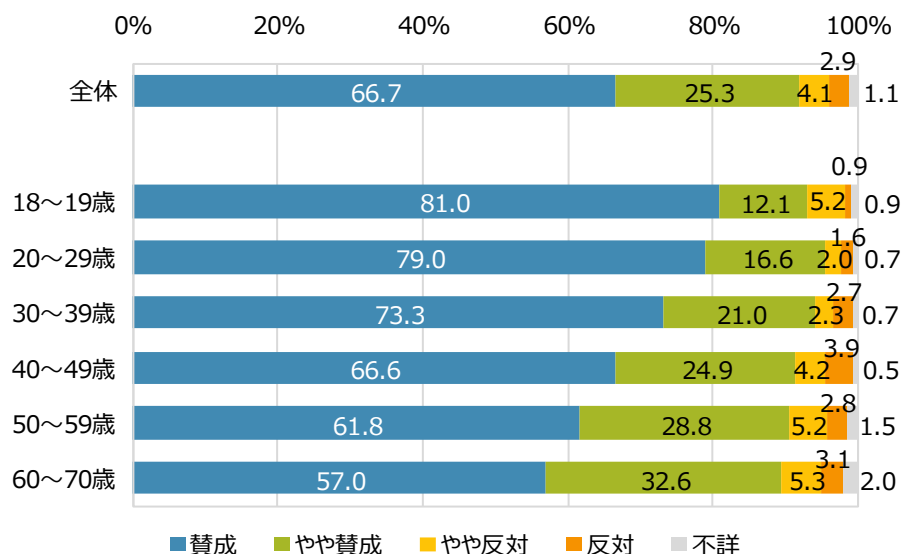
図表 19 「女どうしのカップルが、生殖補助医療などによって、子どもを持てるようにする制度」に対する賛否
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



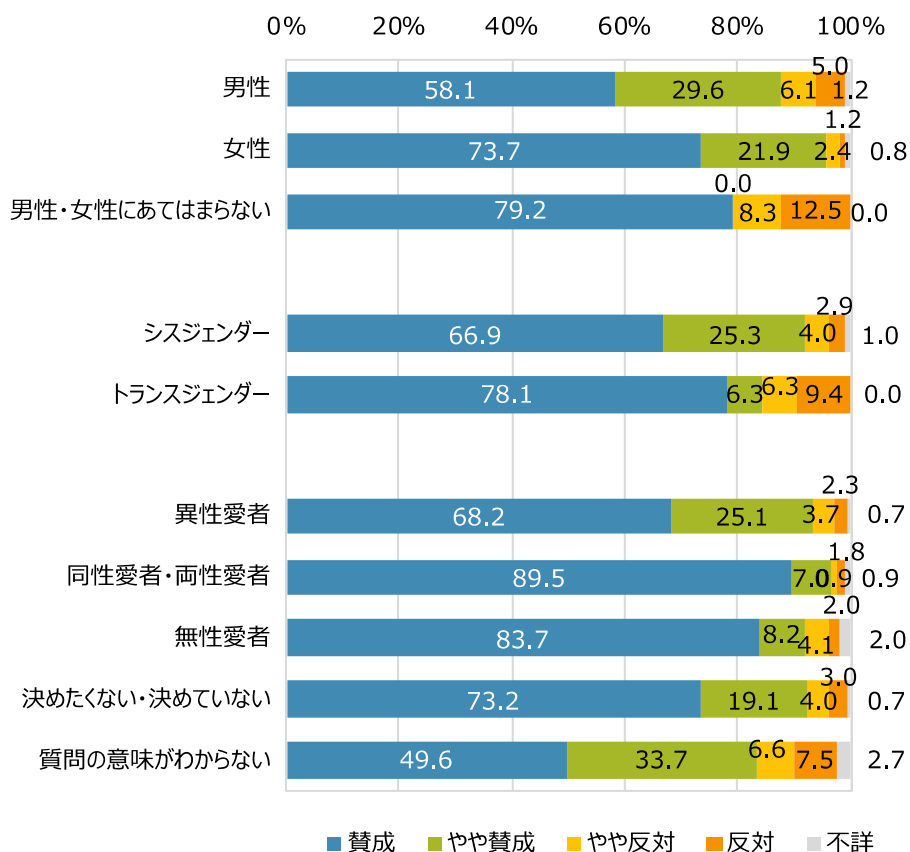
「職場・学校・地域で、同性愛者や性別を変えた人も、差別なく公平に扱われるための法律・条例の整備」については、全体では「賛成」が 66.7%、「やや賛成」が 25.3%、「やや反対」が 4.1%、「反対」が 2.9%です。「賛成」を年齢別にみると、10代で 81.0%、20代で 79.0%に対し、60代で 57.0%と、年齢が若いほうが高い傾向がみられます。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「賛成」をみると、[男性]（58.1%）よりも[女性]（73.7%）と「男性・女性にあてはまらない」（79.2%）で高く、[シスジェンダー]（66.9%）よりも[トランスジェンダー]（78.1%）で高く、「異性愛者」（68.2%）よりも「同性愛者・両性愛者」（89.5%）と「無性愛者」（83.7%）で高く、[女性] と性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

図表 20 「職場・学校・地域で、同性愛者や性別を変えた人も、差別なく公平に扱われるための法律・条例の整備」に対する賛否（全体、年齢別）[n=5,339]

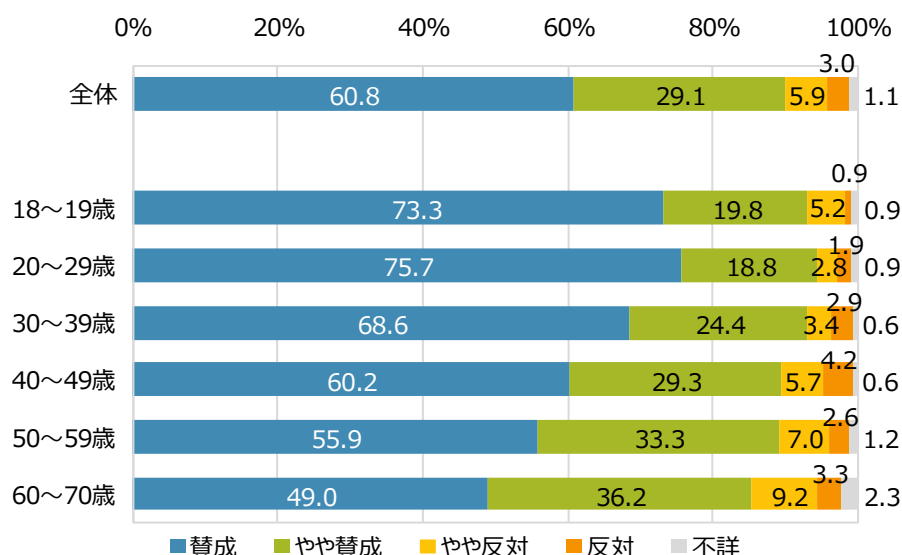


図表 21 「職場・学校・地域で、同性愛者や性別を変えた人も、差別なく公平に扱われるための法律・条例の整備」に対する賛否（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



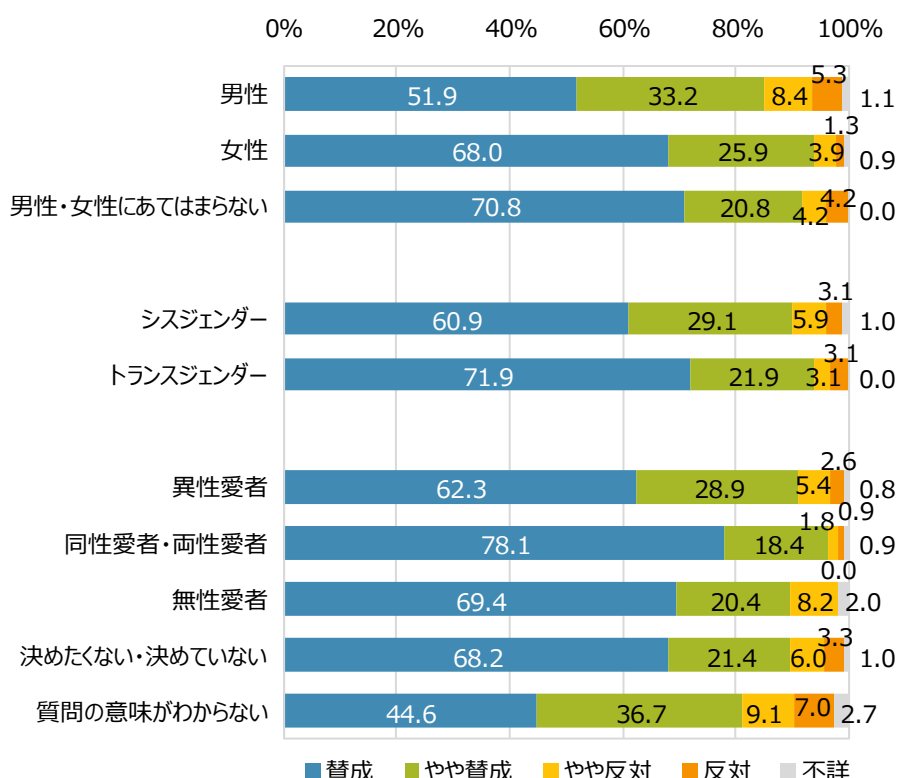
「職場、学校、地域における、多様な性のあり方についての啓発」に対する賛否については、全体では「賛成」が 60.8%、「やや賛成」が 29.1%、「やや反対」が 5.9%、「反対」が 3.0%です。「賛成」を年齢別にみると、10 代で 73.3%、20 代で 75.7%に対して 60 代で 49.0%と、年齢が若いほうが高い傾向がみられます。

図表 22 「職場、学校、地域における、多様な性のあり方についての啓発」に対する賛否（全体、年齢別）[n=5,339]



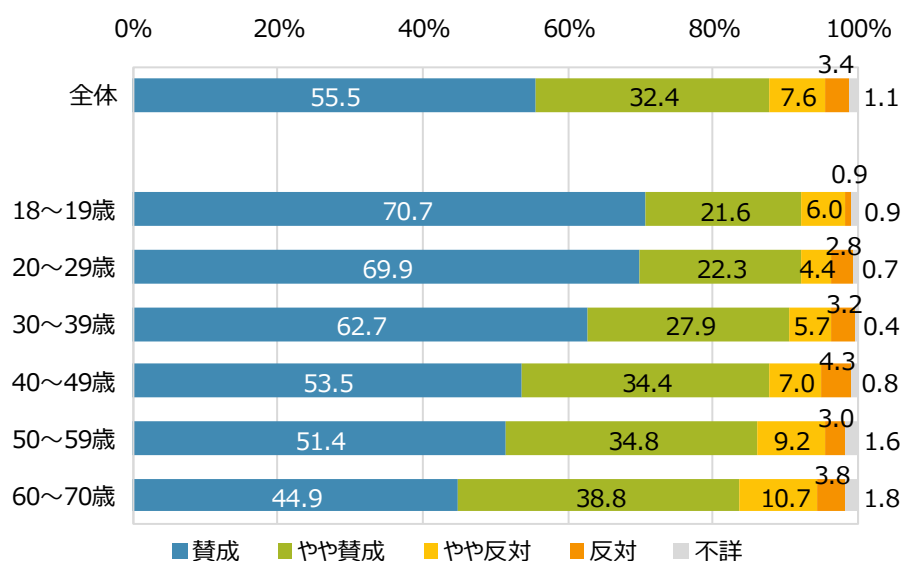
自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「賛成」をみると、自認する性別では「男性」（51.9%）よりも「女性」（68.0%）と「男性・女性にあてはまらない」（70.8%）で高く、「シスジェンダー」（60.9%）よりも「トランスジェンダー」（71.9%）で高く、「異性愛者」（62.3%）よりも「同性愛者・両性愛者」（78.1%）と「無性愛者」（69.2%）で高く、「女性」や性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

図表 23 「職場、学校、地域における、多様な性のあり方についての啓発」に対する賛否
(自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別) [n=5,339]



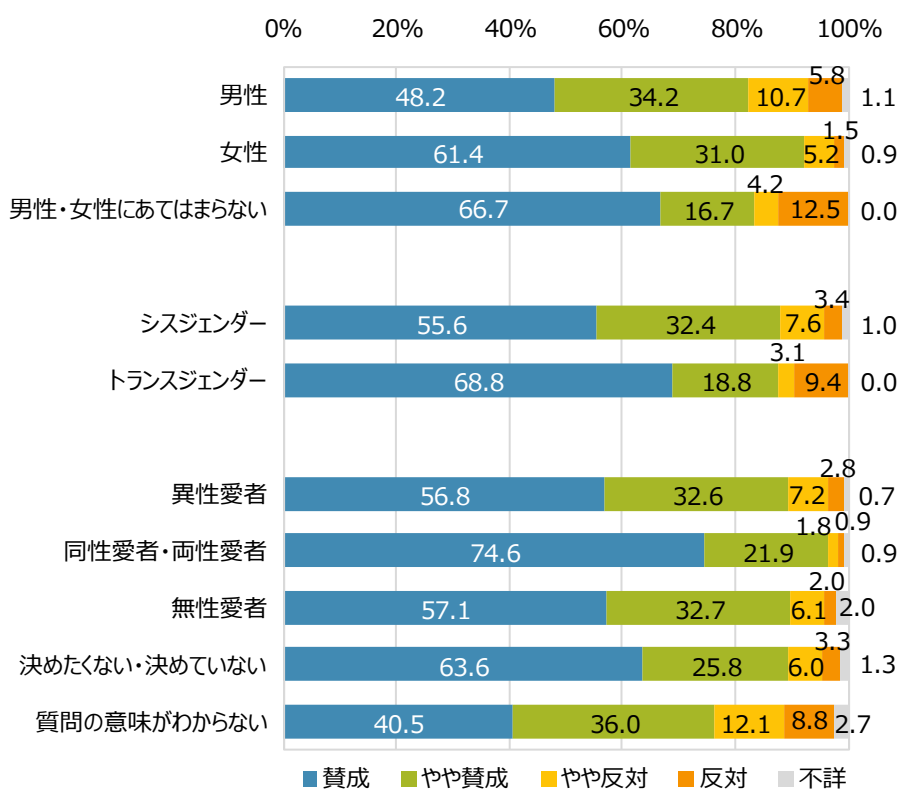
「同性愛という性のあり方があることや、性別を変えたいと望む人のことを、義務教育で教えること」については、全体では「賛成」が 55.5%、「やや賛成」が 32.4%、「やや反対」が 7.6%、「反対」が 3.4%です。「賛成」を年齢別にみると、10 代で 70.7%、20 代で 69.9%に対して 60 代で 44.9%と、年齢が若いほうが高くなっています。

図表 24 「同性愛という性のあり方があることや、性別を変えたいと望む人のことを、義務教育で教えること」に対する賛否
(全体、年齢別) [n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「賛成」をみると、[男性]（48.2%）よりも[女性]（61.4%）と「男性・女性にあてはまらない」（66.7%）で高く、[シスジェンダー]（55.6%）よりも[トランスジェンダー]（68.8%）で高く、「異性愛者」（56.8%）と「無性愛者」（57.1%）よりも「同性愛者・両性愛者」（74.6%）で高く、[女性]や性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

図表 25 「同性愛という性のあり方があることや、性別を変えたいと望む人のことを、義務教育で教えること」に対する賛否
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]

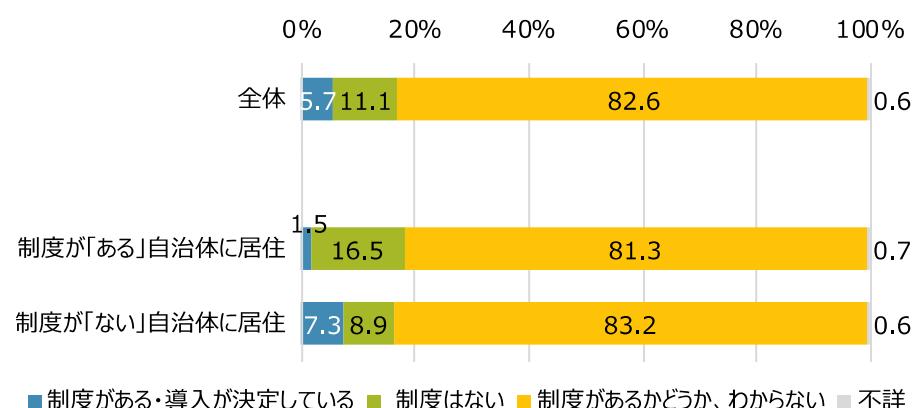


居住する自治体のパートナーシップ制度の認知【問 60(1)】

問 60(1)では、自身の居住する自治体にパートナーシップ制度があるかどうかを回答者が認知しているのか、についてたずねました。回答者の居住地は、調査対象者を抽出するために必要であったことから、2022 年 1 月時点の住民登録上の自治体名として把握されています（調査対象者の抽出方法の詳細は、本報告書の「調査概要」を参照）。そこで、まず、回答者の住民登録上の自治体が、調査実施時の 2023 年 3 月時点で、パートナーシップ制度もしくはファミリーシップ制度を導入していたかを確認しました²。その結果、制度が「ある」自治体に居住する（正確には 2022 年 1 月時点でその自治体に住民登録していた）回答者は 5,339 人中 3,742 人、「ない」自治体に居住する回答者は 1,568 人でした。なお、調査票の郵送時に実施側で付与していた整理番号を、回答した後に切り取って返送されたため、居住する自治体が不明である回答者が 9 人いました。

制度が「ある」自治体に居住する 3,742 人の場合、自身の居住する自治体に「制度がある・導入が決定している」が 1.5%、「制度はない」が 16.5%に対して、制度が「ない」自治体に居住する 1,568 人の場合には、それぞれ 7.3%、8.9%で、いずれの場合にも「制度があるかどうか、わからない」が 80%を超えていました。

図表 26 居住する自治体のパートナーシップ制度の有無別にみた、制度の有無の認知 [n=5,339]

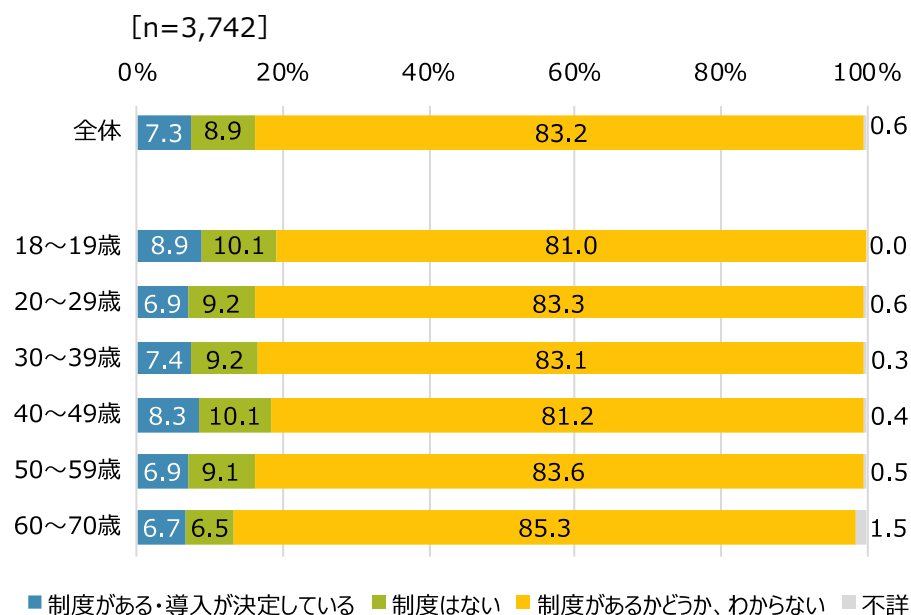


次に、制度が「ある」自治体に居住する 3,742 人について、年齢別にみると、どの年齢でも、「制度があるかどうか、わからない」が 80%台であり、「制度がある・導入が決定している」と（正しく）認知しているのは 6.7～8.9%で、1 割未満でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「制度がある・導入が決定している」をみると、自認する性別では、[男性] の 7.6%、[女性] の 7.1%に対し「男性・女性にあてはまらない」は 9.1%、シス・トランス別では、[シスジェンダー] の 7.3%に対し [トランスジェンダー] は 10.3%、性的指向アイデンティティ別では、「異性愛者」の 7.3%に対し「同性愛者・両性愛者」は 14.3%、「無性愛者」は 15.6%であり、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。その一方で、性的マイノリティの回答者では、「制度はない」が高くなる傾向もみられました。

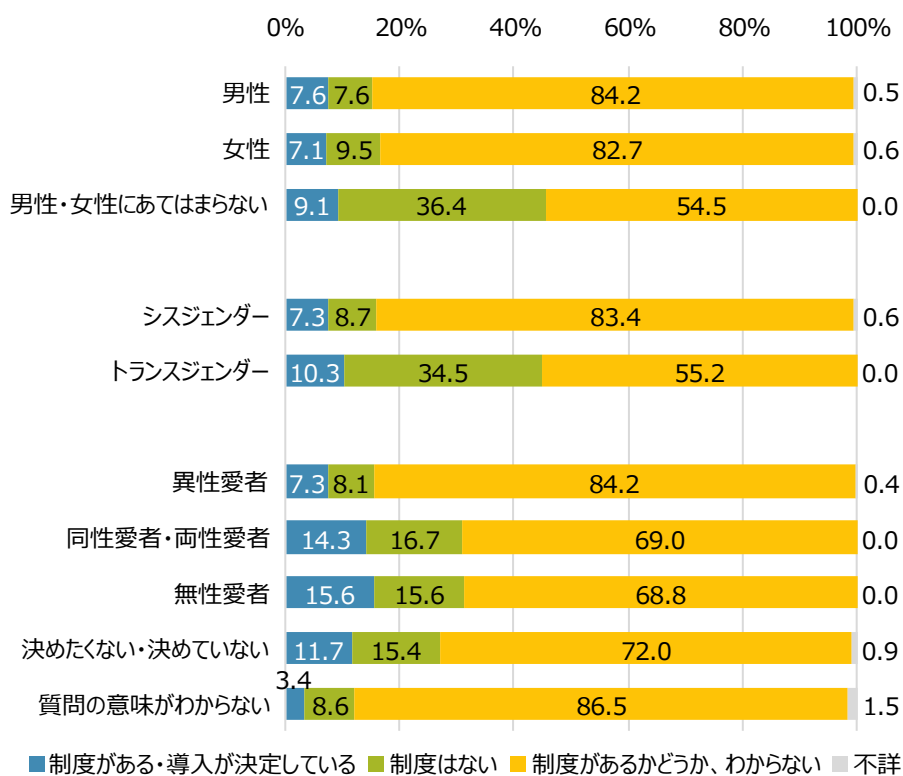
² 2020 年国勢調査の基本単位区から抽出された 360 の調査地点が含まれる都道府県のうち、2023 年 3 月時点で制度が導入されていたのは 12 都道府県でした。同じく 360 の調査地点が含まれる市区町村のうち、制度が導入されていたのは 114 市区町村でした。

図表 27 パートナーシップ制度の「ある」自治体に居住する回答者における、同制度導入の有無の認知（全体、年齢別）



図表 28 パートナーシップ制度の「ある」自治体に居住する回答者における、同制度導入の有無の認知

（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=3,742]

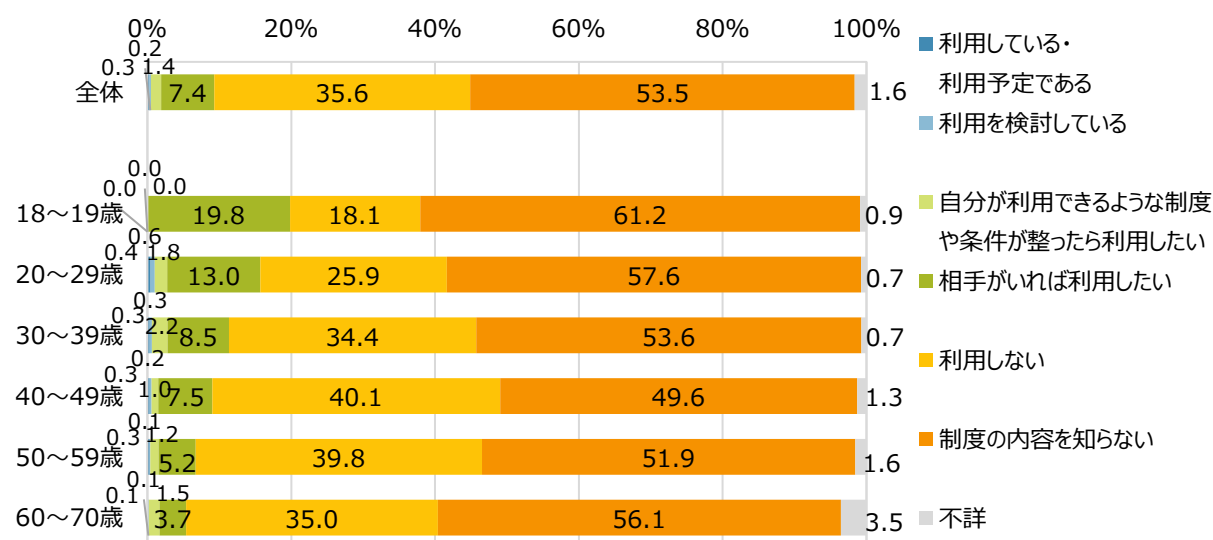


居住する自治体のパートナーシップ制度利用に対する関心【問 60(2)】

問 60(2)では、自身の居住する自治体にパートナーシップ制度が導入されているか否かに関わらず、パートナーシップ制度を利用したいかどうかについてたずね、「利用している・利用予定である」、「利用を検討している」、「自分が利用できるような制度や条件が整ったら利用したい」、「相手がいれば利用したい」、「利用しない」、「制度の内容を知らない」の6つの選択肢から選んでもらいました。全体では、「制度の内容を知らない」が53.5%で過半数を超えており、次いで「利用しない」が35.6%、「相手がいれば利用したい」が7.4%、「自分が利用できるような制度や条件が整ったら利用したい」が1.4%、「利用している・利用予定である」が0.3%、「利用を検討している」が0.2%でした。

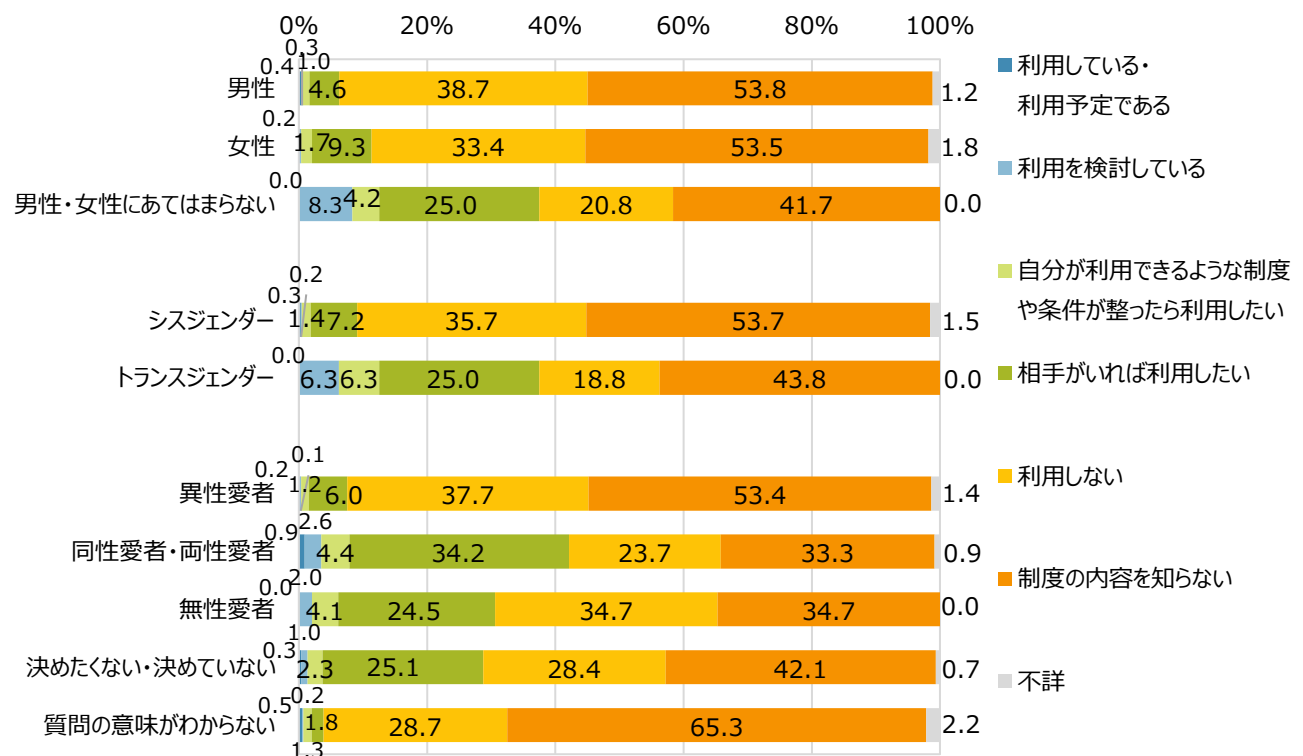
年齢別にみると、いずれの年齢でも、「利用している・利用予定である」と「利用を検討している」が1%未満で、「制度の内容を知らない」と「利用しない」が大半を占めていますが、「自分が利用できるような制度や条件が整ったら利用したい」は若い年齢で高く、10代（19.8%）や20代（13.0%）では1割を超えています。

図表 29 パートナーシップ制度利用に対する関心（全体、年齢別）[n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、性的マイノリティである「男性・女性にあてはまらない」や「トランスジェンダー」、「同性愛者・両性愛者」、「無性愛者」では、「利用を検討している」、「自分が利用できるような制度や条件が整ったら利用したい」、「相手がいれば利用したい」が相対的に高くなっています。その一方で、「制度の内容を知らない」については、[男性]（53.8%）と[女性]（53.5%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（41.7%）で低く、[シスジェンダー]（53.7%）よりも[トランスジェンダー]（43.8%）で低く、「異性愛者」（53.4%）よりも「同性愛者・両性愛者」（33.3%）と「無性愛者」（34.7%）で低く、性的マイノリティのほうが少ないものの、6つの選択肢の中ではもっとも多く選ばれており、総じて、パートナーシップ制度の内容が知られていない傾向にあることがわかりました。

図表 30 パートナーシップ制度利用に対する関心（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）
[n=5,339]



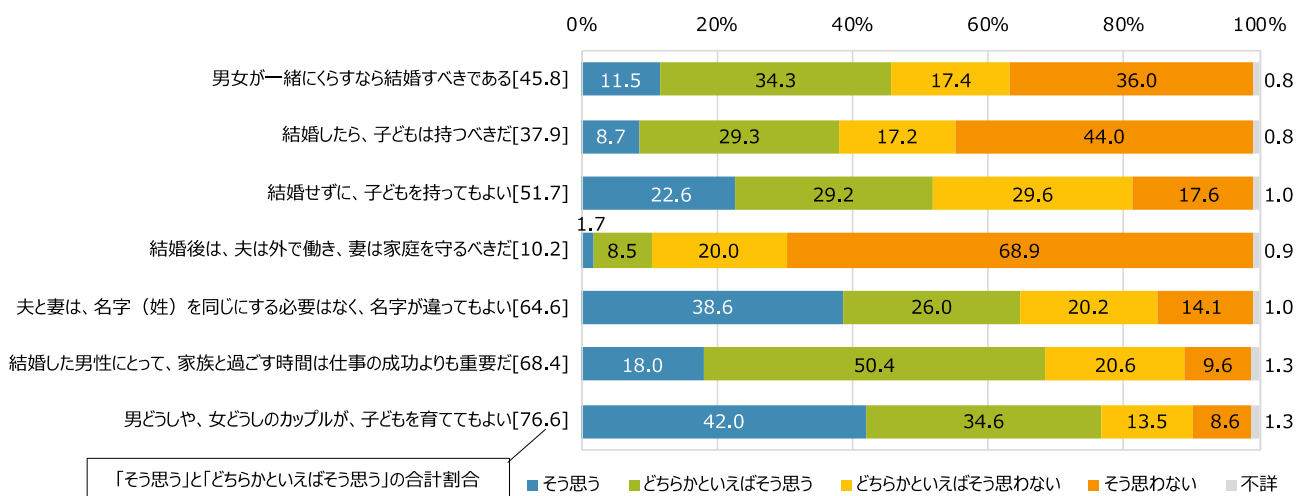
3 男女の役割・家族についての考え方

男女の役割と家族についての考え【問 51】

問 51 では、結婚、子どもを持つこと、子育てにかんする 7 つの項目を提示し、それぞれに対する考えを「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の 4 つの選択肢を選んでもらう形でたずねました（図表上では各項目の後に[]で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答者の割合の合計を示しています）。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合（以下、賛成割合）が高い順に項目を並べると、もっとも高いのは賛成割合が 70%を超える「男どうしや、女どうしのカップルが、子どもを育ててもよい」（76.6%）、次いで賛成割合が 60%を超える「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」（68.4%）、「夫と妻は、名字（姓）を同じにする必要はなく、名字が違ってよい」（64.6%）、さらには賛成割合が 50%前後である「結婚せずに、子どもを持ってもよい」（51.7%）、「男女が一緒にくらすなら結婚すべきである」（45.8%）、賛成よりも反対がかなり多い「結婚したら、子どもは持つべきだ」（37.9%）、「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」（10.2%）の順でした。「結婚したら、子どもは持つべきだ」と「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計割合（以下、反対割合）がそれぞれ 61.2%、88.9%であり、とくに後者では、ほぼ 9 割に達していました。

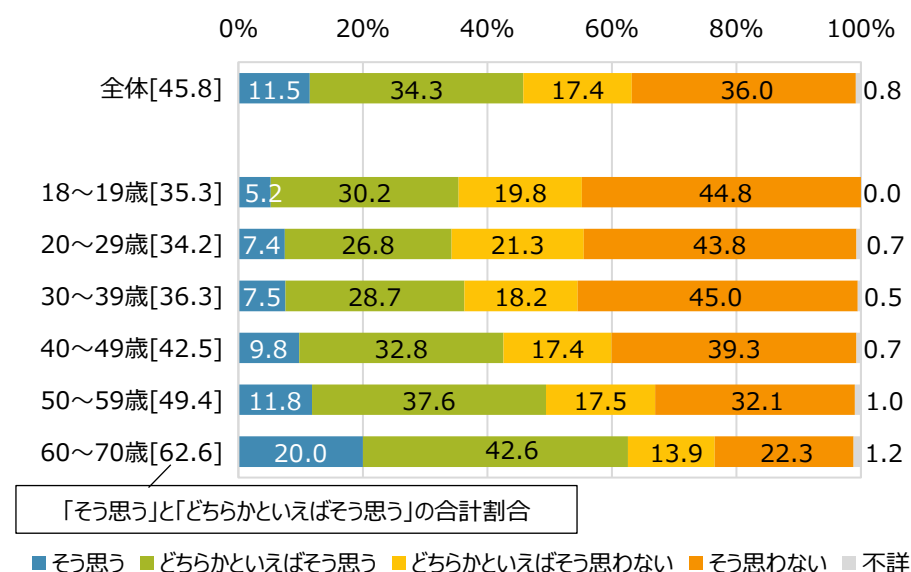
図表 31 結婚、子どもを持つこと、子育てにかんする考え（全体）[n=5,339]



以下では、7 つの項目について、年齢別と、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に集計した結果をみていきます。

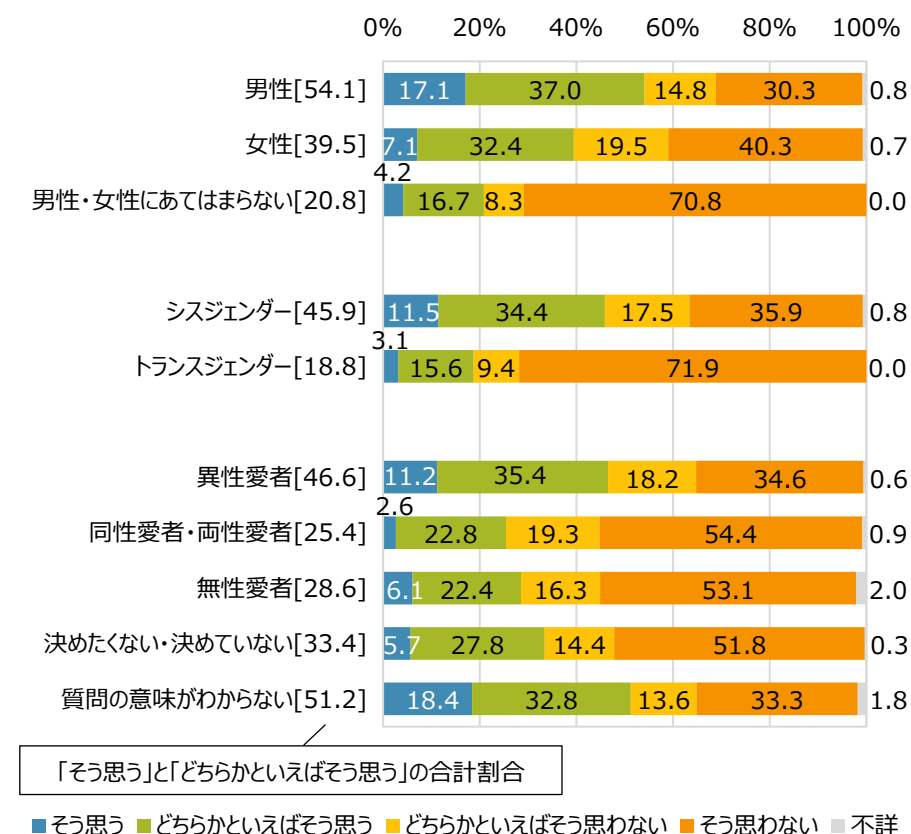
「男女が一緒にくらすなら結婚すべきである」については、賛成割合は 45.8%に対し、反対割合は 53.4%でした。これを年齢別にみると、40 代以上の場合、年齢が上がるにつれて賛成割合が高くなり、60 代で 62.6%であるのに対し、30 代以下の場合には 35%前後でした。これを自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、賛成割合が高いのは、[男性]（54.1%）、[シスジェンダー]（45.9%）、「異性愛者」（46.6%）であり、[女性]や性的マイノリティの回答者で反対割合が高くなる傾向がみられました。

図表 32 「男女が一緒にくらすなら結婚すべきである」に対する考え（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 33 「男女が一緒にくらすなら結婚すべきである」に対する考え

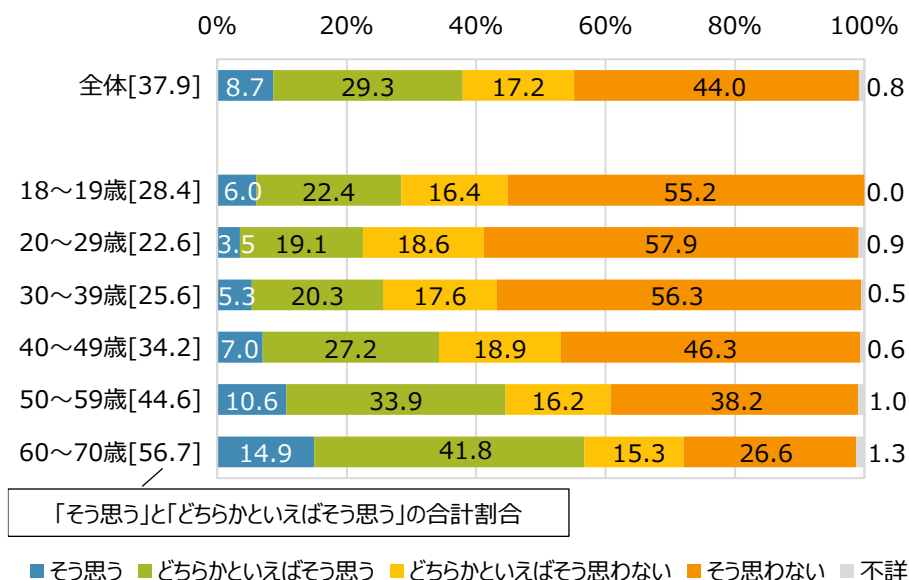
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



「結婚したら、子どもは持つべきだ」については、賛成割合は 37.9%に対し、反対割合は 61.2%でした。これを年齢別にみると、40 代以上の場合、年齢が上がるにつれて賛成割合が高くなり、60 代で 56.7%であるのに対し、30 代以下の場合には 25%前後でした。これを自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、賛成割合が高いのは、

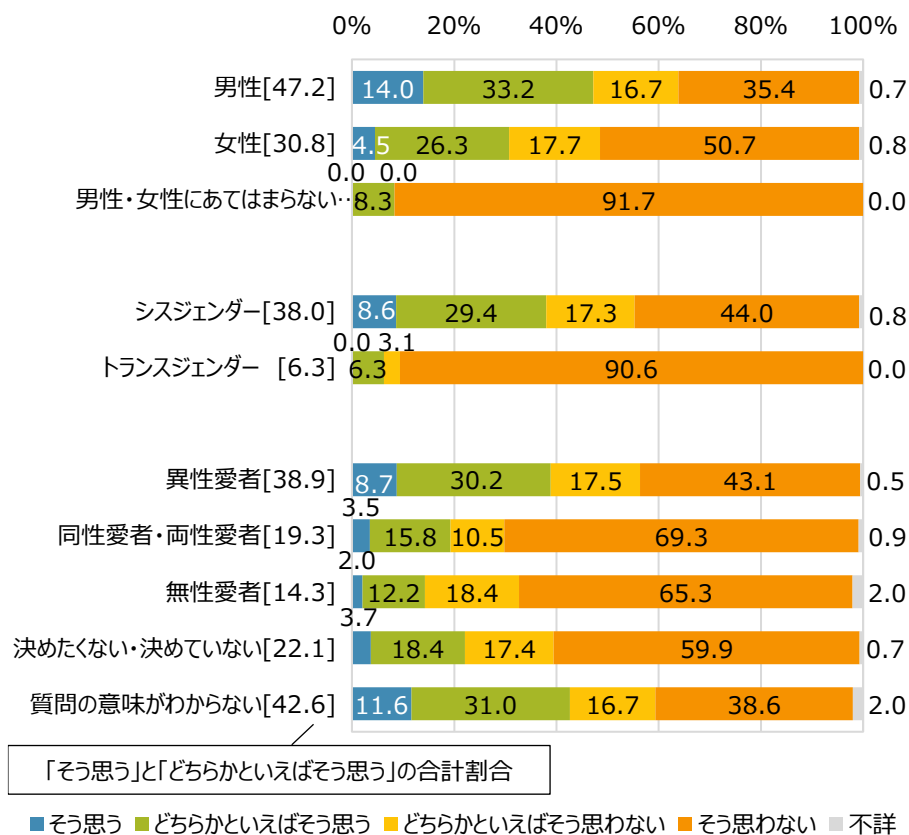
「男性」（47.2%）、「女性」（30.8%）「シスジェンダー」（38.0%）、「異性愛者」（38.9%）であり、性的マイ
 リティの回答者で反対割合が高くなる傾向がみられました。

図表 34 「結婚したら、子どもは持つべきだ」に対する考え（全体、年齢別） [n=5,339]



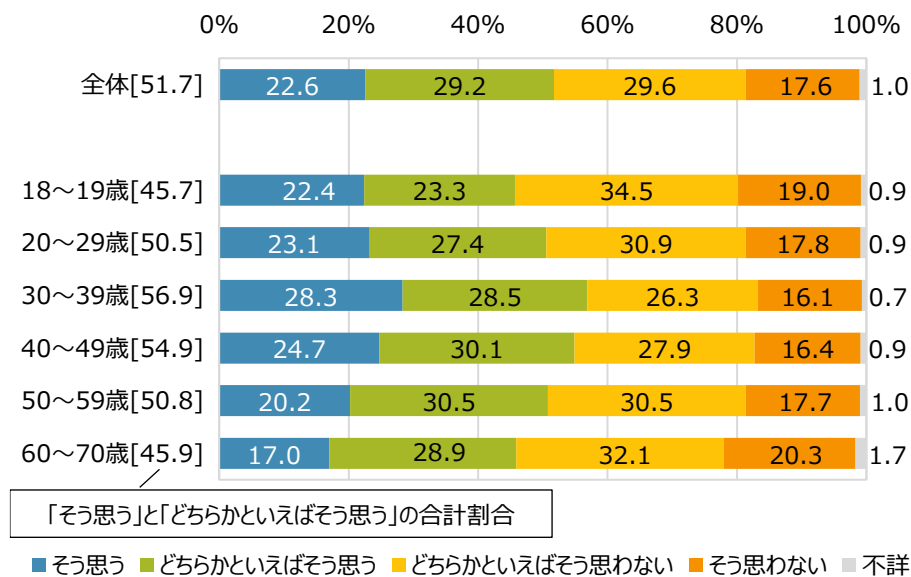
図表 35 「結婚したら、子どもは持つべきだ」に対する考え

（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]



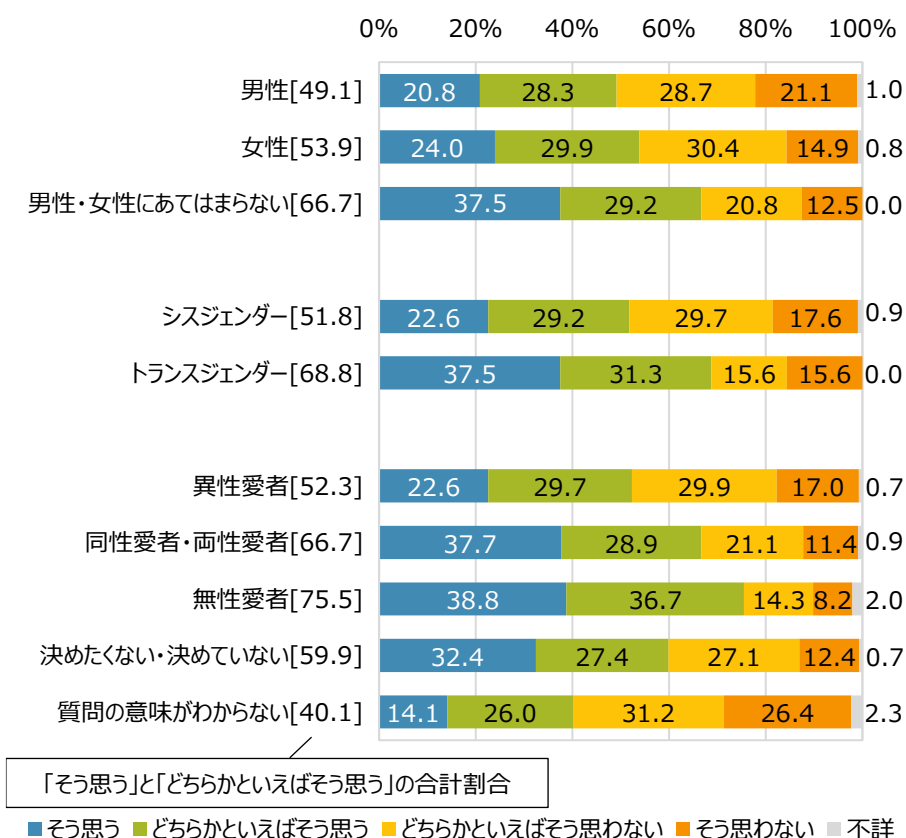
「結婚せずに、子どもを持ってもよい」については、賛成割合は 51.7%に対し、反対割合は 47.2%でした。これを年齢別にみると、賛成割合が高いのは 30 代と 40 代でそれぞれ 56.9%と 54.9%であり、20 代と 50 代ではほぼ 50%、10 代と 60 代ではほぼ 45%でした。これを自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、賛成割合が高いのは、「男性・女性にあてはまらない」（66.7%）、「トランスジェンダー」（68.8%）、「無性愛者」（75.5%）、「同性愛者・両性愛者」（66.7%）であり、性的マイノリティの回答者で賛成割合が高くなる傾向がみられました。

図表 36 「結婚せずに、子どもを持ってもよい」に対する考え（全体、年齢別）[n=5,339]



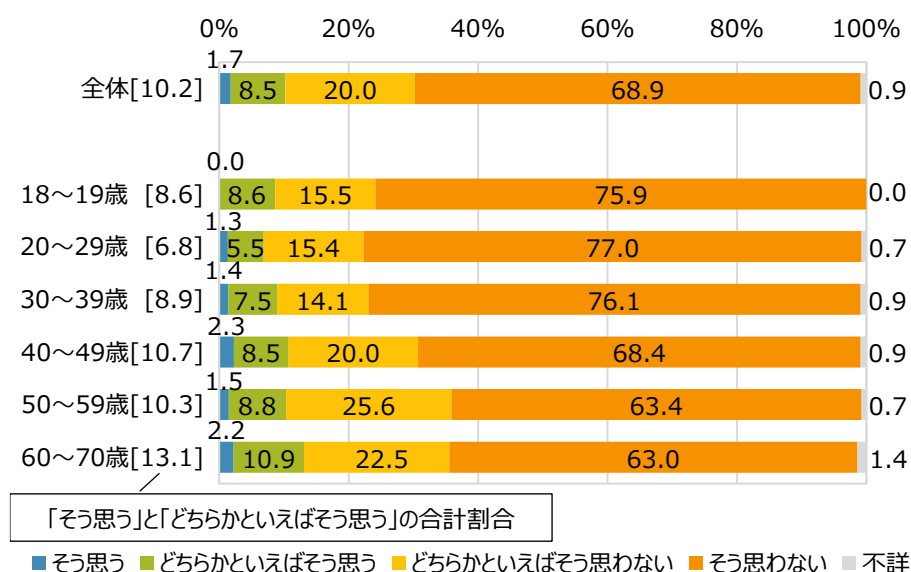
図表 37 「結婚せずに、子どもを持ってもよい」に対する考え

(自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別) [n=5,339]

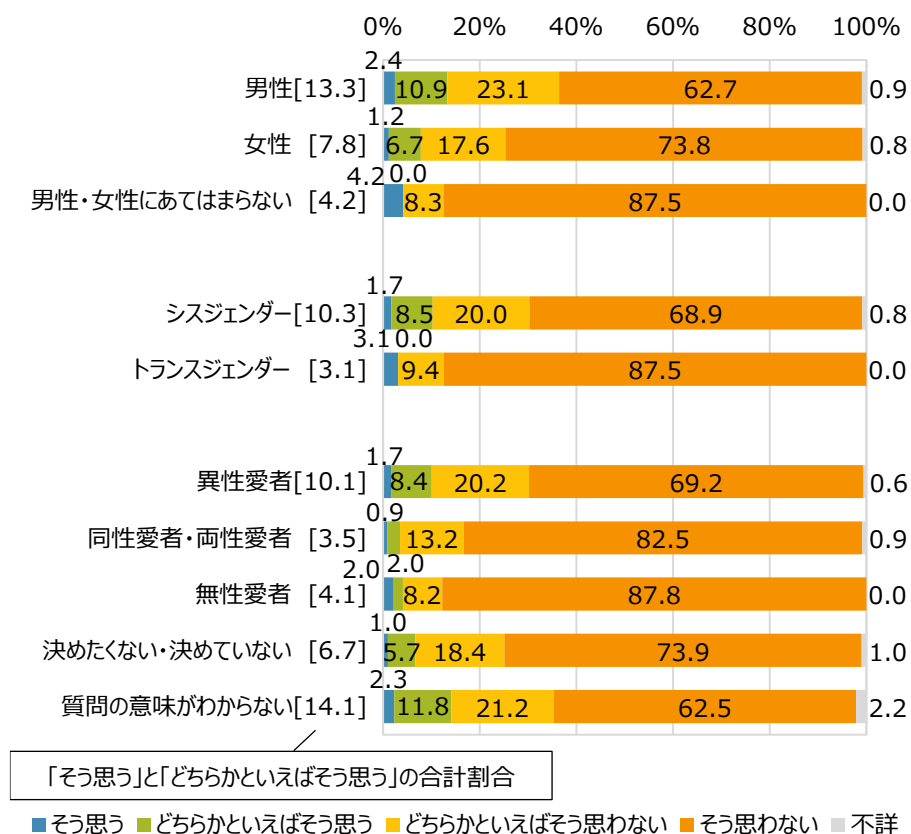


「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」については、賛成割合は 10.2%に対し、反対割合は 88.9%でした。これを年齢別にみると、賛成割合はいずれも 10%程度にとどまり、40 代以上で 10%を超えるのに対し、30 代以下で 10%を下回っていました。これを自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、賛成割合は [男性] (13.3%)、[シスジェンダー] (10.3%) でやや高いものの、いずれも反対割合が 8 割を超えていました。

図表 38 「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」に対する考え（全体、年齢別） [n=5,339]

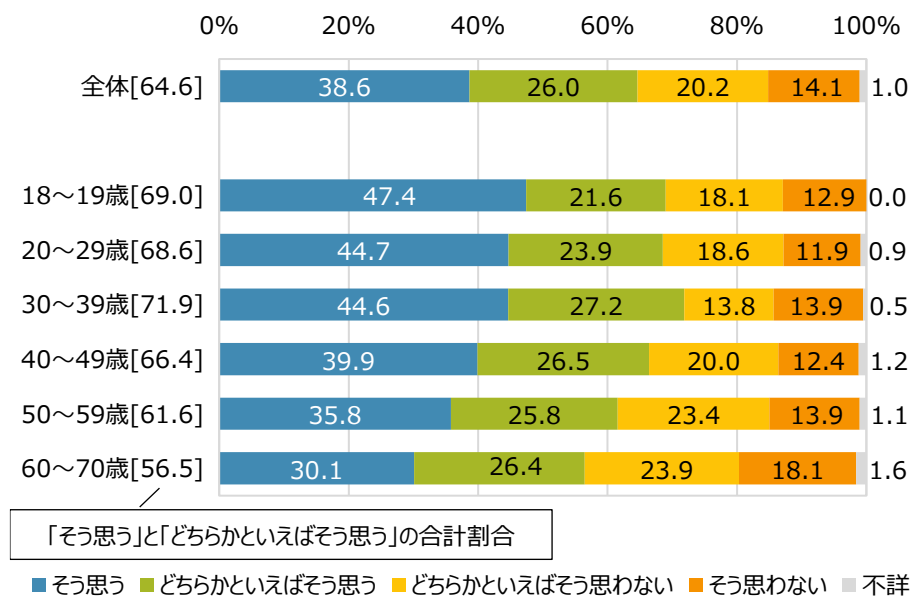


図表 39 「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」に対する考え
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]

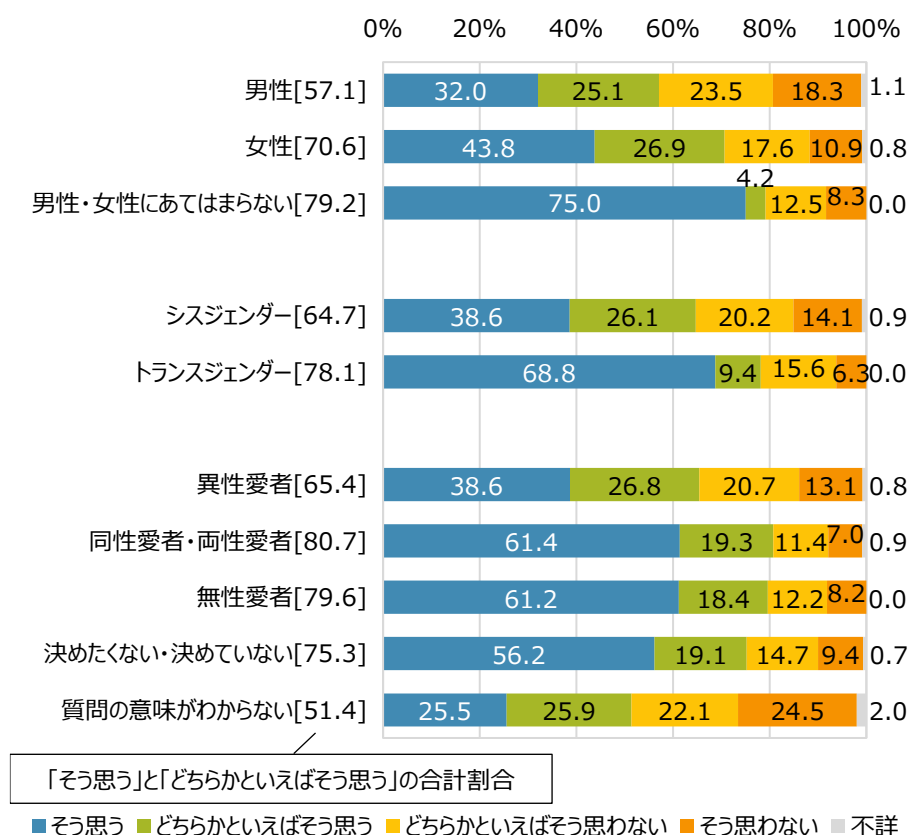


「夫と妻は、名字（姓）を同じにする必要はなく、名字が違ってよい」については、賛成割合は 64.6%に対し、反対割合は 34.3%でした。これを年齢別にみると、40 代以上の場合、年齢が上がるにつれて賛成割合が低くなり、60 代で 56.5%であるのに対し、30 代以下の場合には 70%前後でした。これを自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、賛成割合が高いのは、「男性・女性にあてはまらない」（79.2%）、[女性]（70.6%）、[トランスジェンダー]（78.1%）、「同性愛者・両性愛者」（80.7%）、「無性愛者」（79.6%）であり、[女性] や性的マイノリティの回答者で賛成割合が高くなる傾向がみられました。

図表 40 「夫と妻は、名字（姓）を同じにする必要はなく、名字が違ってよい」に対する考え
（全体、年齢別）[n=5,339]

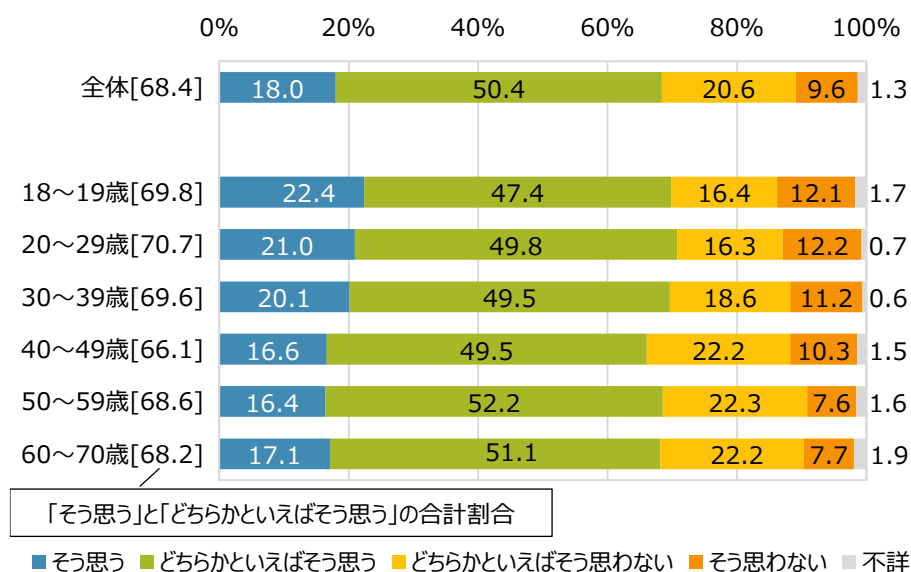


図表 41 「夫と妻は、名字（姓）を同じにする必要はなく、名字が違っててもよい」に対する考え
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]

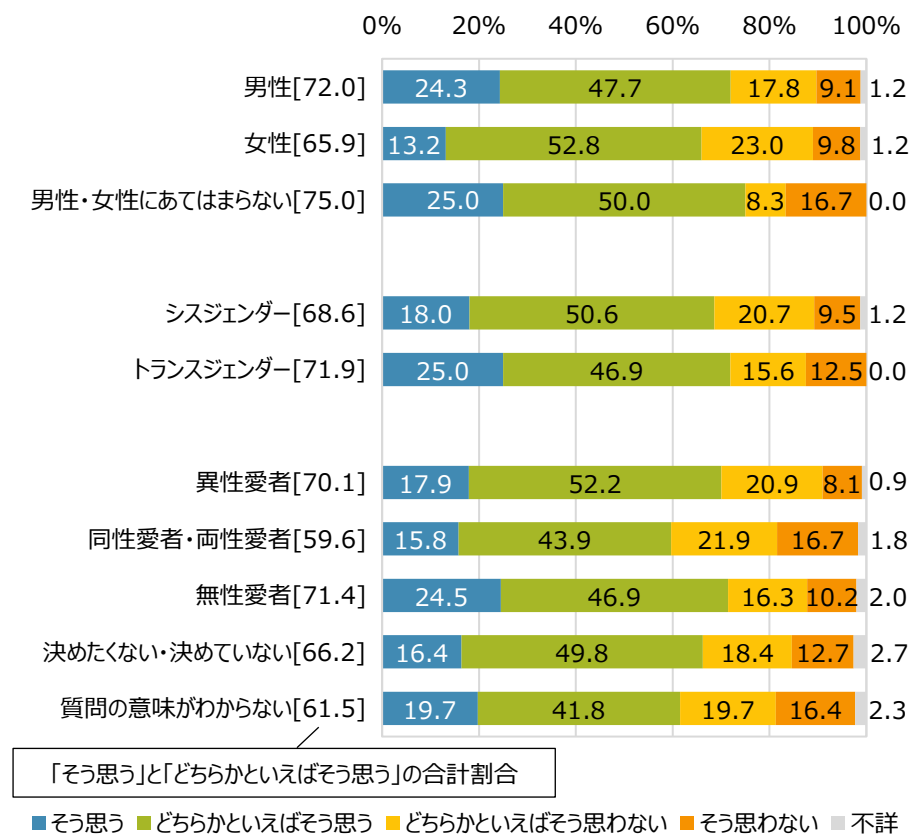


「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」については、賛成割合は 68.4% に対し、反対割合は 30.2% でした。これを年齢別にみると、40 代でやや低い 66.1%、50 代と 60 代はほぼ 68%、30 代以下はほぼ 70% でした。これを自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、賛成割合が高いのは、「男性・女性にあてはまらない」（75.0%）、「男性」（72.0%）、「トランスジェンダー」（71.9%）、「無性愛者」（71.4%）、「異性愛者」（70.1%）でした。

図表 42 「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」に対する考え
(全体、年齢別) [n=5,339]

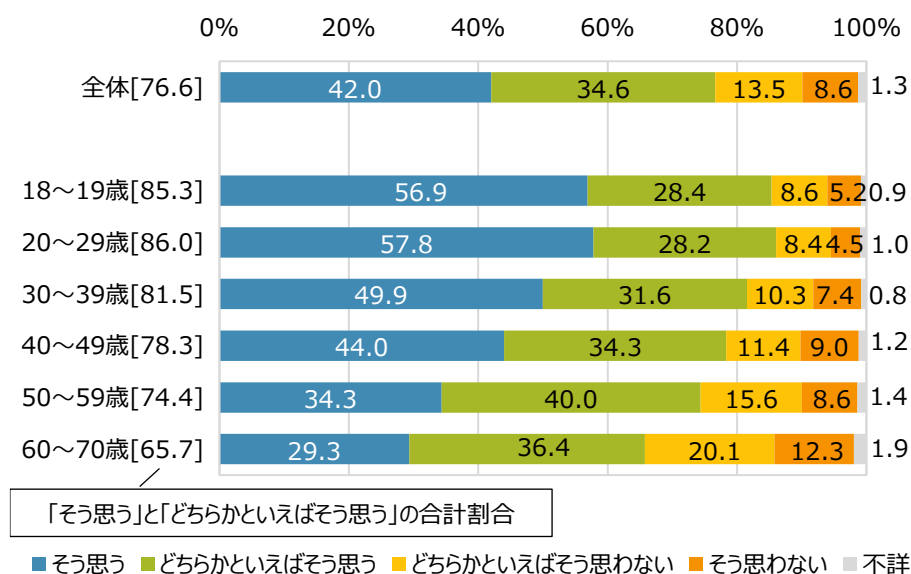


図表 43 「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」に対する考え
(自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別) [n=5,339]



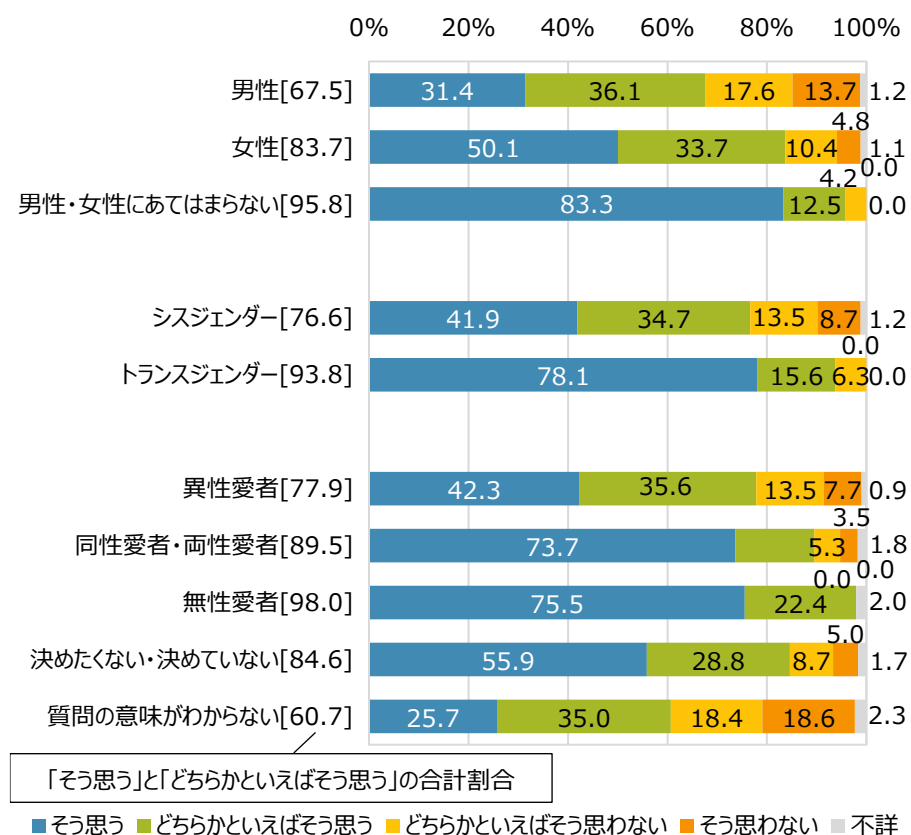
「男どうしや、女どうしのカップルが、子どもを育ててもよい」については、賛成割合は 76.6%であるのに対し、反対割合は 22.1%でした。これを年齢別にみると、賛成割合は 10 代と 20 代で 85.3%、86.0%と高く、30 代以降は年齢とともに低くなり、60 代では 65.7%でした。これを自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、賛成割合が高いのは、「男性・女性にあてはまらない」（95.8%）、〔女性〕（83.7%）、〔トランスジェンダー〕（93.8%）、「無性愛者」（98.0%）、「同性愛者・両性愛者」（89.5%）であり、〔女性〕や性的マイノリティの回答者で賛成割合が高くなる傾向がみられました。

図表 44 「男どうしや、女どうしのカップルが、子どもを育ててもよい」に対する考え（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 45 「男どうしや、女どうしのカップルが、子どもを育ててもよい」に対する考え

(自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別) [n=5,339]



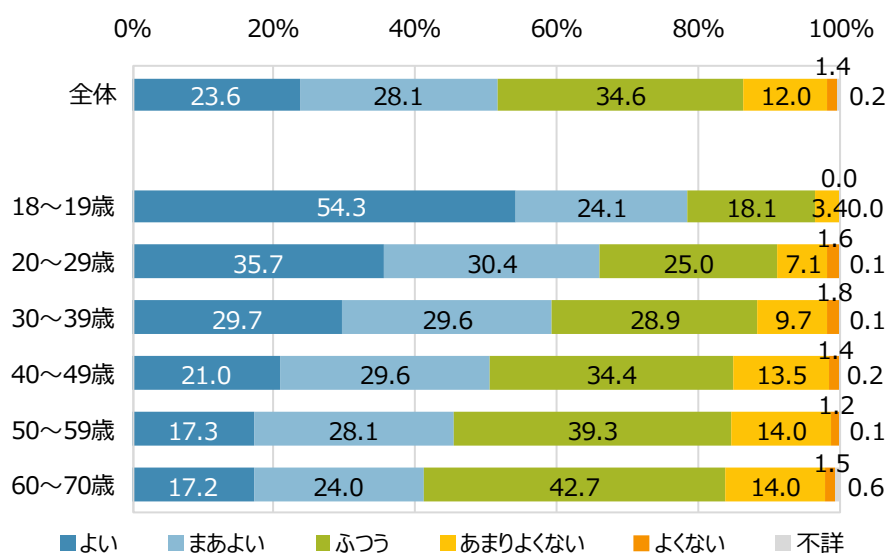
4 心身の健康

現在の健康状態【問 11】

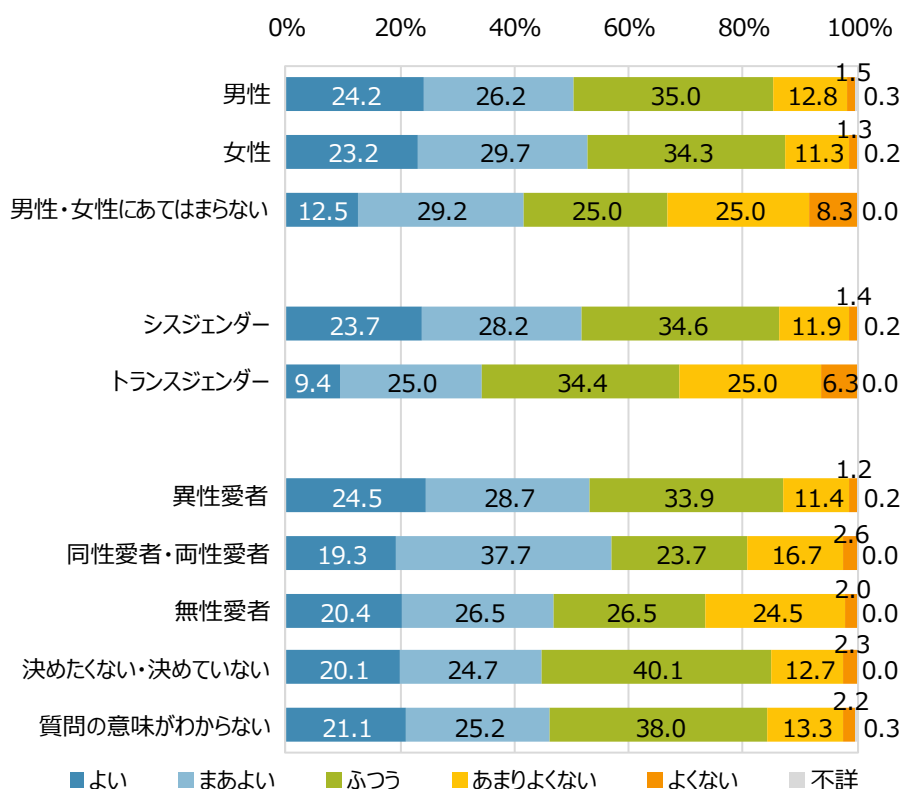
問 11 では、現在の健康状態についてたずねました。全体では、「よい」が 23.6%、「まあよい」が 28.1%、「ふつう」が 34.6%で、「健康である」とみなせるこれら 3 つを合わせると 86.3%に達しています。一方、「あまりよくない」が 12.0%、「よくない」が 1.4%でした。

年齢別にみると、「よい」と「まあよい」の合計は 10 代の 78.4%から 60 代の 41.2%へと年齢とともに少なくなるのに対し、「ふつう」や「あまりよくない」は 10 代の 18.1%、3.4%から 60 代の 42.7%、14.0%へと年齢とともに多くなっていますが、「よくない」はいずれの年齢でも極めて少なく、2%未満でした。

図表 46 現在の健康状態の分布（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 47 現在の健康状態の分布（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]

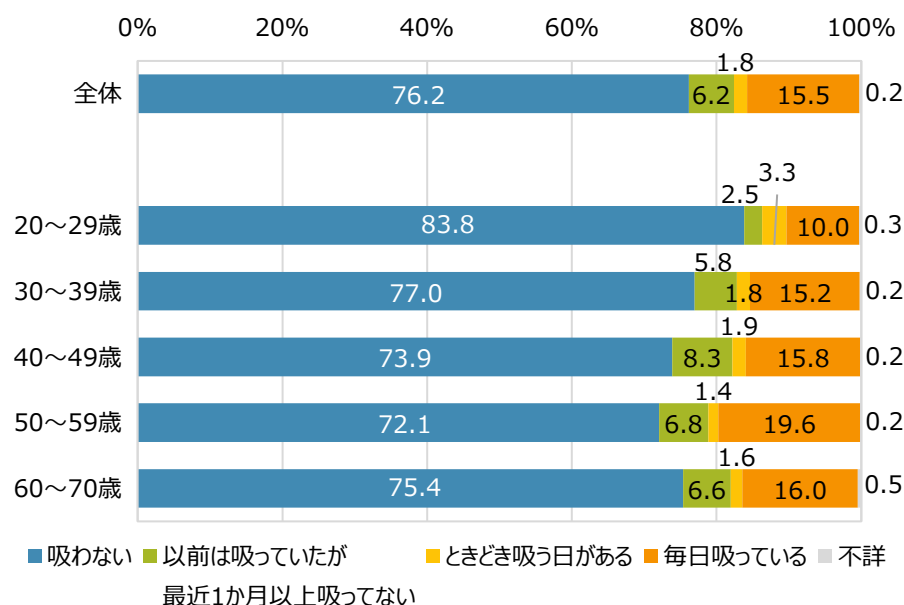


喫煙習慣【問 12】

問 12 では、喫煙習慣についてたずねました。全体では、「吸わない」が 76.2%でもっとも多く、「以前は吸っていたが最近 1 か月以上吸ってない」の 6.2%と合わせると約 8 割の回答者は喫煙習慣がないのに対して、「毎日吸っている」が 15.5%、「ときどき吸う日がある」が 1.8%で、喫煙習慣があるのはこれらを合わせた 17.3%です。

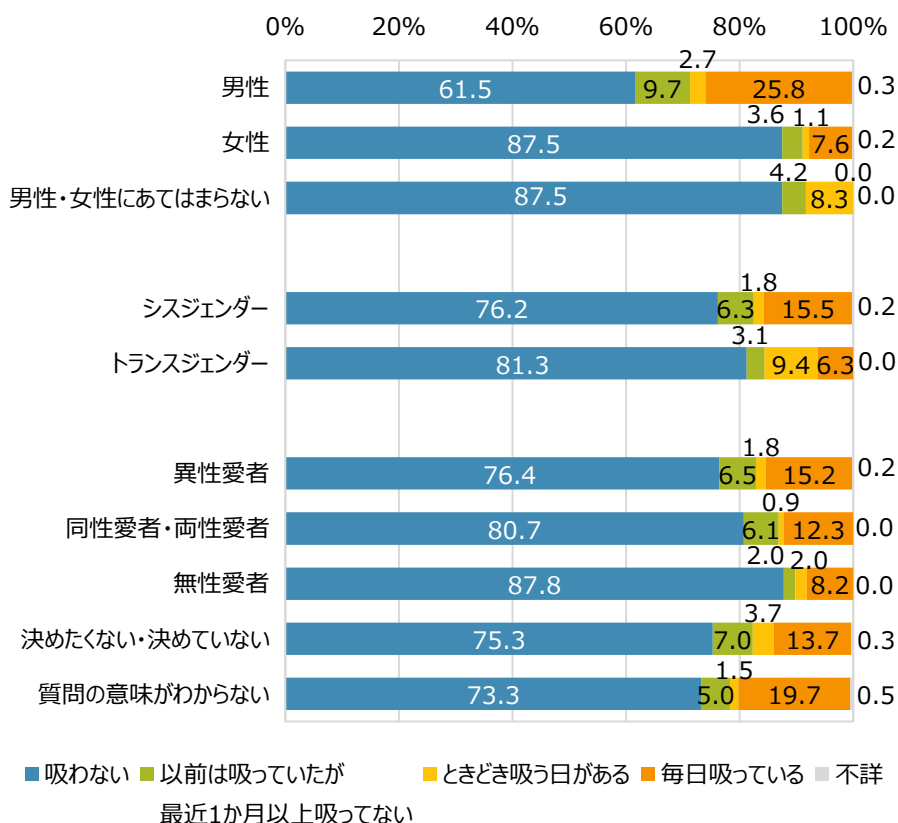
年齢別にみると、「吸わない」は 20 代でもっとも高い 83.8%、50 代でもっとも低い 72.1%であり、50 代については、他の年齢よりも喫煙習慣のある回答者が多く、「毎日吸っている」の 19.6%と「ときどき吸う日がある」の 1.4%を合わせると 21.0%でした。

図表 48 喫煙習慣の分布（全体、年齢別）[n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「吸わない」をみると、[男性]（61.5%）よりも[女性]（87.5%）と「男性・女性にあてはまらない」（87.5%）で高く、[シスジェンダー]（76.2%）よりも[トランスジェンダー]（81.3%）で高く、「異性愛者」（76.4%）よりも「同性愛者・両性愛者」（80.7%）と「無性愛者」（87.8%）で高くなっていました。

図表 49 喫煙習慣の分布（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]

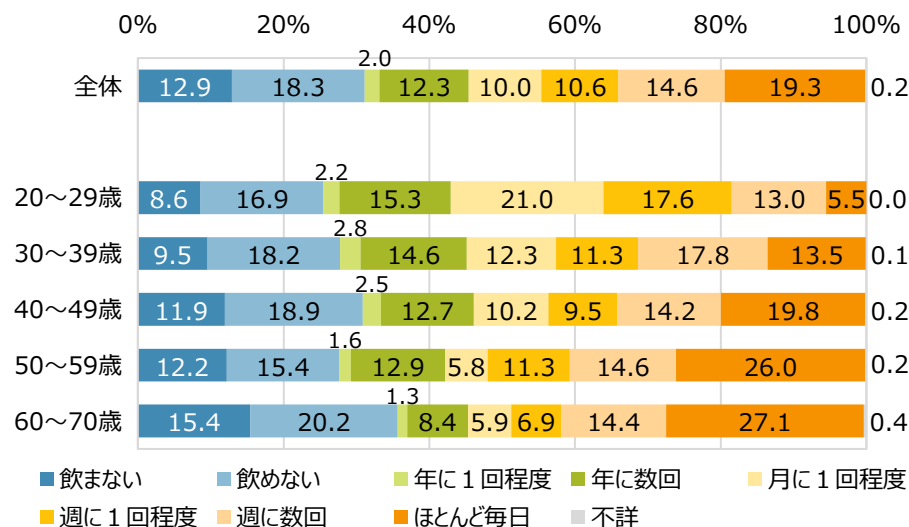


飲酒頻度【問 13】

問 13 では飲酒頻度についてたずねました。全体では、「ほとんど毎日」が 19.3%でもっとも多く、「週に数回」の 14.6%と「週に 1 回程度」の 10.6%を合わせた 44.5%が週 1 回以上の飲酒頻度でした。一方、2 番目に多いのが「飲めない」の 18.3%で、「飲まない」の 12.9%と合わせると 31.2%になります。

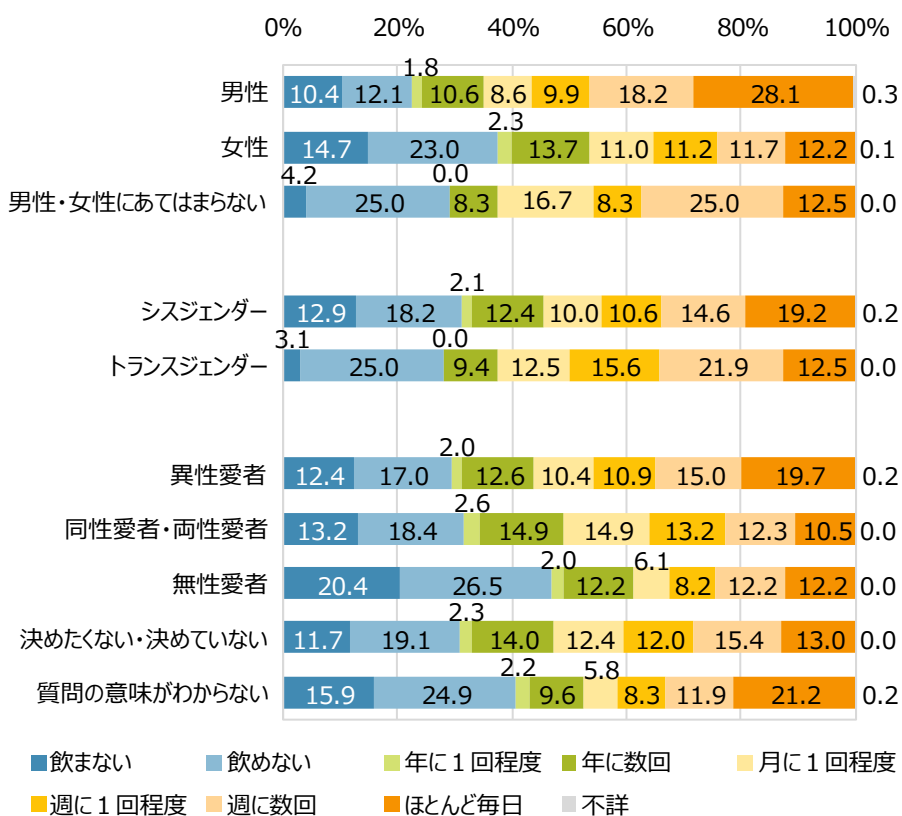
年齢別にみると、週 1 回以上の飲酒頻度は、20 代で 36.1%、30 代で 42.5%、40 代で 43.5%、50～59 歳では 51.8%、60～70 歳では 48.4%と 30 代以上ではいずれも 4 割を超えています。

図表 50 飲酒頻度の分布（全体、年齢別）[n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に週 1 回以上の飲酒頻度をみると、[女性]（35.1%）よりも[男性]（56.2%）と「男性・女性にあてはまらない」（45.8%）で高く、[シスジェンダー]（44.4%）よりも[トランスジェンダー]（50.4%）で高く、「無性愛者」（32.7%）よりも「同性愛者・両性愛者」（36.0%）、さらに「異性愛者」（45.5%）で高くなっています。

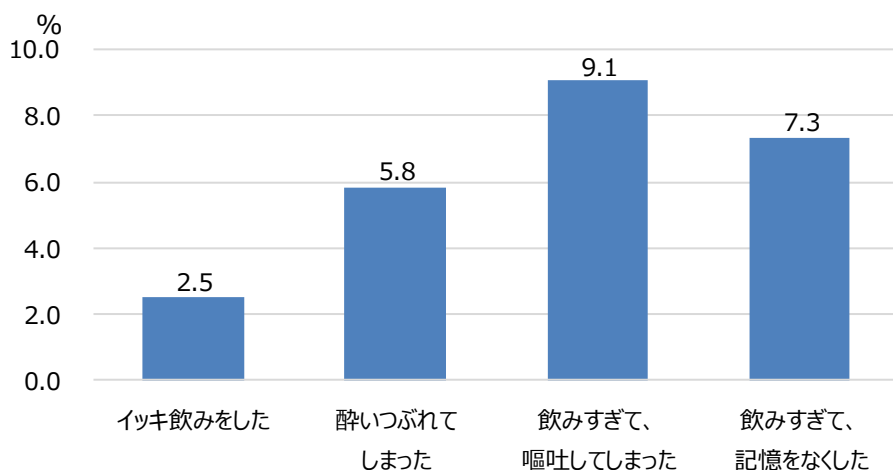
図表 51 飲酒頻度の分布（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



飲酒に関わる経験【問 14】

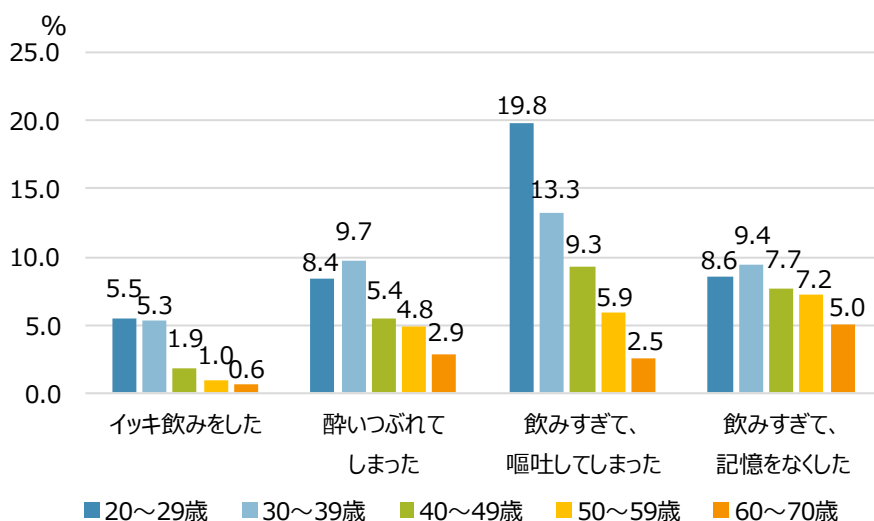
問 14 では、直近 1 年間で飲酒に関わる 4 種類の経験有無についてたずねました。「ある」がもっとも高いのは「飲み過ぎて、嘔吐してしまった」の 9.1%であり、続いて「飲みすぎて、記憶をなくした」の 7.3%、「酔いつぶれてしまった」の 5.8%であり、もっとも低いのは「イッキ飲みをした」の 2.5%でした。なお、これら 4 種類の経験について、「いずれの経験もない」のは 80.0%でした（図表では省略）。

図表 52 この 1 年間の飲酒に関わる経験：「ある」と回答した人の割合（全体） [n=5,339、無回答 172 人]



年齢別にみると、4 つの経験のいずれも、20 代と 30 代で「ある」の割合は高く、40 代以上では年齢とともに低下する傾向がみられました。例えば、「イッキ飲みをした」では、「ある」は 20 代で 5.5%、30 代で 5.3%、40 代で 1.9%、50 代で 1.0%、60 代で 0.6%でした。なお、同じ年齢間で比較すると、これら 4 つの経験の中で「ある」がもっとも高いのは、20 代、30 代、40 代では「飲みすぎて、嘔吐してしまった」（それぞれ 19.8%、13.3%、9.3%）であり、50 代と 60 代では「飲みすぎて、記憶をなくした」（それぞれ 7.2%、5.0%）でした。

図表 53 この 1 年間の飲酒に関わる経験：「ある」と回答した人の割合（年齢別） [n=5,339、無回答 172 人]



4つの経験のそれぞれについて、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「ある」をみていくと、「イッキ飲みをした」では、[女性]（1.4%）よりも[男性]（3.9%）と「男性・女性にあてはまらない」（4.2%）で高く、[シスジェンダー]（2.5%）よりも[トランスジェンダー]（9.4%）で高く、「無性愛者」（0.0%）と「異性愛者」（2.4%）よりも「同性愛者・両性愛者」（4.4%）で高くなっています。

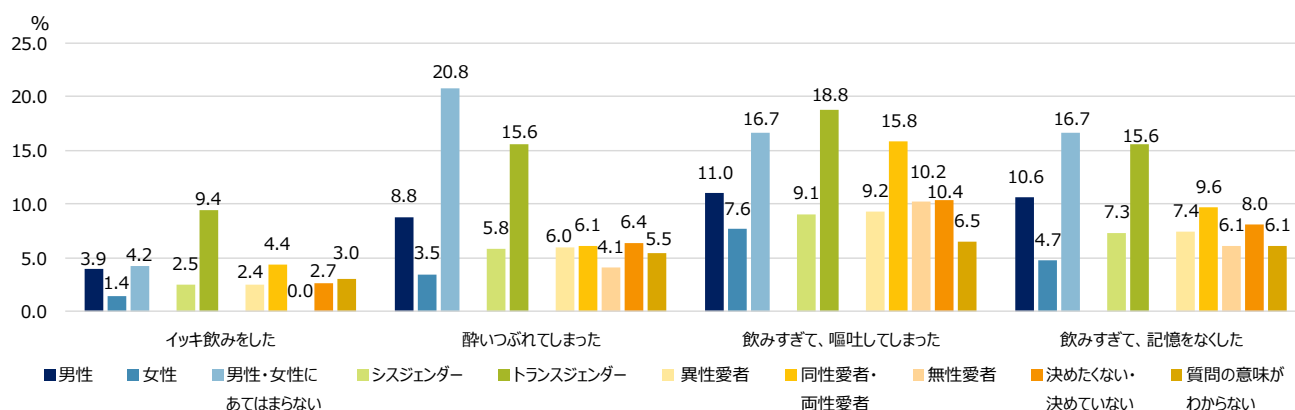
「酔いつぶれてしまった」では、[女性]（3.5%）よりも[男性]（8.8%）と「男性・女性にあてはまらない」（20.8%）で高く、[シスジェンダー]（5.8%）よりも[トランスジェンダー]（15.6%）で高くなっており、性的指向アイデンティティ別の差はほとんどありません。

「飲みすぎて、嘔吐してしまった」では、[女性]（7.6%）よりも[男性]（11.0%）と「男性・女性にあてはまらない」（16.7%）で高く、[シスジェンダー]（9.1%）よりも[トランスジェンダー]（18.8%）で高く、「異性愛者」（9.2%）と「無性愛者」（10.2%）よりも「同性愛者・両性愛者」（15.8%）で高くなっています。

「飲みすぎて、記憶をなくした」では、[女性]（4.7%）よりも[男性]（10.6%）と「男性・女性にあてはまらない」（16.7%）で高く、[シスジェンダー]（7.3%）よりも[トランスジェンダー]（15.6%）で高く、「無性愛者」（6.1%）と「異性愛者」（7.4%）よりも「同性愛者・両性愛者」（9.6%）で高くなっています。

図表 54 この1年間の飲酒に関わる経験：「ある」と回答した人の割合

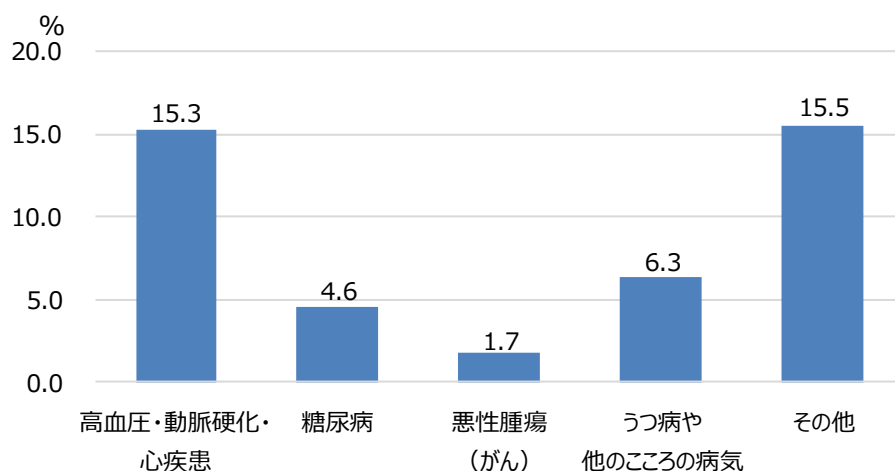
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339、無回答 172 人]



慢性的な病気・長期的な健康問題【問 15】

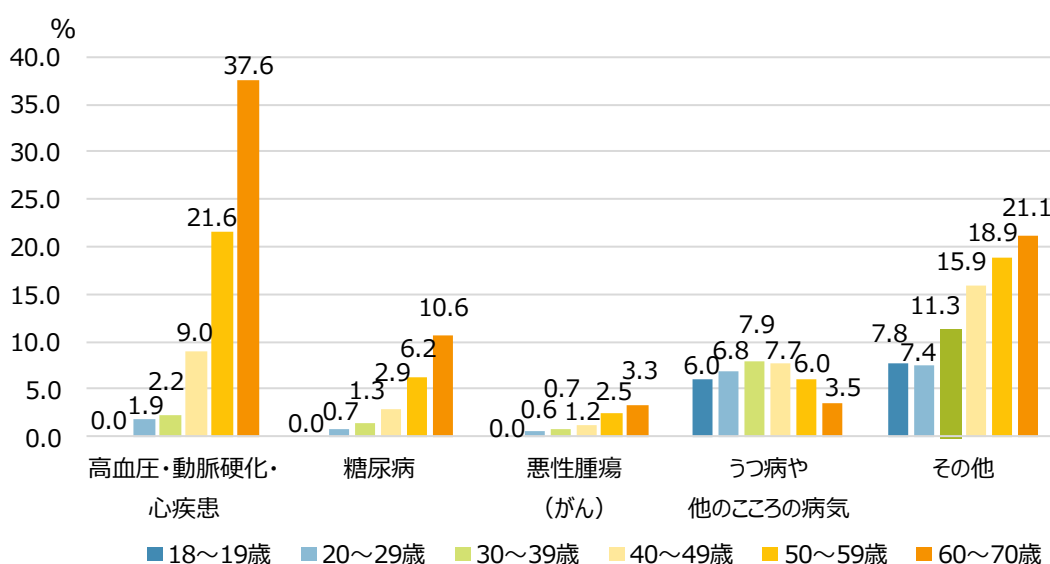
問 15 では、慢性的な病気や、長期にわたる健康上の問題をかかえているかどうかについて、「高血圧・動脈硬化・心疾患」、「糖尿病」、「悪性腫瘍（がん）」、「うつ病や他のこころの病気」、「その他」に分けてたずねました。「かかえている」の割合は、全体では、「高血圧・動脈硬化・心疾患」が 15.3%、「糖尿病」が 4.6%、「悪性腫瘍（がん）」が 1.7%、「うつ病や他のこころの病気」が 6.3%、「その他」が 15.5%で、「その他」には、潰瘍性大腸炎のような難病指定されている疾患や、アトピー、アレルギー、喘息、貧血、腰痛など、さまざまな記述がありました。なお、これら 5 つの項目のいずれにもあてはまらない「健康上の問題はない」は 62.2%（図では省略）でした。

図表 55 慢性的な病気や長期にわたる健康上の問題：「かかえている」と回答した人の割合
(全体) [n=5,339、無回答 35 人]



年齢別にみると、「高血圧・動脈硬化・心疾患」、「糖尿病」、「悪性腫瘍（がん）」、「その他」では、年齢が上がるほど「かかえている」の割合が高くなる傾向にあり、60代ではそれぞれ 37.6%、10.6%、3.3%、21.1%です。「うつ病や他のこころの病気」では 30代と 40代で高く、それぞれ 7.9%、7.7%でした。なお、同じ年齢間で比較すると、これら 5つの項目の中で「かかえている」の割合が高くなるのは、10代から 40代までは「その他」（それぞれ 7.8%、7.4%、11.3%、15.9%）、50代と 60代では「高血圧・動脈硬化・心疾患」（それぞれ 21.6%、37.6%）でした。

図表 56 慢性的な病気や長期にわたる健康上の問題：「かかえている」と回答した人の割合
(年齢別) [n=5,339、無回答 35 人]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「高血圧・動脈硬化・心疾患」では、[女性]（11.6%）と「男性・女性にあてはまらない」（12.5%）よりも[男性]（19.8%）で高く、[トランスジェンダー]（12.5%）よりも[シスジェンダー]（15.2%）で高く、「無性愛者」（6.1%）と「同性愛者・両性愛者」（8.8%）よりも「異性愛者」（14.5%）で高くなっています。

「糖尿病」では、[女性]（2.8%）よりも[男性]（6.8%）と「男性・女性にあてはまらない」（8.3%）で高く、[シスジェンダー]（4.5%）よりも[トランスジェンダー]（9.4%）で高く、「無性愛者」（2.0%）よりも「同性愛者・両性愛者」（3.5%）と「異性愛者」（4.4%）で高くなっています。

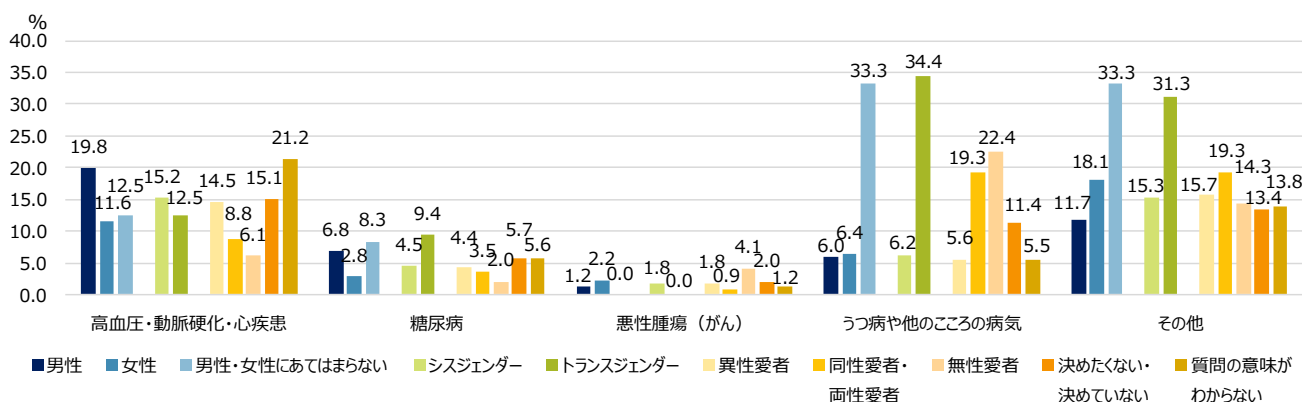
「悪性腫瘍（がん）」では、あまり顕著な差がみられませんが、「無性愛者」（4.1%）で相対的に高くなっています。

「うつ病や他のこころの病気」では、[男性]（6.0%）と[女性]（6.4%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（33.3%）で高く、[シスジェンダー]（6.2%）よりも[トランスジェンダー]（34.4%）で高く、「異性愛者」（5.6%）よりも「同性愛者・両性愛者」（19.3%）と「無性愛者」（22.4%）で高く、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

「その他」では、[男性]（11.7%）と[女性]（18.1%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（33.3%）で高く、[シスジェンダー]（15.3%）よりも[トランスジェンダー]（31.3%）で高く、「無性愛者」（14.3%）と「異性愛者」（15.7%）よりも「同性愛者・両性愛者」（19.3%）で高く、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

図表 57 慢性的な病気や長期にわたる健康上の問題：「かかえている」と回答した人の割合

（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339、無回答 35 人]

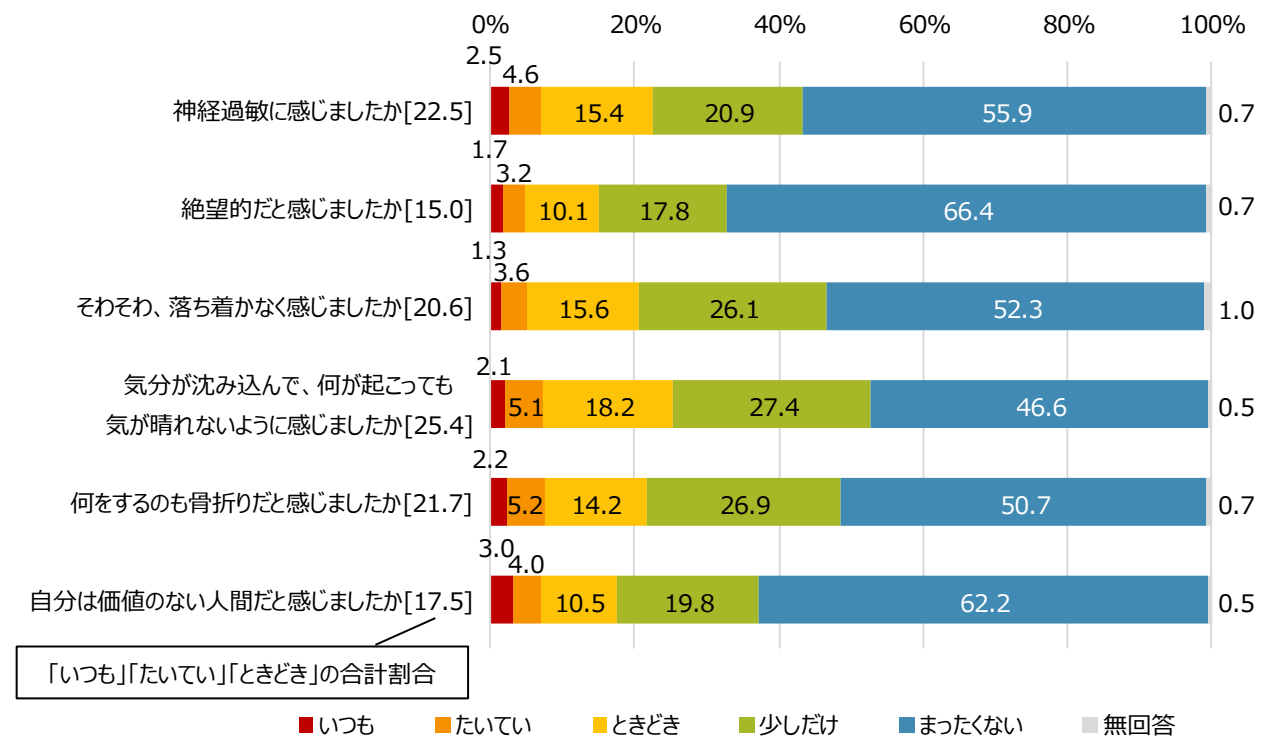


最近 1 か月の心の状態【問 16】

問 16 では、最近 1 ヶ月のこころの状態について、「神経過敏に感じましたか」、「絶望的だと感じましたか」、「そろそろ、落ち着かなく感じましたか」、「気分が沈み込んで、何が起ころとも気が晴れないように感じましたか」、「何をするのも骨折りだと感じましたか」、「自分は価値のない人間だと感じましたか」の 6 つの項目に分けてたずねました。全体では、どの項目についても「まったく」がもっとも多く、その中で最多となるのが「絶望的だと感じましたか」の 66.4%、最少となるのが「気分が沈み込んで、何が起ころとも気が晴れないように感じましたか」の 46.6%でした。

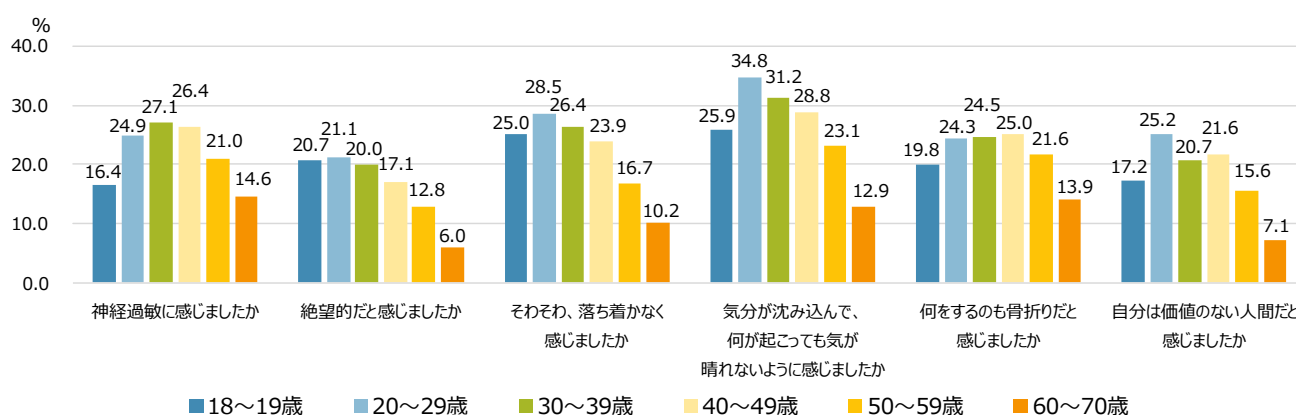
他方、「いつも」（1.3～3.0%）と「たいてい」（3.2～5.2%）は両者を合わせても 10%未満ですが、「ときどき」（10.1～18.2%）を含めると 20%前後になります。「いつも」、「たいてい」、「ときどき」の合計が高い項目を順に並べると、「気分が沈み込んで、何が起ころとも気が晴れないように感じましたか」（25.4%）、「神経過敏に感じましたか」（22.5%）、「何をするのも骨折りだと感じましたか」（21.7%）、「そろそろ、落ち着かなく感じましたか」（20.6%）、「自分は価値のない人間だと感じましたか」（17.5%）、「絶望的だと感じましたか」（15.0%）でした。

図表 58 最近 1 か月間の心の状態に関わる経験の頻度の分布 [n=5,339]



「いつも」、「たいてい」、「ときどき」の合計割合を年齢別にみると、いずれの項目でも20代を中心に10代から40代までで高く、50代、60代で低くなっています。例えば、「そろそろ、落ち着かなく感じましたか」では、10代で25.0%、20代で28.5%、30代で26.4%、40代で23.9%であり、その後は年齢とともに低下し、70代で10.2%でした。なお、同じ年齢間で比較すると、これら6つの項目の中で「いつも」、「たいてい」、「ときどき」の合計割合が高いのは、10代から50代までは「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」（それぞれ25.9%、34.8%、31.2%、28.8%、23.1%）、60代では「神経過敏に感じましたか」（14.6%）である反面、それらの合計割合が低いのは10代では「神経過敏に感じましたか」（16.4%）、20代以上では「絶望的だと感じましたか」（それぞれ21.1%、20.0%、17.1%、12.8%、6.0%）でした。

図表 59 最近1か月間の心の状態に関わる経験：「いつも」、「たいてい」、「ときどき」の合計割合
（年齢別）[n=5,339、各項目の無回答 37 人、39 人、51 人、27 人、36 人、32 人]



「いつも」、「たいてい」、「ときどき」の合計割合を自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、総じて、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。「神経過敏に感じましたか」では、[男性]（19.7%）と[女性]（24.6%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（50.0%）で高く、[シスジェンダー]（22.5%）よりも[トランスジェンダー]（43.8%）で高く、「異性愛者」（21.6%）と「無性愛者」（22.4%）よりも「同性愛者・両性愛者」（29.8%）で高くなっています。

「絶望的だと感じましたか」では、[女性]（14.5%）と[男性]（15.6%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（33.3%）で高く、[シスジェンダー]（15.0%）よりも[トランスジェンダー]（31.3%）で高く、「異性愛者」（13.9%）よりも「無性愛者」（24.5%）と「同性愛者・両性愛者」（28.9%）で高くなっています。

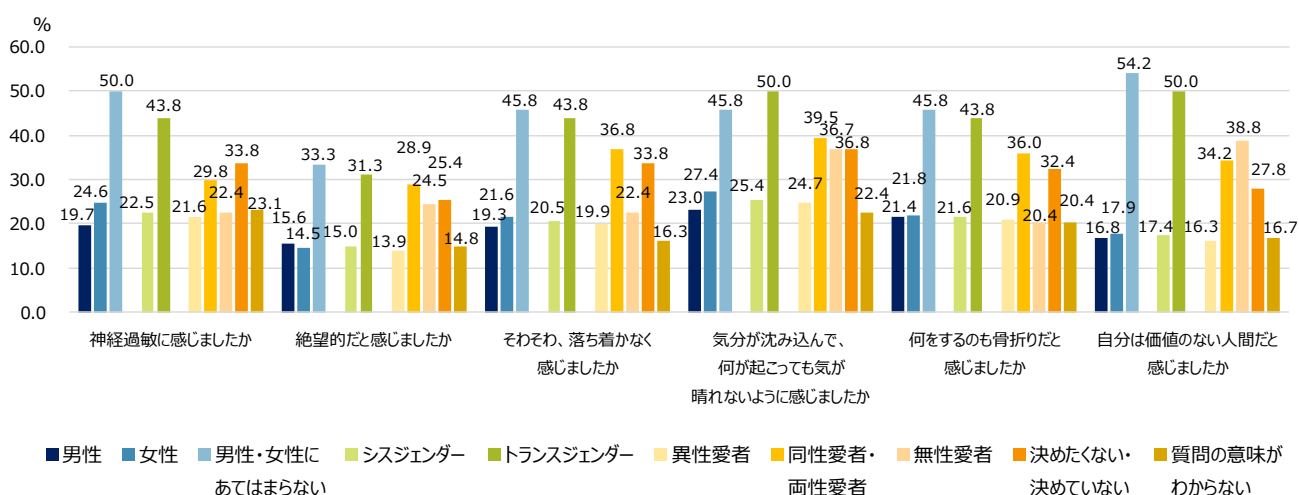
「それぞれ、落ち着かなく感じましたか」では、[男性]（19.3%）と[女性]（21.6%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（45.8%）で高く、[シスジェンダー]（20.5%）よりも[トランスジェンダー]（43.8%）で高く、「異性愛者」（19.9%）と「無性愛者」（22.4%）よりも「同性愛者・両性愛者」（36.8%）で高くなっています。

「気分が沈み込んで、何が起ころとも気が晴れないように感じましたか」では、[男性]（23.0%）と[女性]（27.4%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（45.8%）で高く、[シスジェンダー]（25.4%）よりも[トランスジェンダー]（50.0%）で高く、「異性愛者」（24.7%）よりも「無性愛者」（36.7%）と「同性愛者・両性愛者」（39.5%）で高くなっています。

「何をするのも骨折りだと感じましたか」では、[男性]（21.4%）と[女性]（21.8%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（43.8%）で高く、[シスジェンダー]（21.6%）よりも[トランスジェンダー]（43.8%）で高く、「無性愛者」（20.4%）と「異性愛者」（20.9%）よりも「同性愛者・両性愛者」（36.0%）で高くなっています。

「自分は価値のない人間だと感じましたか」では、[男性]（16.8%）と[女性]（17.9%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（54.2%）で高く、[シスジェンダー]（17.4%）よりも[トランスジェンダー]（50.0%）で高く、「異性愛者」（16.3%）よりも「同性愛者・両性愛者」（34.2%）と「無性愛者」（38.8%）で高くなっています。

図表 60 最近 1 か月間の心の状態に関わる経験：「いつも」、「たいてい」、「ときどき」の合計割合
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]

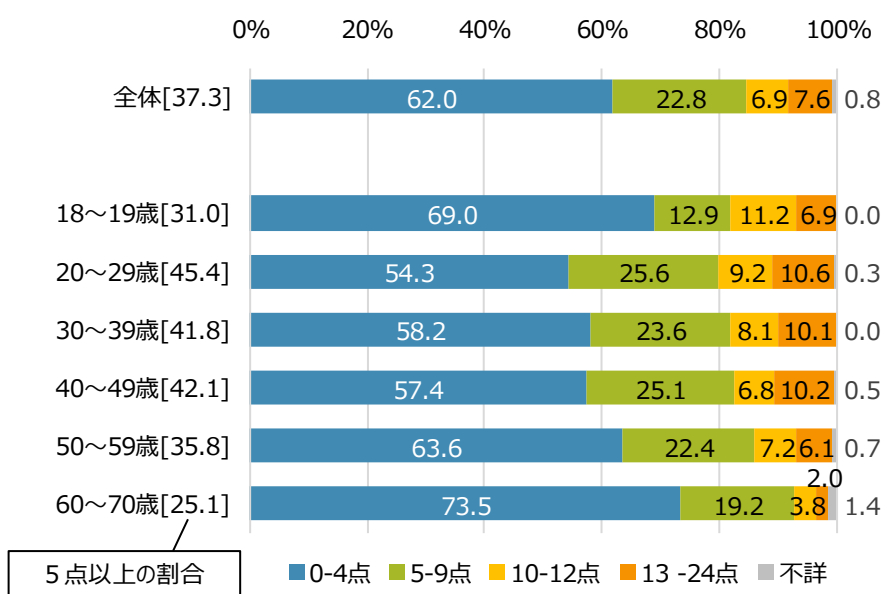


最近 1 か月の心の状態（K6 値）【問 16】

最近 1 か月のこころの状態をたずねた 6 項目（「神経過敏に感じましたか」、「絶望的だと感じましたか」、「そろそろ、落ち着かなく感じましたか」、「気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか」、「何をするのも骨折りだと感じましたか」、「自分は価値のない人間だと感じましたか」）の回答を、「まったくくない」を 0 点、「少しだけ」を 1 点、「ときどき」を 2 点、「たいてい」を 3 点、「いつも」を 4 点として合計した上で（K6 得点³）、0～4 点、5～9 点、10～12 点、13 点以上に分け、それぞれの得点にあてはまる人の割合を示しました。

全体では「0～4 点」が 62.0%、5～9 点が 22.8%、10～12 点が 6.9%、13 点以上が 7.6%でした。年齢別にみると、「心理的ストレスを抱えている可能性」があるとされる 5 点以上の割合（図表上では各カテゴリーのあとに [] で表記）は、20 代から 40 代では 4 割台となっており、10 代や 50 代以上に比べて高い傾向がみられました。K6 得点が 5 点以上の割合は、[男性]（34.4%）と [女性]（39.5%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（75.0%）で高く、[シスジェンダー]（37.3%）よりも [トランスジェンダー]（71.9%）で高く、「異性愛者」（36.4%）よりも「同性愛者・両性愛者」（50.0%）と「無性愛者」（53.1%）で高くなっていました。このように、K6 得点が 5 点以上の割合は、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。また、「深刻な心理的苦痛を感じている可能性」のあるとされる 13 点以上の割合も同様の傾向がみられ、[男性]（7.6%）と [女性]（7.5%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（25.0%）で高く、[シスジェンダー]（7.5%）よりも [トランスジェンダー]（25.0%）で高く、「異性愛者」（7.0%）よりも「無性愛者」（12.2%）と「同性愛者・両性愛者」（21.1%）で高くなっていました。

図表 61 最近 1 か月間の心の状態（K6 値）（全体、年齢別）[n=5,339]

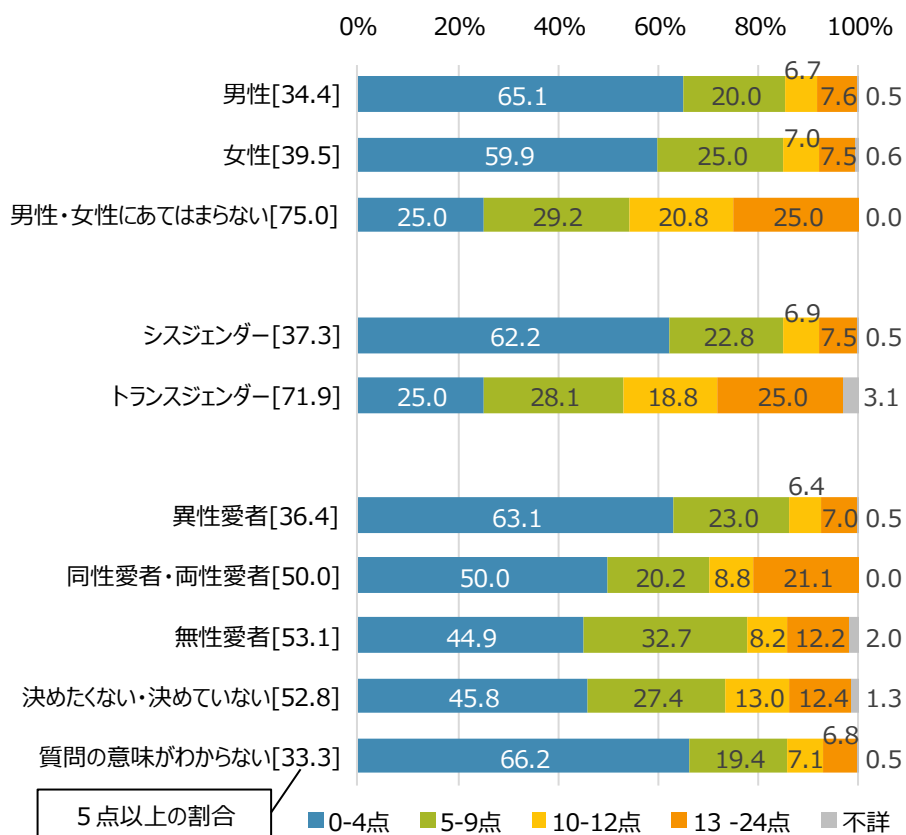


³ うつ病を含む気分障害、不安障害をスクリーニングするために Kessler ら（2003）が開発した尺度。橋本（2010）にならい、3 つ以上の項目に無回答だった 37 人（0.9%）は除外し、無回答が 1 項目か 2 項目の人については、回答された項目の平均値を代入し、K6 得点を算出しました。なお、5 点以上は「心理的ストレスを抱えている可能性」、10 点以上は「気分・不安障害に相当する可能性」、13 点以上は「深刻な心理的苦痛を感じている可能性」があるとされています。

Kessler, R.C., Barker, P.R., Colpe, L.J., Epstein, J.F., Gfroerer, J. C., Hiripi, E., Howes, M.J., Normand, S.T., Manderscheid, R.W., Walters, E.E., Zaslavsky, A.M. 2003. "Screening for serious mental illness in the general population." *Archives of General Psychiatry* 60:184-189.

橋本英樹. 2010. 「今後の国民生活基礎調査の在り方についての一考察（第 2 報）」『厚生指標』57(3):1-7.

図表 62 最近 1 か月間の心の状態（K6 値）（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）
[n=5,339]

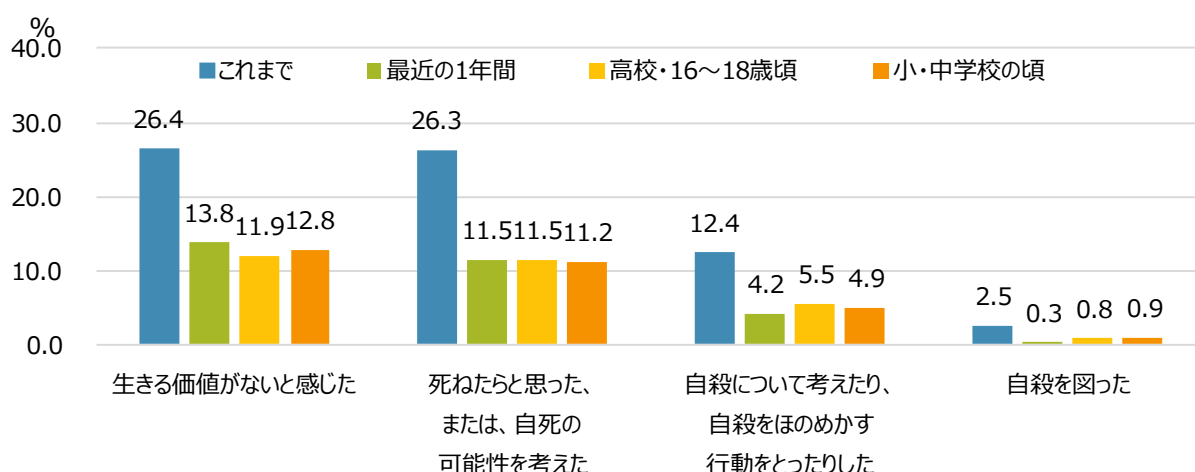


希死念慮・自殺念慮・自殺未遂経験【問 17】【問 18】

問 17 では、「生きる価値がないと感じた」、「死ねたらと思った、または、自死の可能性を考えた」、「自殺について考えたり、自殺をほのめかす行動をとったりした」、「自殺を図った」の 4 つの項目について、〈これまで〉に経験があるのかどうかをたずね、問 18 では、それら 4 つの項目について、〈最近の 1 年間〉、〈高校・16～18 歳頃〉、〈小・中学校の頃〉の 3 つの時期に経験があるのかどうかをたずねました。

〈これまで〉に経験が「ある」の割合が高い項目の順に並べると、全体では、「生きる価値がないと感じた」（26.4%）、「死ねたらと思った、または、自死の可能性を考えた」（26.3%）、「自殺について考えたり、自殺をほのめかす行動をとったりした」（12.4%）、「自殺を図った」（2.5%）でした。「ある」の割合が高い 2 つの項目では、時期別にみると、いずれの時期も 10%を超えています。一方、「ある」の割合が低い 2 つの項目では、時期別にみると、「自殺について考えたり、自殺をほのめかす行動をとったりした」で 5%前後、「自殺を図った」で 1%未満でした。

図表 63 希死念慮・自殺念慮・自殺未遂経験：「ある」と回答した人の割合
（全体：〈これまで〉および時期別）[n=5,339]

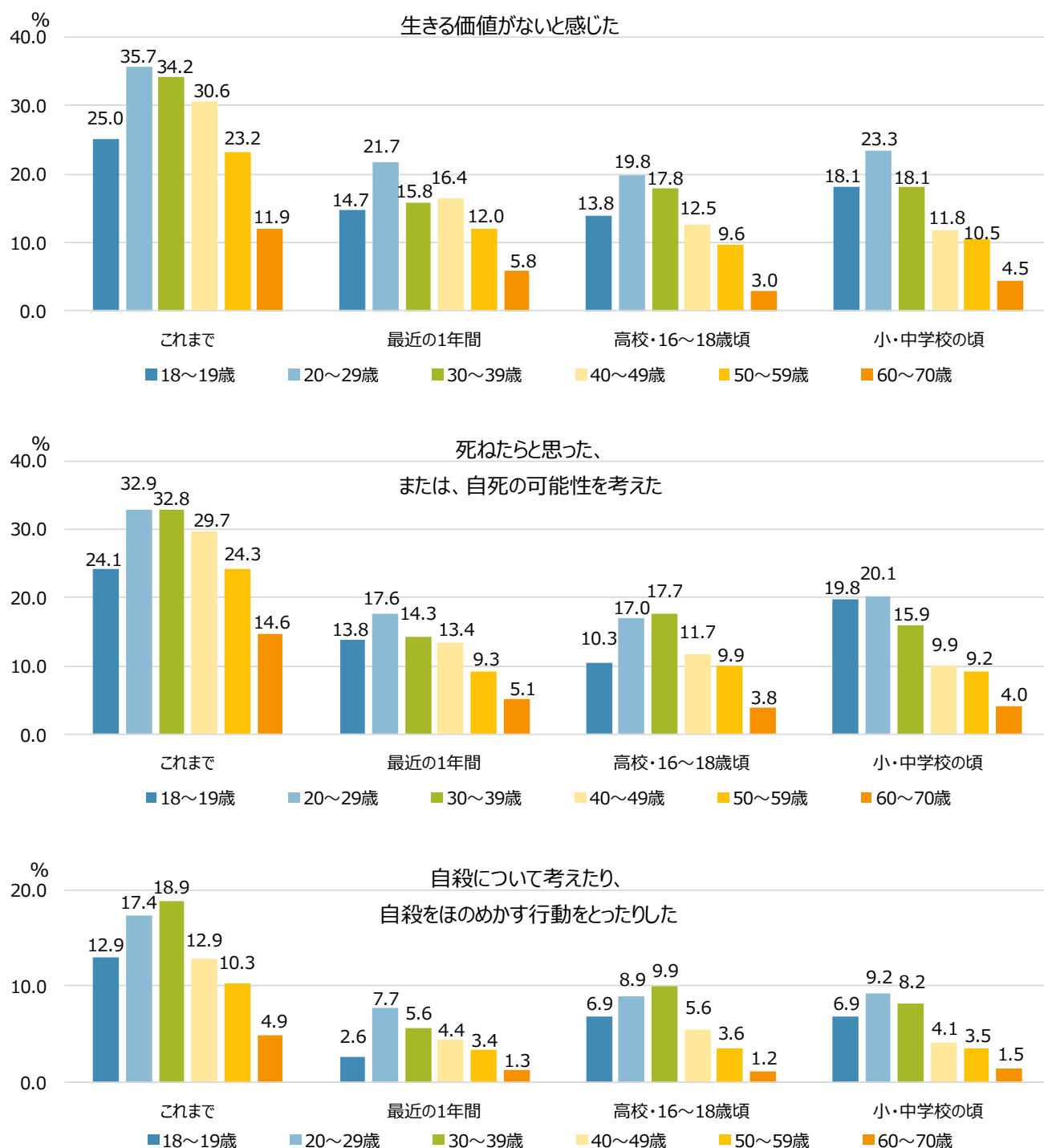


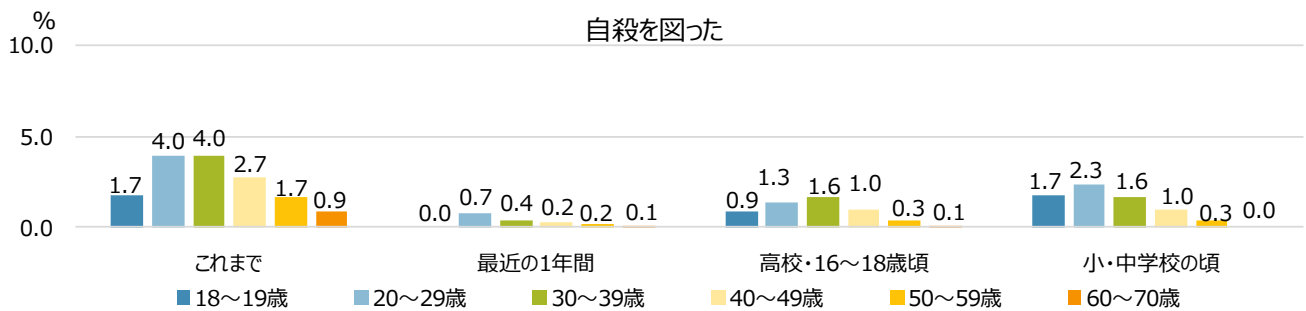
※それぞれの項目について、問 17 では「ない」と答え、問 18 のいずれかの時期に「ある」と回答した人を含め、

問 17 と問 18 のいずれかに「ある」と回答した人をこれまでに経験した（「ある」）とみなす。

年齢別に経験が「ある」の割合をみると、4 つの項目のいずれも、どの時期かに関わらず、20 代や 30 代で高く、40 代以降には年齢とともに少なくなる傾向がみられます。例えば、「生きる価値がないと感じた」では、〈これまで〉の場合、20 代でもっとも多い 35.7%、60 代でもっとも少ない 11.9%であり、〈最近の 1 年間〉や〈高校・16～18 歳頃〉、〈小・中学校の頃〉の場合にも 20 代でもっとも多く（それぞれ 21.7%、19.8%、23.3%）、60 代でもっとも少なくなっています（それぞれ 5.8%、3.0%、4.5%）。なお、同じ年齢間で比較すると、これら 4 つの項目の中で経験が「ある」の割合が高いのは、〈これまで〉と〈高校・16～18 歳頃〉の場合には、40 代までは「生きる価値がないと感じた」で、50 代以上は「死ねたらと思った、または、自死の可能性を考えた」であるのに対し、〈最近の 1 年間〉の場合には全ての年齢で「生きる価値がないと感じた」であり、〈小・中学校の頃〉の場合には、10 代では「死ねたらと思った、または、自死の可能性を考えた」で、20 代以上では「生きる価値がないと感じた」でした。

図表 64 希死念慮・自殺念慮・自殺未遂経験：「ある」と回答した人の割合
（年齢別：〈これまで〉および時期別）[n=5,339]



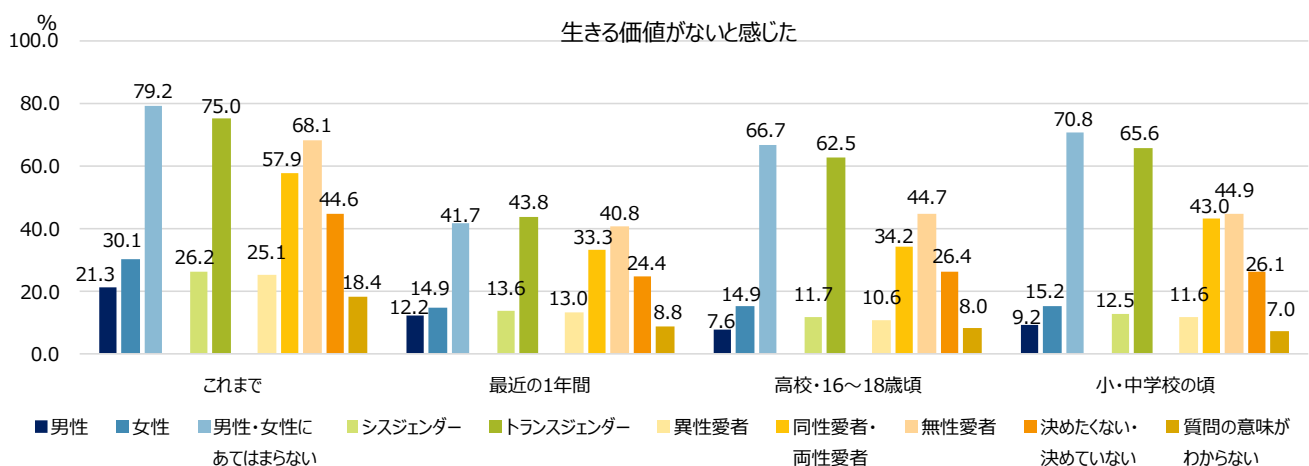


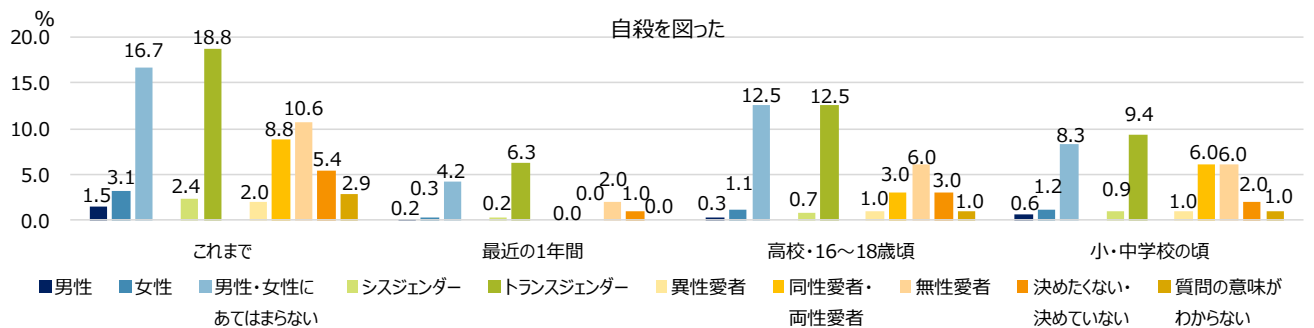
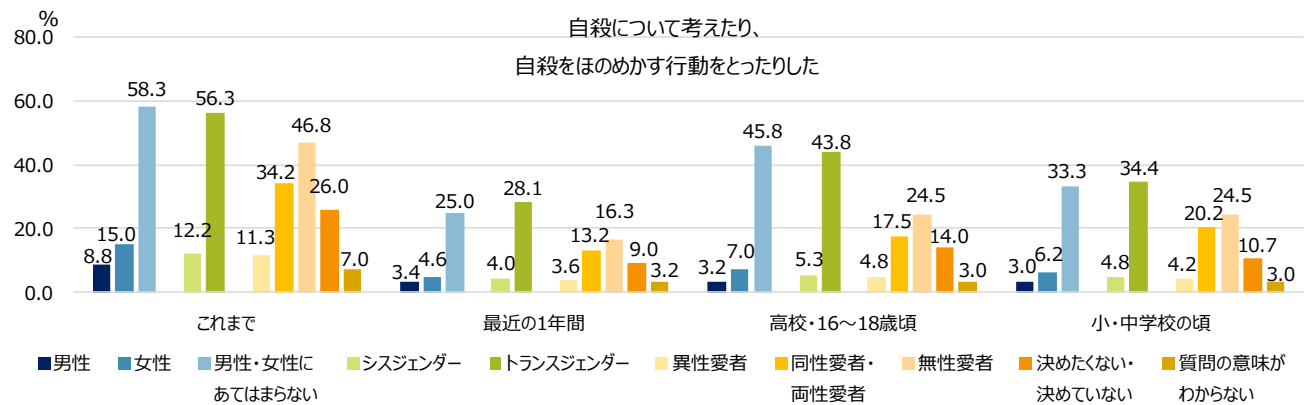
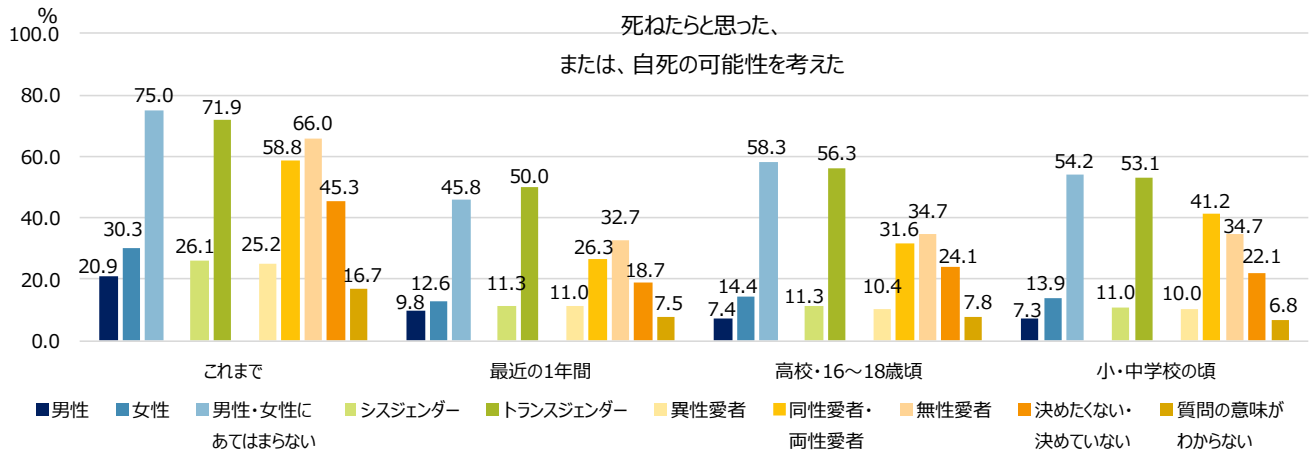
自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に経験が「ある」の割合をみると、4つの項目のいずれも、どの時期かに関わらず、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。例えば、全体としては経験が「ある」の割合の低い「自殺を図った」では、〈これまで〉の場合、[男性]（1.5%）と[女性]（3.1%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（16.7%）で高く、[シスジェンダー]（2.4%）よりも[トランスジェンダー]（18.8%）で高く、「異性愛者」（2.0%）よりも「同性愛者・両性愛者」（8.8%）と「無性愛者」（10.6%）で高くなっており、〈小・中学校の頃〉の場合、[男性]（0.6%）と[女性]（1.2%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（8.3%）で高く、[シスジェンダー]（0.9%）よりも[トランスジェンダー]（9.4%）で高く、「異性愛者」（1.0%）よりも「同性愛者・両性愛者」（6.0%）と「無性愛者」（6.0%）で高くなっています。

また、〈最近の1年間〉、〈高校・16～18歳頃〉、〈小・中学校の頃〉を比較すると、〈高校・16～18歳頃〉と〈小・中学校の頃〉で性的マイノリティの回答者で経験が「ある」の割合がかなり高くなる傾向がみられ、「生きる価値がないと感じた」や「死ねたらと思った、または、自死の可能性を考えた」では、「男性・女性にあてはまらない」や[トランスジェンダー]で5割を超えています。

図表 65 希死念慮・自殺念慮・自殺未遂経験：「ある」と回答した人の割合

（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別：〈これまで〉および時期別）[n=5,339]



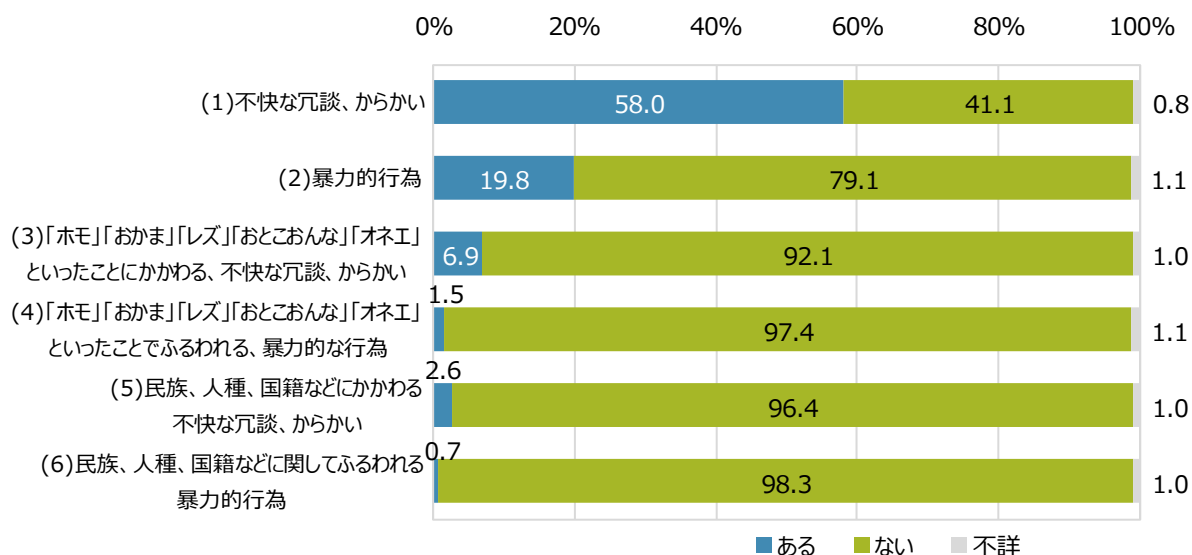


小学校から高校時代に経験した不快な冗談・からかい、暴力的行為【問 19】

問 19 では、小学校から高校時代に友人や同級生から、「不快な冗談、からかい」、「暴力的行為」、「『ホモ』『おかま』『レズ』『おとこおんな』『オネエ』といったことに関わる、不快な冗談、からかい」、「『ホモ』『おかま』『レズ』『おとこおんな』『オネエ』といったことでふるわれる、暴力的な行為」、「民族、人種、国籍などに関わる不快な冗談、からかい」、「民族、人種、国籍などにかんしてふるわれる暴力的行為」の 6 つの行為を自身が受けたことがあるかどうか、についてたずねました。

受けたことが「ある」の割合が高い順に並べると、全体では、「不快な冗談、からかい」（58.0%）、「暴力的行為」（19.8%）、「『ホモ』『おかま』『レズ』『おとこおんな』『オネエ』といったことに関わる、不快な冗談、からかい」（6.9%）、「民族、人種、国籍などに関わる不快な冗談、からかい」（2.6%）、「『ホモ』『おかま』『レズ』『おとこおんな』『オネエ』といったことでふるわれる、暴力的な行為」（1.5%）、「民族、人種、国籍などにかんしてふるわれる暴力的行為」（0.7%）でした。

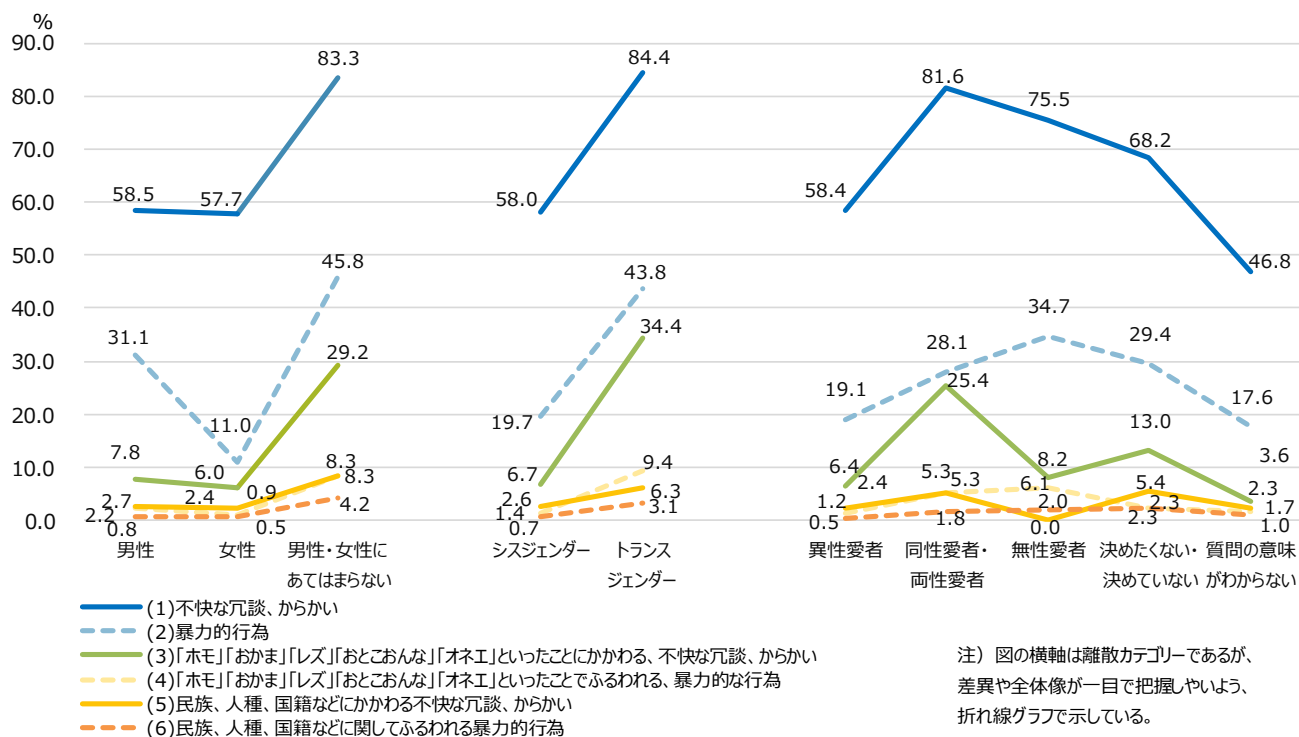
図表 66 小学校から高校時代に不快な冗談・からかい、暴力的行為を受けた経験 [n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に受けたことが「ある」の割合をみると、いずれの行為についても、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。例えば、『「ホモ」『おかま』『レズ』『おとこおんな』『オネエ』といったことに関わる、不快な冗談、からかい』では、[男性]（7.8%）と[女性]（6.0%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（29.2%）で高く、[シスジェンダー]（6.7%）よりも[トランスジェンダー]（34.4%）で高く、「異性愛者」（6.4%）と「無性愛者」（8.2%）よりも「同性愛者・両性愛者」（25.4%）で高くなっています。

図表 67 小学校から高校時代に不快な冗談・からかい、暴力的行為を受けた経験

（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]

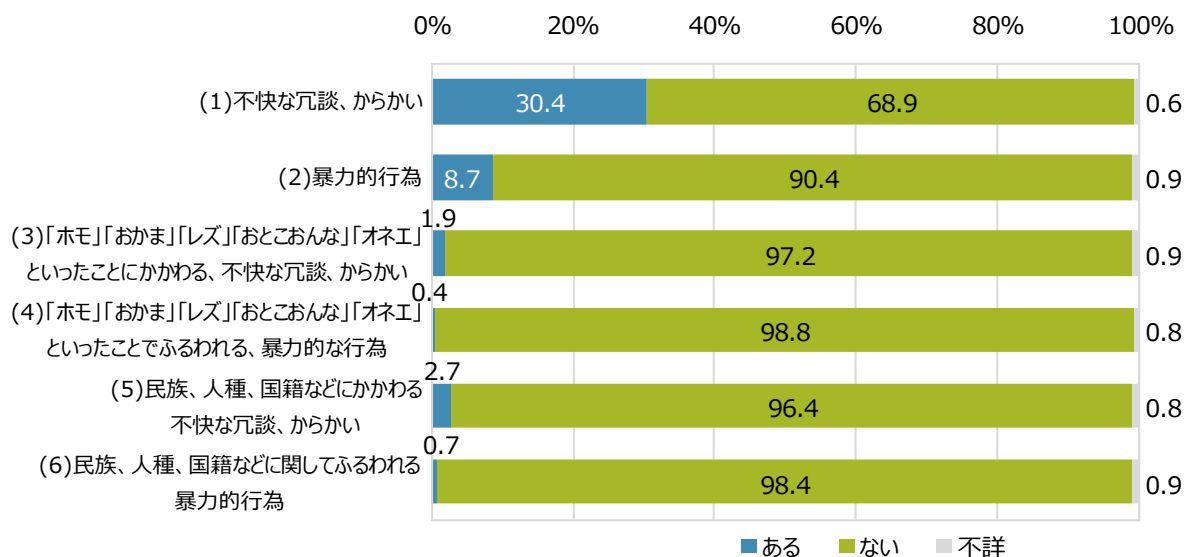


大人になってから経験した不快な冗談・からかい、暴力的行為【問 20】

問 20 では、大人になってから身近な人から、「不快な冗談、からかい」、「暴力的行為」、「『ホモ』『おかま』『レズ』『おとこおんな』『オネエ』といったことに関わる、不快な冗談、からかい」、「『ホモ』『おかま』『レズ』『おとこおんな』『オネエ』といったことでふられる、暴力的な行為」、「民族、人種、国籍などに関わる不快な冗談、からかい」、「民族、人種、国籍などにかんしてふられる暴力的行為」の 6 つの行為を自身が受けたことがあるかどうか、についてたずねました。

受けたことが「ある」の割合が高い順に並べると、全体では、「不快な冗談・からかい」（30.4%）、「暴力的行為」（8.7%）、「民族、人種、国籍などに関わる不快な冗談、からかい」（2.7%）、「『ホモ』『おかま』『レズ』『おとこおんな』『オネエ』といったことに関わる、不快な冗談、からかい」（1.9%）、「民族、人種、国籍などにかんしてふられる暴力的行為」（0.7%）、「『ホモ』『おかま』『レズ』『おとこおんな』『オネエ』といったことでふられる、暴力的な行為」（0.4%）でした。

図表 68 大人になってから、不快な冗談・からかい、暴力的行為を受けた経験 [n=5,339]

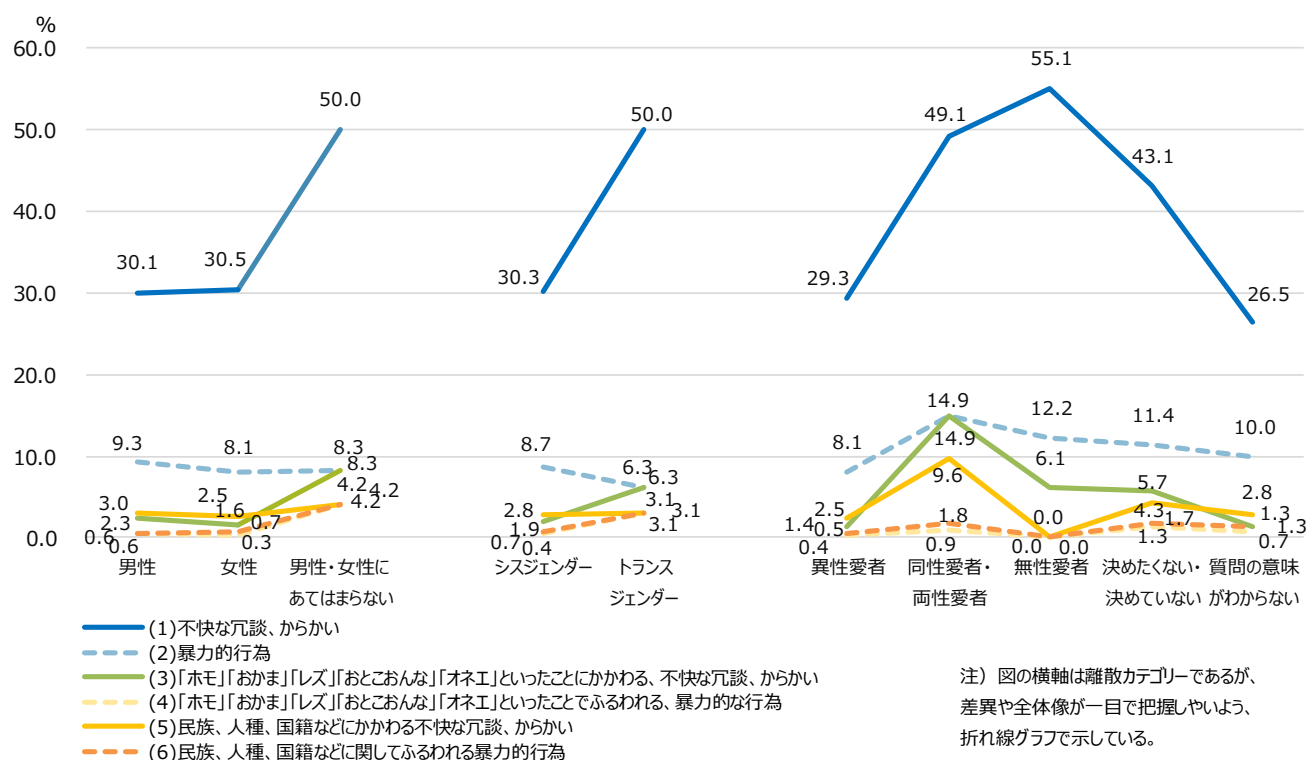


自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に受けたことが「ある」の割合をみると、「暴力的行為」を除いて、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。例えば、「不快な冗談、からかい」では、[男性]（30.1%）と[女性]（30.5%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（50.0%）で高く、[シスジェンダー]（30.3%）よりも[トランスジェンダー]（50.0%）で高く、「異性愛者」（29.3%）よりも「同性愛者・両性愛者」（49.1%）と「無性愛者」（55.1%）で高くなっており、性的マイノリティの回答者では半数前後が受けたことが「ある」と回答していたことになります。なお、「暴力的行為」については、「異性愛者」（8.1%）よりも「無性愛者」（12.2%）や「同性愛者・両性愛者」（14.9%）で高くなる一方、[トランスジェンダー]（6.3%）よりも[シスジェンダー]（8.7%）で高く、[女性]（8.1%）と「男性・女性にあてはまらない」（8.3%）よりも[男性]（9.3%）で高くなっています。

不快な冗談・からかいや暴力的行為を受けたことが「ある」のは、おおむね、小学校から高校時代よりも、大人になってからのほうが少なくなっていますが、不快な冗談・からかいや暴力的行為のなかでも民族・人種にかんすることについては、両者間に大きな差はみられませんでした。

図表 69 大人になってから、不快な冗談・からかい、暴力的行為を受けた経験

（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]



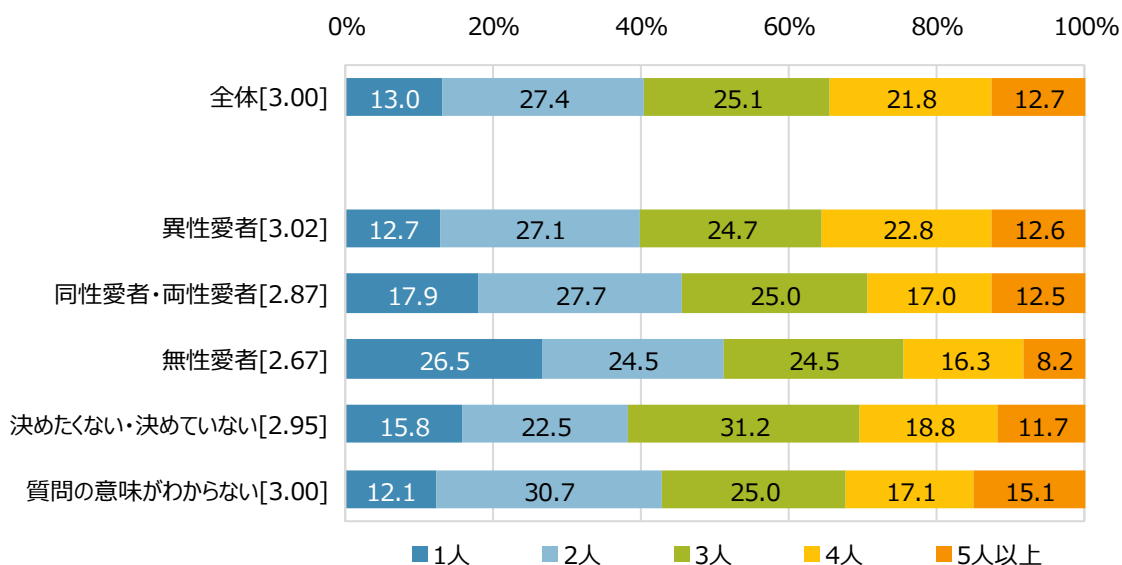
5 パートナー関係と家族形成

一緒に暮らしている人の数【問 35】

問 35 では、一緒に暮らしている人数と、一緒に暮らしている人の続柄をたずねました。まず、現在一緒に暮らしている人数の分布をみると、全体では、「1 人」（ひとり暮らし）が 13.0%、「2 人」が 27.4%、「3 人」が 25.1%、「4 人」が 21.8%、「5 人以上」が 12.7%で、もっとも多いのは「2 人」です。また、一緒に暮らしている人数の平均は、3.00 人でした（図表では、各カテゴリー名の後の[]内に、一緒に暮らしている人の数の平均を示しています）。

性的指向アイデンティティ別に、現在一緒に暮らしている人数の分布をみると、「異性愛者」では、「全体」とほぼ同じで、人数の平均（3.02）にもほとんど差はありません。「同性愛者・両性愛者」や「無性愛者」では、「1 人」が「異性愛者」よりも高く（それぞれ 17.9%、26.5%）、「4 人」や「5 人」が「異性愛者」よりも低くなる傾向があります（「4 人」はそれぞれ 17.0%、16.3%、「5 人」はそれぞれ 12.5%、8.2%）。こうしたことから、「同性愛者・両性愛者」や「無性愛者」では、一緒に暮らす人数の平均も「異性愛者」よりも少なくなっています（それぞれ 2.87 人、2.67 人）。

図表 70 世帯人員（全体、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



[] 内の数字は平均世帯人員

家族構成【問 35①】

次に、一緒に暮らしている人の続柄をもとに、回答者の家族構成を推定して分類した結果をみると、もっとも多いのは「親と子」（子世代が夫婦のみのものを含む）の 53.8%で、自身が親世代に相当するのは 38.4%、自身が子世代に相当するのは 15.4%です。このうち、親世代に相当する 38.4%については、自身が配偶者やパートナー、彼氏・彼女といった夫婦関係といえるような特定の相手と一緒に暮らしている（表中では「カップル」と表しています）のは 35.4%、自身がそうした相手と一緒に暮らしていない⁴（表中では「非カップル」と表しています）のは 3.9%です。一方、子世代にあたる 15.4%のうち、夫婦関係といえるような相手と一緒に暮らしているのは 13.2%です。

「親と子」に次いで多いのは、「夫婦（カップル）のみ」（20.8%）、「ひとり暮らし」（12.9%）、「3 世代」（8.4%）の順です。「4 世代」は 0.3%にとどまり、一緒に暮らす人の数が相対的に少ないことに呼応して、多世代で一緒に暮らす人もまた相対的に少なくなっています。これら以外にみられた構成は、「兄弟姉妹」（0.6%）、「友人どうし」（0.2%）でした。

図表 71 家族構成（全体）[n=5,339]

	自分の世代	自分がカップルか否か		計	
		カップル	非カップル		
ひとり暮らし	-	-	12.9	12.9	
夫婦（カップル）のみ	-	20.8	-	20.8	
親と子	親	34.5	3.9	38.4	53.8
	子	2.3	13.2	15.4	
3 世代	祖父母	0.9	0.3	1.2	8.4
	親	4.5	1.0	5.6	
	子	0.1	1.5	1.6	
4 世代	-	0.3	0.1	0.3	
兄弟姉妹	-	0.0	0.6	0.6	
友人どうし	-	0.0	0.2	0.2	
その他	-	1.4	1.0	2.5	
不詳	-	-	-	0.6	

注）総数（5,339）に対する割合。

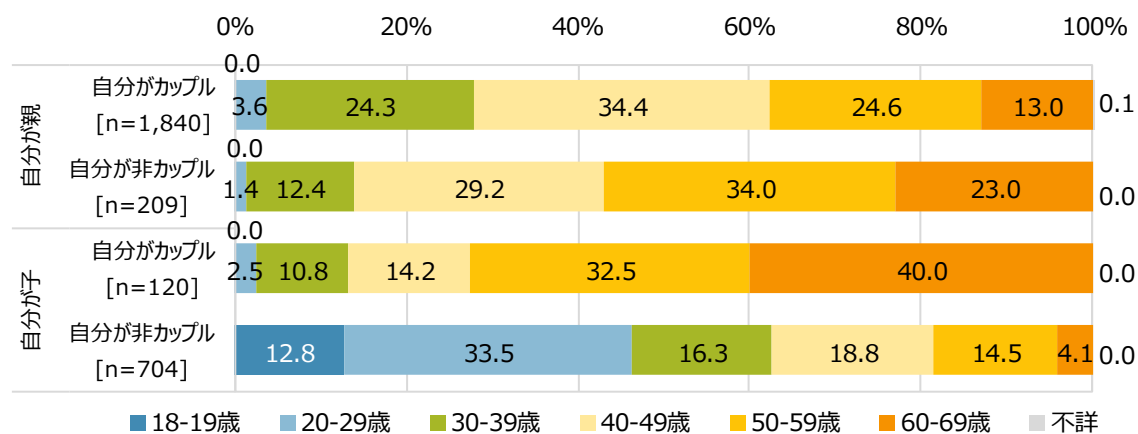
配偶者等・親（義理親を含む）・子・祖父母・孫・兄弟姉妹以外の親族、および、非親族を含むものは「その他」に含まれる。夫婦（カップル）のみは世帯員数が2人のものとした。

⁴ 夫婦関係といえるような特定の相手が別居している場合を含みます。

家族構成のうち、数の多い「親と子」、「夫婦（カップル）のみ」、「ひとり暮らし」について、年齢別と性的指向アイデンティティ別にみていきます。

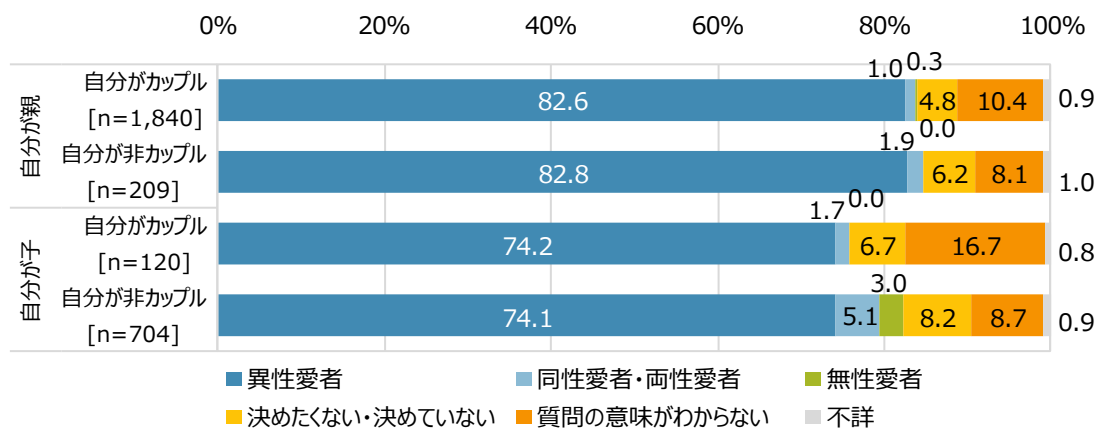
「親と子」のうち、「自分が親」で「自分がカップル」の場合、40代が34.4%でもっとも多く、次いで50代が24.6%、30代が24.3%と、子育て期にあたる年齢層を中心に割合が高くなっています。「自分が親」で「自分が非カップル」の場合は、もっとも多いのは50代で34.0%、以下、40代が29.2%、60代が23.0%、30代が12.4%と続いています。なお、ここでの「非カップル」には未婚や離別、死別だけでなく別居も含まれます。「自分が子」で「自分がカップル」の場合、60代が40.0%、50代が32.5%、40代が14.2%、30代が10.8%と、年齢が上がるほど割合が高くなっています。「自分が子」で「自分が非カップル」の場合、もっとも多いのは20代で33.5%、次いで40代が18.8%、30代が16.3%、50代が14.5%の順です。単身（パートナーといえる関係の人と一緒に暮らしていない）で親（単身または夫婦）と一緒に暮らす人の年齢構成は、40歳以上が半数以上を占めています。

図表 72 親と子の世帯に属する人の年齢分布（自分が親か子か、自分がカップルか否か別）



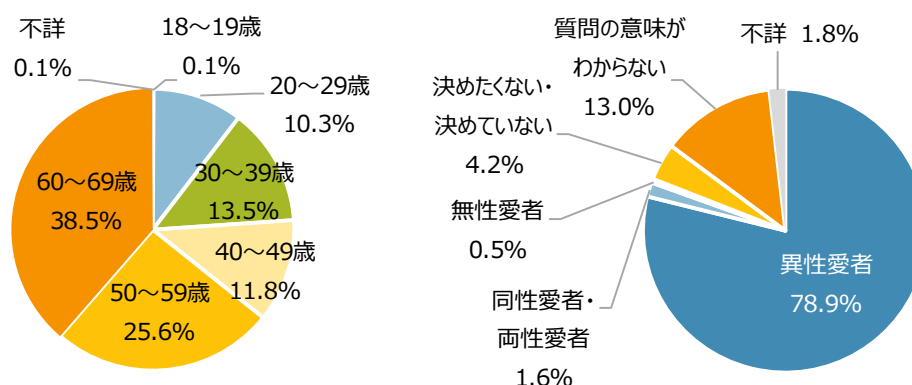
性的指向アイデンティティ別にみると、「自分がカップル」か「自分が非カップル」かに関わらず、「自分が親」の場合には異性愛者が8割強、「自分が子」の場合には7割強です。「同性愛者・両性愛者」と「無性愛者」がもっとも多いのは、いずれも「自分が子」で「自分が非カップル」で、それぞれ5.1%、3.0%でした。

図表 73 親と子の世帯に属する人の性的指向アイデンティティ（自分が親か子か、自分がカップルか否か別）



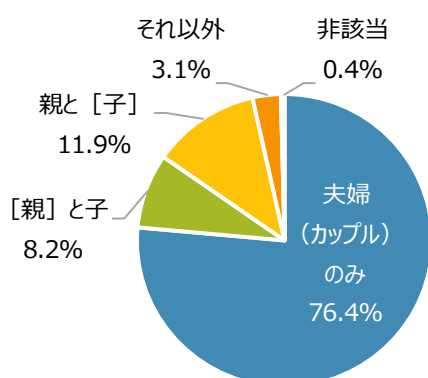
「夫婦（カップル）のみ」では、年齢別にみると、60代が38.5%でもっとも高く、以下、50代が25.6%、30代が13.5%、40代が11.8%、20代が10.3%と続き、50歳以上が半数以上を占めています。性的指向アイデンティティ別にみると、「異性愛者」が78.9%を占め、「同性愛者・両性愛者」は1.6%、「無性愛者」は0.5%となっています。

図表 74 夫婦のみの2人世帯に属する人の年齢と性的指向アイデンティティ[n=1,108]



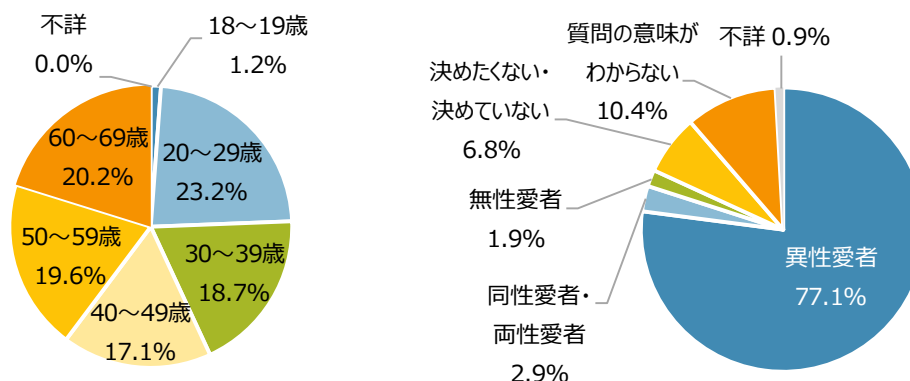
なお、一緒に暮らしている人数が「2人」に限定して家族構成をみると、「夫婦（カップル）のみ」が約4分の3に相当する76.4%であり、残る4分の1のほとんどは「親と子」で、「自分が親」の8.2%と「自分が子」の11.9%を合わせた20.1%です。

図表 75 2人世帯の家族構成カテゴリー [n=1,450]



「ひとり暮らし」では、年齢別にみると、20代が23.2%でもっとも高く、以下、60代が20.2%、50代が19.6%、30代が18.7%、40代が17.1%と、いずれも20%前後です。性的指向アイデンティティ別にみると、「異性愛者」が77.1%、「同性愛者・両性愛者」が2.9%、「無性愛者」が1.9%です。

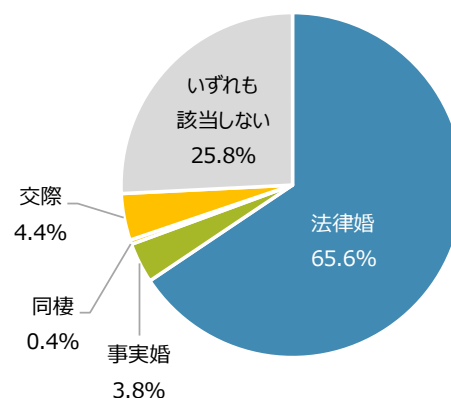
図表 76 「ひとり暮らし」をしている回答者の年齢分布と性的指向アイデンティティ [n=689]



現在のパートナー関係【問 36】【問 37】【問 38】【問 39】

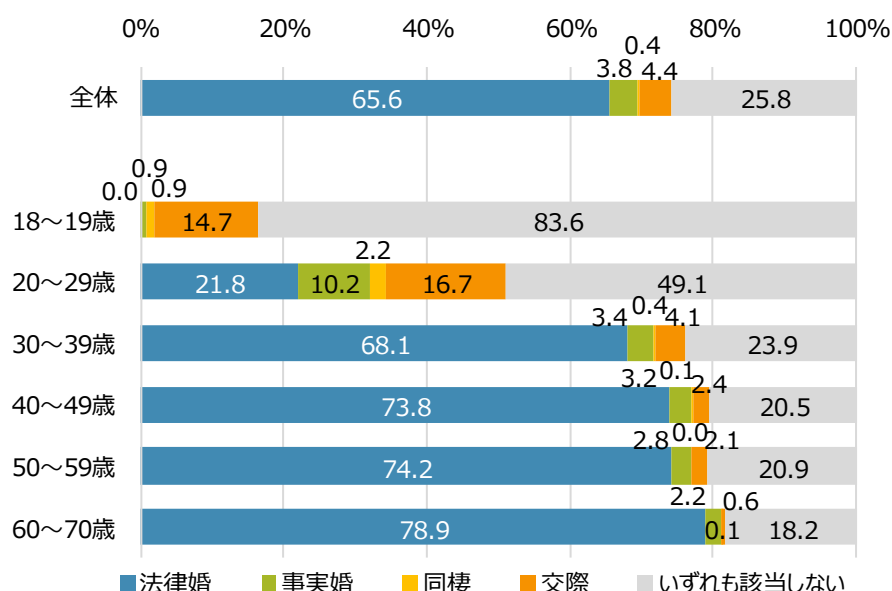
問 36 では結婚（婚姻届を提出）について、問 37 では婚姻届を出していないが結婚相手とみなしている人がいるかどうかについて、問 38 では男性との交際や同棲・同居の経験について、問 39 では女性との交際や同棲・同居の経験について、それぞれたずねました。これらの回答をもとにして、現在の回答者のパートナー関係を、[法律婚（をしている）] [事実婚（をしている）] [同棲（している）] [交際（している）] [いずれも該当しない] の5つに分類したところ、全体では、[法律婚] が65.6%、[事実婚] が3.8%、[同棲] が0.4%、[交際] が4.4%、[いずれも該当しない] が25.8%でした。パートナーと生活をともにしているとみなせる前三者の合計が69.8%に対し、パートナーと生活をともにしていないとみなせる後二者の合計は30.2%です。

図表 77 現在のパートナー関係 [n=5,339]



年齢別にみると、「法律婚」は年齢とともに高くなり、20代では21.8%、30代では68.1%、40代以上では7割を超え、60代では78.9%です。「事実婚」は20代でもっとも高い10.2%で、30代以上は4%未満で年齢とともに低下し、60代では2.2%です。「同棲」は20代でもっとも高い2.2%ですが、それ以外は1%未満です。「交際」は10代や20代では15%前後ですが、30代以上は5%未満で年齢とともに低下し、60代では0.6%です。

図表 78 現在のパートナー関係（全体、年齢別）[n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、〔法律婚〕では〔男性〕（65.8%）と〔女性〕（65.7%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（29.2%）で低く、〔シスジェンダー〕（65.8%）よりも〔トランスジェンダー〕（28.1%）で低く、「異性愛者」（66.8%）よりも「同性愛者・両性愛者」（36.8%）と「無性愛者」（16.3%）で低くなっており、性的マイノリティの回答者で低くなる傾向がみられました。

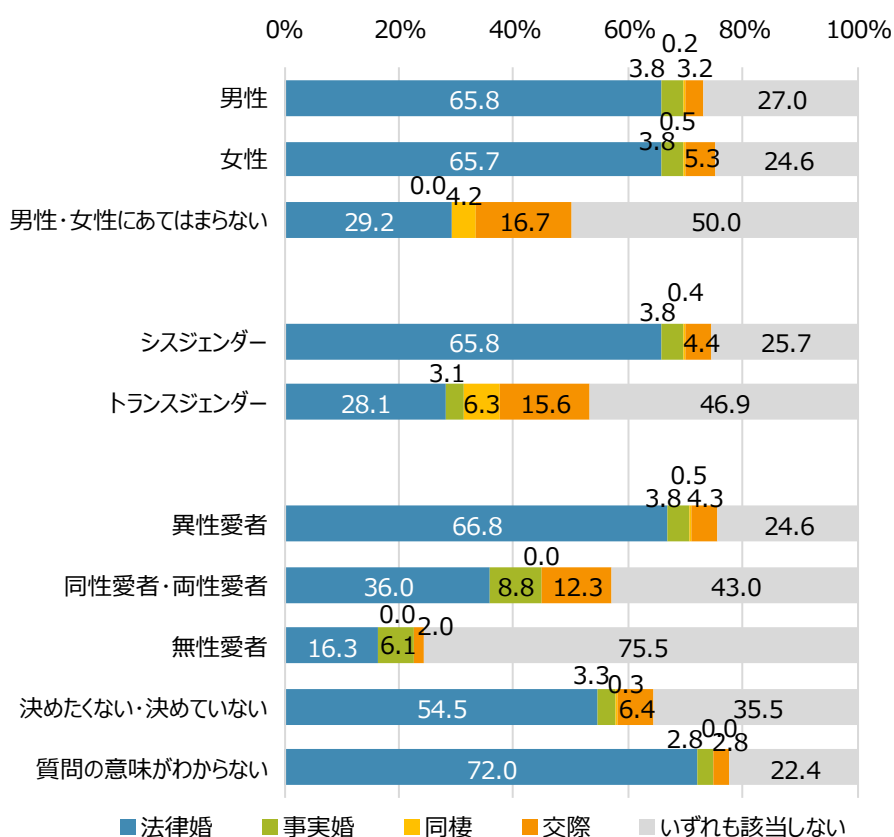
〔事実婚〕は、〔男性〕（3.8%）と〔女性〕（3.8%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（0.0%）で低く、〔シスジェンダー〕（3.8%）よりも〔トランスジェンダー〕（3.1%）で低く、「異性愛者」（3.8%）よりも「同性愛者・両性愛者」（8.8%）と「無性愛者」（6.1%）で高くなっています。

〔同棲〕は、〔男性〕（0.2%）と〔女性〕（0.5%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（4.2%）で高く、〔シスジェンダー〕（0.4%）よりも〔トランスジェンダー〕（6.3%）で高く、「異性愛者」（0.5%）と「同性愛者・両性愛者」（0.0%）と「無性愛者」（0.0%）はいずれも1%未満でした。

〔交際〕は、〔男性〕（3.2%）と〔女性〕（5.3%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（16.7%）で高く、〔シスジェンダー〕（4.4%）よりも〔トランスジェンダー〕（15.6%）で高く、「異性愛者」（4.3%）よりも「同性愛者・両性愛者」（12.3%）で高く、「無性愛者」（2.0%）で低くなっています。

〔いずれも該当しない〕は、〔男性〕（27.0%）と〔女性〕（24.6%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（50.0%）で高く、〔シスジェンダー〕（25.7%）よりも〔トランスジェンダー〕（46.9%）で高く、「異性愛者」（24.6%）よりも「同性愛者・両性愛者」（43.0%）と「無性愛者」（75.5%）で高く、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

図表 79 現在のパートナー関係（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



パートナーの呼称【問 35】【問 36】【問 37】【問 38】【問 39】

問 35 でたずねた一緒に暮らしている人の続柄と、上述の問 36～問 39 を用いて、一緒に暮らしている人数が「2 人」でパートナーと一緒に暮らしており、なおかつパートナー関係が「法律婚（をしている）」「事実婚（をしている）」「同棲（している）」「交際（している）」の場合に、パートナーのことをどのように認識しているかについて、「夫・妻・配偶者」、「パートナー」、「彼氏・彼女」、「友人」、「その他」、「他の親族」のいずれの続柄から選んだのかをみると、「法律婚」では「夫・妻・配偶者」がほとんど（99.6%）で、「パートナー」はわずか（0.4%）であるのに対し、「事実婚」では、「彼氏・彼女」が 45.0%、「パートナー」が 44.0%といずれも 4 割を超え、「夫・妻・配偶者」はほぼ 1 割の 9.9%、「友人」が 1.1%であり、「同棲」では「彼氏・彼女」が 87.5%、「パートナー」が 12.5%（2 人）でした。

図表 80 2 人の世帯に暮らす回答者のパートナーの呼称

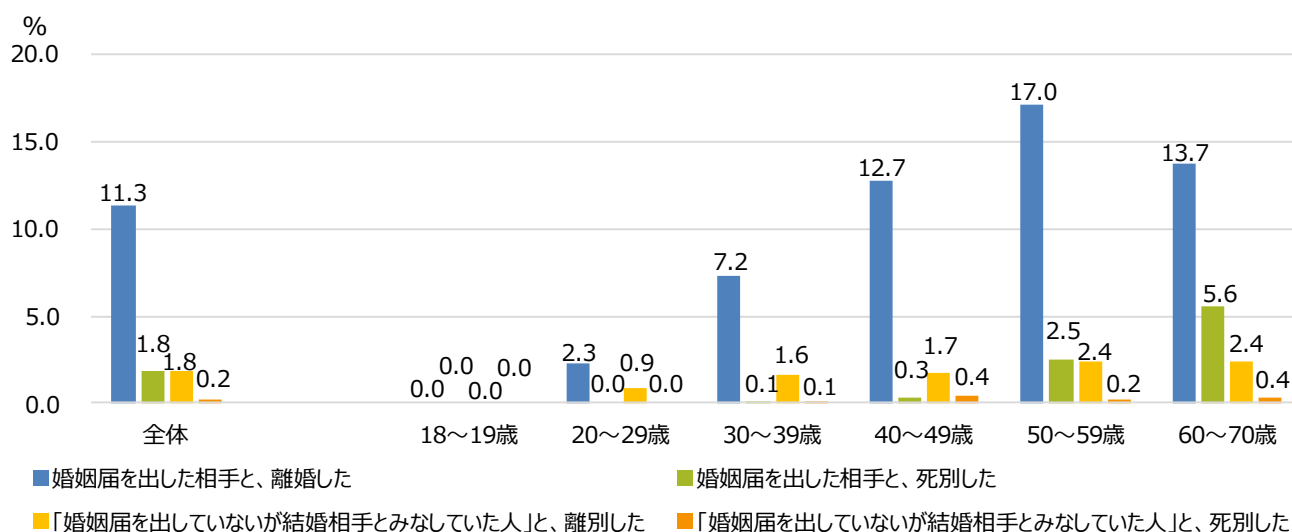
	（%）			
	法律婚	事実婚	同棲	交際中
計	1,003	91	16	1
夫・妻・配偶者	99.6	9.9	0.0	0.0
パートナー	0.4	44.0	12.5	0.0
彼氏・彼女	0.0	45.1	87.5	0.0
友人	0.0	1.1	0.0	100.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0
他の親族	0.0	0.0	0.0	0.0

婚姻やそれに準じる関係の解消や死別の経験【問 40】

問 40 では、婚姻やそれに準じる関係の解消や死別の経験について、「婚姻届を出した相手と、離婚した」、「婚姻届を出した相手と、死別した」、「『婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人』と、離別した」、「『婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人』と、死別した」、「いずれも経験していない」の選択肢を用いてたずねました。全体では、「婚姻届を出した相手と、離婚した」が 11.3%に対し、「婚姻届を出した相手と、死別した」および「『婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人』と、死別した」はそれぞれ 1.8%、「『婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人』と、死別した」は 0.2%であり、「いずれも経験していない」（図は省略）は 84.3%です。

年齢別にみると、総じて年齢が上であるほど離婚や死別にかんする経験をしており、60 代では、「婚姻届を出した相手と、離婚した」が 13.7%、「婚姻届を出した相手と、死別した」が 5.6%、「『婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人』と、死別した」が 2.4%、「『婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人』と、死別した」は 0.4%で、これらを合計すると 22.1%でした。

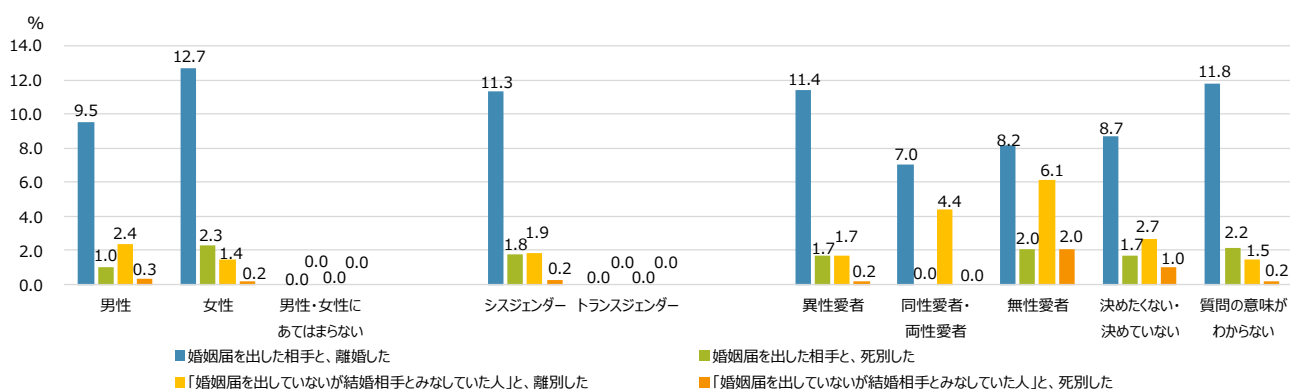
図表 81 婚姻やそれに準じる関係の解消・死別経験の有無（全体、年齢別） [n=5,339、無回答 63 人]



自認する性別、シス・トランス別にみると、「男性・女性にあてはまらない」および「トランスジェンダー」では「いずれも経験していない」（図は省略）でした。性的指向アイデンティティ別にみると、「婚姻届を出した相手と、離婚した」は「異性愛者」の 11.4%よりも「同性愛者・両性愛者」の 7.0%、「無性愛者」の 8.2%で低いです。また、「婚姻届を出した相手と、死別した」、「婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人」と、離婚した」、「婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人」と、死別した」では「無性愛者」でもっとも高くなっていました（それぞれ 2.0%、6.1%、2.0%）。

図表 82 婚姻やそれに準じる関係の解消・死別経験の有無

（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339、無回答 63 人]



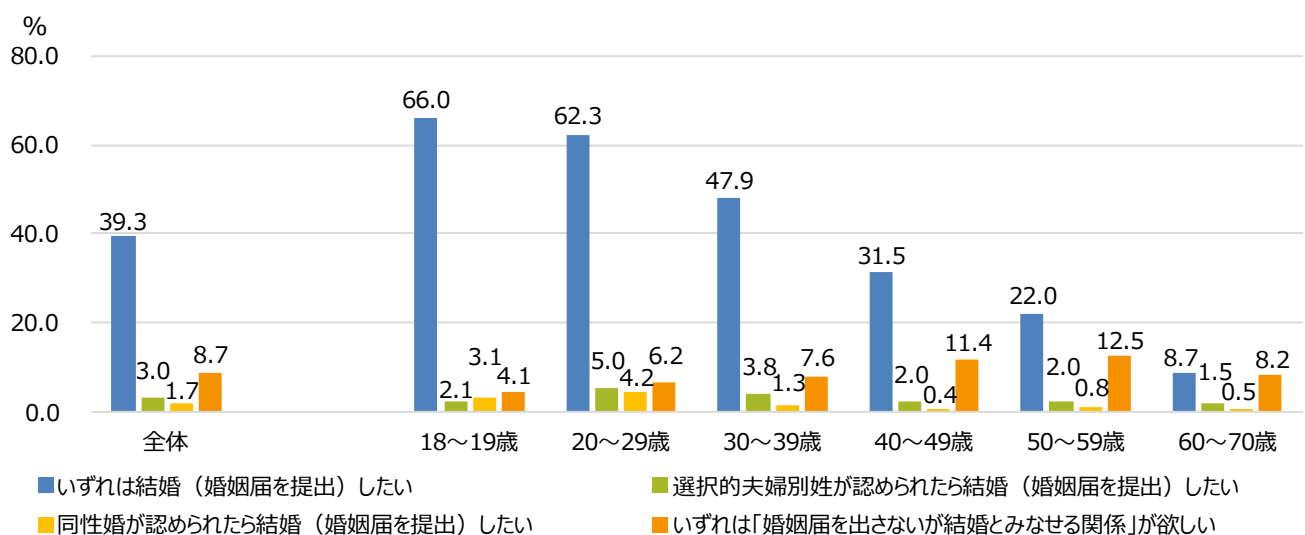
結婚等についての希望【問 41】

問 41 では、結婚等についての希望を、「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」、「選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」、「同性婚が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」、「いずれは『婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係』が欲しい」、「1～4 以外の希望がある」（1～4 は前の 4 つの選択肢を指す）、「1～5 にあてはまらない・現状のままでよい」（1～5 は前の 5 つの選択肢を指す）選択肢を用いてたずねました。

まず、調査時点でパートナー関係にない（婚姻していない、婚姻に準じた関係にない、恋人がない）1,377 人についてみます。全体では、「1～5 にあてはまらない・現状のままでよい」が約半数（51.3%）でもっとも多く（図は省略）、次いで「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」（39.3%）でした。それ以外の選択肢では、「いずれは『婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係』が欲しい」が 8.7%、「選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」が 3.0%、「同性婚が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」が 1.7%で、それぞれ値は大きくはないものの、法律婚以外の関係を求める人が一定数存在することがわかります。

年齢別にみると、「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」は、年齢が低いほど高く、10 代と 20 代では 6 割を超え（66.0%、62.3%）、30 代では半数弱の 47.9%、40 代では 31.5%、50 代では 1 割未満の 8.7%です。「いずれは『婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係』が欲しい」は 40 代と 50 代で 10%を上回り、それぞれ 11.4%と 12.5%でした。「選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」は 20 代でもっとも高く 5.0%、次いで 30 代の 3.8%、10 代の 2.1%です。「同性婚が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」がもっとも高いのは 20 代で 4.2%、次いで 10 代の 3.1%です。

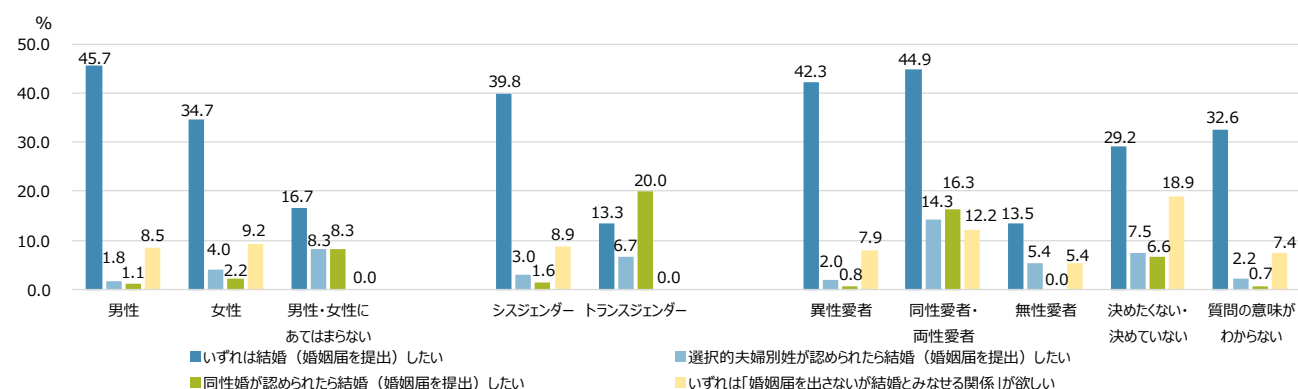
図表 83 現在パートナー関係にない回答者における結婚等の希望（全体、年齢別） [n=1,377、無回答 25 人]



自認する性別でみると、「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」は【男性】（45.7%）のほうが【女性】（34.7%）より高く、「いずれは『婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係』が欲しい」は【男性】で 8.5%、【女性】で 9.2%でした。「男性・女性にあてはまらない」では、「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」が 16.7%、「選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」と「同性婚が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」がそれぞれ 8.3%、「いずれは『婚

婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係』が欲しい」は 0.0%でした。シス・トランス別では、[シスジェンダー] では「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」が 39.8%、「いずれは『婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係』が欲しい」が 8.9%でいずれも [トランスジェンダー] より高いのに対し、[トランスジェンダー] では「同性婚が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」が 20.0%、「選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」が 6.7%でいずれも [シスジェンダー] より高くなっています。性的指向アイデンティティ別にみると、「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」が「異性愛者」では 42.3%、「同性愛者・両性愛者」では 44.9%で違いがほとんどみられません。「同性愛者・両性愛者」では、他の性的指向アイデンティティよりも「選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」と「同性婚が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」が高くなっています。「無性愛者」では、「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」は 13.5%、「選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」および「いずれは『婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係』が欲しい」の割合はそれぞれ 5.4%で、全般に高くはないものの、一定程度の人がなんらかの関係を希望していることがわかります。

図表 84 現在パートナー関係にない回答者における結婚等の希望（全体、年齢別） [n=1,377、無回答 25 人]

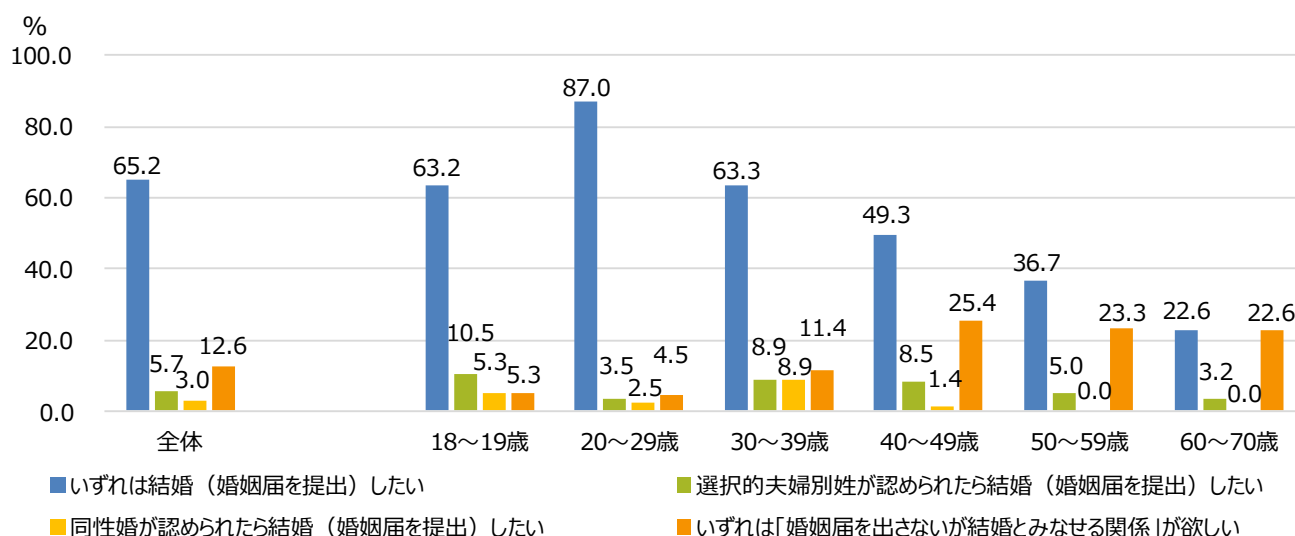


注：複数の関係を希望する人がいることや、現在のものとは異なる関係を希望する人（たとえば、異性と婚姻関係にあるが、同性との結婚とみなせる関係を希望している人など）がいる可能性を踏まえた集計やその解釈は、今後の課題として捉えています。

次に、調査時点で法律婚以外の関係にある（事実婚、同棲中、または交際相手あり）460 人についてみていきます。全体では、「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」が 65.2%、「いずれは『婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係』が欲しい」が 12.6%、「選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」が 5.7%、「同性婚が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」が 3.0%でした。上記のパートナー関係にない 1,377 人の結果と比べると、いずれの割合も高くなっています。

年齢別にみると、どの年齢でも「いずれは結婚（婚姻届を提出）したい」がもっとも高くなっていますが、40 代以上では「いずれは『婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係』が欲しい」が 20%を超えています。「選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」や「同性婚が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい」は、他の年齢に比べて 30 代で高く、それぞれ 8.9%です。

図表 85 法律婚以外の関係にある人における結婚等の希望（全体、年齢別） [n=460、無回答 1 人]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の結果については、460 人に占める性的マイノリティの回答者数が極めて少ないため、掲載を省略しました。

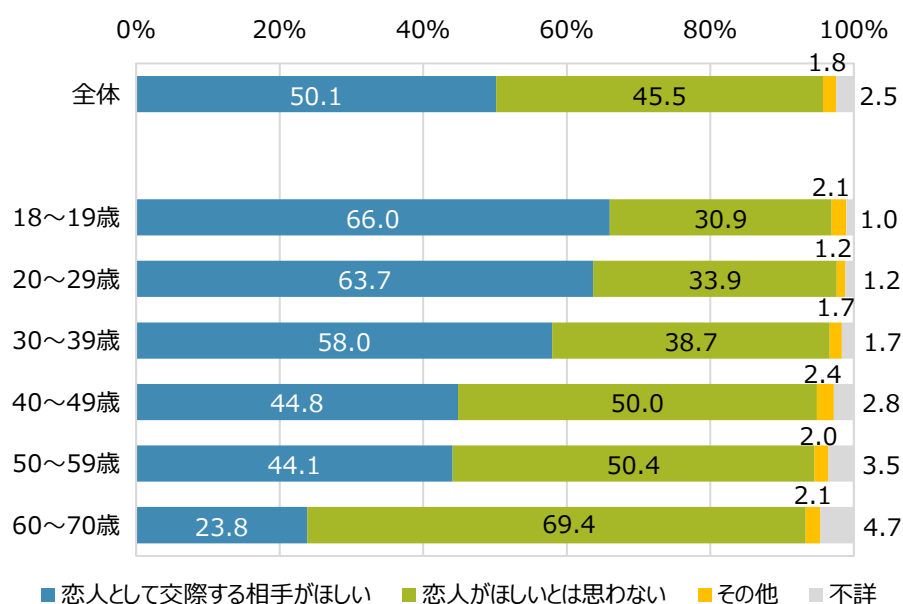
交際についての希望【問 42】

問 42 では、交際相手を求めているのか否かについて、「恋人として交際する相手がほしい」、「現在、恋人として交際している人がある」、「恋人がほしいとは思わない」、「その他」の選択肢でたずねました。ここでは、調査時点でパートナー関係になく（婚姻していない、婚姻に準じた関係にない、恋人がいない）、この問いで「現在、恋人として交際している人がある」を選択した人を除外した 1,370 人についてみていきます。

全体では、交際を希望している「恋人として交際する相手がほしい」が 50.1%、特に希望しない「恋人がほしいとは思わない」が 45.5%で、ほぼ半々でした。年齢別にみると、若い人のほうが、「恋人として交際する相手がほしい」が高く、10 代では 66.0%、20 代では 63.7%、30 代では 58.0%、40 代では 44.8%、50 代では 44.1%、60 代では 23.8%でした。

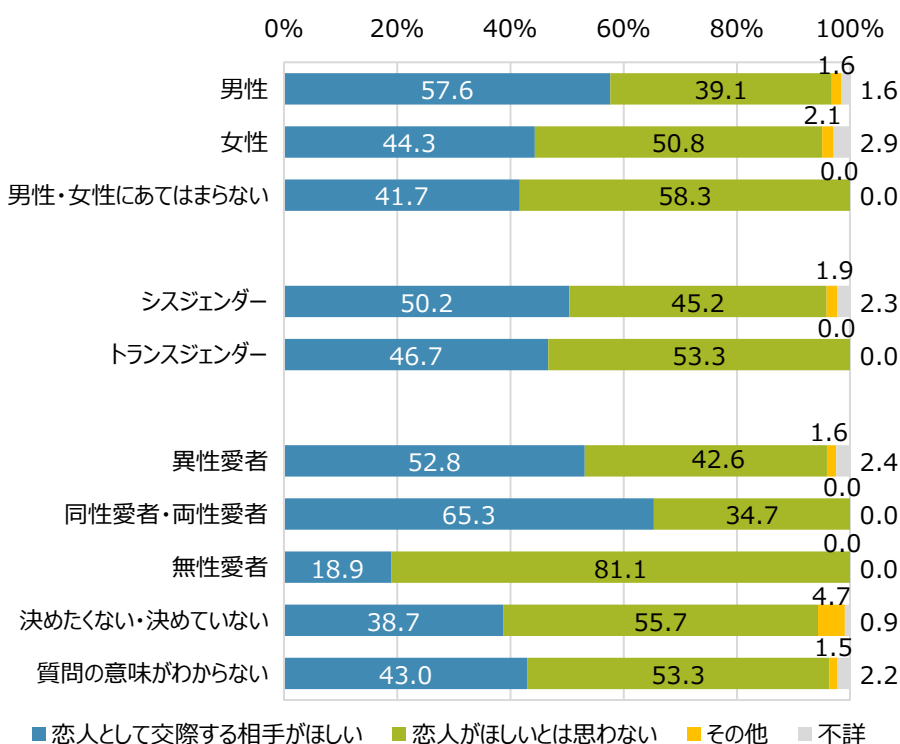
自認する性別でみると、「恋人として交際する相手がほしい」は【男性】（57.6%）のほうが、【女性】（44.3%）よりも高く、「男性・女性にあてはまらない」（41.7%）は【女性】とほぼ同じでした。シス・トランス別にみると、【シスジェンダー】（50.2%）と【トランスジェンダー】（46.7%）の差は 4 ポイント程度でした。性的指向アイデンティティ別にみると、「異性愛者」（52.8%）よりも「同性愛者・両性愛者」（65.3%）で高く、「無性愛者」（18.9%）で低くなっており、それぞれの違いが大きくなっています。

図表 86 パートナー関係にない回答者における交際の希望（全体、年齢別） [n=1,370]



図表 87 パートナー関係にない回答者における交際の希望

（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=1,370]



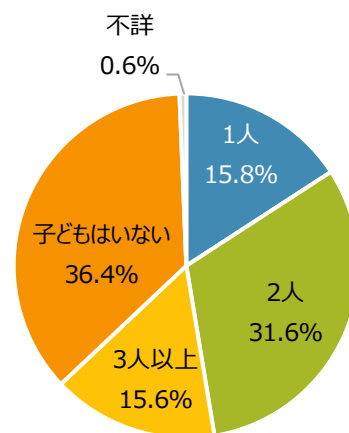
子どもの数【問 43】と今後の希望【問 44】

問 43 では回答者の子どもの数を現在一緒に住んでいない場合も含めてたずね、問 44 では今後子どもを持ちたいかどうかについてたずねました。回答者の子どもの数は、全体では、「2 人」が 31.6%、「1 人」が 15.8%、「3 人以上」が 15.6%です。これらを合わせた 63.0%に子どもがあり、「子どもはいない」は 3 人に 1 人を超える 36.4%でした。

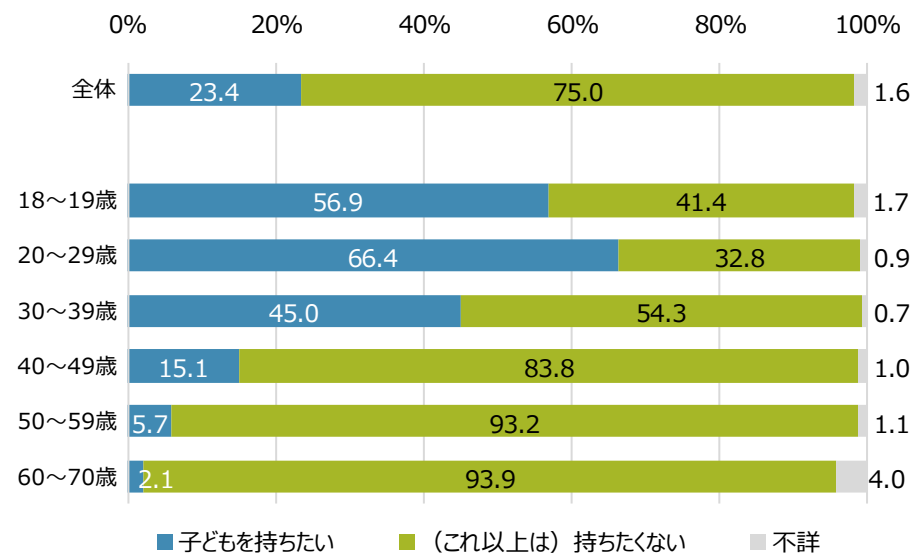
子どもを持ちたいか否かについては、全体では、「子どもを持ちたい」が 23.4%です。年齢別にみると、「子どもを持ちたい」は 20 代でもっとも高い 66.4%、次いで 10 代の 56.9%、30 代の 45.0%の順であり、40 代で 15.1%、50 代で 5.7%、60 代で 2.1%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「子どもを持ちたい」のは、[男性]（24.4%）と[女性]（22.7%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（33.3%）で高く、[シスジェンダー]（23.5%）よりも[トランスジェンダー]（31.3%）で高く、「異性愛者」（24.4%）よりも「同性愛者・両性愛者」（38.6%）で高く、「無性愛者」（14.3%）で低くなっています。

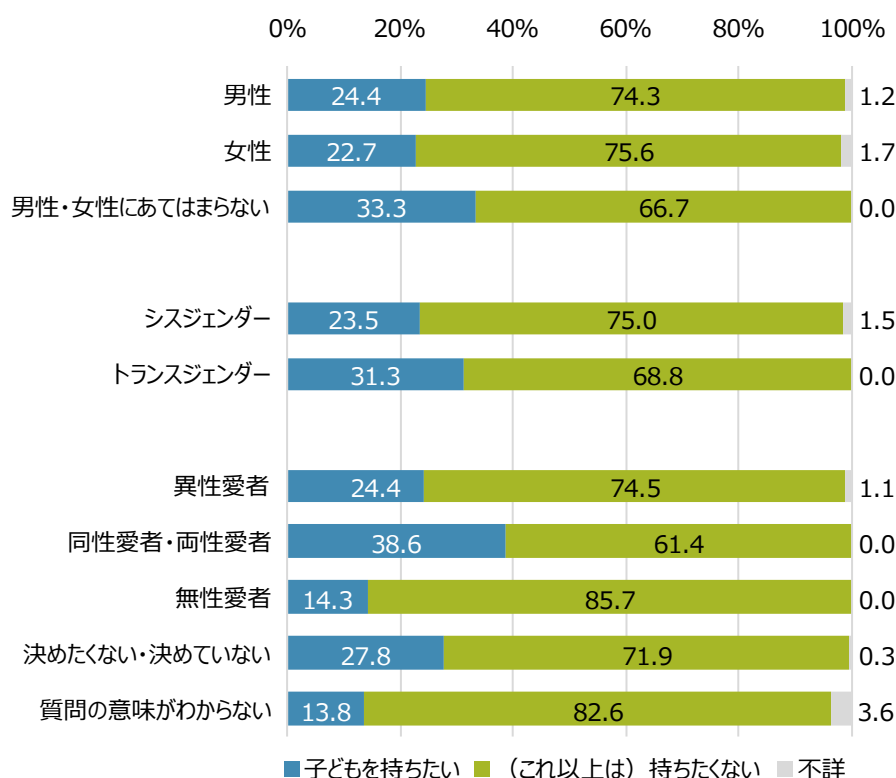
図表 88 子どもの数の分布 [n=5,339]



図表 89 子どもを持ちたいか否か（全体、年齢別） [n=5,339]



図表 90 子どもを持ちたいか否か（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



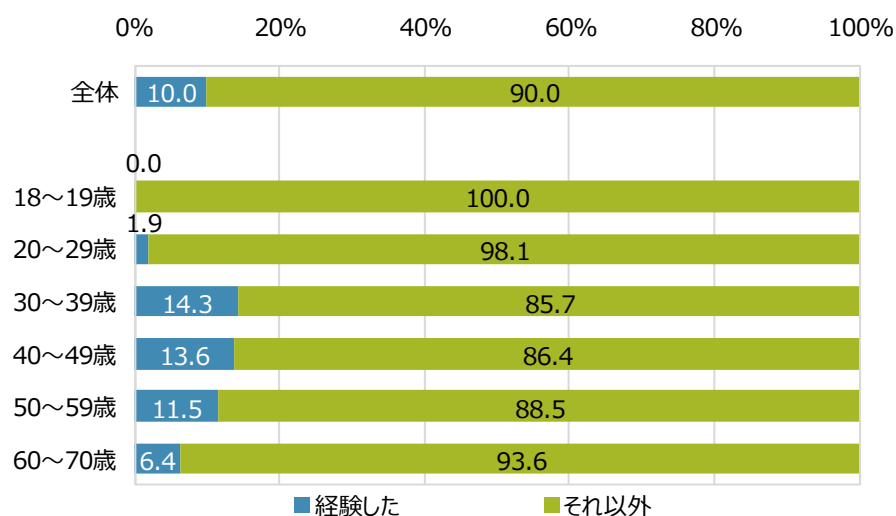
出産や子どもを持つことについての経験【問 45】

問 45 では、出産や子どもを持つことにかんする「医療機関におけるタイミング法、排卵誘発など」といった 12 の項目について、それぞれ、「経験した」、「登録した」、「専門家や関係者に相談した」、「関心はあるが何もしていない」、「いずれもない」、「該当しない」の 6 つの選択肢から選ぶ形でたずねました。12 の項目の中から、本報告書では、「医療機関におけるタイミング法、排卵誘発など」と「養子・里親制度の利用」についてみていきます。

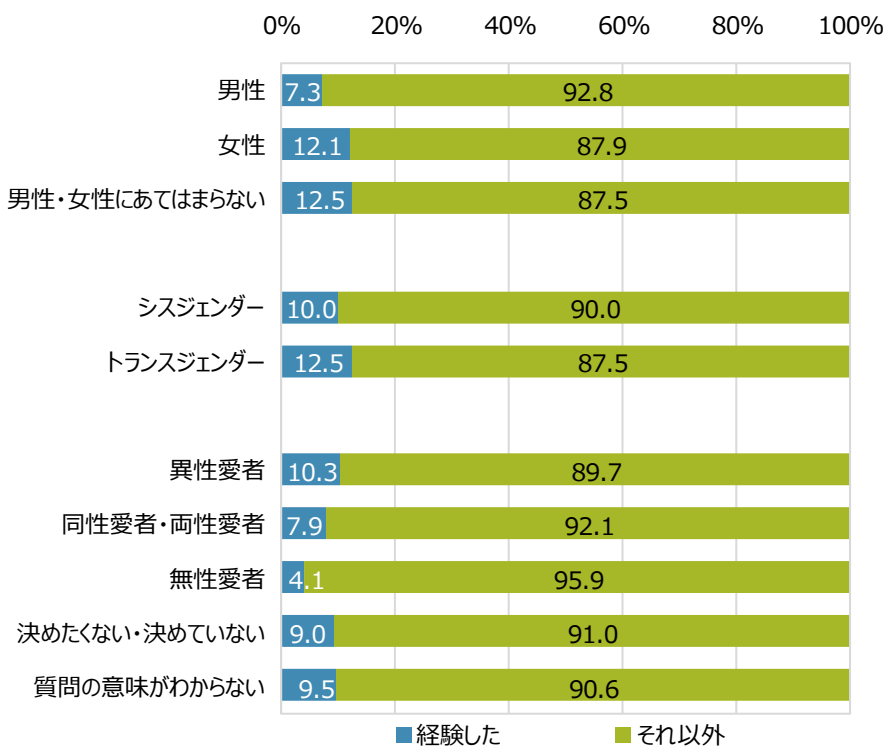
「医療機関におけるタイミング法、排卵誘発など」については、全体では、「経験した」が 10.0%です。年齢別にみると、「経験した」は、10 代の 0.0%、20 代の 1.9%に対し、30 代では 14.3%、40 代では 13.6%、50 代では 11.5%と 1 割を超えています。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「経験した」をみると、[男性]（7.3%）よりも[女性]（12.1%）と「男性・女性にあてはまらない」（12.5%）で高く、[シスジェンダー]（10.0%）よりも[トランスジェンダー]（12.5%）で高く、「無性愛者」（4.1%）と「同性愛者・両性愛者」（7.9%）よりも「異性愛者」（10.3%）で高くなっています。

図表 91 「医療機関におけるタイミング法、排卵誘発など」を「経験した」と回答した割合（全体、年齢別）[n=5,339]

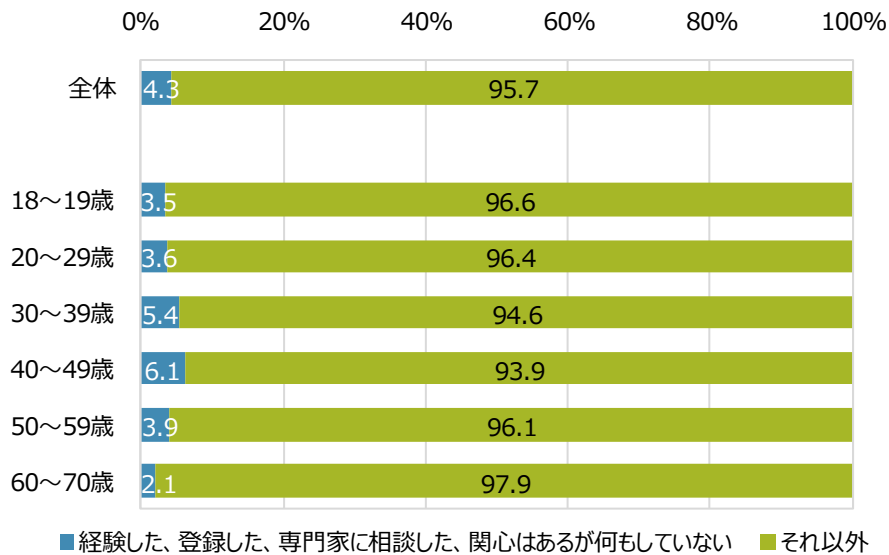


図表 92 「医療機関におけるタイミング法、排卵誘発など」を「経験した」と回答した割合
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



「養子・里親制度の利用」については、全体では、「経験した」、「登録した」、「専門家や関係者に相談した」、「関心はあるが何もしていない」のいずれかに回答した割合が4.3%であり、年齢別にみると、30代（5.4%）と40代（6.1%）でやや高くなっています。

図表 93 「養子・里親制度の利用」に「経験した」、「登録した」、「専門家や関係者に相談した」、「関心はあるが何もしていない」と回答した割合（全体、年齢別）[n=5,339]



6 親の状況と親との関係

父親・母親が最後に通った学校【問 31】

問 31 では、両親が最後に通った学校についてたずねました。父親については、「高校」が 35.3%でもっとも多く、以下、「大学」(24.0%)、「中学校」(22.8%)と続いています。年齢別にみると、「高校」は、10代で 31.9%、20代 32.8%、30代で 39.1%、40代で 40.3%、50代で 38.8%、60代で 24.1%でした。自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「高校」は[男性]で 36.9%、[女性]で 34.2%、「男性・女性にあてはまらない」で 29.2%、[シスジェンダー]で 35.4%、[トランスジェンダー]で 31.3%、「異性愛者」で 35.8%、「同性愛者・両性愛者」で 35.1%、「無性愛者」で 40.8%でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

母親については、もっとも多いのは父親と同じく「高校」(42.9%)で、それに次ぐのは「中学校」(21.4%)、「短大・高専」(11.5%)となっていて、父親とは若干異なります。年齢別にみると、「高校」は、10代で 26.7%、20代で 37.8%、30代で 42.0%、40代で 52.4%、50代で 45.7%、60代で 34.4%でした。自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「高校」は、[男性]で 43.7%、[女性]で 42.4%、「男性・女性にあてはまらない」で 33.3%、[シスジェンダー]で 43.0%、[トランスジェンダー]で 34.4%、「異性愛者」で 43.9%、「同性愛者・両性愛者」で 33.3%、「無性愛者」で 42.9%でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

図表 94 父親・母親が最後に通った学校の分布（全体）[n=5,339]

父親	%	母親	%
中学校	22.8	中学校	21.4
高校	35.3	高校	42.9
専門学校（高卒後）	3.6	専門学校（高卒後）	6.8
短大・高専	2.7	短大・高専	11.5
大学	24.0	大学	8.4
大学院	1.4	大学院	0.3
1～6以外の学校	0.0	1～6以外の学校	0.0
その他（わからない、など）	9.0	その他（わからない、など）	7.4
不詳	1.3	不詳	1.2

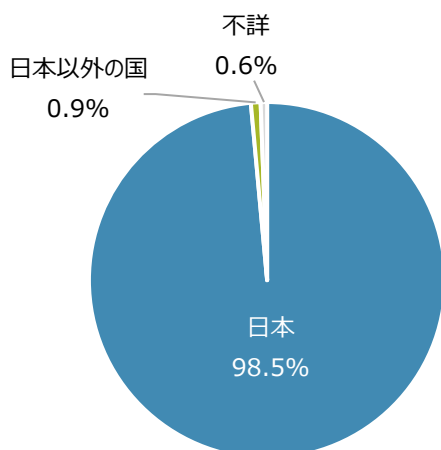
注）調査票での選択肢は、「中学校」は「中学校（戦前の小学校（尋常科・高等科）・国民学校・青年学校）」、「高校」は「高校（戦前の中学校・高等女学校・実業学校・師範学校）」、「短大・高専」は「短大・高専（戦前の高校・専門学校・高等師範学校）」である。

回答者の父母の国籍【問 32】

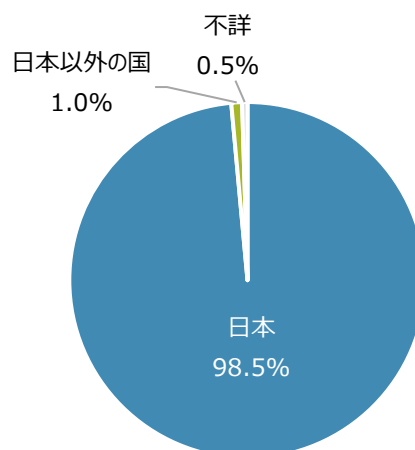
問 32 では、父母の国籍をたずねました。父の場合、「日本」が 98.5%、「日本以外の国」が 0.9%であり、母の場合、「日本」が 98.5%、「日本以外の国」が 1.0%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、父の場合、「日本以外の国」が〔男性〕で 0.8%、〔女性〕で 1.0%、「男性・女性にあてはまらない」で 0.0%（0 人）、〔シスジェンダー〕で 0.9%、〔トランスジェンダー〕で 0.0%（0 人）、「異性愛者」で 0.7%、「同性愛者・両性愛者」で 1.8%、「無性愛者」で 0.0%（0 人）でした。母の場合、「日本以外の国」が〔男性〕で 0.9%、〔女性〕で 1.1%、「男性・女性にあてはまらない」で 0.0%（0 人）、〔シスジェンダー〕で 1.0%、〔トランスジェンダー〕で 0.0%（0 人）、「異性愛者」で 0.9%、「同性愛者・両性愛者」で 1.8%、「無性愛者」で 0.0%（0 人）でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

図表 95 回答者の父の国籍 [n=5,339]



図表 96 回答者の母の国籍 [n=5,339]



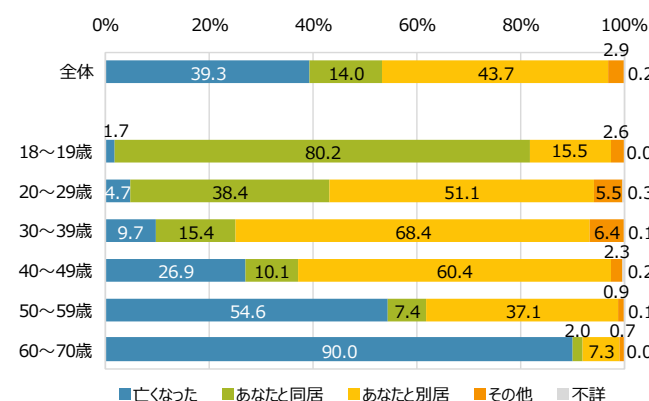
父親・母親の現在の居住地【問 33】

問 33 では、父親と母親の現在の居住地についてたずねました。ここでは、父親、母親と同居しているか、別居しているのかについてみていきます⁵。父親については、全体でみると、「亡くなった」が 39.3%、「あなたと同居」が 14.0%、「あなたと別居」が 43.7%でした。年齢別にみると、10 代では 8 割を越えています（80.2%）、20 代では 38.4%、30 代で 15.4%と年齢が高くなると低くなります。

母親については、全体でみると、「亡くなった」と「あなたと同居」が約 2 割（それぞれ 21.2%、19.7%）、「あなたと別居」が 58.0%でした。年齢別にみると、10 代では 91.4%と 9 割を越えています、20 代では 46.4%と半分を下回り、30 代から 50 代まではおおむね 15～18%台です。

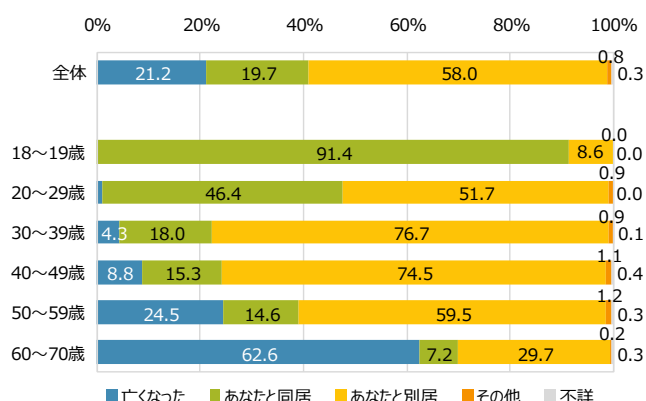
図表 97 父親との同別居（全体、年齢別）

[n=5,339]



図表 98 母親との同別居（全体、年齢別）

[n=5,339]

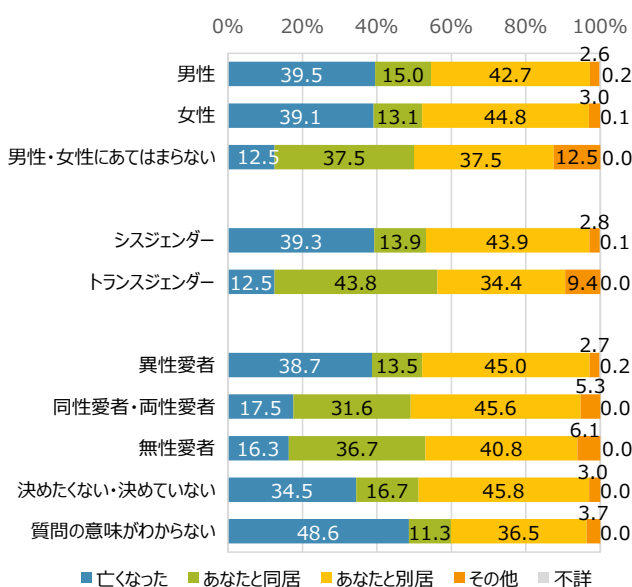


⁵ 「あなたと同居」を選択した人を「あなたと同居」、「あなたと同じ区市町村内」、「あなたと同じ都道府県の他の区市町村」、「他の都道府県」、「外国」のいずれかを選択した人は「あなたと別居」としました。

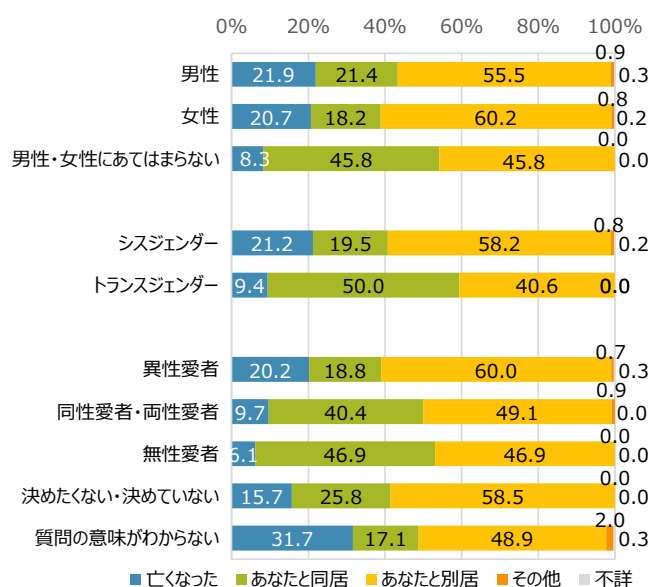
父親について、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「あなたと同居」をみると、「男性・女性にあてはまらない」では 37.5%で、[男性]（15.0%）と[女性]（13.1%）よりも高く、[シスジェンダー]（13.9%）よりも[トランスジェンダー]（43.8%）で高く、「異性愛者」（13.5%）よりも「無性愛者」（36.7%）と「同性愛者・両性愛者」（31.6%）で高くなっています。

母親について、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「あなたと同居」をみると、「男性・女性にあてはまらない」では 45.8%で、[男性]（21.4%）と[女性]（18.2%）よりも高く、[シスジェンダー]（19.5%）よりも[トランスジェンダー]（50.0%）で高く、「異性愛者」（18.8%）よりも「同性愛者・両性愛者」（40.4%）と「無性愛者」（46.9%）と高くなっています。

図表 99 父親との同別居（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



図表 100 母親との同別居（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]

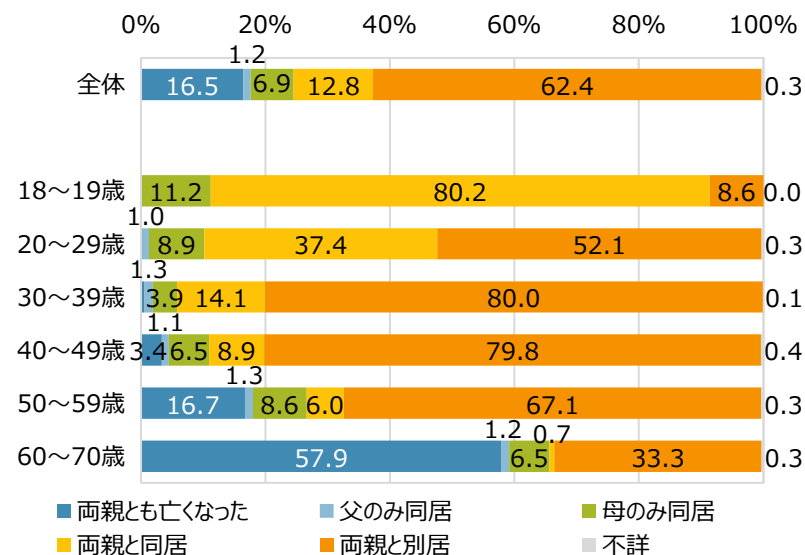


両親との同別居【問 33】

前述の、父親、母親のそれぞれと同居しているか、別居しているのかの情報をを用いて、親との同別居を「両親とも亡くなった」、「父のみ同居」、「母のみ同居」、「両親と同居」、「両親と別居」の5つに分類したものをみていきます。全体では、圧倒的に多いのが「両親と別居」の62.4%であり、それ以外では、「両親とも亡くなった」は16.5%、「父のみ同居」は1.2%、「母のみ同居」は6.9%、「両親と同居」は12.8%でした。

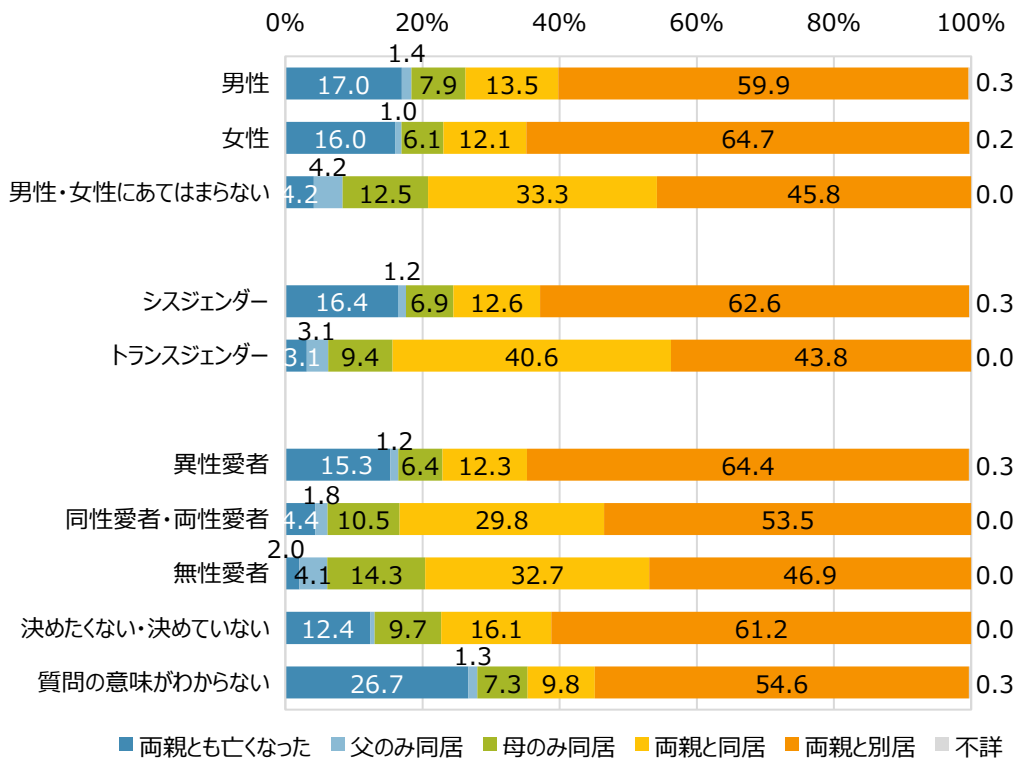
年齢別にみると、「両親と同居」は、10代で8割を超える80.2%と最も高くなっていますが、年齢が上がるにつれて低下し、20代では37.4%、30代で14.1%、40代で8.9%となります。「父のみ同居」は、年齢に関わらず5つの分類の中では最も低く、1.0～1.3%です。「母のみ同居」は、10代で11.2%と最も高く、30代で3.9%と低くなりますが、40代で6.5%、50代で8.6%と再び高くなっています。「両親と別居」は、10代の8.6%から30代の80.0%にかけて高くなり、40代は30代とほぼ同じ79.8%で、50代以降は年齢とともに低下し、60代では33.3%です。「両親ともに亡くなった」は、年齢とともに高くなり、60代で57.9%です。

図表 101 親との同別居（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、親との同別居を自認する性別でみると、性的マイノリティの回答者では「両親と同居」や「母のみ同居」、「父のみ同居」が高く、「両親と別居」と「両親とも亡くなった」が低くなる傾向がみられました。たとえば、[トランスジェンダー] では、「両親と同居」、「母のみ同居」、「父のみ同居」がそれぞれ 40.6%、9.6%、3.1%で [シスジェンダー] の 12.6%、6.9%、1.2%よりも高いのに対し、「両親と別居」と「両親とも亡くなった」はそれぞれ 43.8%と 3.1%で、[シスジェンダー] の 62.6%と 16.4%よりも低くなっています。

図表 102 親との同別居（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



親との会話頻度【問 34】

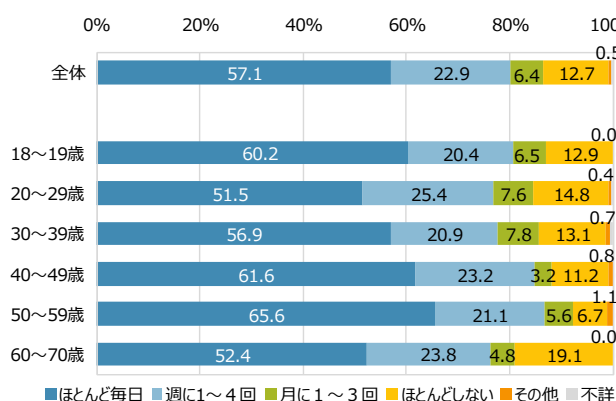
問 34 では、父親、母親それぞれと電話や LINE、メールを含めてこの 1 年間にどれくらい話をしたかたずねました。親とどれくらい話すのかは、親と同居しているか、別居しているかによって大きく異なりますので、親と同居している場合と別居している場合に分けてみていきます。

親と同居している場合、全体では、「ほとんど毎日」が父親との間では 57.1%、母親との間では 78.0%です。年齢別にみると、父親との間では、「ほとんど毎日」が 20 代でもっとも低くなりますが、それでも半数を超えており（51.5%）、他の年齢では、おおむね 6 割前後（52.4%～65.6%）でした。母親との間では、「ほとんど毎日」が 71.8%～83.0%で、50 代以上では年齢が上がると低くなっていますが、父親との間に比べれば、年齢を問わず、高くなっています。

一方、親と別居している場合、父親との間でも母親との間でも、「ほとんど毎日」は低くなります。父親との間では、「ほとんど毎日」は 3.5%～5.8%にとどまるのに対し、「月に 1～3 回」がもっとも高く、28.6%～44.0%です。母親との間では、年齢が上がるほど会話頻度は下がる傾向にあるとはいえ、父親との間に比べて会話頻度は高く、「ほとんど毎日」と「週に 1～4 回」と「月に 1～3 回」を合計すると、もっとも高い 10 代で 90.0%、もっとも低い 60 代でも 67.7%でした。

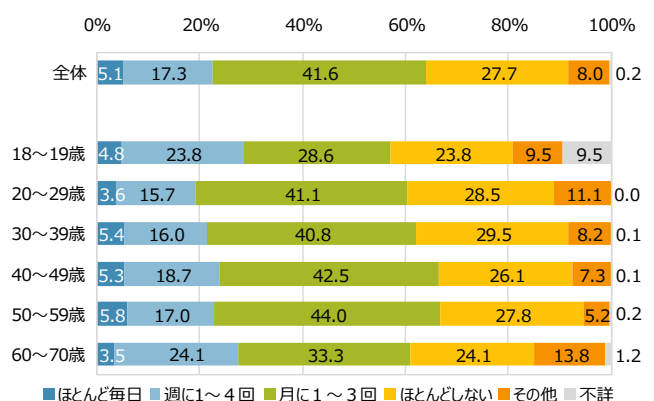
図表 103 父親との会話頻度（父親と同居）

[n=746]



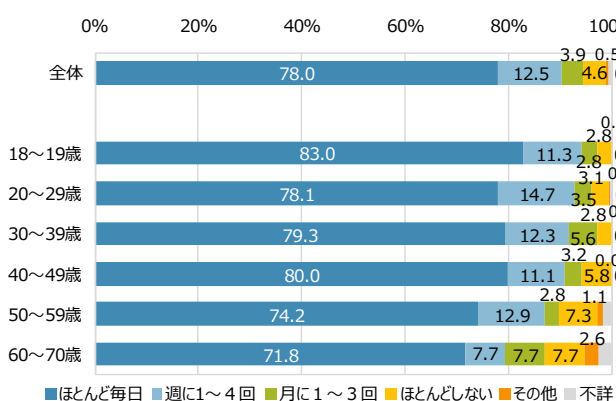
図表 104 父親との会話頻度（父親と別居）

[n=2,485]



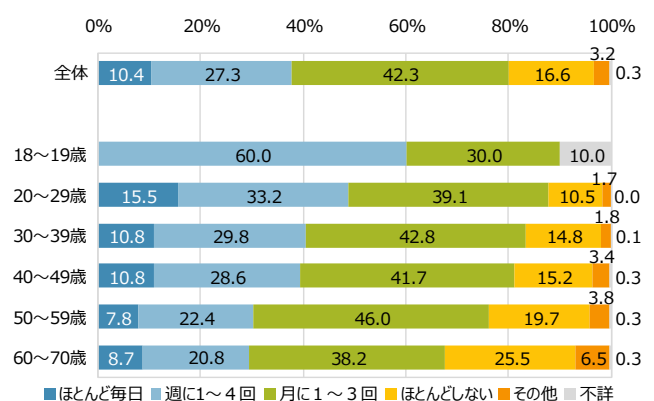
図表 105 母親との会話頻度（母親と同居）

[n=1,050]



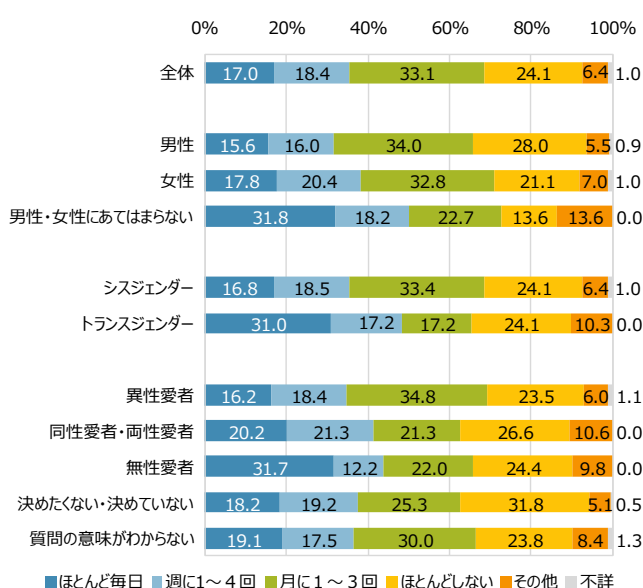
図表 106 母親との会話頻度（母親と別居）

[n=3,142]

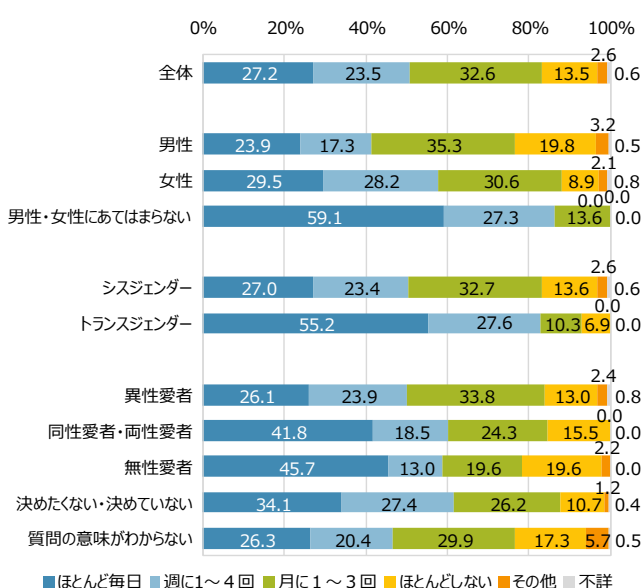


自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別については、該当者数が少ないため、親と同居している場合と別居している場合とを区別せずにみていきます。父親との間では、性的マイノリティの回答者で「ほとんど毎日」が高い傾向にあり、実際、[男性]（15.6%）と[女性]（17.8%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（31.8%）で高く、[シスジェンダー]（16.8%）よりも[トランスジェンダー]（31.0%）で高く、「異性愛者」（16.2%）よりも「同性愛者・両性愛者」（20.2%）と「無性愛者」（31.7%）で高くなっています。

図表 107 父親との会話頻度（全体、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=3,288]



図表 108 母親との会話頻度（全体、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=4,250]



母親との間でも、性的マイノリティの回答者で「ほとんど毎日」が高い傾向にあり、実際、[男性]（23.9%）と[女性]（29.5%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（59.1%）で高く、[シスジェンダー]（27.0%）よりも[トランスジェンダー]（55.2%）で高く、「異性愛者」（26.1%）よりも「同性愛者・両性愛者」（41.8%）と「無性愛者」（45.7%）で高くなっています。

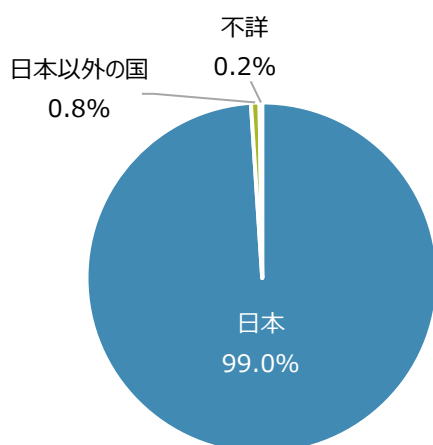
7 離家と引っ越し

回答者の生まれた国【問 24】と現在の国籍【問 25】

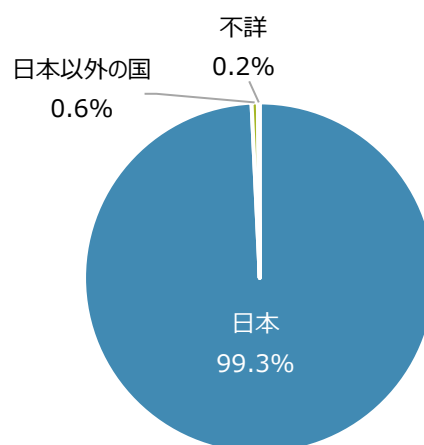
問 24 では生まれた国を、問 25 では現在の国籍をたずねました。生まれた国については、全体では、「日本」が 99.0%、「日本以外の国」が 0.8%であり、現在の国籍については、「日本」が 99.3%、「日本以外の国」が 0.6%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別について「日本以外の国」をみると、生まれた国では、[男性]で 0.7%、[女性]で 0.9%、「男性・女性にあてはまらない」で 0.0%（0 人）、[シスジェンダー]で 0.8%、[トランスジェンダー]で 0.0%（0 人）、「異性愛者」で 0.7%、「同性愛者・両性愛者」で 1.8%、「無性愛者」で 0.0%（0 人）でした。また、現在の国籍が「日本以外の国」をみると[男性]で 0.7%、[女性]で 0.5%、「男性・女性にあてはまらない」で 0.0%（0 人）、[シスジェンダー]で 0.6%、[トランスジェンダー]で 0.0%（0 人）、「異性愛者」で 0.4%、「同性愛者・両性愛者」で 1.8%、「無性愛者」で 0.0%（0 人）でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

図表 109 回答者の生まれた国 [n=5,339]



図表 110 回答者の現在の国籍 [n=5,339]

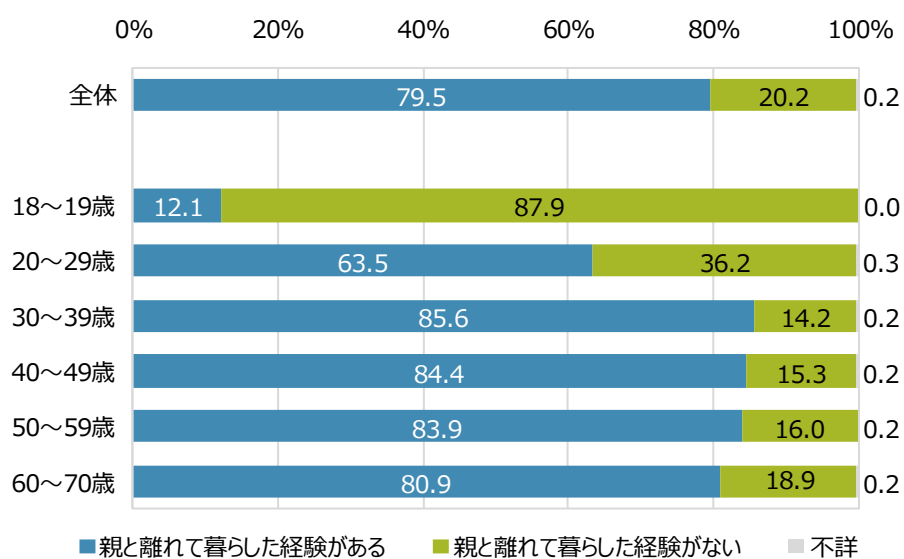


親と離れて暮らした経験【問 26】

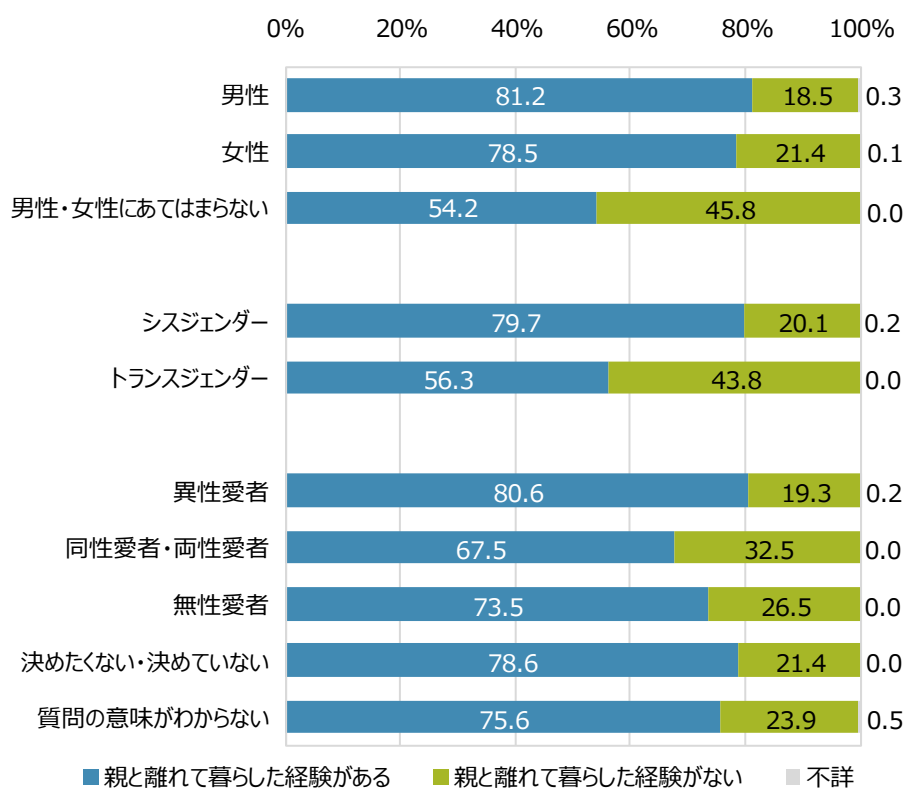
問 26 では、親と離れて暮らした経験についてたずねました。全体では、「親と離れて暮らした経験がある」が 79.5%に対し、「親と離れて暮らした経験がない」は 20.2%です。年齢別にみると、「親と離れて暮らした経験がある」は 10 代で 12.1%、20 代で 63.5%、30 代で 85.6%となり、40 代以上では年齢とともにやや低下し、60 代では 80.9%です。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、性的マイノリティの回答者で「親と離れて暮らした経験がある」は低くなる傾向にあり、実際、[男性]（81.2%）と[女性]（78.5%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（45.8%）で低く、[シスジェンダー]（79.7%）よりも[トランスジェンダー]（56.3%）で低く、「異性愛者」（80.6%）よりも「同性愛者・両性愛者」（67.5%）と「無性愛者」（73.5%）で低くなっています。

図表 111 親と離れて暮らした経験の有無（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 112 親と離れて暮らした経験の有無（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]

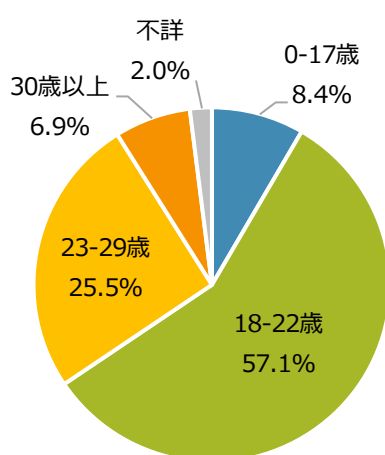


はじめて親と離れて暮らした時の年齢【問 26】

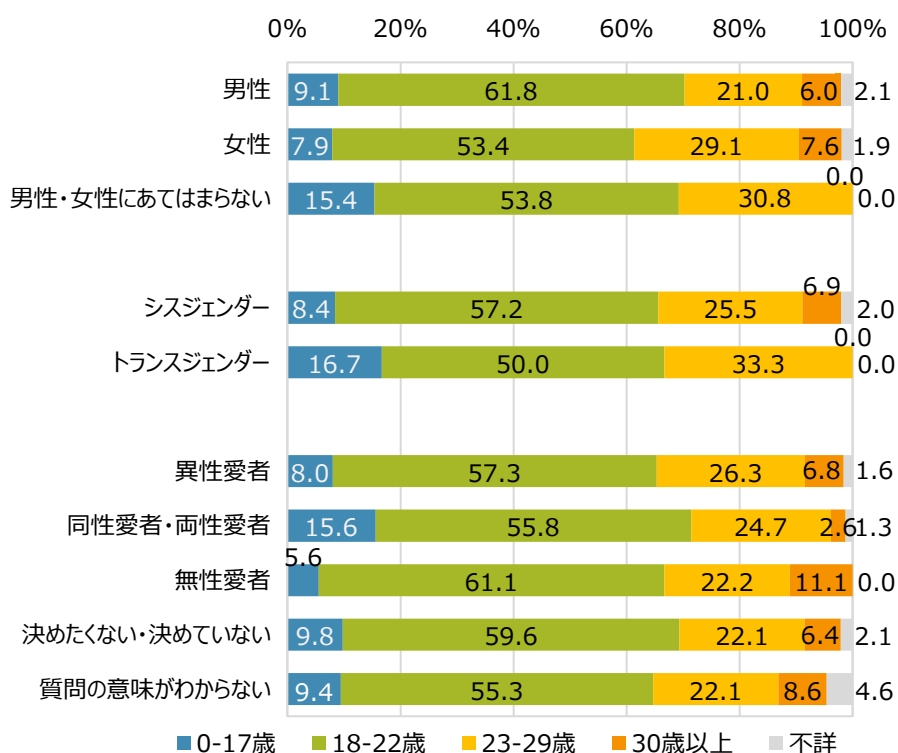
問 26 では、親と離れて暮らした経験がある場合には、はじめて親と離れた時の年齢についてもたずねました。親と離れて暮らした経験のある 4,247 人のうち、全体では、「0-17 歳」が 8.4%、「18-22 歳」が 57.1%、「23-29 歳」が 25.5%、「30 歳以上」が 6.9%です。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にはじめて親と離れた時の年齢をみると、[男性]（9.1%）と[女性]（7.9%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（15.4%）で高く、[シスジェンダー]（8.4%）よりも[トランスジェンダー]（16.7%）で高く、「異性愛者」（8.0%）よりも「同性愛者・両性愛者」（15.6%）で高く、「無性愛者」（5.6%）では低くなっていました。

図表 113 はじめて親と離れた時の年齢（全体）[n=4,247]



図表 114 はじめて親と離れた時の年齢（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=4,247]



はじめて親と離れて暮らした時の理由【問 26①】

問 26 では、親と離れて暮らした経験がある場合には、はじめて親と離れて暮らした理由として、「入学・進学」、「結婚・同棲」、「就職・転職・転勤」、「親からの自立・独立」、「住宅事情や通勤通学の便など」、「その他」の 6 つの項目に分けて、それらがあてはまるかどうかをたずねました。全体では、「入学・進学」が 36.7%、「結婚・同棲」が 25.8%、「就職・転職・転勤」が 24.9%、「親からの自立・独立」が 11.1%、「住宅事情や通勤通学の便など」が 4.9%、「その他」が 2.9%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に、「入学・進学」についてみると、[男性]（41.5%）よりも[女性]（33.0%）で低く、「男性・女性にあてはまらない」（46.2%）で高く、[シスジェンダー]（36.8%）よりも[トランスジェンダー]（50.0%）で高く、「異性愛者」（37.5%）よりも「同性愛者・両性愛者」（29.9%）で低く、「無性愛者」（47.2%）で高くなっています。

「結婚・同棲」についてみると、[男性]（14.4%）よりも[女性]（34.9%）で高く、「男性・女性にあてはまらない」（7.7%）で低く、[シスジェンダー]（25.8%）よりも[トランスジェンダー]（5.6%）で低く、「異性愛者」（26.2%）よりも「同性愛者・両性愛者」（15.6%）と「無性愛者」（5.6%）で低くなっています。

「就職・転職・転勤」についてみると、[男性]（32.5%）よりも[女性]（18.6%）で高く、「男性・女性にあてはまらない」（38.5%）で低く、[シスジェンダー]（24.8%）と[トランスジェンダー]（27.8%）は同程度であり、「異性愛者」（24.7%）と「同性愛者・両性愛者」（27.3%）は同程度で、「無性愛者」（19.4%）で低くなっています。

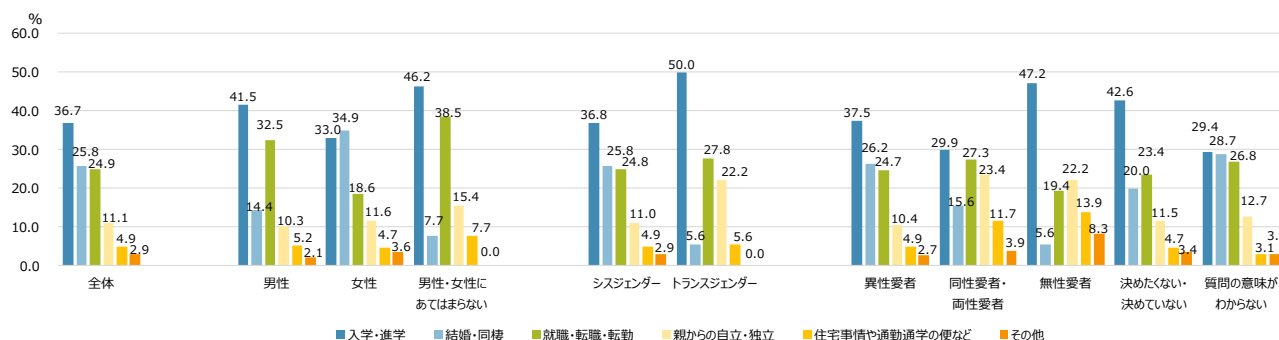
「親からの自立・独立」についてみると、[男性]（11.1%）と[女性]（10.3%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（15.4%）で高く、[シスジェンダー]（11.0%）よりも[トランスジェンダー]（22.2%）で高く、「異性愛者」（10.4%）よりも「同性愛者・両性愛者」（23.4%）と「無性愛者」（22.2%）で高く、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

「住宅事情や通勤通学の便など」についてみると、[男性]（5.2%）と[女性]（4.7%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（7.7%）で高く、[シスジェンダー]（4.9%）よりも[トランスジェンダー]（5.6%）で高く、「異性愛者」（4.9%）よりも「同性愛者・両性愛者」（11.7%）と「無性愛者」（13.9%）で高く、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

「その他」についてみると、[男性]（2.1%）と[女性]（3.6%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（0.0%）で低く、[シスジェンダー]（2.9%）よりも[トランスジェンダー]（0.0%）で高く、「異性愛者」（2.7%）よりも「同性愛者・両性愛者」（3.9%）と「無性愛者」（8.3%）で高くなっています。

図表 115 はじめて親と離れて暮らした時の理由

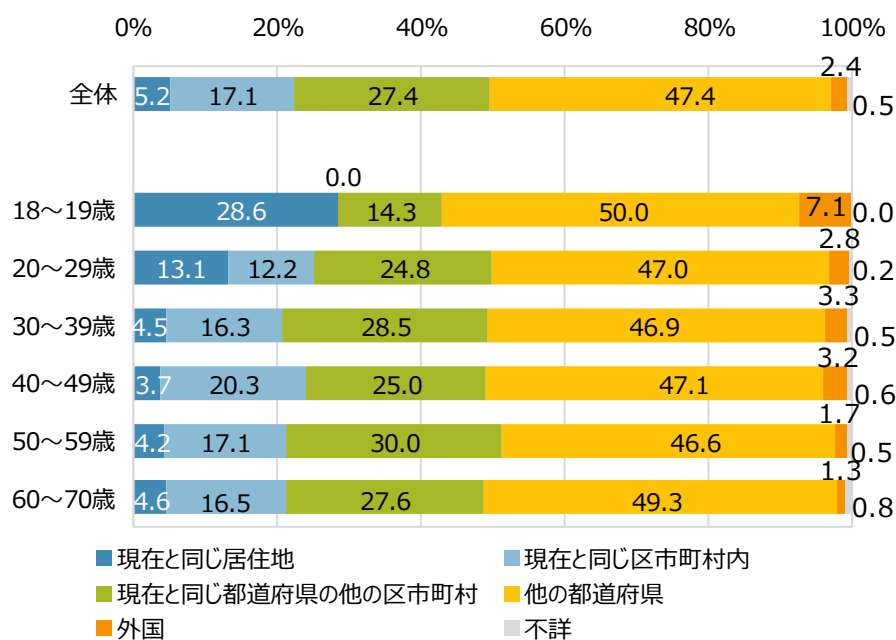
(全体、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティ別) [n=4,247、無回答 14 人]



はじめて親と離れて暮らした時の居住地【問 26②】

問 26 では、親と離れて暮らした経験がある場合には、はじめて親と離れたときの居住地が「現在と同じ居住地」、「現在と同じ市区町村内」、「現在と同じ都道府県の他の区市町村」、「他の都道府県」、「外国」のいずれであるのかをたずねました。全体では、「現在と同じ居住地」が 5.2%、「現在と同じ市区町村内」が 17.1%、「現在と同じ都道府県の他の区市町村」が 27.4%、「他の都道府県」が 47.4%、「外国」が 2.4%でした。

図表 116 はじめて親と離れて暮らした時の居住地（全体、年齢別） [n=4,247]



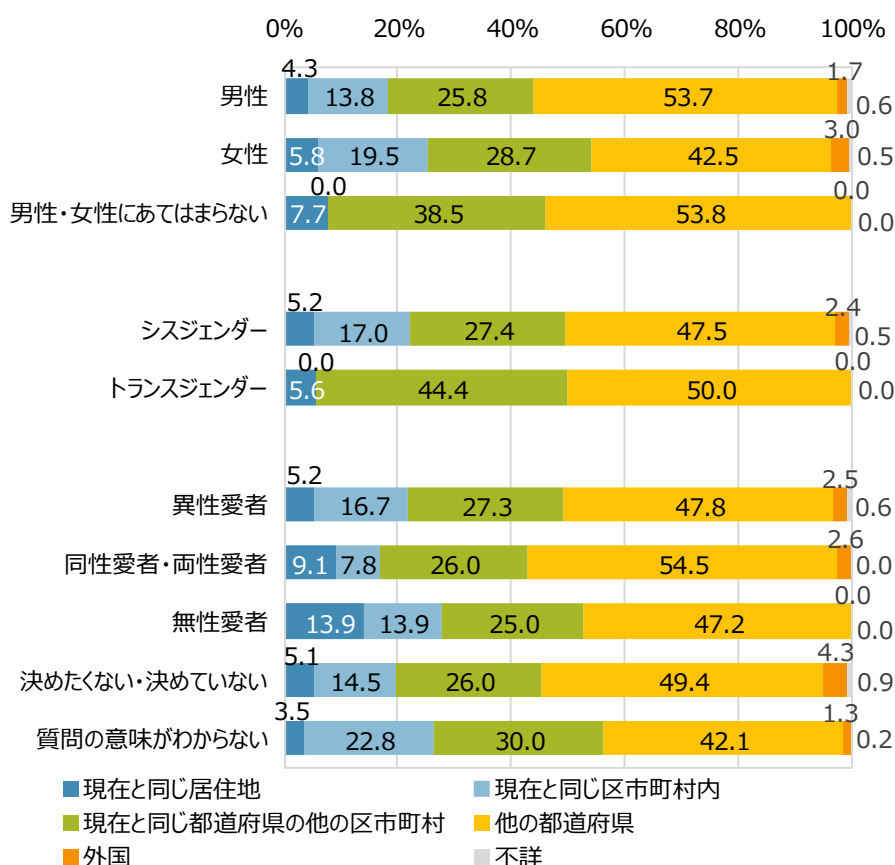
自認する性別では、〔女性〕の「現在と同じ居住地」（5.8%）、「現在と同じ区市町村内」（19.5%）、「現在と同じ都道府県の他の区市町村」（28.7%）は〔男性〕（それぞれ 4.3%、13.8%、25.8%）よりも高いのに対し、「他の都道府県」は〔女性〕（42.5%）が〔男性〕（53.7%）より少ないですが、「外国」は〔女性〕（3.0%）が〔男性〕（1.7%）よりも高くなっています。「男性・女性にあてはまらない」では、〔男性〕と〔女性〕に比べ、「現在と同じ居住地」（7.7%）や「現在と同じ都道府県の他の区市町村」（38.5%）が高くなっています。

シス・トランス別にみると、「現在と同じ都道府県の他の区市町村」が〔シスジェンダー〕（27.4%）よりも〔トランスジェンダー〕（44.4%）で高く、「現在と同じ区市町村内」は〔シスジェンダー〕（17.0%）よりも〔トランスジェンダー〕（0.0%）で高くなっていました。

性的指向アイデンティティ別にみると、「異性愛者」に比べて、「同性愛者・両性愛者」では「現在と同じ居住地」（8.1%）と「他の都道府県」（54.5%）で高く、「現在と同じ区市町村内」（7.8%）で低くなっており、「無性愛者」では「現在と同じ居住地」（13.9%）で高く、「現在と同じ区市町村内」（13.9%）で低くなっています。

図表 117 はじめて親と離れて暮らした時の居住地

（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）〔n=4,247〕

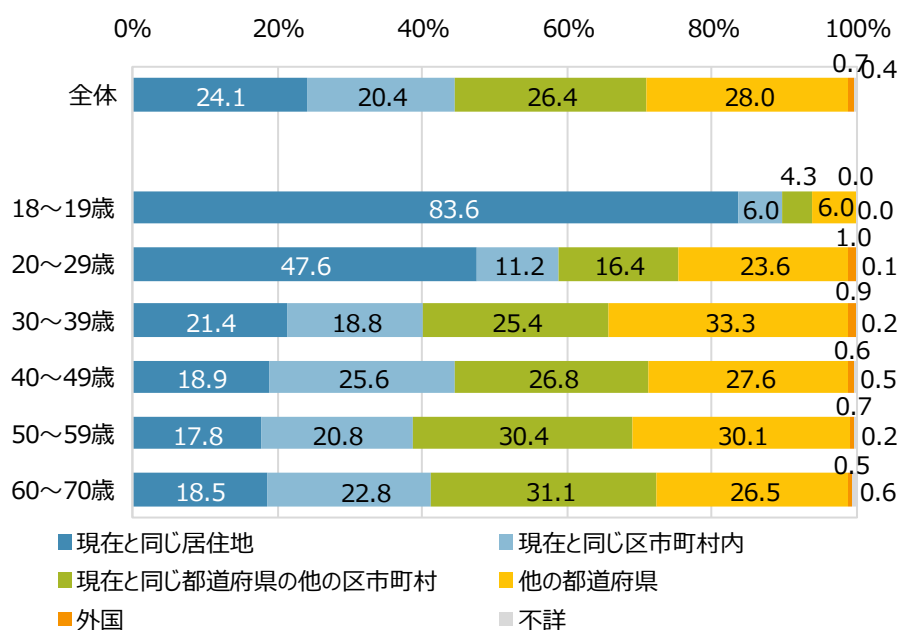


中学校卒業時点での居住地【問 27】

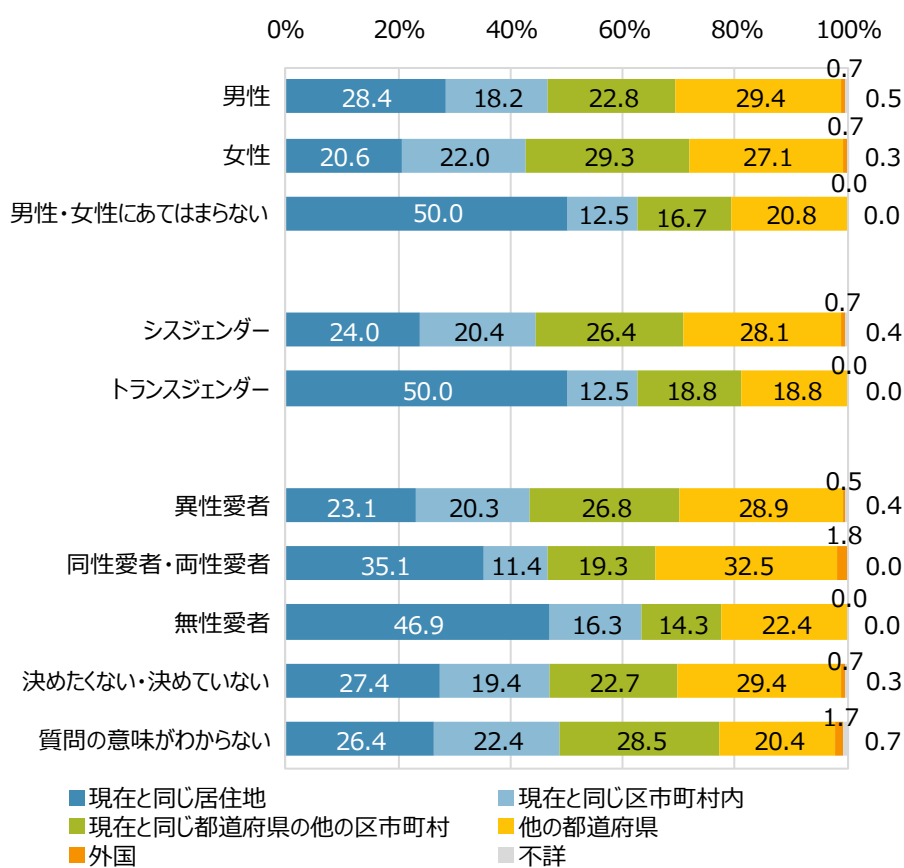
問 27 では、中学校を卒業した時点の居住地について、「現在と同じ居住地」、「現在と同じ市区町村内」、「現在と同じ都道府県他の区市町村」、「他の都道府県」、「外国」のいずれであるのかをたずねました。全体では、「現在と同じ居住地」が 24.1%、「現在と同じ市区町村内」が 20.4%、「現在と同じ都道府県他の区市町村」が 26.4%、「他の都道府県」が 28.0%、「外国」が 0.7%でした。

年齢別にみると、「現在と同じ居住地」が 10 代（83.6%）や 20 代（47.6%）で多数を占めますが、40 代以上では「現在と同じ都道府県他の区市町村」、「他の都道府県」がそれぞれ 20%～30%程度となっています。

図表 118 中学校を卒業したときの居住地（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 119 中学校を卒業したときの居住地（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



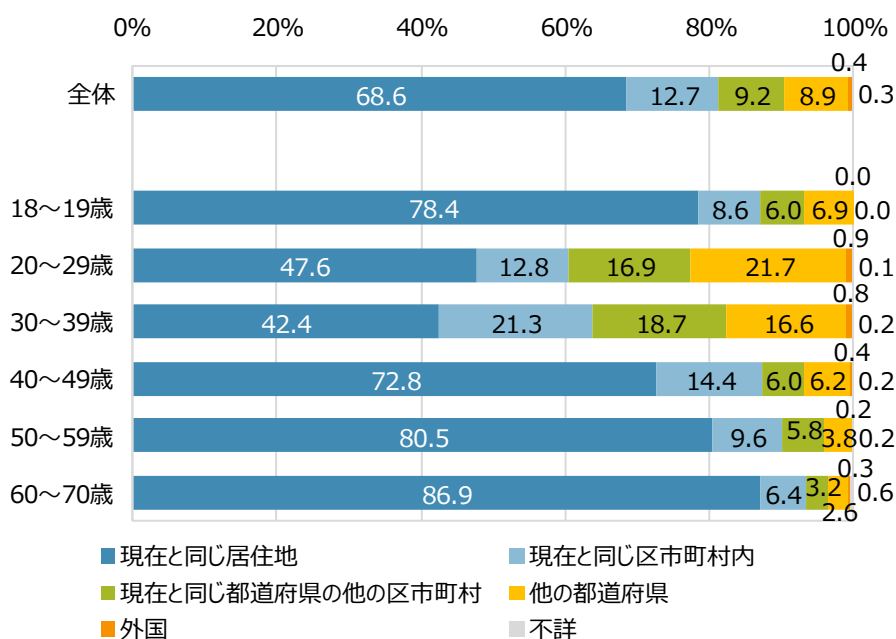
5 年前の居住地【問 28】

問 28 では、5 年前の居住地について、「現在と同じ居住地」、「現在と同じ市区町村内」、「現在と同じ都道府県の他の区市町村」、「他の都道府県」、「外国」のいずれであるのかをたずねました。全体では、「現在と同じ居住地」が 68.6%、「現在と同じ市区町村内」が 12.7%、「現在と同じ都道府県の他の区市町村」が 9.2%、「他の都道府県」が 8.9%、「外国」が 0.4%でした。

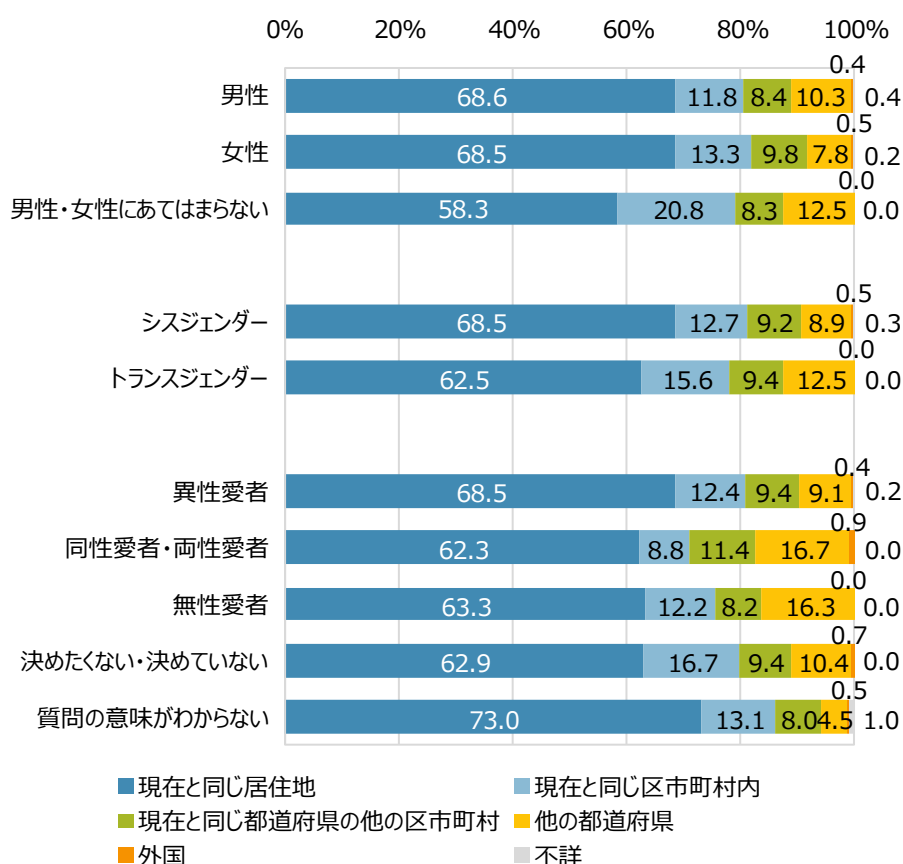
年齢別にみると、「現在と同じ居住地」については、10 代の 78.4%から 30 代の 42.4%まで低下し、40 代以上では一転して高くなり、40 代で 72.8%、50 代で 80.5%、60 代で 86.9%です。「現在と同じ居住地」以外で 10%を超えるのは、20 代の「他の都道府県」（21.7%）、「現在と同じ都道府県の他の区市町村」（16.9%）、「現在と同じ市区町村内」（12.8%）、30 代の「現在と同じ市区町村内」（21.3%）、「現在と同じ都道府県の他の区市町村」（18.7%）、「他の都道府県」（16.6%）、40 代の「現在と同じ市区町村内」（14.4%）です。20 代や 30 代では、直近 5 年間で人口移動が生じやすく、20 代のほうが 30 代よりも遠方から人口移動する傾向にあります。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「現在と同じ居住地」については、[男性]（68.6%）や [女性]（68.5%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（58.3%）で低く、[シスジェンダー]（68.5%）よりも [トランスジェンダー]（62.5%）で低く、「異性愛者」（68.5%）よりも「同性愛者・両性愛者」（62.3%）と「無性愛者」（63.3%）で低くなっています。それとともに、「他の都道府県」については、[男性]（10.3%）や [女性]（7.8%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（12.5%）で高く、[シスジェンダー]（8.9%）よりも [トランスジェンダー]（12.5%）で高く、「異性愛者」（9.1%）よりも「同性愛者・両性愛者」（16.7%）と「無性愛者」（16.3%）で高くなっています。性的マイノリティの回答者で、直近 5 年間で人口移動が生じやすく、とくに都道府県境界を超える人口移動が生じやすい傾向がみられました。

図表 120 5 年前の居住地（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 121 5 年前の居住地（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



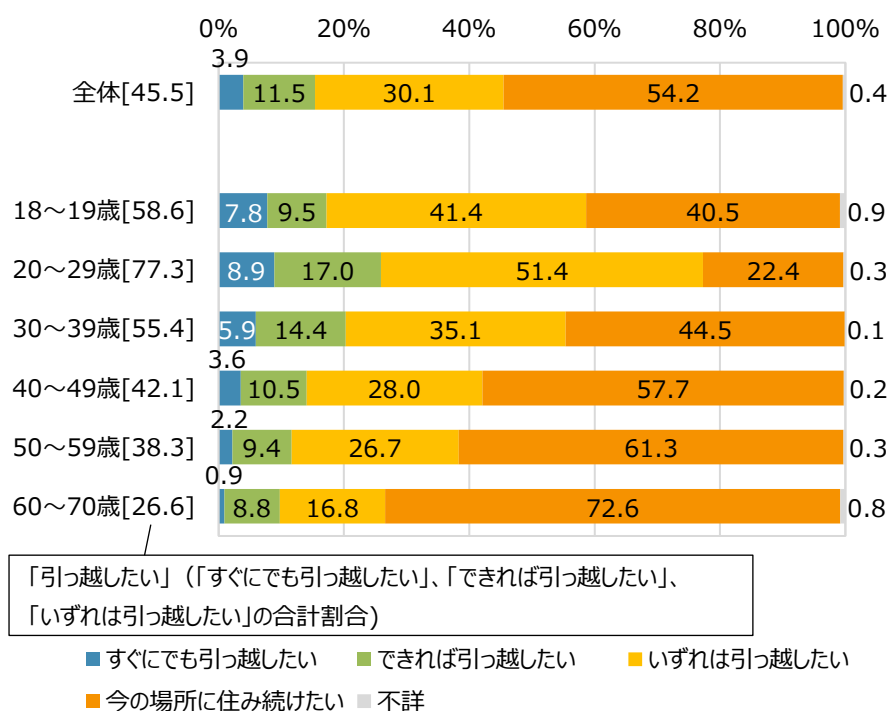
今後の引っ越しの希望【問 62】

問 62 では、現在の住まいから引っ越したいかどうかをたずねました。「すぐにでも引っ越したい」、「できれば引っ越したい」、「いずれは引っ越したい」の3つをまとめて「引っ越したい」とすると（図表上では各カテゴリーのあとに [] で表記）、全体では、「引っ越したい」が半数弱の 45.5%、「今の場所に住み続けたい」が 54.2%です。

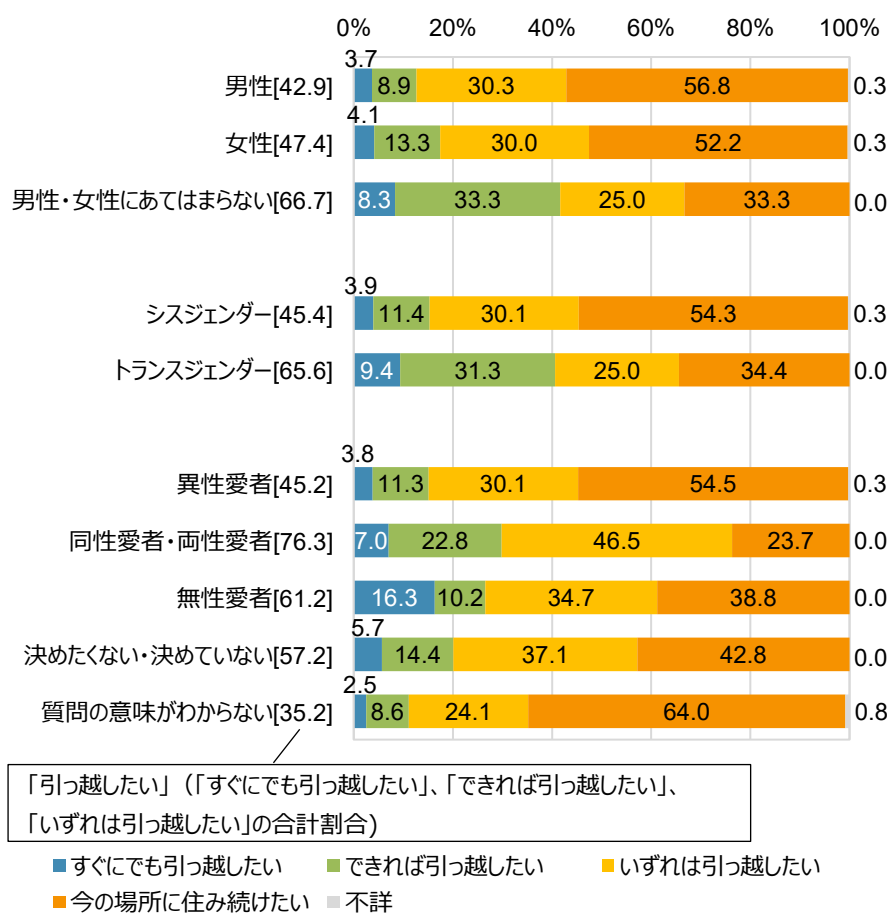
年齢別にみると、「引っ越したい」は 10 代で 58.6%、20 代で 77.3%、30 代で 55.4%とそれぞれ半分を超えており、40 代以上は年齢が上がるほど低く、60 代で 26.6%です。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「引っ越したい」をみると、[男性]（42.9%）と[女性]（47.4%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（66.7%）で高く、[シスジェンダー]（45.4%）よりも[トランスジェンダー]（65.6%）で高く、「異性愛者」（45.2%）よりも「同性愛者・両性愛者」（76.3%）と「無性愛者」（61.2%）で高く、性的マイノリティの回答者で高くなる傾向がみられました。

図表 122 今後の引っ越しの希望（全体、年齢別）[n=5,339]



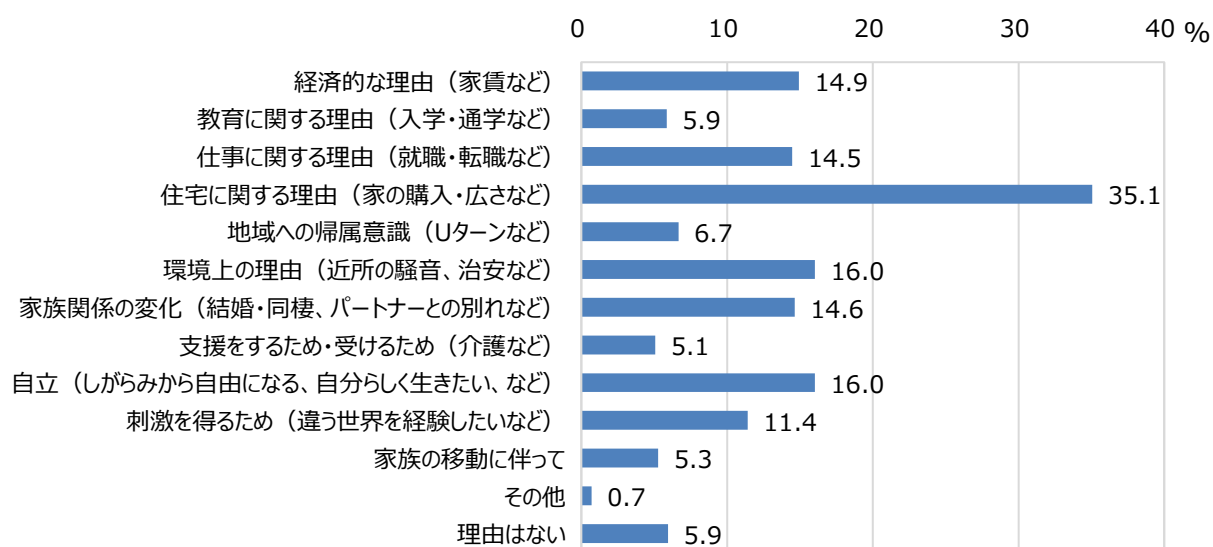
図表 123 今後の引っ越しの希望（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



引っ越したい理由【問 63】

問 63 では、問 62 で「すぐにでも引っ越したい」、「できれば引っ越したい」、「いずれは引っ越したい」のいずれかを回答した場合に、「経済的な理由（家賃など）」から「理由はない」までの 13 項目の引っ越したい理由がそれぞれあてはまるのかどうかをたずねました。全体では、「住宅に関する理由（家の購入・広さなど）」がもっとも高い 35.1%、続いて「環境上の理由（近所の騒音、治安など）」（16.0%）と「自立（しがらみから自由になる、自分らしく生きたい、など）」（16.0%）であり、この他に 10%を超えるものは、「経済的な理由（家賃など）」（14.9%）、「家族関係の変化（結婚・同棲、パートナーとの別れなど）」（14.6%）、「仕事に関する理由（就職・転職など）」（14.5%）、「刺激を得るため（違う世界を経験したいなど）」（11.4%）でした。

図表 124 引っ越したい理由（複数回答）[n=2,427、無回答 6 人]

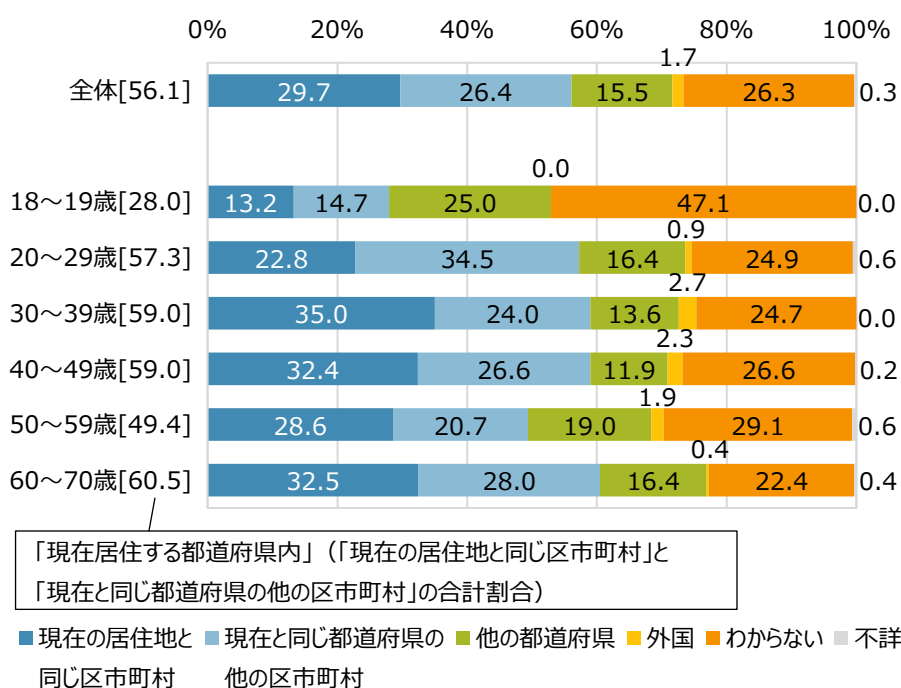


希望する引っ越し先【問 64】

問 64 では、問 62 で「すぐにでも引っ越したい」、「できれば引っ越したい」、「いずれは引っ越したい」のいずれかを回答した場合に、希望する引っ越し先をたずねました。全体では、「現在の居住地と同じ区市町村」が 29.7%、「現在と同じ都道府県」の他の区市町村」が 26.4%で、これらを合わせた「現在居住する都道府県内」（図表上では各カテゴリーのあとに〔 〕で表記）が 56.1%と半数以上を占め、次いで「他の都道府県」（15.5%）、「外国」（1.7%）、「わからない」（26.3%）です。

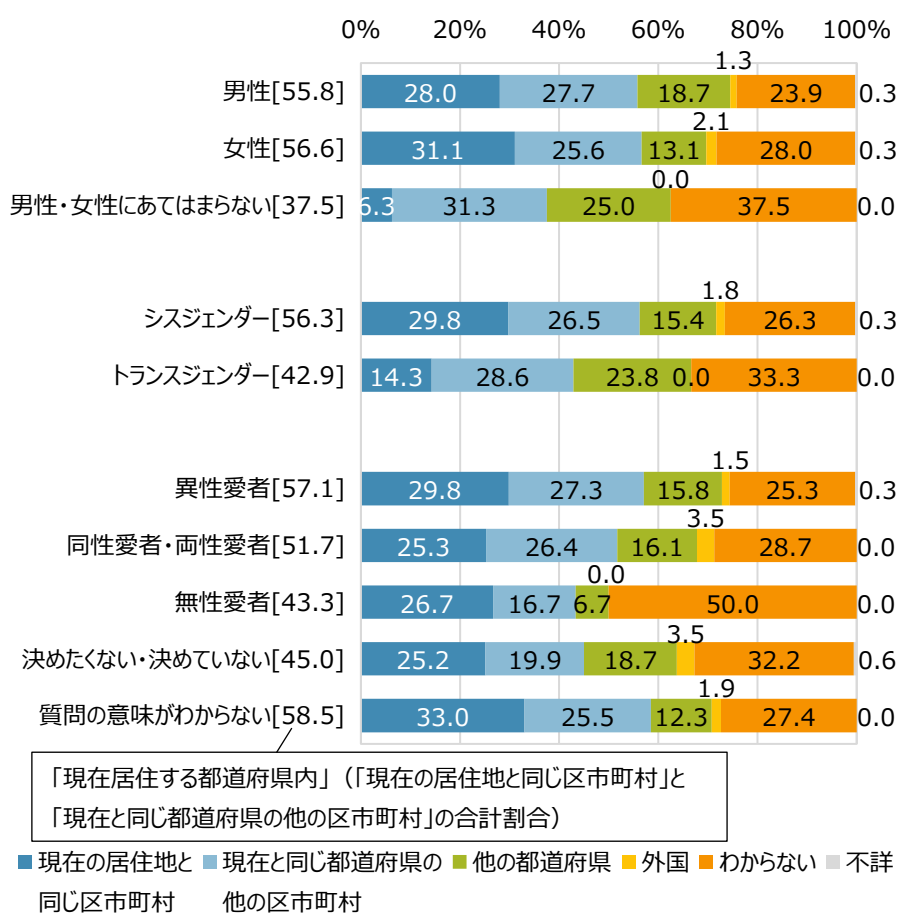
年齢別にみると、10 代では「現在居住する都道府県内」（28.0%）が低いのに対し、「他の都道府県」（25.0%）や「わからない」（47.1%）が高くなっています。20 代以上では、50 代を除いて、「現在居住する都道府県内」が 60%前後で「わからない」が 25%前後で、おおむね類似した構成であるのに対し、50 代では、「現在居住する都道府県内」（49.4%）がやや低く、「他の都道府県」（19.0%）と「わからない」（29.1%）でやや高くなっています。

図表 125 希望する引っ越し先（全体、年齢別）〔n=2,427〕



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、性的マイノリティの回答者で「現在の居住地と同じ市区町村」が低く、「わからない」が高くなる傾向がみられました。「現在の居住地と同じ市区町村」では、〔男性〕（28.0%）と〔女性〕（31.1%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（6.3%）で低く、〔シスジェンダー〕（29.8%）よりも〔トランスジェンダー〕（14.3%）で低く、「異性愛者」（29.8%）よりも「同性愛者・両性愛者」（25.3%）と「無性愛者」（26.7%）で低いのに対し、「わからない」では、〔男性〕（23.9%）と〔女性〕（28.0%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（37.5%）で高く、〔シスジェンダー〕（26.3%）よりも〔トランスジェンダー〕（33.3%）で低く、「異性愛者」（25.3%）よりも「同性愛者・両性愛者」（28.7%）と「無性愛者」（50.0%）で高くなっています。

図表 126 希望する引っ越し先（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=2,427]

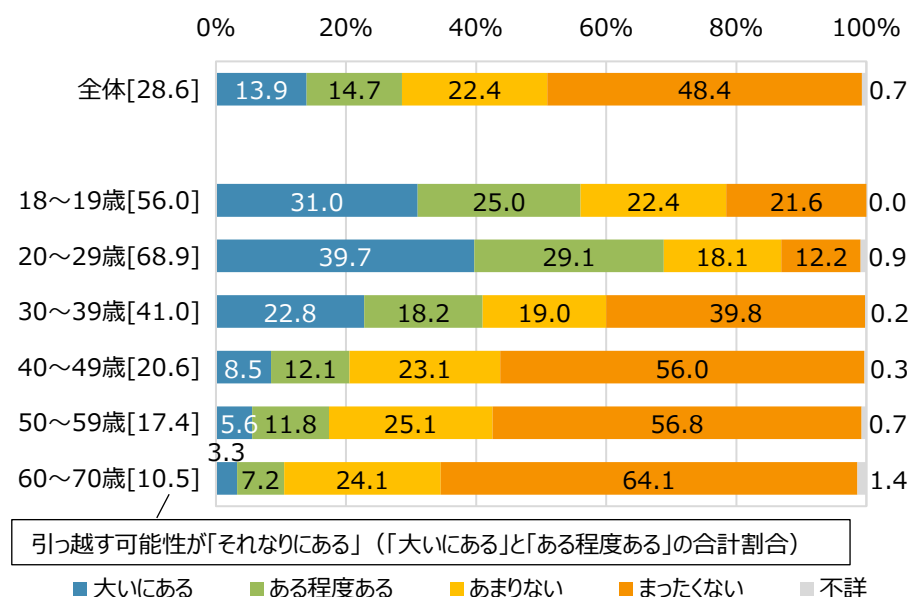


5年以内に引っ越す可能性【問 65】

問 65 では、これから5年以内に引っ越す可能性があるかどうかをたずねました。全体では、「大いにある」が 13.9%、「ある程度ある」が 14.7%、「あまりない」が 22.4%、「まったくない」が 48.4%です。「大いにある」と「ある程度ある」を合わせた5年以内に引っ越す可能性が「それなりにある」のは 28.6%（図表上では各カテゴリーのあとに [] で表記）でした。

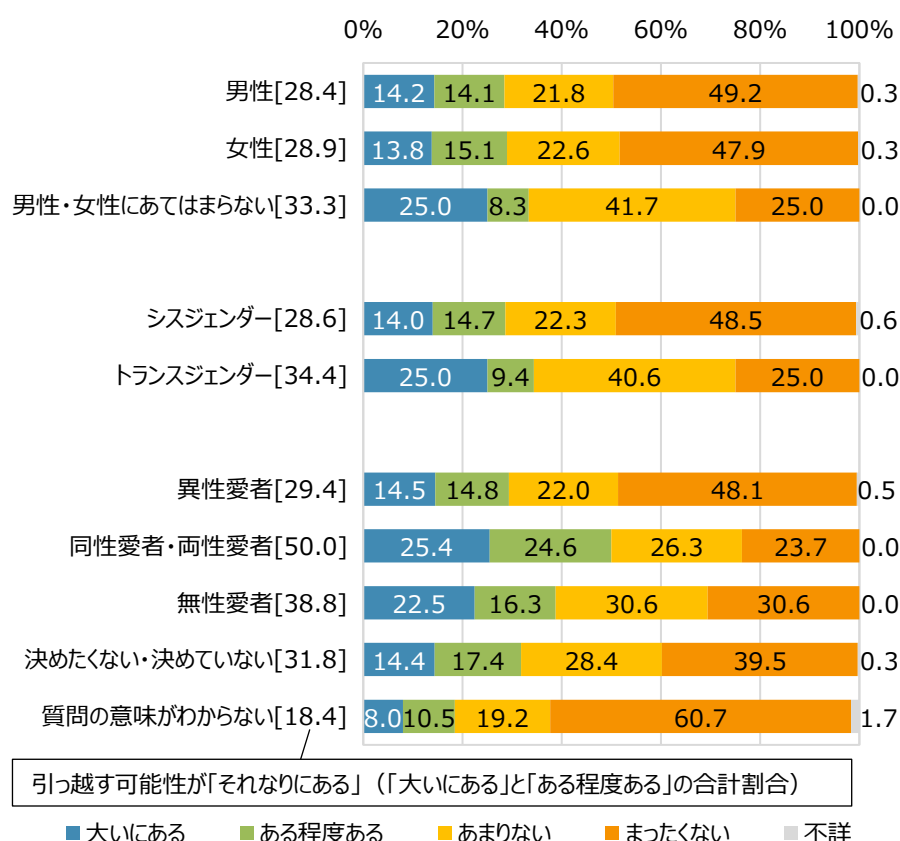
年齢別にみると、5年以内に引っ越す可能性が「それなりにある」のは 20 代の 68.9%、10 代の 56.0%でいずれも半数を超えますが、30 代以上では 30 代の 41.0%から 60 代の 10.5%へと年齢が上がるにつれて低下します。対照的に、「まったくない」は 20 代以上では 20 代の 12.2%から 60 代の 64.1%へと年齢が上がるにつれて高くなります。

図表 127 5年以内に引っ越す可能性（全体、年齢別） [n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、性的マイノリティの回答者で「まったくない」が低く、「あまりない」が高くなる傾向がみられました。「まったくない」では、[男性]（49.2%）と[女性]（47.9%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（25.0%）で低く、[シスジェンダー]（48.5%）よりも[トランスジェンダー]（25.0%）で低く、「異性愛者」（48.1%）よりも「同性愛者・両性愛者」（23.7%）と「無性愛者」（30.6%）で低いのに対し、「あまりない」では、[男性]（21.8%）と[女性]（22.6%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（41.7%）で高く、[シスジェンダー]（22.3%）よりも[トランスジェンダー]（40.6%）で低く、「異性愛者」（22.0%）よりも「同性愛者・両性愛者」（26.3%）と「無性愛者」（30.6%）で高くなっています。

図表 128 5年以内に引っ越す可能性（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



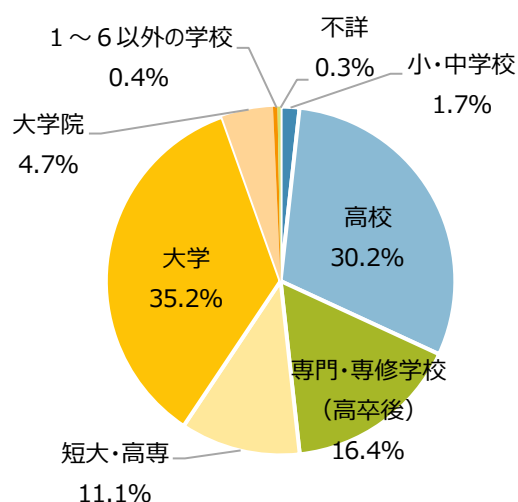
最後に通った（または現在通っている）学校【問 29】

問 29（1）では、回答者の「最後に通った（または現在通っている）学校」をたずねました。全体では、「大学」がもっとも高い 35.2%、次いで「高校」の 30.2%、「専門・専修学校（高卒後）」の 16.4%、「短大・高専」の 11.1%の順でした。

年齢別にみると、「大学」または「大学院」は 10 代で 32.8%、20 代で 57.9%、30 代で 51.1%、40 代で 37.8%、50 代で 31.7%、60 代で 30.8%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「大学」または「大学院」は、[男性] では 49.7%、[女性] では 32.7%、「男性・女性にあてはまらない」では 41.7%、[シスジェンダー] では 40.1%、[トランスジェンダー] では 46.9%、「異性愛者」では 42.0%、「同性愛者・両性愛者」では 49.1%、「無性愛者」では 44.9%でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

図表 129 最後に通った（または現在通っている）学校の分布（全体）[n=5,339]



問 29（2）では、最後に通った学校を卒業したのか、中退なのか、在学中なのかをたずねました。全体では、「中退した」は、「小・中学校」で 6.5%、「高校」で 7.1%、「専門・専修学校（高卒後）」で 7.0%、「短大・高専」で 2.5%、「大学」で 3.8%、「大学院」で 6.7%です（図表は省略）。

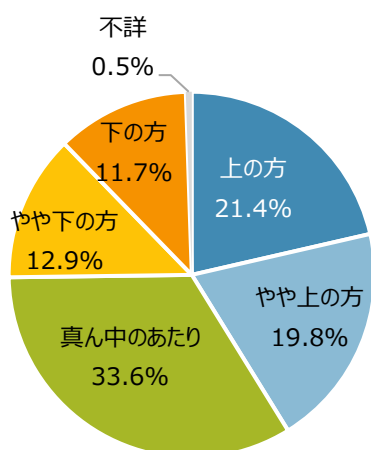
中学 3 年生の頃の成績【問 30】

問 30 では、中学 3 年生の頃の成績を、「上の方」、「やや上の方」、「真ん中のあたり」、「やや下の方」、「下の方」の 5 段階でたずねました。全体では、もっとも高いのは約 3 分の 1 である「真ん中のあたり」（33.6%）で、「上の方」と「やや上の方」は約 2 割（それぞれ 21.4%、19.8%）、「下の方」と「やや下の方」が 1 割強（それぞれ 11.7%、12.9%）でした。

年齢別にみると、「上の方」については、10 代で 27.6%、20 代で 21.3%、30 代で 21.7%、40 代で 20.5%、50 代で 19.7%、60 代で 23.7%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「上の方」については〔男性〕で 23.3%、〔女性〕で 20.2%、「男性・女性にあてはまらない」人で 16.7%、〔シスジェンダー〕で 21.5%、〔トランスジェンダー〕で 25.0%、「異性愛者」で 23.0%、「同性愛者・両性愛者」で 28.9%、「無性愛者」で 18.4%でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

図表 130 中学 3 年生の頃の成績の分布（全体）[n=5,339]

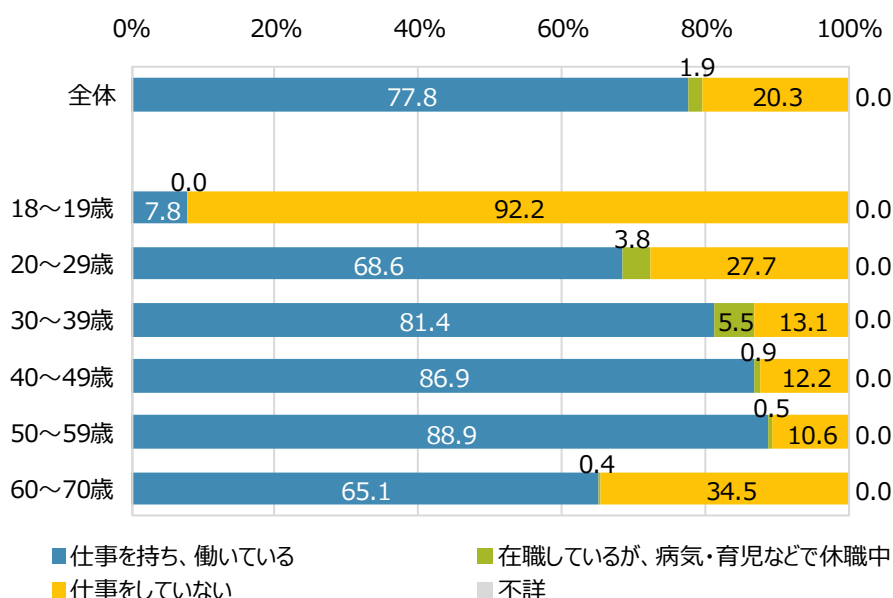


9 仕事と働き方

就業状況【問 1】

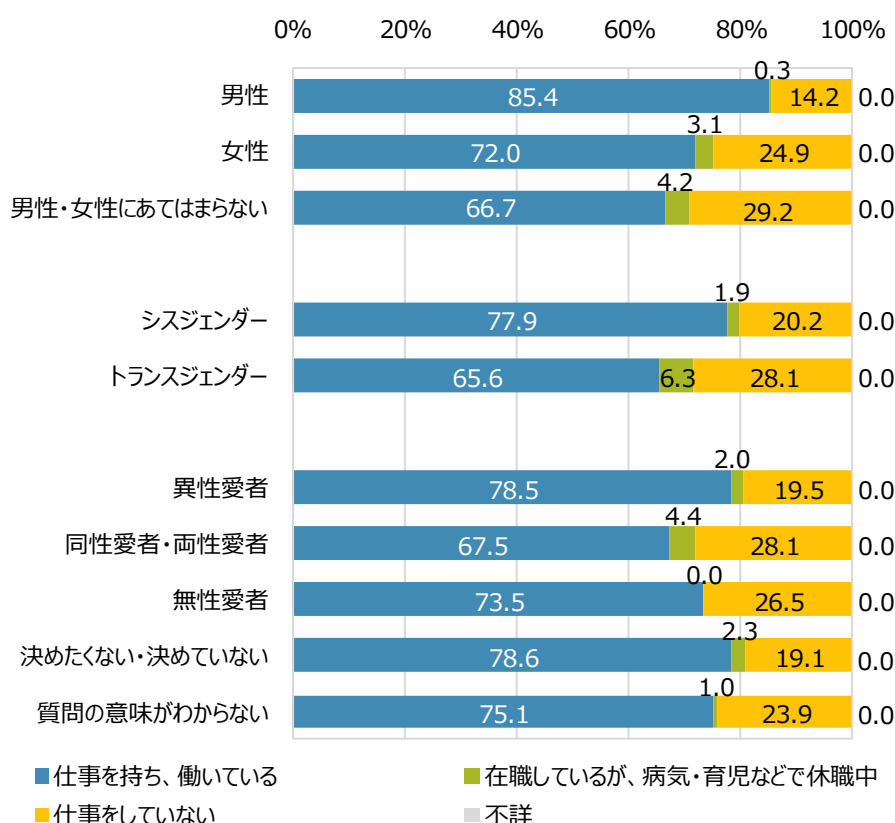
問 1 では、就業状況についてたずねました。全体では、「仕事を持ち、働いている」が 77.8%、「在職しているが、病気・育児などで休職中」が 1.9%、「仕事をしていない」が 20.3%でした。年齢別にみると、「仕事を持ち、働いている」が 10 代では 7.8%と低いものの、30 代～50 代で高く（それぞれ 81.4%、86.9%、88.9%）、20 代と 60 代では 6 割を超える 68.6%と 65.6%です。

図表 131 就業状況の分布（全体、年齢別）[n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「仕事を持ち、働いている」については、[男性]（85.4%）よりも[女性]（72.0%）と「男性・女性にあてはまらない」（66.7%）で低く、[トランスジェンダー]（65.6%）よりも[シスジェンダー]（77.9%）で高く、「異性愛者」（78.5%）や「無性愛者」（73.5%）で「同性愛者・両性愛者」（67.5%）より低くなっています。

図表 132 就業状況の分布（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



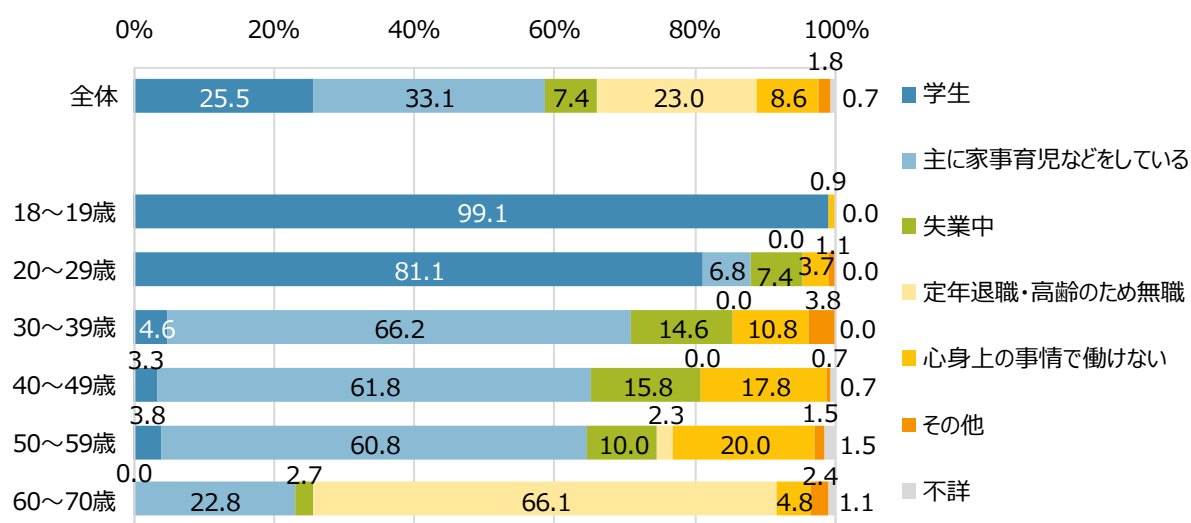
仕事をしていない理由【問 1①】

問 1 では、「仕事をしていない」と答えた場合には、その理由もたずねました。全体では、「主に家事育児などをしている」が 33.1%でもっとも高く、次いで「学生」、「定年退職・高齢のため無職」がそれぞれ 25.5%、23.0%でした。「心身上の事情で働けない」、「失業中」はそれぞれ 8.6%、7.4%でした。

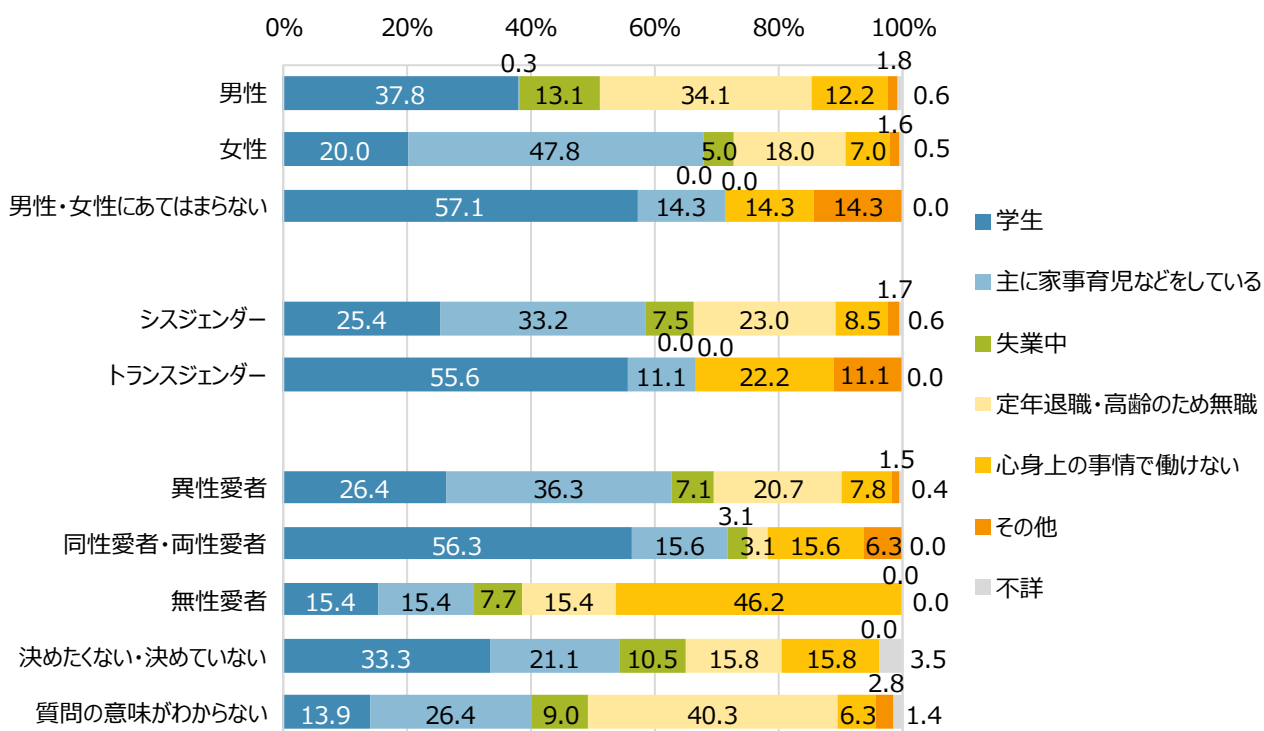
年齢別にみると、10 代と 20 代では「学生」がそれぞれ 99.1%、81.1%でもっとも高い一方で、30 代、40 代、50 代では「主に家事育児などをしている」がそれぞれ 66.2%、61.8%、60.8%でもっとも高くなっています。60 代では、「定年退職・高齢のため無職」が 3 人に 2 人に相当する 66.1%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「学生」については、[男性]（37.8%）および「男性・女性にあてはまらない」（57.1%）よりも[女性]（20.0%）で低く、[シスジェンダー]（25.4%）よりも[トランスジェンダー]（55.6%）で高く、「異性愛者」（26.4%）よりも「無性愛者」（15.4%）で低く、「同性愛者・両性愛者」（56.3%）で高くなっています。「心身上の事情で働けない」については、[女性]（7.0%）よりも[男性・女性にあてはまらない]（14.3%）と[男性]（12.2%）で高く、[シスジェンダー]（8.5%）よりも[トランスジェンダー]（22.2%）で高く、「異性愛者」（7.8%）よりも「同性愛者・両性愛者」（15.6%）と「無性愛者」（46.2%）で高くなっています。「主に家事育児などをしている」については、[男性]（0.3%）および「男性・女性にあてはまらない」（14.3%）よりも[女性]（47.8%）、[トランスジェンダー]（11.1%）よりも[シスジェンダー]（33.2%）で高く、「同性愛者・両性愛者」（15.6%）と「無性愛者」（15.4%）よりも「異性愛者」（36.3%）で高くなっています。

図表 133 仕事をしていない理由の分布（全体、年齢別）[n=1,083]



図表 134 仕事をしていない理由の分布（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=1,083]

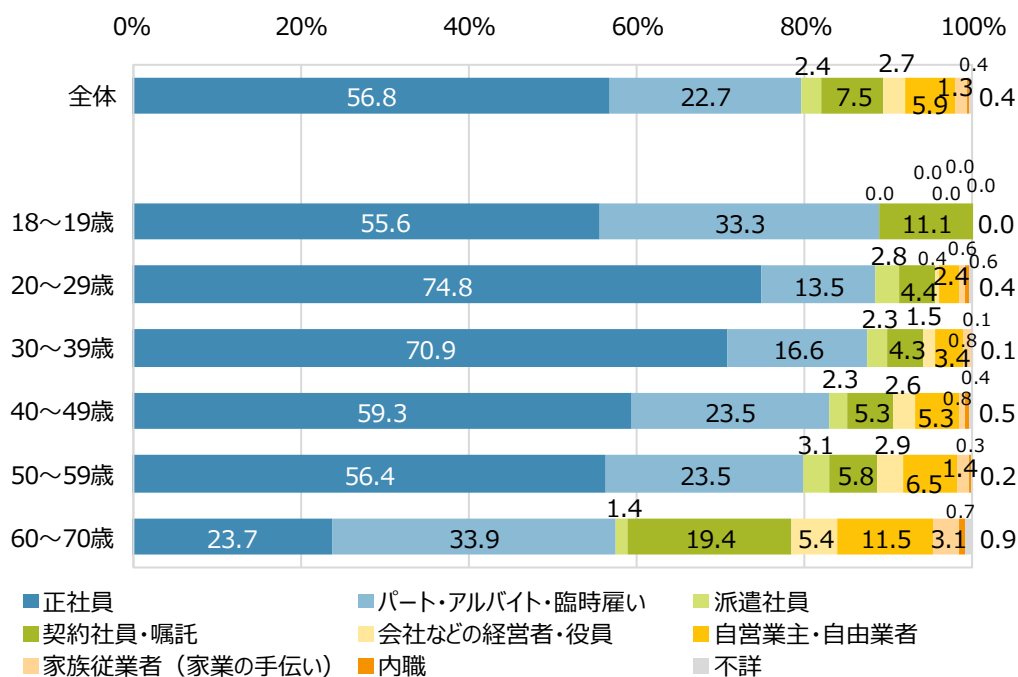


従業上の地位【問 2】

問 2 では、問 1 で「仕事を持ち、働いている」または「在職しているが、病気・育児などで休職中」の場合に、従業上の地位をたずねました。「正社員」が 56.8%でもっとも高く、以下、「パート・アルバイト・臨時雇い」の 22.7%、「契約社員・嘱託」の 7.5%、「自営業者・自由業者」の 5.9%の順でした。

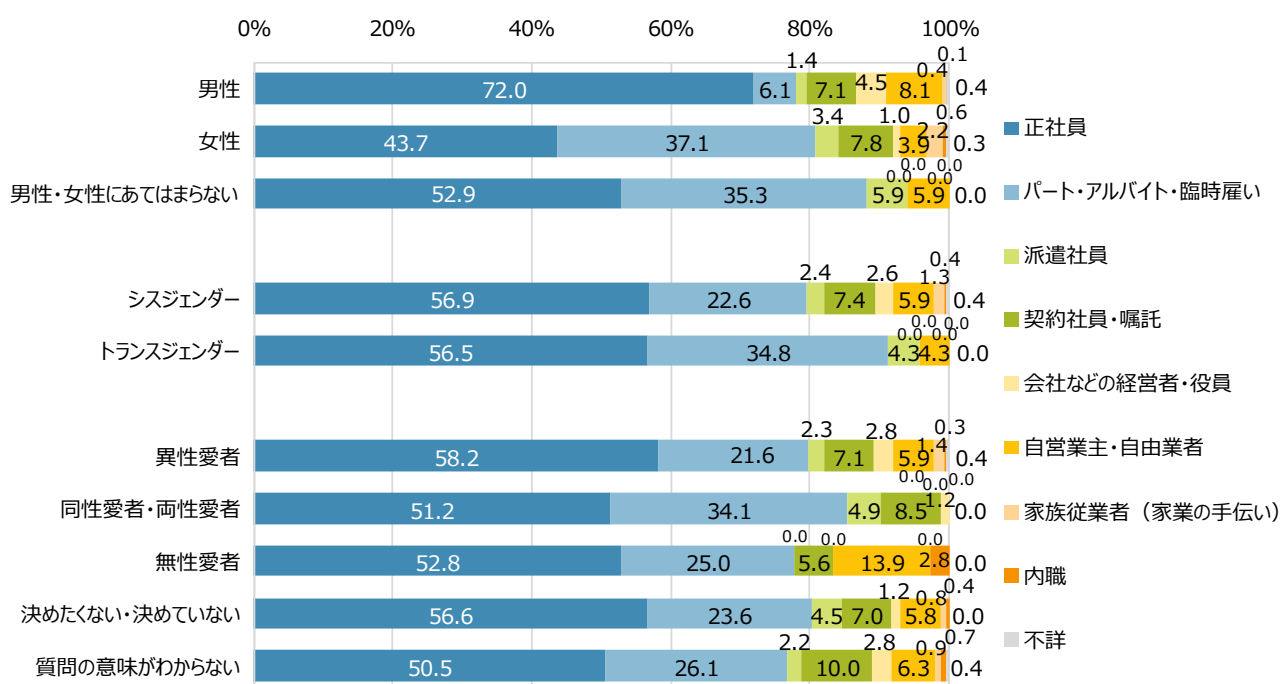
年齢別にみると、「正社員」については、20 代と 30 代では 7 割を超え（それぞれ 74.8%、70.9%）、10 代と 40 代、50 代では 5 割を超えるのに対し（それぞれ 55.6%、59.3%、56.4%）、60 代では 23.7%です。60 代では、他の年齢に比べて、「パート・アルバイト・臨時雇い」（33.9%）、「契約社員・嘱託」（19.4%）、「自営業者・自由業者」（11.5%）などで高くなっています。

図表 135 従業上の地位の分布（全体、年齢別）[n=4,257]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「正社員」については、[男性]（72.0%）よりも[女性]（43.7%）と「男性・女性にあてはまらない」（52.9%）で低く、[シスジェンダー]（56.9%）と[トランスジェンダー]（56.5%）でほぼ同じ、「異性愛者」（21.6%）よりも「同性愛者・両性愛者」（51.2%）と「無性愛者」（52.8%）でやや低くなっています。「パート・アルバイト・臨時雇い」については、[男性]（6.1%）よりも[女性]（37.1%）と「男性・女性にあてはまらない」（35.3%）で高く、[シスジェンダー]（22.6%）よりも[トランスジェンダー]（34.8%）で高く、「異性愛者」（21.6%）よりも「同性愛者・両性愛者」（34.1%）と「無性愛者」（25.0%）で高くなっています。

図表 136 従業上の地位の分布（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=4,257]

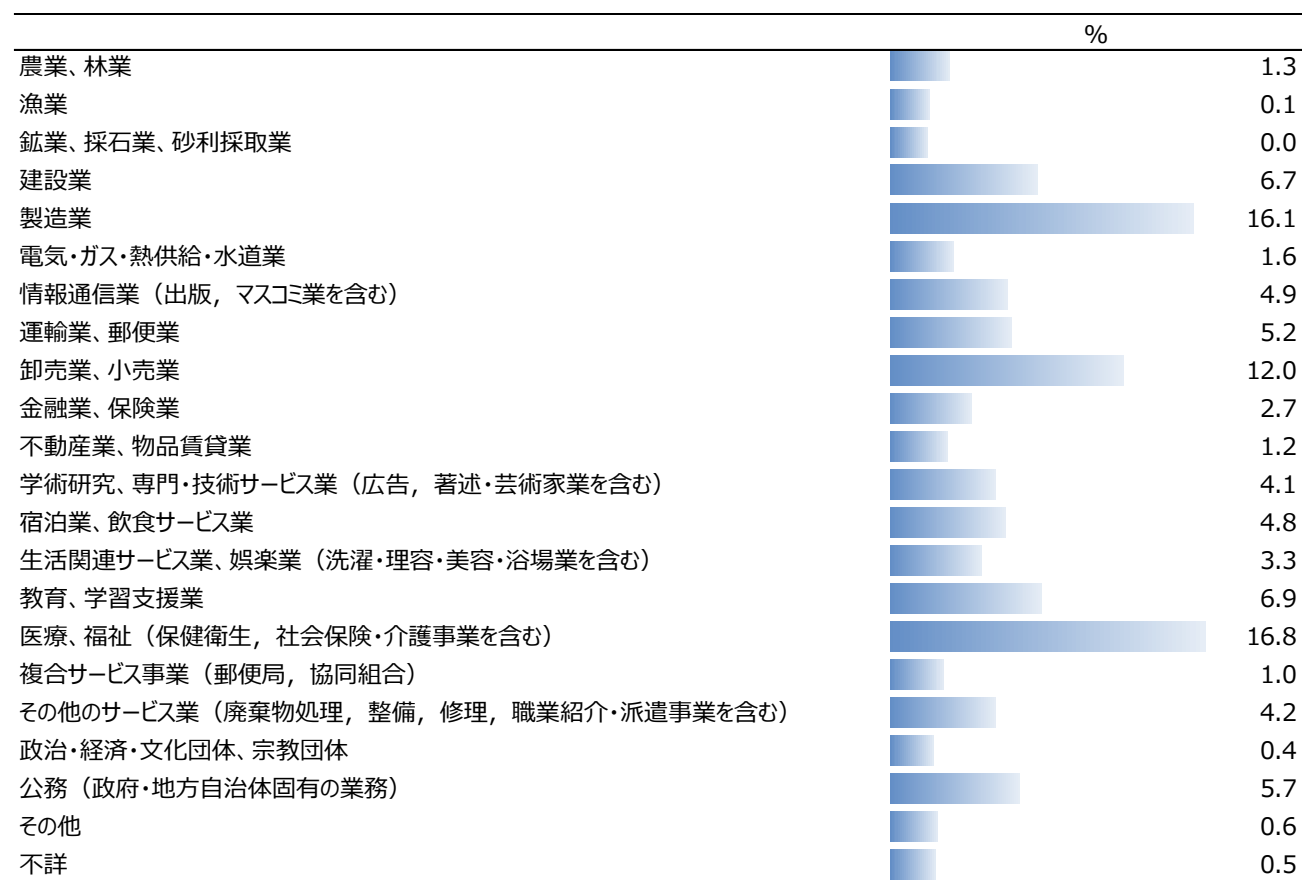


産業（勤務先の事業）【問 3】

問 3 では、問 1 で「仕事を持ち、働いている」または「在職しているが、病気・育児などで休職中」の場合に、勤め先の産業をたずねました。全体では、もっとも高かったのは「医療、福祉（保健衛生，社会保険・介護事業を含む）」（16.8%）、次に高かったのは「製造業」（16.1%）でした。

年齢別にみると、もっとも高いのは、10代では「宿泊業、飲食サービス業」および「生活関連サービス業、娯楽業（洗濯・理容・美容・浴場業を含む）」（いずれも 22.2%）、20代～40代では「医療、福祉（保健衛生，社会保険・介護事業を含む）」（それぞれ 18.7%、18.6%、18.3%）、50代と 60代では「製造業」（いずれも 16.2%）です（年齢別の図表は省略）。

図表 137 産業（勤務先の事業）の分布（全体）[n=4,257]

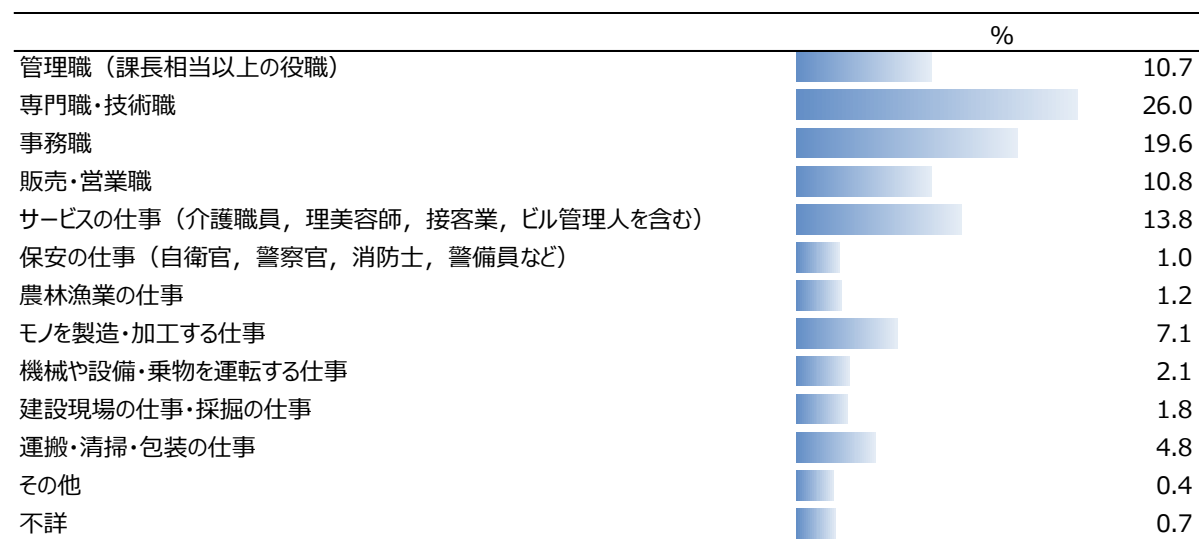


職業（職種）【問 4】

問 4 では、問 1 で「仕事を持ち、働いている」または「在職しているが、病気・育児などで休職中」の場合に、勤め先での職業（職種）をたずねました。全体では、もっとも高かったのは「専門職・技術職」（26.0%）、次に高かったのは「事務職」（19.6%）でした。

年齢別にみると、もっとも高いのは、10 代では「サービスの仕事（介護職員，理美容師，接客業，ビル管理人を含む）」（55.6%）、20 代～60 代では「専門職・技術職」（それぞれ 35.2%、28.6%、26.4%、22.8%、21.2%）でした（年齢別の図表は省略）。

図表 138 職業（職種）の分布（全体）[n=4,257]

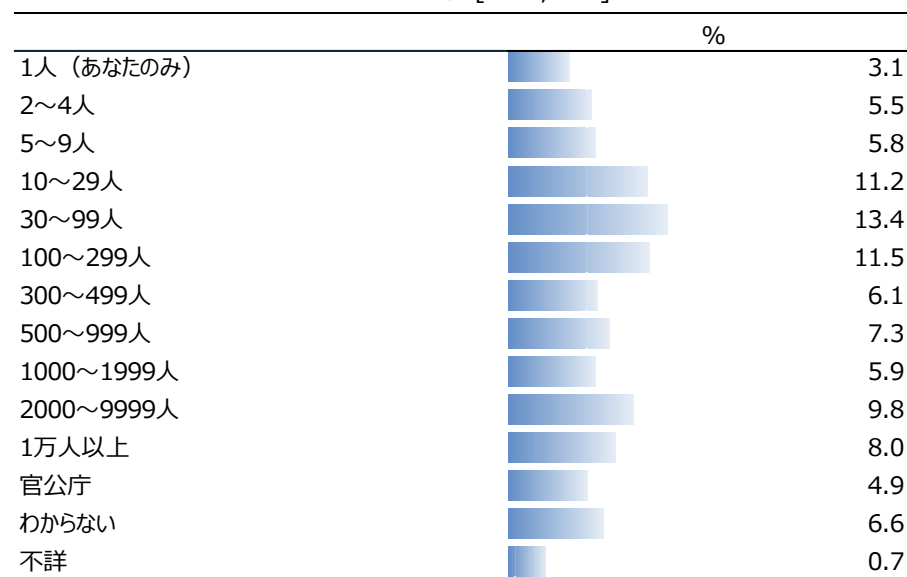


勤務先の規模【問 5】

問 5 では、問 1 で「仕事を持ち、働いている」または「在職しているが、病気・育児などで休職中」の場合に、勤務先の規模をたずねました。全体では、もっとも高かったのは「30～99 人」（13.4%）、次いで「100～299 人」（11.5%）、「10～29 人」（11.2%）の順でした。

年齢別にみると、もっとも高いのは、10 代では「500～999 人」（33.3%）、20 代では「2000～9999 人」（14.1%）、30 代～60 代では「30～99 人」（それぞれ 12.0%、13.7%、13.1%、16.3%）でした（年齢別の図表は省略）。

図表 139 勤務先の規模の分布（全体）[n=4,257]



勤務先における役職【問 6】

問 6 では、問 1 で「仕事を持ち、働いている」または「在職しているが、病気・育児などで休職中」の場合に、勤務先での役職をたずねました。もっとも高かったのは「役職なし」（69.3%）、次に高かったのは「職長・班長・組長など」（7.9%）でした。

年齢別にみると、全ての年齢で「役職なし」がもっとも高く、特に 10 代では 100%（全員）でした。「社長、重役、役員、理事」については、20 代では 1.2%、30 代では 2.2%、40 代では 4.8%、50 代では 5.6%、60 代では 11.1%でした（年齢別の図表は省略）。

図表 140 勤務先における役職の分布（全体）[n=4,257]

	%
役職なし	69.3
職長・班長・組長など	7.9
係長（係長相当）	6.3
課長（課長相当）	6.7
部長（部長相当）	3.0
社長、重役、役員、理事	5.1
その他の役職	1.0
不詳	0.8

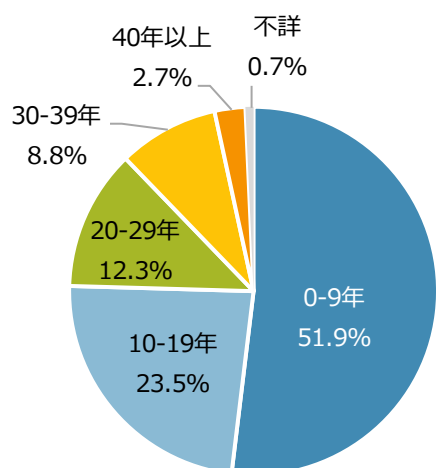
勤続年数【問 7】

問 7 では、問 1 で「仕事を持ち、働いている」または「在職しているが、病気・育児などで休職中」の場合に、現在の会社・組織における勤続年数をたずねました。全体では、もっとも高いのが「0-9 年」（51.9%）で、次いで「10-19 年」（23.5%）、「20-29 年」（12.3%）の順でした。

年齢別にみると、「0-9 年」については、10 代で 100.0%、20 代で 97.6%、30 代で 64.4%、40 代で 45.5%、50 代で 36.7%、60 代で 37.2%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「0-9 年」については、[男性] で 40.7%、[女性] で 61.9%、「男性・女性にあてはまらない」人で 76.5%、[シスジェンダー] で 52.0%、[トランスジェンダー] で 69.6%、「異性愛者」で 51.8%、「同性愛者・両性愛者」で 72.0%、「無性愛者」で 61.1%でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

図表 141 勤続年数の分布（全体）[n=4,257]



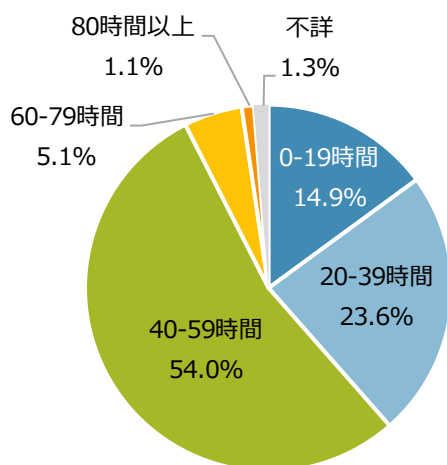
週あたりの労働時間【問 8】

問 8 では、問 1 で「仕事を持ち、働いている」または「在職しているが、病気・育児などで休職中」の場合に、週あたりの労働時間をたずねました。全体では、「40-59 時間」が 54.0%でもっとも多く、次いで「20-39 時間」（23.6%）、「0-19 時間」（14.9%）の順でした。

年齢別にみると、「40-59 時間」については、10 代で 33.3%、20 代で 65.0%、30 代で 58.4%、40 代で 53.5%、50 代で 55.3%、60 代で 39.9%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「40-59 時間」については、〔男性〕で 68.3%、〔女性〕で 41.6%、「男性・女性にあてはまらない」人で 58.8%、〔シスジェンダー〕で 54.1%、〔トランスジェンダー〕で 60.9%、「異性愛者」で 55.3%、「同性愛者・両性愛者」で 53.7%、「無性愛者」で 66.7%でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

図表 142 週労働時間の分布（全体）[n=4,257]



休職・無職の経験【問 9】

問 9 では、休職および無職の経験があるのかどうかについて、「心身の病気やケガで休職したこと」、「産前産後休業や育児休業を取得したこと」、「介護休業を取得したこと」、「失業や退職後、無職でいたこと」、「他の理由の休職や無職」、「休職や無職の経験はない」の 6 項目に分けて、それらがあてはまるかどうかをたずねました。

全体では、「休職や無職の経験はない」（46.9％）を除くと、高い項目から順に並べると、「失業や退職後、無職でいたこと」（31.6％）、「心身の病気やケガで休職したこと」（18.6％）、「産前産後休業や育児休業を取得したこと」（13.8％）、「他の理由の休職や無職」（4.0％）、「介護休業を取得したこと」（1.0％）です。

年齢別にみると、「失業や退職後、無職でいたこと」については、10 代では 0.9％、20 代では 16.1％、30 代では 31.5％、40 代では 37.2％、50 代では 34.3％、60 代では 35.7％でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「失業や退職後、無職でいたこと」については、〔男性〕で 24.0％、〔女性〕で 37.7％、「男性・女性にあてはまらない」人で 29.2％、〔シスジェンダー〕で 31.7％、〔トランスジェンダー〕で 21.9％、「異性愛者」で 31.5％、「同性愛者・両性愛者」で 37.2％、「無性愛者」で 47.9％でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

図表 143 休職・無職経験の分布（全体）[n=5,258]（複数回答）

	%
心身の病気やケガで休職したこと	18.6
産前産後休業や育児休業を取得したこと	13.8
介護休業を取得したこと	1.0
失業や退職後、無職でいたこと	31.6
他の理由の休職や無職	4.0
1 ～ 5 のような経験はない	46.9

仕事で得た収入（年収）【問 10】

問 10 では、昨年 1 年間に主な仕事で得た収入をたずねました。全体では、もっとも多かったのは「100 万円未満」（14.3%）、次いで「100～200 万円未満」（13.2%）、「仕事で得た収入はなかった」（12.7%）、「200～300 万円未満」（12.7%）でした。

年齢別にみると、「仕事で得た収入はなかった」については、10 代で 53.4%、20 代で 6.8%、30 代で 9.3%、40 代で 9.3%、50 代で 8.3%、60 代で 24.0%でした。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「仕事で得た収入はなかった」については、[男性] で 7.1%、[女性] で 17.1%、「男性・女性にあてはまらない」で 16.7%、[シスジェンダー] で 12.7%、[トランスジェンダー] で 15.6%、「異性愛者」で 12.7%、「同性愛者・両性愛者」で 14.0%、「無性愛者」で 12.2%でした（年齢別、自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の図表は省略）。

図表 144 仕事で得た収入の分布（全体）[n=5,339]

	%		%
仕事で得た収入はなかった	12.7	1 0 0 0 ～ 1 1 0 0 万円未満	1.4
1 0 0 万円未満	14.3	1 1 0 0 ～ 1 2 0 0 万円未満	0.6
1 0 0 ～ 2 0 0 万円未満	13.2	1 2 0 0 ～ 1 3 0 0 万円未満	0.4
2 0 0 ～ 3 0 0 万円未満	12.7	1 3 0 0 ～ 1 4 0 0 万円未満	0.3
3 0 0 ～ 4 0 0 万円未満	11.4	1 4 0 0 ～ 1 5 0 0 万円未満	0.2
4 0 0 ～ 5 0 0 万円未満	10.0	1 5 0 0 ～ 1 6 0 0 万円未満	0.1
5 0 0 ～ 6 0 0 万円未満	6.6	1 6 0 0 ～ 1 7 0 0 万円未満	0.1
6 0 0 ～ 7 0 0 万円未満	4.9	1 7 0 0 ～ 1 8 0 0 万円未満	0.1
7 0 0 ～ 8 0 0 万円未満	3.6	1 8 0 0 万円以上	0.4
8 0 0 ～ 9 0 0 万円未満	1.8	わからない	1.5
9 0 0 ～ 1 0 0 0 万円未満	1.8	不詳	2.0

10 経済状況

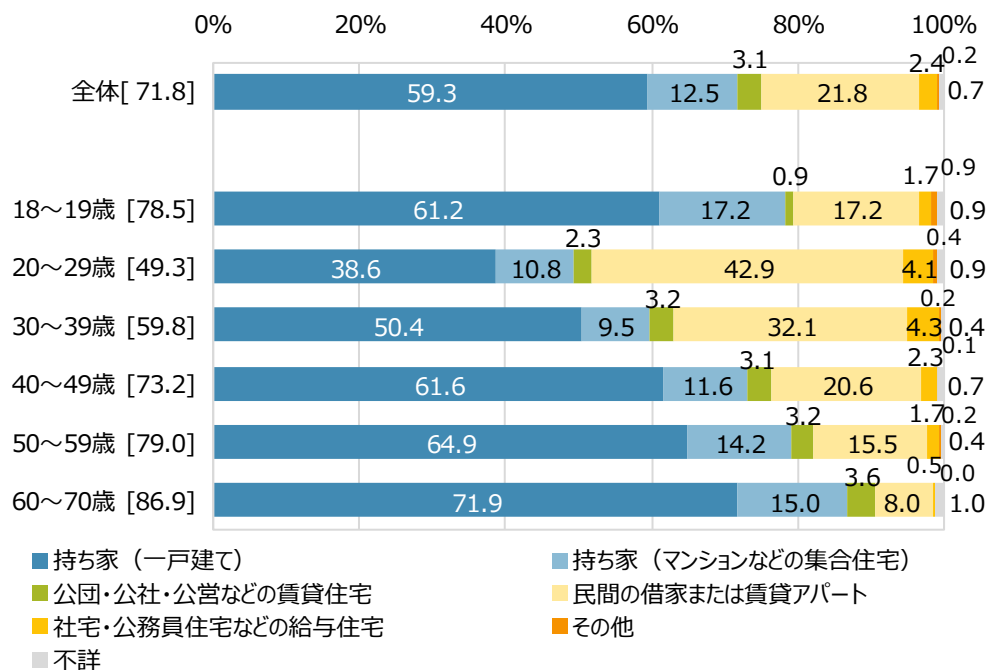
住宅【問 61】

問 61 では、現在住んでいる住宅の種類をたずねました。全体では、「持ち家（一戸建て）」が 59.3%、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」が 12.5%、「公団・公社・公営などの賃貸住宅」が 3.1%、「民間の借家または賃貸アパート」が 21.8%、「社宅・公務員住宅などの給与住宅」が 2.4%、「その他」が 0.1%です。「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（マンションなどの集合住宅）」を合わせると、「持ち家」が 71.8%（図表上では各カテゴリーのあとに [] で表記）になります。

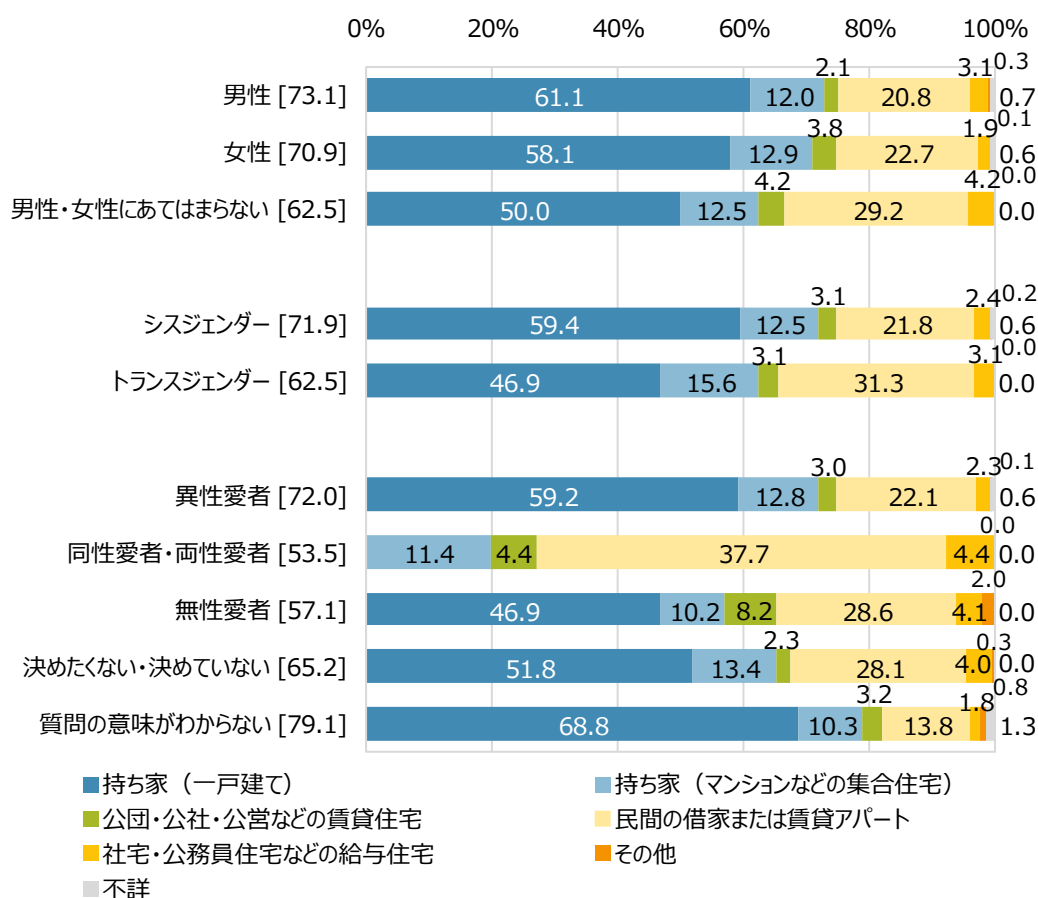
年齢別にみると、10 代では親と同居しているためあって、「持ち家」が 78.5%です。20 代では、「民間の借家または賃貸アパート」が 42.9%で、他の年齢に比べてもっとも高くなります。30 代以上では、年齢が上がるとともに「民間の借家または賃貸アパート」は低く「持ち家」は高くなり、60 代では、「持ち家」が 86.9%で、他の年齢に比べてもっとも高くなります。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、「持ち家」については、[男性]（73.1%）と[女性]（70.9%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（62.5%）で低く、[シスジェンダー]（71.9%）よりも[トランスジェンダー]（62.5%）で低く、「異性愛者」（72.0%）よりも「同性愛者・両性愛者」（53.5%）と「無性愛者」（57.1%）で低くなっています。

図表 145 住宅の種類（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 146 住宅の種類（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



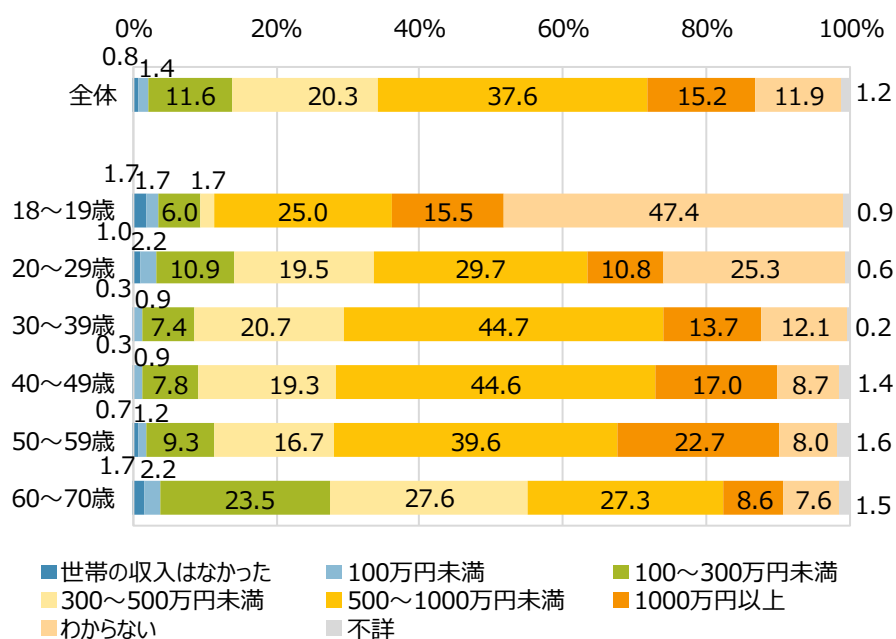
世帯収入【問 46】

問 46 では、世帯全体での収入をたずねました。ここでは、収入を「世帯の収入はなかった」、「100 万円未満」、「100～300 万円未満」、「300～500 万円未満」、「500～1000 万円未満」、「1000 万円以上」の 6 つの区分でみていきます。全体では、高い順に並べると、「500～1000 万円未満」（37.6%）、「300～500 万円未満」（20.3%）、「1000 万円以上」（15.2%）、「100～300 万円未満」（11.6%）、「100 万円未満」（1.4%）、「世帯の収入はなかった」（0.8%）の順です。

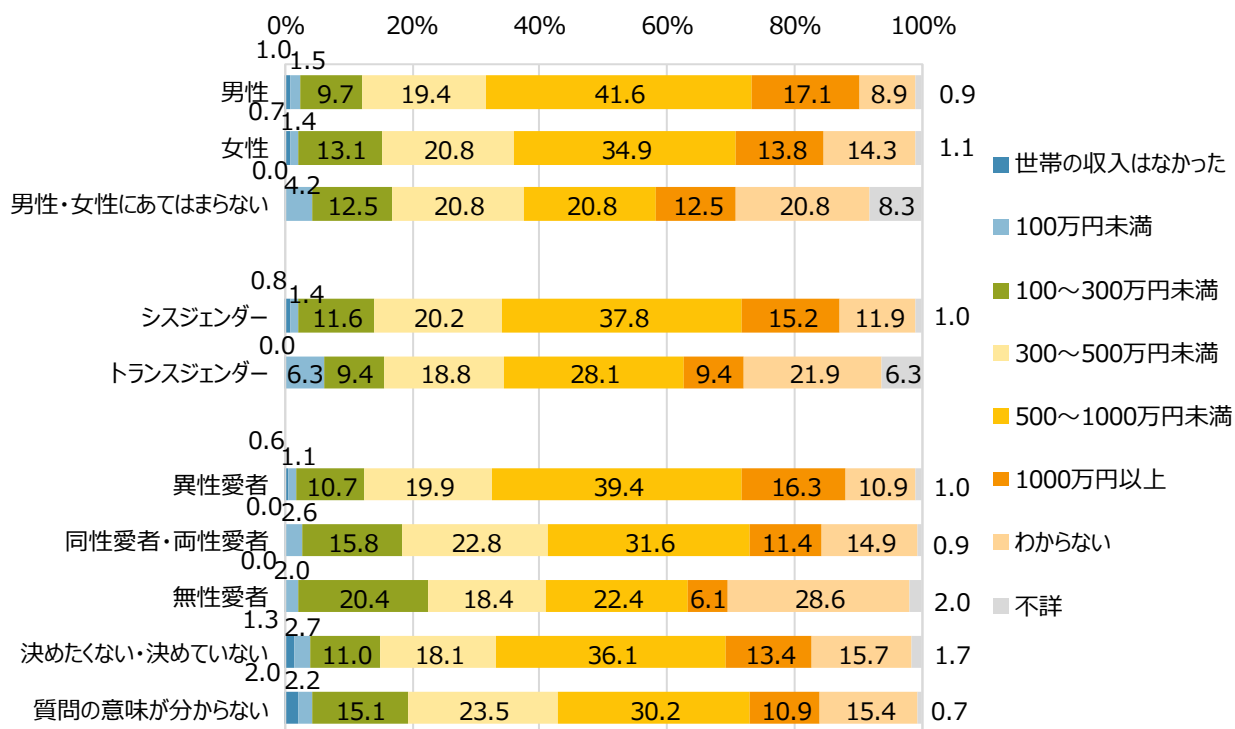
年齢別にみると、20 代～50 代については、全体と同様、「500～1000 万円未満」がもっとも高く、30 代（44.7%）と 40 代（44.6%）では、他の年齢よりもとくに高くなっています。2 番目に高いのは、20 代～40 代では「300～500 万円未満」（それぞれ 19.5%、20.7%、19.3%）、50 代では「1000 万円以上」（22.7%）です。一方、60 代では、「500～1000 万円未満」（27.3%）と「300～500 万円未満」（27.6%）が拮抗しており、これらに次ぐ「100～300 万円未満」（23.5%）も 2 割以上を占め、他の年齢層に比べ高くなっており、500 万円未満が半数以上になります。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、いずれも「500～1000 万円未満」がもっとも高くなりますが、【男性】で 41.6%、【女性】で 34.9%、「男性・女性にあてはまらない」で 20.8%、【シスジェンダー】で 37.8%、【トランスジェンダー】で 28.1%、「異性愛者」の 39.4%、「同性愛者・両性愛者」で 31.6%、「無性愛者」で 22.4%です。なお、性的マイノリティの回答者で「わからない」が高くなる傾向がみられました。

図表 147 世帯収入（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 148 世帯収入（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



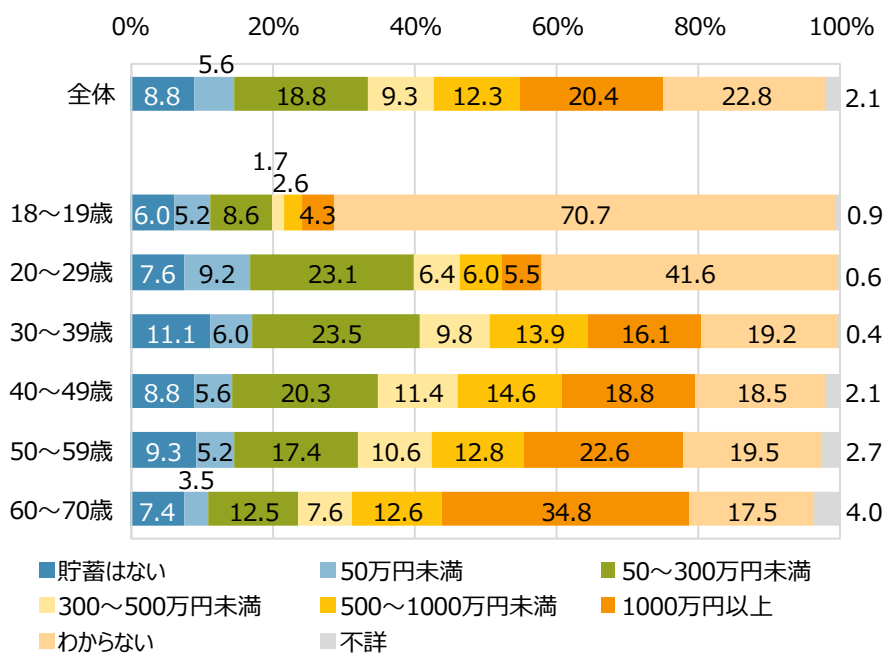
貯蓄【問 47】

問 47 では、世帯全体の貯蓄をたずねました。ここでは、貯蓄を「貯蓄はない」、「50 万円未満」、「50～300 万円未満」、「300～500 万円未満」、「500～1000 万円未満」、「1000 万円以上」の 6 つの区分でみていきます。全体では、高い順に並べると、「1000 万円以上」（20.4%）、「50～300 万円未満」（18.8%）、「500～1000 万円未満」（12.3%）、「300～500 万円未満」（9.3%）、「貯蓄はない」（8.8%）、「50 万円未満」（5.6%）の順です。

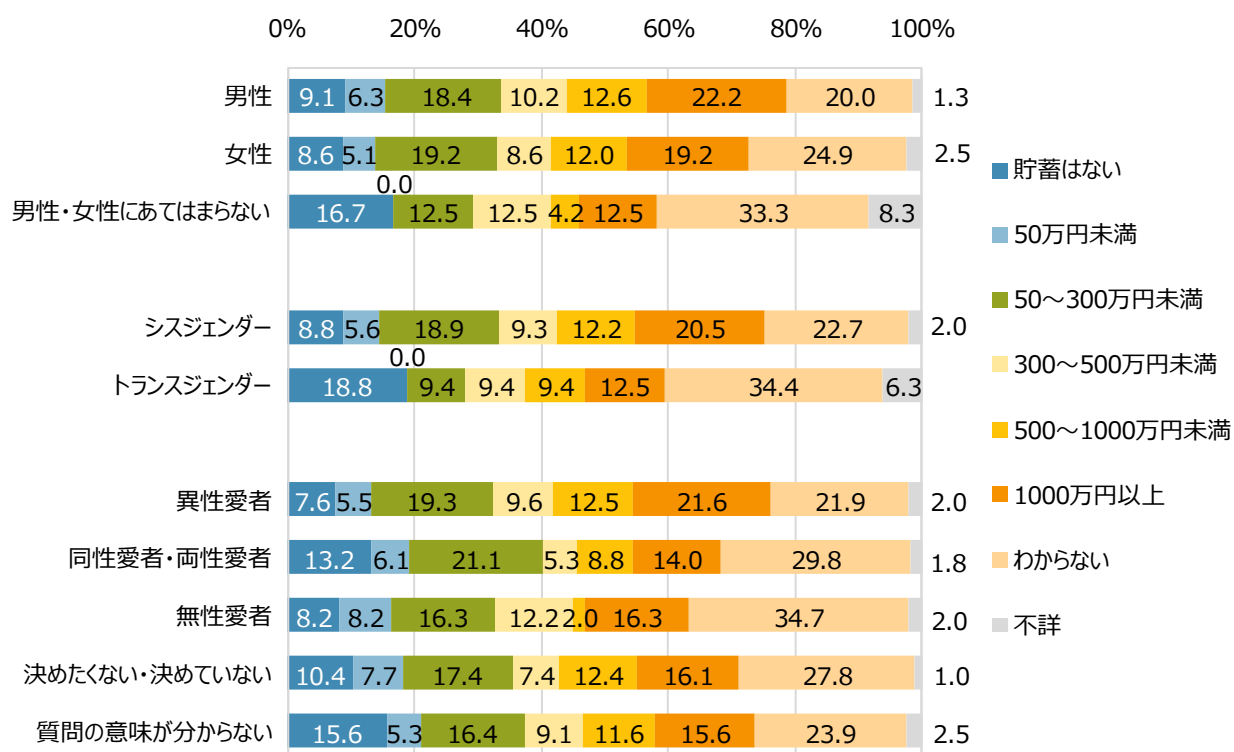
年齢別にみると、20 代では、もっとも高いのは「わからない」（41.6%）で、次いで「50～300 万円未満」（23.1%）です。30 代～60 代では、年齢が上がるにつれ「50～300 万円未満」が低くなり、「1000 万円以上」が高くなる傾向がみられ、「50～300 万円未満」は 30 代の 23.5%に対し 60 代の 12.5%、「1000 万円以上」は 30 代の 16.1%に対し 60 代の 34.8%です。また、「貯蓄はない」は、30 代以上では、年齢が上がるにつれ低くなり、30 代で 11.1%、60 代で 7.4%です。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、性的マイノリティの回答者で「貯蓄はない」が高くなる傾向がみられ、実際、[男性]（9.1%）と[女性]（6.0%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（16.7%）で高く、[シスジェンダー]（8.8%）よりも[トランスジェンダー]（18.8%）で高く、「異性愛者」（7.6%）よりも「同性愛者・両性愛者」（13.2%）と「無性愛者」（8.2%）で高くなっています。なお、性的マイノリティの回答者で「わからない」が高くなる傾向がみられました。

図表 149 貯蓄（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 150 貯蓄（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



経済的困難【問 48】

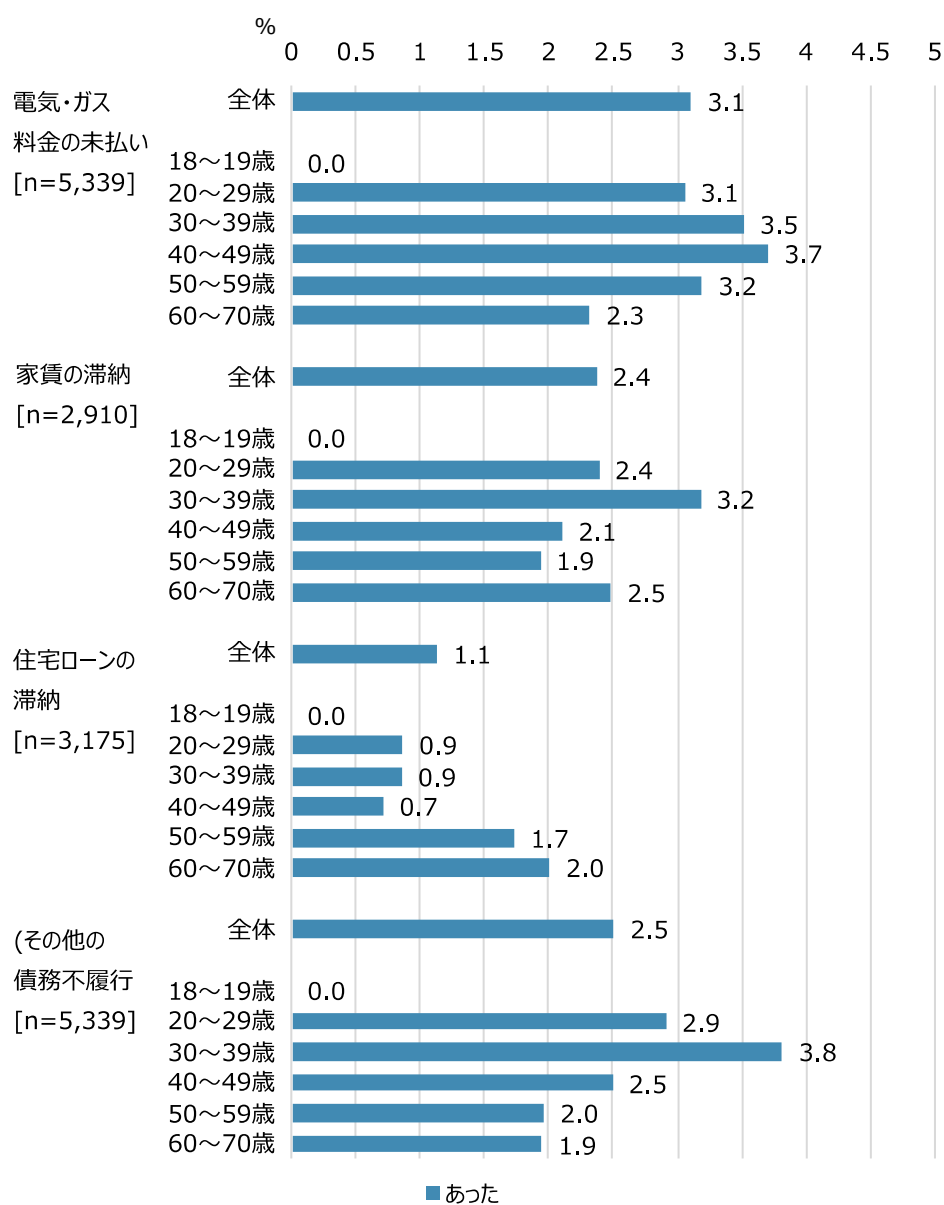
問 48 では、世帯の経済的困難について、「電気・ガス料金の未払い」、「家賃の滞納」、「住宅ローンの滞納」、「その他の債務不履行」の 4 つの項目に分けて、過去 1 年間に経済的な理由でそれらがあったのかどうかをたずねました⁶。全体では、「あった」のは、「電気・ガス料金の未払い」の 3.1%、「家賃の滞納」の 2.4%、「住宅ローンの滞納」の 1.1%、「その他の債務不履行」の 2.5%でした。なお、これら 4 項目のうち、1 つ以上「あった」のは 4.7%、2 つ以上「あった」のは 2.0%です。

年齢別にみると、全体の値よりも「あった」が高いのは、「電気・ガス料金の未払い」では 40 代（3.7%）と 30 代（3.5%）と 50 代（3.2%）、「家賃の滞納」では 30 代（3.2%）と 60 代（2.5%）、「住宅ローンの滞納」では 60 代（2.0%）と 50 代（1.7%）、「その他の債務不履行」では 30 代（3.8%）と 20 代（2.9%）です。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、とくに性的マイノリティで「あった」が高いのは、「電気・ガス料金」については、「異性愛者」の 2.7%に対して「同性愛者・両性愛者」で 4.4%、「家賃の滞納」については「男性」の 2.5%と「女性」の 2.0%に対して「男性・女性にあてはまらない」で 20.0%、「シスジェンダー」の 2.0%に対して「トランスジェンダー」で 19.0%、「異性愛者」の 1.9%に対して「無性愛者」で 6.5%、「その他の債務不履行」については「男性」の 2.7%と「女性」の 2.4%に対して「男性・女性にあてはまらない」で 4.2%、「異性愛者」の 2.3%に対して「同性愛者・両性愛者」で 5.3%でした（図表は省略）。

⁶ 「家賃の滞納」と「住宅ローンの滞納」については、非該当者を除いています。

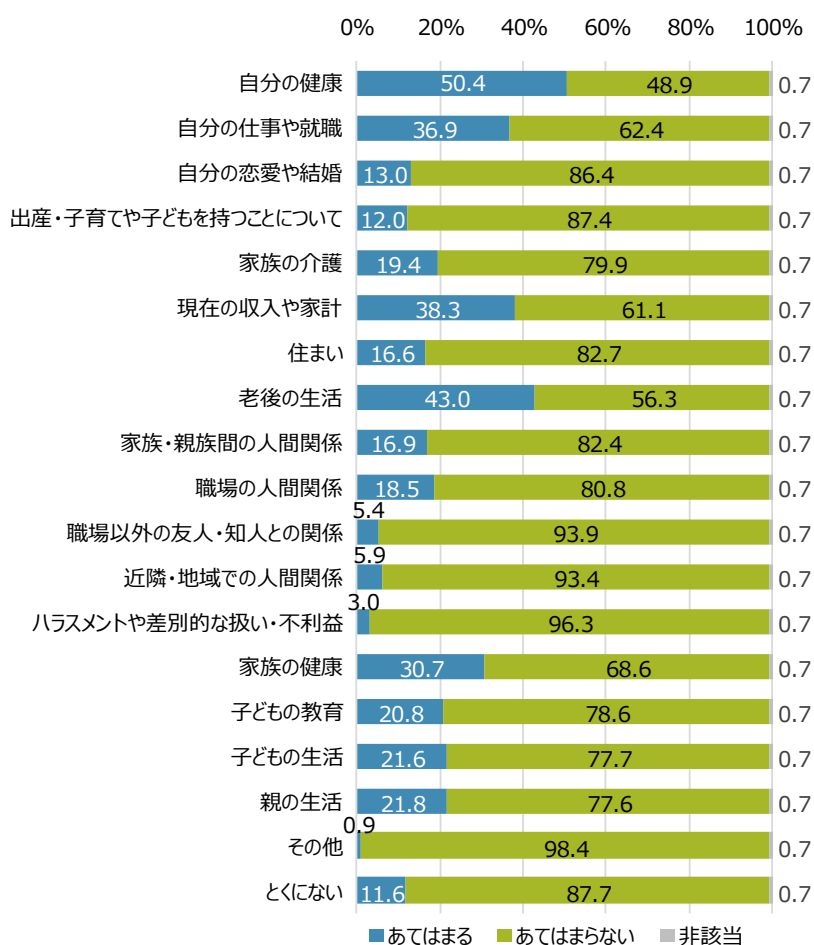
図表 151 経済的困難が「あった」と回答した割合（全体、年齢別）〔各項目の無回答 55 人、60 人、68 人、85 人〕



日常の困りごと【問 49】

問49では、日常生活の中での悩みや困りごとについて、「自分の健康」から「とくにない」までの17の項目に分けて、それらがあてはまるかどうかをたずねました。全体では、「あてはまる」の割合が高い方からみると、「自分の健康」（50.4%）、「老後の生活」（43.0%）、「現在の収入や家計」（38.3%）、「自分の仕事や就職」（36.9%）、「家族の健康」（30.7%）の順です。「とくにない」は1割強（11.6%）でした。

図表 152 日常の困りごと選択割合 [n=5,339]



「自分の健康」、「老後の生活」、「現在の収入や家計」、「自分の仕事や就職」、「家族の健康」の5つの項目は、年齢別や自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみても、「あてはまる」が高くなっています。

年齢別に上記の5項目以外の「あてはまる」をみると、10代では「とくにない」（39.7%で第1位）と「自分の恋愛や結婚」（31.0%で第2位）、20代では「自分の恋愛や結婚」（35.7%で第4位）、30代と40代では「子どもの教育」（それぞれ37.2%で第4位、38.3%で第5位）、60代では「家族の介護」（22.2%で第5位）が上位に入っています。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に上記の5項目以外の「あてはまる」をみると、「男性・女性にあてはまらない」では、「住まい」と「家族・親族間の人間関係」（いずれも41.7%で第5位）が上位に入っており、それ以外では、「自分の恋愛や結婚」（33.3%）、「出産・子育てや子どもを持つことについて」（25.0%）、「家族の介護」

（33.3%）、「職場の人間関係」（29.2%）、「職場以外の友人・知人との関係」（16.7%）は【男性】と【女性】に比べて高くなっています。【トランスジェンダー】では、「家族・親族間の人間関係」（43.8%で第5位）が上位に入っており、それ以外では、「自分の恋愛や結婚」（40.6%）、「出産・子育てや子どもを持つことについて」（25.0%）、「家族の介護」（34.4%）、「住まい」（37.5%）、「職場の人間関係」（31.3%）、「職場以外の友人・知人との関係」

(18.8%) は[シスジェンダー] に比べて高くなっています。「同性愛者・両性愛者」では、「自分の恋愛や結婚」(36.0% で第 5 位) が上位に入っており、それ以外では、「出産・子育てや子どもを持つことについて」(27.2%)、「住まい」(26.3%)、「家族・親族間の人間関係」(29.8%)、「職場の人間関係」(29.8%) も「異性愛者」に比べて高くなっています。「無性愛者」では、「家族の介護」と「家族・親族間の人間関係」(いずれも 32.7% で第 5 位) が上位に入っています。

図表 153 日常の困りごと選択割合（年齢別、自認する性別）[n=5,339、無回答 36 人]

	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-60歳	60-69歳	男性	女性	男性・女性にあてはまらない
自分の健康	25.0	39.2	45.1	53.7	54.8	56.3	50.4	50.2	66.7
自分の仕事や就職	30.2	56.2	47.2	41.3	32.7	15.8	38.5	35.7	70.8
自分の恋愛や結婚	31.0	35.7	17.6	11.6	6.3	1.4	12.3	13.4	33.3
出産・子育てや子どもを持つことについて	9.5	22.9	29.2	12.5	1.9	0.2	8.6	14.6	25.0
家族の介護	1.7	9.6	12.7	20.3	28.8	22.2	18.0	20.5	33.3
現在の収入や家計	17.2	41.5	49.4	43.6	35.9	24.8	36.8	39.4	66.7
住まい	6.0	17.3	22.7	18.0	16.1	10.4	15.9	17.1	41.7
老後の生活	6.9	18.8	32.2	45.9	54.5	56.1	41.9	44.0	45.8
家族・親族間の人間関係	12.9	13.1	20.2	18.7	18.3	13.1	13.5	19.5	41.7
職場の人間関係	9.5	20.8	23.2	22.0	21.0	6.9	19.9	17.4	29.2
職場以外の友人・知人との関係	10.3	8.6	8.1	5.1	4.2	2.1	4.9	5.7	16.7
近隣・地域での人間関係	1.7	1.5	7.6	7.2	5.7	6.3	5.2	6.5	8.3
ハラスメントや差別的な扱い・不利益	3.4	2.8	3.5	4.2	3.4	0.8	3.1	2.9	8.3
家族の健康	11.2	19.9	32.6	32.6	33.3	32.8	27.4	33.5	29.2
子どもの教育	0.9	8.7	37.2	38.3	15.6	1.2	18.1	23.0	20.8
子どもの生活	0.9	7.6	26.5	26.3	24.2	19.9	19.1	23.7	29.2
親の生活	9.5	13.5	23.8	26.8	29.2	12.3	20.5	22.8	29.2
その他	3.4	1.0	1.0	0.8	0.6	1.1	0.8	1.0	8.3
とくにない	39.7	13.1	10.1	8.4	10.2	14.3	14.2	9.6	0.0

図表 154 日常の困りごと選択割合（複数回答）（シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）
[n=5,339、無回答 36 人]

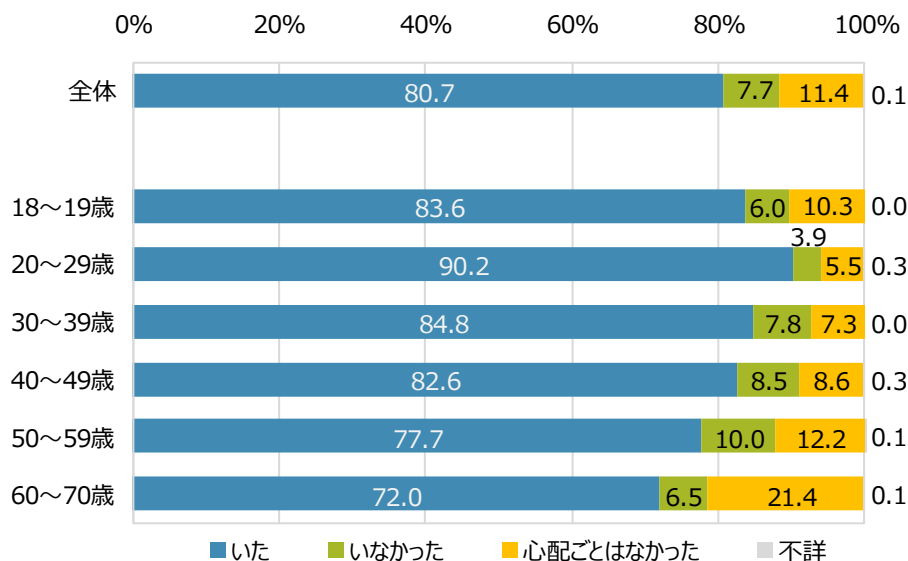
	シスジェンダー	トランスジェンダー	異性愛者	同性愛者・両性愛者	無性愛者	決めたくない・決めていない	質問の意味がわからない
自分の健康	50.3	71.9	49.9	58.8	57.1	54.5	48.8
自分の仕事や就職	36.9	78.1	36.6	57.0	59.2	49.2	29.0
自分の恋愛や結婚	12.9	40.6	13.0	36.0	12.2	14.7	7.8
出産・子育てや子どもを持つことについて	12.0	25.0	12.5	27.2	4.1	14.7	5.6
家族の介護	19.4	34.4	19.2	22.8	32.7	22.1	18.2
現在の収入や家計	38.3	59.4	37.8	52.6	42.9	46.5	35.3
住まい	16.5	37.5	16.3	26.3	20.4	22.7	13.9
老後の生活	43.1	43.8	42.6	40.4	55.1	45.2	44.3
家族・親族間の人間関係	16.8	43.8	16.6	29.8	32.7	24.1	11.8
職場の人間関係	18.5	31.3	18.4	29.8	20.4	22.7	15.1
職場以外の友人・知人との関係	5.3	18.8	5.1	13.2	12.2	8.4	4.0
近隣・地域での人間関係	5.9	15.6	5.7	6.1	2.0	7.0	6.8
ハラスメントや差別的な扱い・不利益	3.0	12.5	2.7	7.9	12.2	6.0	2.0
家族の健康	30.8	31.3	30.9	27.2	30.6	38.8	27.0
子どもの教育	20.8	21.9	21.8	14.0	4.1	22.4	17.1
子どもの生活	21.7	28.1	22.0	13.2	6.1	25.4	21.2
親の生活	21.8	28.1	22.2	28.9	20.4	30.1	14.4
その他	0.9	6.3	0.9	3.5	0.0	1.0	1.2
とくにない	11.7	0.0	11.6	5.3	8.2	6.7	15.6

心配ごとを聞いてくれる相手【問 21】

問 21 では、過去 1 年間に必要なときに心配ごとを聞いてくれた人がいたか否かをたずねました。全体では、「いた」が 80.7%、「いなかった」が 7.7%、「心配ごととはなかった」が 11.4%でした。参考までに、「心配ごととはなかった」と「不詳」を除くと、「いた」は 91.3%、「いなかった」は 8.7%になります（図表省略）。

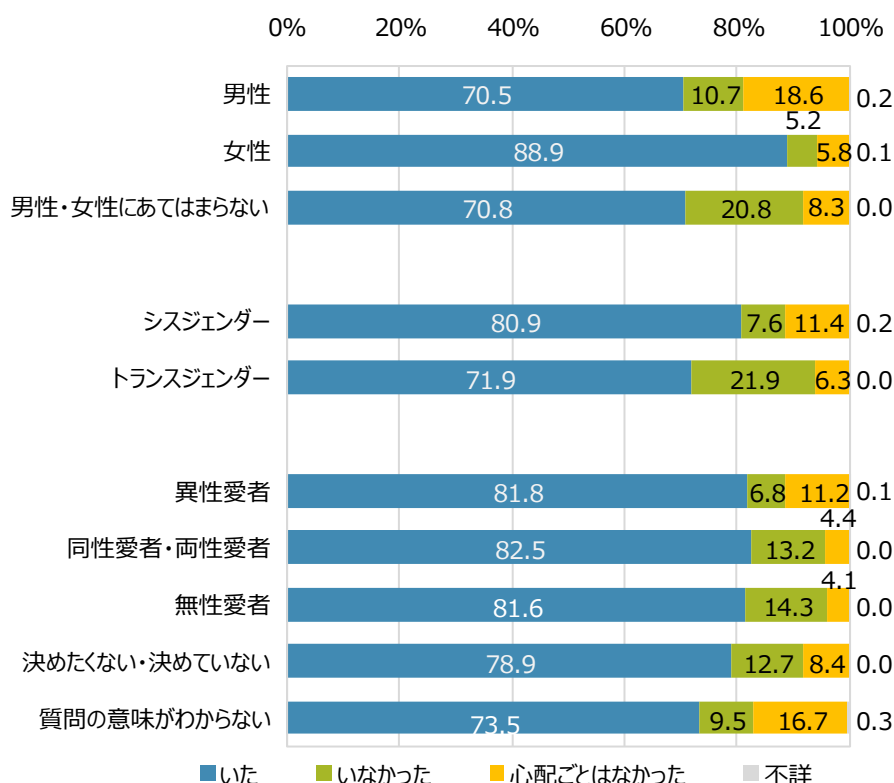
年齢別にみると、20 代以上では、年齢が上がるにつれ高いほど「いた」が低くなり、「心配ごととはなかった」が高くなる傾向にあります。これを「心配ごととはなかった」と「不詳」を除いてみると、「いた」がもっとも高いのは 20 代（95.8%）、もっとも低いのは 50 代（88.6%）で、いずれの年齢でもおおむね 9 割前後になります（図表省略）。

図表 155 過去 1 年間における必要なときに心配ごとを聞いてくれた人の有無の分布（全体、年齢別） [n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「いた」をみると、[男性]（70.5%）、[女性]（88.9%）、「男性・女性にあてはまらない」人（70.8%）、[シスジェンダー]（80.9%）、[トランスジェンダー]（71.9%）、「異性愛者」（81.8%）、「同性愛者・両性愛者」（82.5%）、「無性愛者」（81.6%）です。これを「心配ごととはなかった」と「不詳」を除いてみると、[男性]（86.9%）、[女性]（94.5%）、「男性・女性にあてはまらない」人（77.3%）、[シスジェンダー]（91.4%）、[トランスジェンダー]（76.7%）、「異性愛者」（92.3%）、「同性愛者・両性愛者」（86.2%）、「無性愛者」（85.1%）であり、性的マイノリティの回答者で低くなる傾向がみられました（図表省略）。

図表 156 過去 1 年間における必要なときに心配ごとを聞いてくれた人の有無の分布
(自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別) [n=5,339]



経済的援助を得られる相手【問 22】

問 22 では、過去 1 年間に必要なときに経済面で助けてくれた人がいたか否かをたずねました。全体では、「いた」は 39.1%、「いなかった」は 8.7%、「経済的な援助を必要としたことはない」は 51.8%でした。参考までに「経済的な援助を必要としたことはない」と「不詳」を除くと、「いた」は 81.7%、「いなかった」は 18.3%でした（図表省略）。

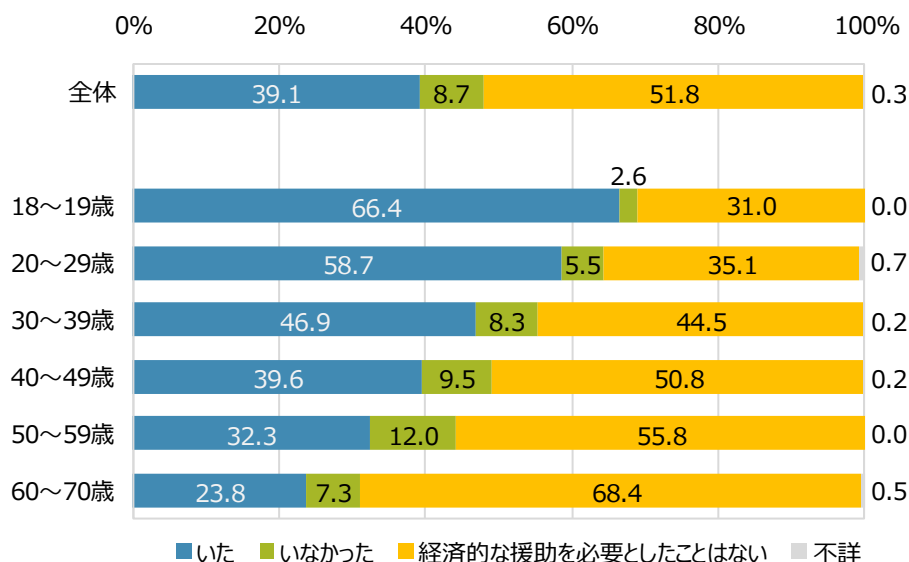
年齢別にみると、年齢が上がるにつれ「いた」は低くなり、「経済的な援助を必要としたことはない」が高くなります。さらに「経済的な援助を必要としたことはない」と「不詳」を除いてみると、「いた」は 10 代以降 50 代にかけて低くなり、60 代で若干高くなり、「いなかった」はその逆になります。具体的には、「いた」は、10 代から 60 代にかけて 96.3%、91.4%、84.9%、80.6%、73.0%、76.4%であり、「いなかった」は 3.8%、8.6%、15.1%、19.4%、27.0%、23.6%です（図表省略）。

自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別にみると、性的マイノリティの回答者で「いた」と「いなかった」が高く、「経済的な援助を必要としたことはない」が低くなる傾向にあります。

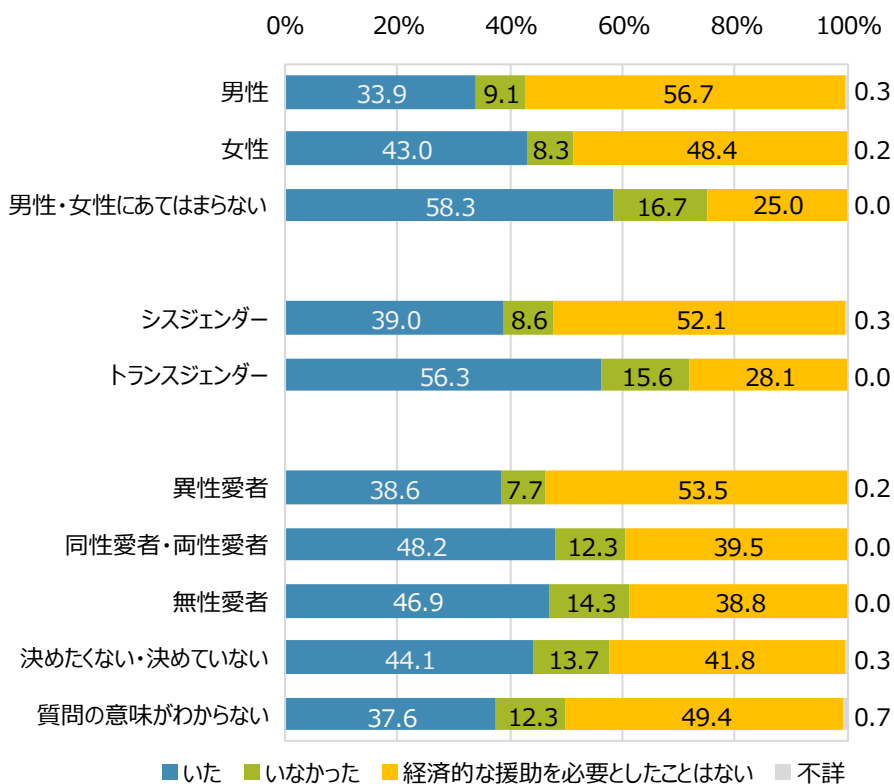
「いた」については「経済的な援助を必要としたことはない」と「不詳」を除いてみると、[男性]（78.9%）や「男性・女性にあてはまらない」人（77.8%）よりも[女性]（83.8%）で高く、[トランスジェンダー]（78.3%）よりも[シスジェンダー]（81.9%）で高く、「同性愛者・両性愛者」（79.7%）と「無性愛者」（76.7%）よりも「異性愛者」（83.3%）で高くなっています。

「経済的な援助を必要としたことはない」については、[男性]（56.7%）と[女性]（48.4%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（25.0%）で低く、[シスジェンダー]（52.1%）よりも[トランスジェンダー]（28.1%）で低く、「異性愛者」（53.5%）よりも「同性愛者・両性愛者」（39.5%）、「無性愛者」（38.8%）で低くなっています。

図表 157 過去 1 年間にける経済的援助をしてくれた人の有無の分布（全体、年齢別） [n=5,339]



図表 158 過去 1 年間にける経済的援助をしてくれた人の有無の分布
（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]

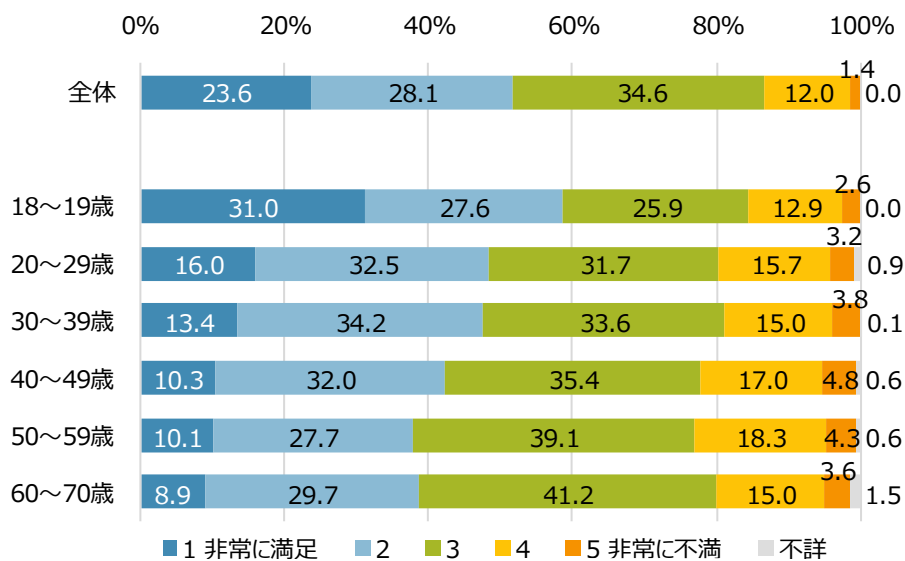


生活満足感【問 50】

問 50 では、現在の生活全般に満足しているのかどうかを、「1 非常に満足」から「5 非常に不満」まで 5 段階の尺度でたずねました。全体では、「1 非常に満足」（23.6%）と「2」（28.1%）で約半数の 51.5%であり、もっとも多いのは「3」（34.6%）であり、「4」（12.0%）や「5 非常に不満」（1.4%）は低くなっています。

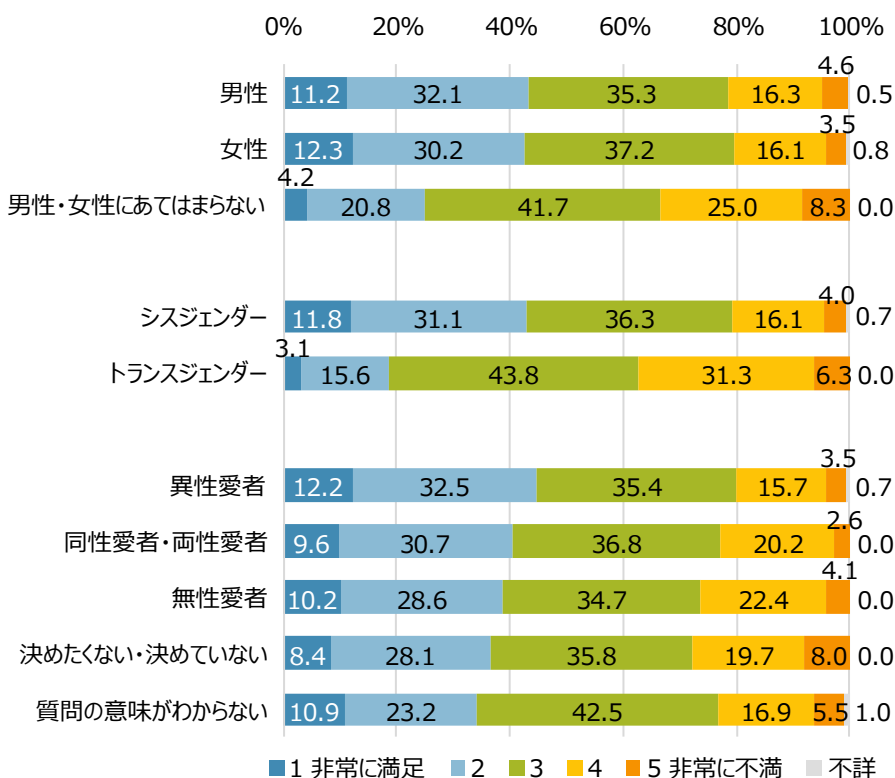
年齢別にみると、年齢が高いほど「1 非常に満足」と「2」を合わせた値が低くなる傾向にあり、10 代では 58.6%、20 代では 48.5%、30 代では 47.5%、40 代では 42.3%、50 代では 37.8%、60 代では 38.6%です。

図表 159 生活全般に対する満足感（全体、年齢別）[n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別に「1 非常に満足」と「2」を合わせた値をみると、[男性]（43.3%）と[女性]（42.4%）よりも「男性・女性にあてはまらない」（25.0%）で低く、[シスジェンダー]（42.9%）よりも[トランスジェンダー]（18.8%）で低く、「異性愛者」（44.7%）よりも「同性愛者・両性愛者」（40.4%）と「無性愛者」（38.8%）でやや低くなっており、性的マイノリティの回答者で低くなる傾向にあります。

図表 160 生活全般に対する満足感（自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



Ⅱ 調査方法

対象者の抽出

本調査では、母集団を全国に居住する18～69歳の人口とし、2022年1月1日時点の住民基本台帳に登録されている外国籍を含む18～69歳の18,000人を実査の対象としました。対象者は、総務省統計局により実施された2020年国勢調査時の基本単位区から層化二段無作為抽出法で抽出された360の基本単位区の居住者です。全国を11の地域ブロック（北海道、東北、北関東、南関東、北信越、東海、近畿、近畿、中国、四国、北九州、南九州）と5つの自治体類型（大都市、人口20万人以上の市、人口10万人以上～20万人未満の市、人口10万人未満の市、町村）に区分し、各地域ブロック・自治体類型の人口規模に応じて360地点を配分し、各地点の住民基本台帳から50人を等間隔で抽出しました。対象者の抽出作業は、調査委託機関である一般社団法人 新情報センターが2022年11～12月に実施しました。

対象者の男女別にみた年齢別地域ブロック別の分布は図表161a、図表161bの通りです。

図表 161a 男女別年齢別都道府県別にみた抽出数⁷

男性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	12	50	57	77	84	73	353
東北	15	95	101	146	125	95	577
北関東	11	84	81	115	118	96	505
南関東	83	504	565	646	692	434	2,924
北信越	10	65	91	131	133	91	521
東海	40	143	212	289	247	200	1,131
近畿	40	207	249	317	331	249	1,393
中国	17	69	95	123	114	97	515
四国	8	19	48	56	52	26	209
北九州	17	85	123	153	120	131	629
南九州	13	67	76	99	84	98	437
計	266	1,388	1,698	2,152	2,100	1,590	9,194

⁷ 対象者の抽出および回収状況の図表および本文における男女は、住民基本台帳上の性別に基づいています。

図表 161b 男女別年齢別都道府県別にみた抽出数

女性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	11	42	63	90	69	72	347
東北	20	82	107	139	142	133	623
北関東	16	62	80	83	107	97	445
南関東	69	475	454	565	678	435	2,676
北信越	7	68	94	127	90	93	479
東海	24	151	175	233	221	215	1,019
近畿	37	218	229	331	365	277	1,457
中国	19	65	65	103	135	98	485
四国	8	28	41	59	52	53	241
北九州	20	80	105	156	137	123	621
南九州	17	58	64	101	98	75	413
計	248	1,329	1,477	1,987	2,094	1,671	8,806

図表 162a 男女別年齢別都道府県別にみた抽出率

男性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	0.27	0.22	0.21	0.22	0.25	0.22	0.22
東北	0.20	0.25	0.22	0.25	0.22	0.16	0.22
北関東	0.17	0.24	0.21	0.23	0.25	0.22	0.23
南関東	0.24	0.23	0.24	0.22	0.24	0.21	0.23
北信越	0.15	0.19	0.25	0.26	0.28	0.20	0.24
東海	0.28	0.18	0.24	0.26	0.23	0.23	0.23
近畿	0.20	0.19	0.22	0.22	0.23	0.22	0.22
中国	0.25	0.20	0.25	0.25	0.25	0.22	0.24
四国	0.25	0.12	0.26	0.22	0.22	0.11	0.19
北九州	0.22	0.21	0.27	0.27	0.24	0.25	0.25
南九州	0.25	0.26	0.24	0.26	0.24	0.24	0.25
計	0.23	0.21	0.24	0.24	0.24	0.21	0.23

図表 162b 男女別年齢別都道府県別にみた抽出率

女性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	0.26	0.19	0.24	0.25	0.19	0.19	0.21
東北	0.28	0.24	0.25	0.25	0.26	0.21	0.24
北関東	0.26	0.21	0.23	0.18	0.24	0.22	0.22
南関東	0.21	0.23	0.20	0.20	0.26	0.22	0.22
北信越	0.12	0.22	0.27	0.27	0.19	0.20	0.22
東海	0.18	0.21	0.22	0.23	0.22	0.25	0.22
近畿	0.19	0.21	0.21	0.23	0.25	0.23	0.22
中国	0.30	0.20	0.18	0.21	0.29	0.21	0.23
四国	0.27	0.18	0.23	0.24	0.22	0.21	0.22
北九州	0.26	0.20	0.23	0.27	0.25	0.22	0.24
南九州	0.33	0.22	0.20	0.26	0.26	0.18	0.23
計	0.22	0.22	0.22	0.22	0.24	0.22	0.22

注) 抽出率は千分率(%)で表示

2022 年 1 月 1 日時点の住民基本台帳の登録人口に占める割合を千分率で示したのが図表 162a、図表 162b です。抽出する人数が少ない地域や年齢層ではばらつきは生じやすいものの、おおむね 0.20～0.26%の範囲におさまっており、抽出された対象者は想定する母集団からおおむね偏りなく抽出されているといえましょう。

調査票の配布と回収

調査は郵送配布、郵送回収(WEB 回答併用)方式で行いました。対象者への調査票は、2023 年 2 月 1 日に郵送し、回答の締め切りは同年 2 月 21 日に設定しました。その後、2023 年 2 月 15 日にお礼状を兼ねた督促状を対象者に発送し、督促状では回答期限を 2 月 27 日（研究チームが準備した調査説明のホームページでは 2 月 28 日）まで延長する旨も告知しました。外国語話者の対象者のために、調査説明のホームページに、中国語（繁体字、簡体字）、英語、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語、タガログ語による説明と調査票を掲載しました。

調査票の回収は、郵送とインターネット（WEB）のいずれかとし、郵送の場合は調査票と一緒に送付された料金受取人払の返送用封筒に、回答済みの調査票を封入したものを回答者が郵便ポストに投函する方式としました。インターネットの場合は調査票と一緒に送付されたユニーク ID とパスワードを利用してインターネット上に開設された調査票に回答者が回答を入力する方式としました。回答者に対する謝礼は 500 円のクオカードとし、回答が確認された後に日を改めて送付しました。調査書類の送付、調査票の回収、謝礼の送付の作業は、一般社団法人新情報センターに委託しました。

回収状況

回収された調査票の数は、2023 年 4 月 15 日までに届けられた 5,485 票でした。回収された調査票のうち、146 票は無効と判断し（白票 1 票、記入状況の極端に悪い 10 票、本人以外の回答と考えられる 131 票、郵送とウェブの両方に回答したうちの重複分の 4 票）、それらを除いた 5,339 票を有効回収票としました。有効回収票のうち、郵送による回収は 3,126 票（58.6%）、インターネットによる回収は 2,213 票（41.4%）でした。対象者のうち、転居などによる宛先不明として調査票が配布されずに新情報センターへ戻された 142 人や抽出作業時のミスが判明した 3 人は、調査対象から除外しました。

調査票が届いたとみられる 17,855 人の対象者に対する有効回収票の比である有効回収率は 29.9%です。図表 163a、図表 163b には、有効回収率を男女別年齢別都道府県別に整理しました。同表によれば、有効回収率は男性よりも女性で高く、男性の場合は 18～19 歳や 20～29 歳で低く 60～69 歳で高いのに対し、女性では 30～39 歳や 40～49 歳で高くなる傾向がみられました。例えば、もっとも高い値を示すのは 30～39 歳の女性の 38.2%、次いで 40～49 歳の女性の 36.9%であり、もっとも低い値を示すのは 18～19 歳の男性の 18.4%でした。

図表 163a 男女別年齢別都道府県別にみた有効回収率

男性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	33.3	18.0	19.8	31.2	28.6	28.8	28.0
東北	13.3	18.9	26.7	29.5	34.4	37.9	29.3
北関東	18.2	22.6	25.9	21.7	21.2	38.5	25.5
南関東	18.1	19.0	24.8	22.6	25.4	33.9	24.6
北信越	10.0	18.5	31.9	23.7	30.1	34.1	27.6
東海	20.0	21.0	26.4	26.6	28.7	29.0	26.5
近畿	17.5	21.3	24.5	21.1	24.5	29.7	24.0
中国	11.8	14.5	29.5	17.1	18.4	37.1	22.9
四国	25.0	21.1	31.3	33.9	28.8	46.2	32.1
北九州	29.4	16.5	26.0	22.9	25.0	26.7	24.0
南九州	7.7	19.4	13.2	25.3	26.2	32.7	23.6
計	18.4	19.4	25.7	23.8	26.1	32.6	25.4

図表 163b 男女別年齢別都道府県別にみた有効回収率

女性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	27.3	38.1	33.3	36.7	37.7	31.9	35.2
東北	45.0	26.8	33.6	38.1	38.7	36.1	35.8
北関東	37.5	32.3	37.5	37.3	31.8	28.9	33.5
南関東	27.5	28.8	39.6	35.4	31.4	28.7	32.7
北信越	14.3	33.8	43.6	44.9	32.2	39.8	39.2
東海	45.8	40.4	40.0	40.3	33.0	36.3	38.0
近畿	21.6	29.8	31.9	33.8	30.4	35.7	32.1
中国	21.1	36.9	50.8	40.8	33.3	26.5	35.9
四国	25.0	42.9	29.3	30.5	23.1	41.5	32.4
北九州	20.0	33.8	35.2	36.5	29.9	32.5	33.2
南九州	11.8	17.2	48.4	35.6	27.6	28.0	30.8
計	27.8	31.4	38.2	36.9	31.8	32.7	34.0

注) 有効回収率は百分率(%)で表示。分母は調査票が届いたと考えられる対象者の数(17,855)、分子は有効回収数である。なお、対象者の年齢は住民票上の年齢であり、実査の時期の関係で回答者が調査票に記入した年齢とは異なる場合がある。ただし、有効回答票のうちの9票については住民票上の年齢を特定できない形での回答であったため、この表の数値には含めていない。

Ⅲ 付録

調査書類一覧

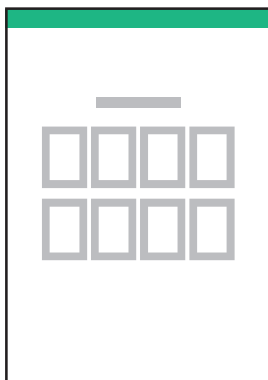
1	送付物一覧
2	ご協力のお願い
3	外国語案内
4	調査票
5a	Q and A（オモテ面）
5b	Q and A（ウラ面）
6a	インターネット回答案内（オモテ面）
6b	インターネット回答案内（ウラ面）
7	返送用封筒
8	記入用のペン（参考までに送付したペンのパンフレットを掲載）
010	送付用封筒
011	お礼督促はがき
012	謝礼送付文
013	クオカード（省略）
014	謝礼送付用封筒
	参考：調査のウェブ回答画面

調査にかんする発表資料

- 調査実施についてのプレスリリース（2023年1月31日）
「[家族と性と多様性に関する全国アンケートを実施—全国の18～69歳の方18,000人を対象として—](#)」
- 結果概要の公表についてのプレスリリース（2023年10月27日）
「[法政大学平森助教、国立社会保障・人口問題研究所釜野室長らの研究チームが日本初の性的マイノリティの生活実態に関する全国無作為抽出調査の結果を公表](#)」
- 「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」の結果概要（2024年2月21日改訂版）
<https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI2/ZenkokuSOGISummary20231027R1.pdf>

お送りした書類などのリスト

1 送付物一覧



2 ご協力をお願い



3 外国語案内



4 アンケート用紙



ウラ面は 3 です

ウラ面は 2 です

5 Q&A

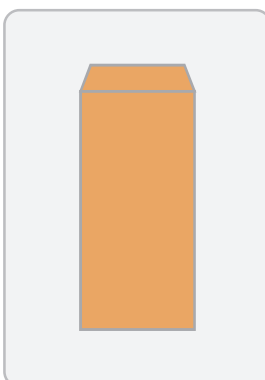


ウラ面もあります

6 インターネット
回答案内

ウラ面もあります

7 返送用封筒



8 記入用ペン



返却不要

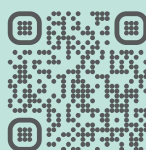
以上を同封しております

調査書類の不足などございましたら、下記フリーダイヤルまでご連絡ください

☎ 0120-100-190【無料】

☎ 9:00-12:00 / 13:00-17:00

✉ zenkoku-chosa@sjc.or.jp



zenkoku-chosa.jp

詳しくは Web サイトでも
ご案内しています

業務委託先

一般社団法人 新情報センター「家族と性と多様性」アンケート事務局（担当：安藤・廣野）

アンケートご協力をお願い

● どんなアンケート？

これは「家族と性と多様性にかんするアンケート」です。厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所 室長 釜野さおりを代表とする研究チームが、日本全国にお住まいの18～69歳の1万8千人の方をお願いしているものです。

● アンケートの目的

アンケートの目的は、仕事・職場、家計や居住地などもふくめたご家族のこと、性にかかわること、恋愛、結婚、子どもをもつこと、心身の健康、周りの方たちとの関係などを広くおたずねし、これらのことがらが、わたしたちの暮らしとどのように関連しているかを、学術的な見地から分析することです。

● 活用方法

結果は学会や論文で発表するほか、さまざまな媒体を通じて広く社会に還元します。また、行政や住民組織によって進められている多様性をふまえた数々の施策や取り組み、とりわけLGBTのような人権にかかわる課題への取り組みに貢献するように努めます。多様性にかんしての日本の現状を知ることが、今後の社会のあり方を考える上で、重要な指針になると考えています。

● 個人情報の保護

このアンケートをお送りしているのは、住民基本台帳から無作為抽出法（どなたが選ばれるかを偶然にゆだねる方法）で、選ばせていただいた皆さまです。お名前やご住所は、今回のアンケート書類の送付以外で使われることはありません。回答は無記名でお願いし、皆さまのお答えは統計として取りまとめられますので、個人的なことが明らかにされることはありません。プライバシー・個人情報は守られておりますので、安心してご回答ください。

● 回答は任意です

アンケートへの回答は任意ですが、できるだけ多くの方にご回答いただくことで、さまざまな方の状況を反映した信頼できる結果が得られますので、趣旨をご理解いただいた上で、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

ご回答いただいた方には、500円のQUOカードを3月中旬ごろに郵送いたします

2023年2月

調査主体

研究課題名 「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為抽出調査の実施」
(文部科学省所管 日本学術振興会 科学研究費助成事業 課題番号 21H04407)

研究代表者 厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部第2室長 釜野さおり
千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F [03-3595-2984]

研究分担者 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 山内昌和
新宿区西早稲田 1-6-1 [03-5286-1577]

このアンケートは、国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査委員会によって承認されています。

ウラ面もあります



外国語によるアンケートのご案内

① 中文繁體 中国語 繁体字
② 中文简体 中国語 简体字
③ English 英語
④ 한글 韓国語
⑤ Português ポルトガル語
⑥ Tiếng Việt ベトナム語
⑦ Tagalog タガログ語



zenkoku-chosa.jp/ol

① 中文繁體 「關於家族、性和多樣性的全國調查問卷」請協助完成此問卷調查

此份調查是日本厚生労働省 國立社會保障・人口問題研究所以及早稻田大學等研究人員團隊共同進行的問卷調查。我們將從居住於日本 18 至 69 歲的民眾中，隨機抽選 18,000 名參與此次問卷調查。回答內容可以隨個人想法填寫的，但我們希望您盡力且準確反映您的想法來回答，您的隱私可以得到絕對的保障。麻煩您在日語問卷上填寫意見後，將問卷放入回復信封內，並在 2 月 21 日之前將其投遞至郵箱內（您也可在 Web 中進行問卷調查）。如果您參與問卷調查，我們將在 3 月中旬以後向您發送 500 日元的 QUO 卡做為謝禮。有關調查的中文（繁體）翻譯，請參閱以下 URL。* 將問卷表格放入回郵信封並郵寄給我們，即表示您同意參與此調查。 [URL zenkoku-chosa.jp/ol](https://zenkoku-chosa.jp/ol)

② 中文简体 「关于家族、性和多样性的全国调查问卷」请协助完成此问卷调查

此份调查是日本厚生労働省 国立社会保 障・人口问题研究所和早稻田大学等研究人员团队共同进行的问卷调查。我们将从居住于日本 18 至 69 岁的民众中，随机选择 18,000 名参与此次问卷调查。回答内容可以随个人想法填写的，但我们希望您尽力且准确反映您的想法来回答，您的隐私可以得到绝对的保障。麻烦您在日语问卷上填写意见后，将问卷放入回复信封内，并在 2 月 21 日之前将其投递至邮箱内（您也可在 Web 中进行问卷调查）。如果您参与问卷调查，我们将在 3 月中旬以后向您发送 500 日元的 QUO 卡做为谢礼。有关调查的中文（简体）翻译，请参阅以下 URL。* 将问卷表格放入回邮信封并邮寄给我们，即表示您同意参与此调查。 [URL zenkoku-chosa.jp/ol](https://zenkoku-chosa.jp/ol)

③ English Request for Cooperation with the “National Survey of Family, Gender/Sexuality, and Diversity”

This is a survey conducted by a team of researchers at the National Institute of Population and Social Security Research in the Ministry of Health, Labour and Welfare, and Waseda University, among others. We ask for the cooperation of 18,000 people randomly selected from those between the ages of 18 and 69 living in Japan. Your participation is voluntary, but we would greatly appreciate your cooperation so that your views are accurately reflected in the results. Your privacy will be protected. Please fill out the Japanese survey form, put it in the return envelope, and drop it into the mailbox by February 21 (Web responses are also accepted). For those who respond, we will send out a 500-yen QUO card after mid-March. Please see the URL below for the English translation of the survey. *Putting the questionnaire form in the return envelope and mailing it will be taken as an indication of your consent to participate in this survey. [URL zenkoku-chosa.jp/ol](https://zenkoku-chosa.jp/ol)

④ 한글 「가족과 성과 다양성에 관한 전국 조사」 협력에 관한 부탁 말씀

안녕하십니까?

본 조사는 후생노동성 국립사회보장·인구문제연구소와 와세다대학 등에 소속된 연구팀이 함께 실시하는 설문 조사입니다. 일본에 거주하고 계신 18세~69세의 분들 중, 무작위로 선정된 18,000분께 설문지를 보내드리고 있습니다. 응답 여부는 임의로 선택하실 수 있습니다만, 여러분의 가치관을 조사결과에 정확히 반영할 수 있도록, 바쁘시더라도 적극적인 협조와 참여를 당부 드립니다. 응답 내용은 무기명으로 처리되며 비밀이 절대 보장됩니다.

응답시에는 일본어판 설문지에 응답을 기입하여 회신용 봉투에 넣으신 후, 2월 21일까지 우편으로 보내주시면 감사하겠습니다(홈페이지에 같은 내용이 게재되어 있으므로 홈페이지를 통해 기입해 주셔도 무방합니다). 응답해 주신 분께는 QUO카드(500엔)을 3월 중순까지 보내 드릴 예정입니다. 한글로 번역된 설문지를 원하실 경우에는 다음의 URL을 참조해주시길 바랍니다. * 이설문지를 회신용 봉투에 넣어 우편으로 보내면 설문조사 참여에 동의하는 것으로 간주됩니다. [URL zenkoku-chosa.jp/ol](https://zenkoku-chosa.jp/ol)

⑤ Português Pedido de cooperação sobre a “Pesquisa sobre a Diversidade de vida, gênero e família”

Esta pesquisa é conduzida pelo time de pesquisa do Instituto Nacional de Pesquisas da População e Segurança Social (Instituição vinculada ao Ministério de Saúde, Trabalho e Bem Estar) com a colaboração do Universidade Waseda. O alvo dessa pesquisa é 18,000 pessoas escolhidas aleatoriamente entre os residentes no Japão entre 18 a 69 anos de idade. Sua participação não é obrigatória, mas contamos sinceramente com a sua preciosa colaboração para coletarmos corretamente a opinião de cada participante. A sua privacidade será protegida. Solicitamos que você responda às perguntas preenchendo diretamente no questionário em japonês e nos envie o questionário respondido até o dia 21 de fevereiro usando o envelope para resposta que acompanha este material(poderá responder pela internet). Para os participantes desta pesquisas, enviaremos um cartão de compras QUO no valor de 500 ienes após o meado de março. Para visualizar o questionário em Português, por favor, acesse o link abaixo. *Consideraremos que você está de acordo em colaborar com esta pesquisa assim que nos enviar o envelope resposta com o questionário. [URL zenkoku-chosa.jp/ol](https://zenkoku-chosa.jp/ol)

⑥ Tiếng Việt Kêu gọi tham gia thực hiện bản 「Khảo sát toàn quốc về Gia đình, Giới tính và Tính đa dạng」

Đây là bản khảo sát được thực hiện bởi Viện Nghiên cứu quốc gia về Dân số và An sinh xã hội thuộc Bộ Y tế, Lao động và Phúc lợi xã hội cùng nhóm các nhà nghiên cứu thuộc trường đại học Waseda thực hiện. Khảo sát 18,000 người được chọn ngẫu nhiên, đang sinh sống tại Nhật Bản trong độ tuổi từ 18~69 tuổi. Mặc dù câu trả lời là tự nguyện nhưng chúng tôi rất mong các bạn hợp tác phản ánh chính xác những suy nghĩ của bản thân. Quyền riêng tư của bạn được đảm bảo. Vui lòng điền vào phiếu trả lời khảo sát bản Tiếng Nhật rồi cho vào bì thư phản hồi, gửi qua hòm thư bưu điện chậm nhất đến ngày 21 tháng 2 (có thể trả lời qua Website) Chúng tôi sẽ gửi tặng thẻ QUO trị giá 500 yên tới những người đã tham gia khảo sát sau khoảng 3 tháng rưỡi trở đi. Tham khảo nội dung khảo sát – bản dịch Tiếng Việt ở link dưới đây. * Bỏ mẫu câu hỏi vào phong bì gửi lại và gửi qua đường bưu điện sẽ được coi là dấu hiệu cho thấy bạn đồng ý tham gia cuộc khảo sát này. [URL zenkoku-chosa.jp/ol](https://zenkoku-chosa.jp/ol)

⑦ Tagalog Pambansang Pagsisiyasat Tungkol sa Pamilya, Sekswalidad at Pagkakaiba-iba

Ito ay isang survey na pinatutupad ng grupo ng mananaliksik mula sa National Institute of Population and Social Security Research, Ministry of Health, Labor and Welfare, at Waseda University. Hinihingi namin ang kooperasyon ng 18,000 katao na napili sa pamamagitan ng random selection at nasa edad 18 hanggang 69 at naninirahan sa Japan. Bagamat ang pagsagot ay boluntaryo, hinihiling namin ang inyong taimtim na pagsagot upang maipakita sa pananaliksik na ito ang totoong pananaw ng mas nakararaming tao. Ang inyong privacy ay mahigpit naming pangangalagaan. Mangyaring punan ang talatanungan sa Japanese, ilagay ito sa nakalakip na sobre. Ipadala ito bago ang ika-21 ng Pebrero (Maaari ring sagutan online ang survey). Ang mga sasagot ng questionnaire ay makakatanggap ng 500 yen QUO card sa kalagitnaan ng Marso. Para sa pagsasalin sa Tagalog ng questionnaire, mangyaring sumangguni sa sumusunod na URL. *Kung ilalagay mo ang questionnaire na ito sa return envelope at ihulog sa koreo, nangangahulugan ito na sumasang-ayon ka na makipagtulungan sa questionnaire na ito. [URL zenkoku-chosa.jp/ol](https://zenkoku-chosa.jp/ol)

家族と性と多様性にかんする全国アンケート

📖 回答方法は 2 種類あります

● この用紙に回答する方法

OR

インターネットで回答する方法
「6 インターネット回答のご案内」をご参照ください

回答した後は・・・

2023年
2月21日(火) までに同封の返送用封筒に入れていただき、
郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）

🕒 所要時間

20～30分

📄 最大設問数

65問 18ページ

👉 ご回答くださった方には、QUOカード（500円）を郵送いたします

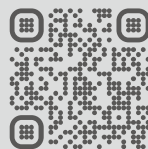
- アンケートへの回答は任意です。ただし、できるだけ多くの方にご回答いただくことで、さまざまな方の状況を反映した信頼できる結果が得られますので、趣旨をご理解いただいた上で、ご協力ください。
- 記入後のアンケート用紙は、外部の人の目に触れないように厳重に保管し、集計後は煮溶かすなど、個人情報保護には万全を期しておりますので、安心してご回答ください。
- このアンケート用紙を返送用封筒に入れ、投函することで、本アンケートへの協力に同意いただいたものとしてします。
- このアンケートでは、調査の目的上、不快に感じられる、あるいは不適切とされる表現を含む場合があります。

アンケートにかんするお問い合わせ先

☎ 0120-100-190 [無料]

🕒 平日 9:00-12:00 / 13:00-17:00

✉ zenkoku-chosa@sjc.or.jp



zenkoku-chosa.jp

詳しくは Web サイトでも
ご案内しています

業務委託先

一般社団法人 新情報センター「家族と性と多様性」アンケート事務局（担当：安藤・廣野）

アンケート用紙記入に際してのお願い

- このアンケートは、封筒の宛名のかたご本人がご回答ください
- お答えは、あてはまる番号を○で囲むか、数字や文字をご記入ください
- 正確にあてはまる選択肢がない場合は、もっとも近いと思うものをお選びください
- どうしても答えたくない／答えられない質問がある場合は、次の質問にお進みください
- 記入には鉛筆もしくはボールペン（黒か青）をご使用ください
- ご回答は無記名でお願いいたします



はじめに、あなたの今のお仕事や、お仕事の経験について、うかがいます

問 1

あなたは現在、収入をとまなう仕事をしていますか。「仕事」にはパート・アルバイト、自営業の手伝いや内職も含みます。(○は1つ)

- 1 仕事を持ち、働いている > 問 2 へ
- 2 在職しているが、病気・育児などで休職中 >
- 3 仕事をしていない > ① へ

① あなたはこの中のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---|
| 1 学生 | 4 定年退職・高齢のため無職 |
| 2 主に家事育児などをしている | 5 心身上の事情で働けない |
| 3 失業中 | 6 その他 <input type="text" value="具体的に"/> |

問 9 へ 次ページの一番下

※ 問 2～問 8 の質問では、2 つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。

問 2

あなたのお仕事は大きく分けて、この中のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------------|
| 1 正社員 | 3 派遣社員 | 6 自営業主・自由業者 |
| 2 パート・アルバイト・
臨時雇い | 4 契約社員・嘱託 | 7 家族従業者(家業の手伝い) |
| | 5 会社などの経営者・役員 | 8 内職 |

問 3

あなたのお勤め先(職場)は、どのような事業をしていますか。
次の中でもっとも近いものに○をつけてください。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 農業、林業 | 13 宿泊業、飲食サービス業 |
| 2 漁業 | 14 生活関連サービス業、娯楽業
(洗濯・理容・美容・浴場業を含む) |
| 3 鉱業、採石業、砂利採取業 | 15 教育、学習支援業 |
| 4 建設業 | 16 医療、福祉
(保健衛生、社会保険・介護事業を含む) |
| 5 製造業 | 17 複合サービス事業(郵便局、協同組合) |
| 6 電気・ガス・熱供給・水道業 | 18 その他のサービス業
(廃棄物処理、整備、修理、職業紹介・
派遣事業を含む) |
| 7 情報通信業(出版、マスコミ業を含む) | 19 政治・経済・文化団体、宗教団体 |
| 8 運輸業、郵便業 | 20 公務(政府・地方自治体固有の業務) |
| 9 卸売業、小売業 | 21 その他
<input type="text" value="具体的に"/> |
| 10 金融業、保険業 | |
| 11 不動産業、物品賃貸業 | |
| 12 学術研究、専門・技術サービス業
(広告、著述・芸術家業を含む) | |

※公務の場合は、勤め先の事業が他の選択肢にない場合のみ、20 を選んでください。
※どの選択肢が適切かわからない場合は、21 に勤め先(職場)の事業内容を具体的に書き込んでください。

問 4

あなたは通常、お勤め先（職場）でどのような仕事をしていますか。
次の中でもっとも近いものに○をつけてください。（○は1つ）

- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| 1 管理職（課長相当以上の役職） | 7 農林漁業の仕事 |
| 2 専門職・技術職 | 8 モノを製造・加工する仕事 |
| 3 事務職 | 9 機械や設備・乗物を運転する仕事 |
| 4 販売・営業職 | 10 建設現場の仕事・採掘の仕事 |
| 5 サービスの仕事
（介護職員、理美容師、接客業、ビル管理人を含む） | 11 運搬・清掃・包装の仕事 |
| 6 保安の仕事（自衛官、警察官、消防士、警備員など） | 12 その他 |

具体的に

問 5

あなたの会社・組織で働いている人の人数はこの中のどれにあたりますか。
身近な職場だけでなく、会社・組織全体でお答えください。
あなた自身、家族従業者、パートの方など、働いている方をすべて含めてください。（○は1つ）

- | | | | |
|-------------|------------|--------------|---------------|
| 1 1人（あなたのみ） | 4 10～29人 | 7 300～499人 | 10 2000～9999人 |
| 2 2～4人 | 5 30～99人 | 8 500～999人 | 11 1万人以上 |
| 3 5～9人 | 6 100～299人 | 9 1000～1999人 | 12 官公庁 |
| | | | 13 わからない |

※ 省庁や自治体から給与をもらっている場合（公立学校の教師、消防署員など）は、
官公庁に含めてください。ただし、公社や各種法人は官公庁に含めません。

問 6

あなたの役職はこの中のどれにあたりますか。
もっとも近いものに○をつけてください。（○は1つ）

- | | | |
|--------------|---------------|----------|
| 1 役職なし | 4 課長（課長相当） | 7 その他の役職 |
| 2 職長・班長・組長など | 5 部長（部長相当） | |
| 3 係長（係長相当） | 6 社長、重役、役員、理事 | |

具体的に

問 7

現在の会社・組織で何年間働いてきましたか。
自営業の方は、自営で働き始めてからの年数でお答えください。

年間 （1年未満の場合は、0（ゼロ）と記入してください）

問 8

ふだん、あなたは1週間あたり何時間働いていますか。残業も含めてください。

1週間あたり

時間 （休憩時間は除く）

問 9

あなたに、これまでに次のようなことはありましたか。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 心身の病気やケガで休職したこと | 5 他の理由の休職や無職 |
| 2 産前産後休業や育児休業を取得したこと | |
| 3 介護休業を取得したこと | 6 1～5のような経験はない |
| 4 失業や退職後、無職でいたこと | |

具体的に

問 10 昨年 1 年間にあなたがお仕事で得た収入 (税込) は、どれに近いですか。各種手当、賞与・ボーナスなども含めてお答えください。副収入 (主な仕事以外による収入)、年金、給付金、家賃収入、配当金、仕送りなどは含みません。(○は 1 つ)

- | | | |
|----------------|-------------------|-------------------|
| 1 仕事で得た収入はなかった | 8 600~700 万円未満 | 15 1300~1400 万円未満 |
| 2 100 万円未満 | 9 700~800 万円未満 | 16 1400~1500 万円未満 |
| 3 100~200 万円未満 | 10 800~900 万円未満 | 17 1500~1600 万円未満 |
| 4 200~300 万円未満 | 11 900~1000 万円未満 | 18 1600~1700 万円未満 |
| 5 300~400 万円未満 | 12 1000~1100 万円未満 | 19 1700~1800 万円未満 |
| 6 400~500 万円未満 | 13 1100~1200 万円未満 | 20 1800万円以上 |
| 7 500~600 万円未満 | 14 1200~1300 万円未満 | 21 わからない |
- 具体的に 円



ここからは、あなたの健康や生活習慣について、うかがいます

問 11 あなたの現在の健康状態は、いかがですか。(○は 1 つ)

- 1 よい 2 まあよい 3 ふつう 4 あまりよくない 5 よくない

問 12 あなたは煙草 (タバコ) を吸いますか。(○は 1 つ)

- 1 毎日吸っている 3 以前は吸っていたが最近 1 か月以上吸ってない
2 ときどき吸う日がある 4 吸わない

問 13 あなたは、ふだんお酒を飲みますか。(○は 1 つ)

- 1 ほとんど毎日 4 月に 1 回程度 7 飲まない
2 週に数回 5 年に数回 8 飲めない
3 週に 1 回程度 6 年に 1 回程度

問 14 この 1 年間、お酒を飲んで、次のようなことはありましたか。(○はいくつでも)

- 1 イッキ飲みをした 3 飲みすぎて、嘔吐してしまった 5 いずれの経験もない
2 酔いつぶれてしまった 4 飲みすぎて、記憶をなくした

問 15 あなたは、慢性的な病気または長期にわたる健康上の問題をかかえていますか。(○はいくつでも)

- 1 高血圧・動脈硬化・心疾患 4 うつ病や他のこころの病気
2 糖尿病 5 その他

具体的に

3 悪性腫瘍 (がん) 6 健康上の問題はない

問 16 最近 1 か月間に、次の (1)~(6) のようなことが、どれくらいひんぱんにありましたか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(それぞれ○は 1 つ)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったく ない
(1) 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
(2) 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
(3) そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
(4) 気分が沈み込んで、何が起こっても 気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
(5) 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
(6) 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問 17 これまでに、次にあげるような経験はありましたか。(○はいくつでも)

- 1 生きる価値がないと感じた
- 2 死ねたらと思った、または、自死の可能性を考えた
- 3 自殺について考えたり、自殺をほのめかす行動をとったりした
- 4 自殺を図った
- 5 上の 1~4 のようなことはなかった

問 19 へ

問 18 「最近の 1 年間」、「小・中学校の頃」、「高校・16~18 歳の頃」に次の (1)~(4) のような経験はありましたか。それぞれ「ある」、「ない」のどちらかに○をつけてください。

	(ア) 1 年 最近 の間	(イ) の 小・中 頃 学校	(ウ) 16 歳 頃 高校 18 歳・
(1) 生きる価値がないと感じた	ある ない	ある ない	ある ない
(2) 死ねたらと思った、または、自死の可能性を考えた	ある ない	ある ない	ある ない
(3) 自殺について考えたり、自殺をほのめかす行動をとったりした	ある ない	ある ない	ある ない
(4) 自殺を図った	ある ない	ある ない	ある ない

ここでは、学校に通っていた頃や、大人になってからの人間関係についてうかがいます

問 19 小学校から高校時代のあいだに、次の (1)~(6) のようなことはありましたか。(ア)と(イ)のそれぞれについて、「ある」、「ない」のどちらかに○をつけてください。

小・中学校や高校での友人や同級生による・・・	(ア) 自分が 受けたこと	(イ) 見聞き したこと
(1) 不快な冗談、からかい	ある ない	ある ない
(2) 暴力的行為	ある ない	ある ない
(3) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」と いったことにかかわる、不快な冗談、からかい	ある ない	ある ない
(4) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」と いったことでふるわれる、暴力的な行為	ある ない	ある ない
(5) 民族、人種、国籍などにかかわる不快な冗談、からかい	ある ない	ある ない
(6) 民族、人種、国籍などに関してふるわれる暴力的行為	ある ない	ある ない

問 20 大人になってから、次の (1)～(6) のようなことはありましたか。
(ア)と(イ)のそれぞれについて、「ある」、「ない」のどちらかに○をつけてください。

大人になってからの、身近な人による・・・	(ア) 自分が 受けたこと		(イ) 見聞き したこと	
(1) 不快な冗談、からかい	ある	ない	ある	ない
(2) 暴力的行為	ある	ない	ある	ない
(3) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」と いったことにかかわる、 不快な冗談、からかい	ある	ない	ある	ない
(4) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」と いったことでふられる、 暴力的な行為	ある	ない	ある	ない
(5) 民族、人種、国籍などにかかわる不快な冗談、からかい	ある	ない	ある	ない
(6) 民族、人種、国籍などに関してふられる暴力的行為	ある	ない	ある	ない

問 21 過去 1 年間、必要なときに心配ごとを聞いてくれた人はいますか。(○は 1 つ)

- 1 いた 2 いなかった 3 心配ごとはなかった

問 22 過去 1 年間、必要なときに経済面で助けてくれた人はいますか。(○は 1 つ)

- 1 いた 2 いなかった 3 経済的な援助を必要としたことはない



ここからは、あなたやご家族のことについて、うかがいます

問 23 あなたの生まれた年月と年齢をご記入ください。(選択肢の○は 1 つ)

- 1 昭和 年 月生まれ 現在 歳
2 平成
3 西暦

問 24 あなたが生まれたのは、どちらの国ですか。(○は 1 つ)
日本以外の方は、国名 (または地域) をご記入ください。

- 1 日本 2 日本以外の国 ▶

問 25 あなたの現在の国籍はどちらですか。(○は 1 つ)
日本以外の方は、国名 (または地域) をご記入ください。

- 1 日本 2 日本以外の国 ▶

問 26 あなたには、親 (保護者・養育者など) と離れて暮らした経験がありますか。(○は 1 つ)
ある場合、はじめて親と離れて暮らしたのは、あなたが何歳の時でしたか。

- 1 親と離れて暮らした経験がある ▶ はじめて親と離れた時の年齢 歳 ▶ ①へ

- 2 親と離れて暮らした経験がない ▶ 問 27 へ

※親との死別は、「離れて暮らした経験」には含みません。

①

問 26 で「1」と答えた方→ あなたがはじめて親と離れて暮らした理由は、次のどれにあてはまりますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------|-------------|----------------------------|
| 1 入学・進学 | 3 就職・転職・転勤 | 5 住宅事情や通勤通学の便など |
| 2 結婚・同棲 | 4 親からの自立・独立 | 6 その他 <input type="text"/> |

②

はじめて親と離れて暮らした時、あなたはどこに住みましたか。(○は1つ)

- 1 現在と同じ居住地
- 2 現在と同じ区市町村内
- 3 現在と同じ都道府県その他の区市町村
- 4 他の都道府県
- 5 外国 |

問 27

あなたは、中学校を卒業したとき（15歳の頃）、どちらにお住まいでしたか。(○は1つ)

- 1 現在と同じ居住地
- 2 現在と同じ区市町村内
- 3 現在と同じ都道府県その他の区市町村
- 4 他の都道府県
- 5 外国 |

問 28

5年前（2018年2月1日）は、どちらにお住まいでしたか。(○は1つ)

- 1 現在と同じ居住地
- 2 現在と同じ区市町村内
- 3 現在と同じ都道府県その他の区市町村
- 4 他の都道府県
- 5 外国 |

問 29

あなたが通った学校について、(1) 最後に通った（または現在通っている）学校と、(2) その学校の卒業・中退・在学中の別をお答えください。（それぞれ○は1つ）

(1) 最後に通った（または通っている）学校

- | | | |
|----------------|------------|-----------------------------------|
| 1 小・中学校 | 5 大学 | <input type="text" value="具体的に"/> |
| 2 高校 | 6 大学院 | |
| 3 専門・専修学校（高卒後） | 7 1～6以外の学校 | |
| 4 短大・高専 | | |

(2) 卒業・在学の別

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 1 卒業した | 3 在学中 <input type="text" value="年生"/> |
| 2 中退した | |

問 30 中学 3 年生の頃、あなたの成績は学年の中でどれくらいだったと思いますか。(○は 1 つ)

- 1 上の方 3 真ん中のあたり 5 下の方
2 やや上の方 4 やや下の方

問 31 あなたのお父さま（保護者 1）とお母さま（保護者 2）についておたずねします。最後に通った（または在学中の）学校は、それぞれ次のどれにあたりますか。卒業、中退、在学中は問いません。

	(1) お父さま (○は 1 つ)	(2) お母さま (○は 1 つ)
※亡くなられている場合も、わかる範囲でお答えください。		
1 中学校（戦前の小学校（尋常科・高等科）・国民学校・青年学校）	1	1
2 高校（戦前の中学校・高等女学校・実業学校・師範学校）	2	2
3 専門学校（高卒後）	3	3
4 短大・高専（戦前の高校・専門学校・高等師範学校）	4	4
5 大学	5	5
6 大学院	6	6
7 1～6 以外の学校（[] に具体的にご記入ください）	7 []	7 []
8 その他（わからない、など）	8	8

問 32 お父さま、お母さまの現在の国籍はどちらですか。（それぞれ○は 1 つ）
日本以外の場合は、国名（または地域）をご記入ください。

(1) お父さま 1 日本 2 日本以外の国 ▶ 国名

(2) お母さま 1 日本 2 日本以外の国 ▶ 国名

※亡くなられている場合は、最後に有していた国籍をわかる範囲でお答えください。

問 33 あなたのお父さま、お母さまは、現在どちらにお住まいですか。

(1) お父さま (○は 1 つ)	(2) お母さま (○は 1 つ)
1 亡くなった	1 亡くなった
2 あなたと同居	2 あなたと同居
3 あなたと同じ区市町村内	3 あなたと同じ区市町村内
4 あなたと同じ都道府県の他の区市町村	4 あなたと同じ都道府県の他の区市町村
5 他の都道府県 県名	5 他の都道府県 県名
6 外国 国名 都市名	6 外国 国名 都市名
7 その他（わからない、など）	7 その他（わからない、など）

問 34 この1年間、お父さまやお母さまとどれくらい話をしましたか。電話や LINE、メールなどでのやりとりも含めます。

(1) お父さま (○は1つ)	(2) お母さま (○は1つ)
1 亡くなった	1 亡くなった
2 ほとんど毎日	2 ほとんど毎日
3 週に1～4回	3 週に1～4回
4 月に1～3回	4 月に1～3回
5 ほとんどしない	5 ほとんどしない
6 その他	6 その他

問 35 現在、あなたと一緒に暮らしている方は、あなたを含めて全部で何人ですか。ひとり暮らしの方は「1」に○をつけてください。

1 ひとり暮らし 2 あなたを含めて 人 (3か月以上不在の方は含めない)

① 現在あなたは誰と一緒に暮らしていますか。あてはまる方すべてに○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|--------|---------|-----------------------------|
| ① あなた | 6 娘 | 11 母親 | 16 他の親族 |
| 2 夫・妻・配偶者 | 7 息子 | 12 父親 | 17 友人 |
| 3 パートナー | 8 娘の夫 | 13 義理の母 | 18 その他 <input type="text"/> |
| 4 彼氏・彼女 | 9 息子の妻 | 14 義理の父 | |
| 5 兄弟姉妹 | 10 孫 | 15 祖父母 | 19 ペット <input type="text"/> |

② ここでは、結婚や交際などについて、状況や希望をうかがいます

問 36 あなたは、現在、結婚（婚姻届を提出）していますか。(○は1つ)

1 している > ①へ ↓ 2 していない > 問37へ

① 現在、「結婚している」と答えた方におたずねします。相手の方について、それぞれあてはまるものに1つ○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

(1) 相手の方は ...	(2) 相手との同別居	(3) 相手との普段の会話・やりとり (電話、LINE、メール等も含む)
1 男性	1 同居	1 ほとんど毎日
2 女性	2 別居(仕事のため)	2 週に1～4回
3 男性・女性にあてはまらない 具体的に	3 別居(仕事以外の理由)	3 月に1～3回
	4 その他	4 ほとんどしない

問 37 あなたには、現在、「婚姻届を出していないが結婚相手とみなしている人」がいますか。事実婚や内縁関係、同棲関係、同性パートナーも含みます。結婚している方もお答えください。(○は1つ)

1 いる > ①へ 2 いない > 問38へ

① 問37で「1 いる」と答えた方→ 相手の方について、それぞれあてはまるものに1つ○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

(1) 相手の方は ...	(2) 相手との同別居	(3) 相手との普段の会話・やりとり (電話、LINE、メール等も含む)
1 男性	1 同居	1 ほとんど毎日
2 女性	2 別居 (仕事のため)	2 週に1～4回
3 男性・女性にあてはまらない	3 別居 (仕事以外の理由)	3 月に1～3回
具体的に	4 その他	4 ほとんどしない

問 38 あなたは、男性と、恋人として (1) 交際や (2) 同棲・同居したことがありますか。

(1) 男性の恋人との交際 (○は1つ)	→	(2) 男性の恋人との同棲・同居 (○は1つ)
1 現在、している		1 現在、している
2 現在はしていないが、過去にしていた		2 現在はしていないが、過去にしていた
3 したことはない		3 したことはない

問 39 あなたは、女性と、恋人として (1) 交際や (2) 同棲・同居したことがありますか。

(1) 女性の恋人との交際 (○は1つ)	→	(2) 女性の恋人との同棲・同居 (○は1つ)
1 現在、している		1 現在、している
2 現在はしていないが、過去にしていた		2 現在はしていないが、過去にしていた
3 したことはない		3 したことはない

問 40 あなたには、次のような経験はありますか。(○はいくつでも)

- 1 婚姻届を出した相手と、離婚した
- 2 婚姻届を出した相手と、死別した
- 3 「婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人」と、離別した
- 4 「婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人」と、死別した
- 5 1～4のいずれも経験していない

問 41 あなたは、結婚 (再婚を含む) について、現在どのようにお考えですか。(○はいくつでも) 現在結婚していて1～5にあてはまらない場合は6を選んでください。

- 1 いずれは結婚 (婚姻届を提出) したい >
- 2 選択的夫婦別姓が認められたら結婚 (婚姻届を提出) したい >
- 3 同性婚が認められたら結婚 (婚姻届を提出) したい >
- 4 いずれは「婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係」が欲しい >
- 5 1～4以外の希望がある 具体的に > 問42へ
- 6 1～5にあてはまらない・現状のままでよい > 問42へ

① 希望する相手の性別はどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- | | | |
|------|--------------|---------|
| 1 男性 | 3 男性でも女性でもよい | 5 1～4以外 |
| 2 女性 | 4 性別にこだわらない | 具体的に |

問 42

あなたは、交際について現在どのようにお考えですか。(○は1つ)
この問いでの「恋人」には結婚相手(届出にかかわらず)は含みません。

1 恋人として交際する相手がほしい > ①へ

4 その他 > 問43へ

2 現在、恋人として交際している人がある > 問43へ

具体的に

3 恋人がほしいとは思わない > 問43へ

① 希望する相手の性別はどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1 男性

3 男性でも女性でもよい

5 1～4以外

2 女性

4 性別にこだわらない

具体的に



ここからは、お子さんの状況やご希望をうかがいます

問 43

あなたに、お子さんはいますか。現在あなたといっしょに住んでいないお子さんも含めた人数でお答えください。(○は1つ)

1 1人

3 3人

5 5人以上

具体的に

人

2 2人

4 4人

6 子どもはいない > 問44へ

① 18歳未満のお子さんは何人いますか。現在あなたといっしょに住んでいないお子さんも含めてお答えください。(○は1つ)

1 1人

3 3人

5 5人以上

具体的に

人

2 2人

4 4人

6 18歳未満の子どもはいない

問 44

あなたは(さらに)子どもを持ちたいと思いますか。養子や里子も含みます。(○は1つ)

1 はい、子どもを(あと) 人 持ちたい > 問45へ

2 いいえ、(これ以上は) 持ちたくない > ①へ

① 問44で「2 いいえ」と答えた方 → 子どもを(さらに)持ちたいと思わない理由として、あなたにあてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1 いつか持ちたいが、今はまだその時期ではないから

2 自分が(これ以上は)子どもを持つことは考えたことがない、ほしくない

3 相手がいないから

4 経済的な理由

5 年齢や健康上の理由

6 自分の仕事(勤めや家業)の事情

7 妻・夫・パートナーの仕事(勤めや家業)の事情

8 家事・育児の協力者がいないから

9 子どもを育てる社会環境が整っていないから

10 パートナーが同性だから

11 その他

問 45

出産や、子どもを持つことにかんして、あなた自身に次のような経験はありますか。
(1)～(12)のそれぞれについて、1～6から1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	1 経験した	2 登録した	3 関係者に 相談した	4 関心はあるが 何もしない	5 1～4の いずれもない	6 該当しない
(1) 医療機関におけるタイミング法、 排卵誘発など	1		3	4	5	
(2) 医療機関における人工授精	1		3	4	5	6
(3) 体外受精・顕微授精	1		3	4	5	6
(4) 第三者からの精子や卵子の提供	1	2	3	4	5	
(5) 民間団体（医療機関以外）を通じた 第三者からの精子・卵子の提供	1	2	3	4	5	
(6) 代理出産を依頼する	1	2	3	4	5	
(7) 知人・友人・親戚等からの精子提供	1		3	4	5	6
(8) 自宅で夫・パートナーの精子を使った 自身での人工授精（シリッジ法）	1		3	4	5	6
(9) 養子・里親制度の利用	1	2	3	4	5	
(10) 将来子どもを持つため、医療機関で 卵子・精子を凍結	1	2	3	4	5	
(11) 精子提供者・卵子提供者になる	1	2	3	4	5	
(12) 代理母になる	1	2	3	4	5	6

⬇️ ここでは、あなたのお宅(世帯)の暮らし向きや経済面についてうかがいます

問 46

昨年1年間、あなたのお宅(世帯)では、全体でどれくらいの収入(税込)がありましたか。
生計を共にしている方々の方も含め、すべての収入(年金、給付金、家賃収入、
配当金、仕送りなどを含む)についてお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|-------------------|-------------------|
| 1 世帯の収入はなかった | 8 600～700 万円未満 | 15 1300～1400 万円未満 |
| 2 100 万円未満 | 9 700～800 万円未満 | 16 1400～1500 万円未満 |
| 3 100～200 万円未満 | 10 800～900 万円未満 | 17 1500～1600 万円未満 |
| 4 200～300 万円未満 | 11 900～1000 万円未満 | 18 1600～1700 万円未満 |
| 5 300～400 万円未満 | 12 1000～1100 万円未満 | 19 1700～1800 万円未満 |
| 6 400～500 万円未満 | 13 1100～1200 万円未満 | 20 1800万円以上 |
| 7 500～600 万円未満 | 14 1200～1300 万円未満 | 21 わからない |

具体的に 円

問 47 あなたの自宅（世帯）の預貯金等（貯蓄）の総額はどれくらいですか。
もっとも近いものに○をつけてください。（○は1つ）

- | | | |
|----------------|------------------|-------------------|
| 1 貯蓄はない | 7 400～500 万円未満 | 13 1000～1500 万円未満 |
| 2 50 万円未満 | 8 500～600 万円未満 | 14 1500～2000 万円未満 |
| 3 50～100 万円未満 | 9 600～700 万円未満 | 15 2000～2500 万円未満 |
| 4 100～200 万円未満 | 10 700～800 万円未満 | 16 2500～3000 万円未満 |
| 5 200～300 万円未満 | 11 800～900 万円未満 | 17 3000 万円以上 |
| 6 300～400 万円未満 | 12 900～1000 万円未満 | 18 わからない |

具体的に 円

※貯蓄とは、金融機関への預貯金、これまで払い込んだ保険金（掛け捨て保険は除く）、株式・信託・債券等、財形貯蓄、社内預金等のことをいいます。自営業者世帯の場合は、事業用の貯蓄も含めてください。額の大小にかかわらず、総額に含めてください。

問 48 あなたの自宅（世帯）では、過去1年の間に、経済的な理由で次のようなことがありましたか。それぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。

(1) 電気・ガス料金の未払い	1 あった	2 なかった	
(2) 家賃の滞納	1 あった	2 なかった	3 非該当（賃貸ではない）
(3) 住宅ローンの滞納	1 あった	2 なかった	3 非該当（住宅ローンはない）
(4) その他の債務不履行	1 あった	2 なかった	

問 49 あなたは、日頃の生活の中で、次のようなことについて悩みや困りごつがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1 自分の健康 | 10 職場の人間関係 |
| 2 自分の仕事や就職 | 11 職場以外の友人・知人との関係 |
| 3 自分の恋愛や結婚 | 12 近隣・地域での人間関係 |
| 4 出産・子育てや子どもを持つことについて | 13 ハラスメントや差別的な扱い・不利益 |
| 5 家族の介護 | 14 家族の健康 |
| 6 現在の収入や家計 | 15 子どもの教育 |
| 7 住まい | 16 子どもの生活 |
| 8 老後の生活 | 17 親の生活 |
| 9 家族・親族間の人間関係 | 18 その他 <input type="text"/> |
| | 19 とくにない |

問 50 あなたは、現在の生活全般に満足していますか。（○は1つ）

← 非常に満足 非常に不満 →

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

←-----→

問 51 次の (1)～(7) のそれぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを 1～4 から 1 つ選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	そう 思う	どちら か そう 思う	どちら か そう 思わ ない	そう 思わ ない
(1) 男女が一緒にくらすなら結婚すべきである	1	2	3	4
(2) 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4
(3) 結婚せずに、子どもを持ってもよい	1	2	3	4
(4) 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
(5) 夫と妻は、名字（姓）を同じにする必要はなく、 名字が違ってよい	1	2	3	4
(6) 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は 仕事の成功よりも重要だ	1	2	3	4
(7) 男どうしや、女どうしのカップルが、子どもを育ててもよい	1	2	3	4

問 52 以下の人が同性愛者や性別を変えた人だったらあなたはどのように思いますか。
(1)～(6) のそれぞれについて、あなたのお気持ちやお考えにもっとも近いものを 1～4 から 1 つ選んで○をつけてください。

	嫌 で は な い	嫌 で は な い い え ば ど ち ら か と	嫌 だ い え ば ど ち ら か と	嫌 だ
以下の人が <u>同性愛者</u> だったら…(それぞれ○は1つ)				
(1) 職場の同僚	1	2	3	4
(2) 自分の子ども	1	2	3	4
(3) 仲の良い友人	1	2	3	4
以下の人が <u>性別を変えた人</u> だったら…(それぞれ○は1つ)				
(4) 職場の同僚	1	2	3	4
(5) 自分の子ども	1	2	3	4
(6) 仲の良い友人	1	2	3	4



ここでは、あなたの性別、恋愛、性にかかわることをうかがいます

これらの質問は、性のあり方を多角的にとらえた学術研究、
および国・自治体の取り組みの検討資料として活用するためにおたずねするものです。

問 53 あなたの性別に○をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別](○は 1 つ)

- 1 男 2 女

※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことをさします。

問 54 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別 (問 53 で○をつけたもの) と同じだととらえていますか。左側で 2 や 3 に○をした方は、今の認識をお答えください。

(○はいくつでも)

1 出生時の性別と同じ

2 別の性別だととらえている >.....

3 違和感がある >.....

今の認識にもっとも近い性別 (○は 1 つ)

1 男 3 男性・女性にあてはまらない

2 女 具体的に

問 55 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに○をつけてください。(○は 1 つ)

1 異性愛者、すなわち ゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人] >.....

2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人] >.....

3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人] >.....

4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人] >.....

5 決めたくない・決めていない > ①へ

6 質問の意味がわからない > 問 56へ

問 56へ

① 問 55 で「5 決めたくない・決めていない」と答えた方→ その理由として、もっとも近いものに○をつけてください。(○は 1 つ)

1 自分は異性愛者ではなく、クィア、パンセクシュアルなど、別のアイデンティティをもっている

2 まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている、1 つに決められない

3 自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない

4 使われていた用語や、質問の意味がわからなかった

5 その他

問 56 次の (1)~(3) について、(ア) これまでのことと、(イ) 最近の 5 年間のことについて、それぞれもっとも近いものを 1~7 から 1 つずつ選んで○をつけてください。

(1) あなたが恋愛感情を抱く相手

(ア)これまで (○は 1 つ)	(イ)最近の 5 年間 (○は 1 つ)
1 誰に対しても恋愛感情を抱いたことがない	1 誰に対しても恋愛感情を抱いたことがない
2 男性のみ	2 男性のみ
3 ほとんどが男性	3 ほとんどが男性
4 男性と女性同じくらい	4 男性と女性同じくらい
5 ほとんどが女性	5 ほとんどが女性
6 女性のみ	6 女性のみ
7 1~6にあてはまらない	7 1~6にあてはまらない

(2) あなたが性的に惹 (ひ) かれる相手

(ア)これまで (○は 1 つ)	(イ)最近の 5 年間 (○は 1 つ)
1 誰に対しても性的に惹かれたことがない	1 誰に対しても性的に惹かれたことがない
2 男性のみ	2 男性のみ
3 ほとんどが男性	3 ほとんどが男性
4 男性と女性同じくらい	4 男性と女性同じくらい
5 ほとんどが女性	5 ほとんどが女性
6 女性のみ	6 女性のみ
7 1~6にあてはまらない	7 1~6にあてはまらない

(3) あなたがセックスをする相手

(ア)これまで (○は 1 つ)	(イ)最近の 5 年間 (○は 1 つ)
1 セックスをしたことがない	1 セックスをしたことがない
2 男性のみ	2 男性のみ
3 ほとんどが男性	3 ほとんどが男性
4 男性と女性同じくらい	4 男性と女性同じくらい
5 ほとんどが女性	5 ほとんどが女性
6 女性のみ	6 女性のみ
7 1~6にあてはまらない	7 1~6にあてはまらない

問 57 あなたの周りの人について、おたずねします。職場の同僚 (過去も含む) や、近しい友人、親せきや家族に、同性愛者はいますか。 (○は 1 つ)

- 1 いる 2 そうかもしれない人がいる 3 いないと思う 4 いない

問 58 職場の同僚 (過去も含む) や、近しい友人、親せきや家族に、性別を変えた、あるいはそうしようと考えている人はいますか。 (○は 1 つ)

- 1 いる 2 そうかもしれない人がいる 3 いないと思う 4 いない



ここでは、性の多様性にかかわる、
国や自治体の取り組みについてのお考えをうかがいます

問 59 次のような制度や取り組みについて、あなたは賛成ですか、反対ですか。
あなたのお考えにもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	賛 成	やや 賛 成	やや 反 対	反 対
(1) 同性カップル(女どうし・男どうしのカップル)が、 法的に結婚できる制度	1	2	3	4
(2) 妻と夫の姓(名字)を同じにしなくても、法的に結婚できる 制度(選択的夫婦別姓制度)	1	2	3	4
(3) 親が育てられない子どもを、同性カップルが 養子や里子として迎え、育てることのできる制度	1	2	3	4
(4) 女どうしのカップルが、生殖補助医療などによって、 子どもを持てるようにする制度	1	2	3	4
(5) 職場・学校・地域で、同性愛者や性別を変えた人も、 差別なく公平に扱われるための法律・条例の整備	1	2	3	4
(6) 職場、学校、地域における、 多様な性のあり方についての啓発	1	2	3	4
(7) 同性愛という性のあり方があることや、 性別を変えたいと望む人のことを、義務教育で教えること	1	2	3	4

問 60 お住まいの自治体のパートナーシップ制度についておたずねします。
あてはまるものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

(1) あなたのお住まいの自治体に、パートナーシップ制度はありますか。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 制度がある・導入が決定している | 3 制度があるかどうか、わからない |
| 2 制度はない | |

(2) 現在あるかどうかに関わらず、パートナーシップ制度を利用したいですか。

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| 1 利用している・利用予定である | 4 相手がいれば利用したい |
| 2 利用を検討している | 5 利用しない |
| 3 自分が利用できるような制度や
条件が整ったら利用したい | 6 制度の内容を知らない |

具体的な条件や制度



あなたのお住まいや、お引越しの希望などをうかがいます

問 61 あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|---|
| 1 持ち家(一戸建て) | 4 民間の借家または賃貸アパート |
| 2 持ち家(マンションなどの集合住宅) | 5 社宅・公務員住宅などの給与住宅 |
| 3 公団・公社・公営などの賃貸住宅 | 6 その他 <input type="text" value="具体的に"/> |

問 62 あなたは、現在お住まいの場所から引っ越したいと思いますか。(○は1つ)

- 1 すぐにでも引っ越したい
- 2 できれば引っ越したい
- 3 いずれは引っ越したい
- 4 今の場所に住み続けたい > 問 65 へ

問 63 引っ越したい理由は何ですか(○はいくつでも)

- 1 経済的な理由(家賃など)
- 2 教育に関する理由(入学・通学など)
- 3 仕事に関する理由(就職・転職など)
- 4 住宅に関する理由(家の購入・広さなど)
- 5 地域への帰属意識(Uターンなど)
- 6 環境上の理由(近所の騒音、治安など)
- 7 家族関係の変化(結婚・同棲、パートナーとの別れなど)
- 8 支援をするため・受けるため(介護など)
- 9 自立(しがらみから自由になる、自分らしく生きたい、など)
- 10 刺激を得るため(違う世界を経験したいなど)
- 11 家族の移動に伴って
- 12 その他
- 13 理由はない

問 64 希望する引っ越し先は、どこですか。(○は1つ)

- 1 現在の居住地と同じ区市町村
- 2 現在と同じ都道府県の他の区市町村
- 3 他の都道府県
- 4 外国 |
- 5 わからない

問 65 これから5年以内に、引っ越す可能性はありますか。(○は1つ)

- 1 大いにある
- 2 ある程度ある
- 3 あまりない
- 4 まったくない



この研究グループでは、2024年以降、第2回調査の実施を予定しております

あなたは第2回調査にご協力いただけますか。調査内容は簡潔になる予定です。

- 1 協力してもよい
- 2 場合によっては協力してもよい
- 3 絶対に協力したくない

「1 協力してもよい」「2 場合によっては協力してもよい」に○をつけた方については、今回のアンケート配布のために住民基本台帳から抽出させていただいたご住所とお名前の情報を、業務委託機関である新情報センターにて厳重に保管し、次回アンケートの送付に使用させていただきます。実際にご協力いただくか否かは、任意となります。

アンケートの外国語訳を参照して回答した方へ

- 回答此份問卷調查表時，參閱了網頁裡所登載的中國語繁體字版了嗎？ ----- ☐ 是 • ☐ 否
- 回答此份問卷調查表時，參閱了網頁裡所登載的中國語簡體字版了嗎？ ----- ☐ 是 • ☐ 否
- Did you refer to the English version of the questionnaire on our website? ----- ☐ Yes • ☐ No
- 본 앙케이트 조사에 응답할 때 홈페이지에 기재된 한국어 번역판을 참조하였습니까? ----- ☐ 예 • ☐ 아니오
- Você precisou consultar a tradução em português de nosso Site, para responder este questionário? ----- ☐ Sim • ☐ Não
- Khi trả lời bản câu hỏi này, bạn có tham khảo phiên bản tiếng Việt trên trang chủ không? ----- ☐ Có • ☐ Không
- Sumangguni ka ba sa Ingles na bersyon ng palatanungan sa aming website? ----- ☐ Oo • ☐ hindi

以下では、アンケートへの感想をおたずねします。
今後の研究の参考とさせていただきますので、できる限りお答えいただけると幸いです。

アンケートへのご意見

Q1 アンケート全般について (○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 関心をもてた | 3 あまり関心をもてなかった |
| 2 ある程度、関心をもてた | 4 関心をもてなかった |

Q2 質問に使われている言葉について (○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 わからない言葉はなかった | 3 わからない言葉がかなりあった |
| 2 わからない言葉がいくつかあった | 4 わからない言葉ばかりだった |

Q3 このアンケートについて、ご意見などがありましたら、ご自由にご記入ください。 上では十分に回答できなかったことを、補足していただくこともできます。

ご協力ありがとうございました。

ご記入後のアンケートは返送用封筒に入れ、2月21日(火)までに郵便ポストにご投函ください。

お手数をおかけしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(このアンケートや封筒には、お名前やご住所を記入しないでください。)

Q & A

アンケートの対象者となった方へのご説明

1 これは何のためのアンケートですか？

家族や性、多様性にかんする皆さまのご経験やお考えについて調査するものです。
仕事・職場・家計などもふくめたご家族のことや、性にかかわること、恋愛、結婚、子どもをもつこと、
居住する場所、心身の健康と周りの方たちとの関係にかんすることなどを広くおたずねし、これらのことがらが、
わたしたちの暮らしとどのように関連しているかを、学術的見地から分析します。

2 なぜ、私に送られてきたのですか？

どの方にアンケートをお願いするかは、日本全国の18歳～69歳の方の中から1万8千人を無作為抽出法(※)によって抽出し、決定いたしました。
※無作為抽出法とは、「くじびき」のように、誰が選ばれるかを偶然にゆだねる抽出方法で、科学的な調査では標準的な方法です。

3 私は答えなくてもよいですか？／他の誰かが代わりに答えてもよいですか？／関心がないので答えたくありません

このアンケートは、無作為抽出により対象者となった皆さまから寄せられる回答の結果が、日本にお住まいの方々の意識や実情の正確な縮図となるように設計されています。
封筒の宛名のご本人様がお答えくださいますよう、ご協力お願い申し上げます。
回答は任意であり、回答しなくても封筒の宛名の方に不利益になることはありませんが、
できるだけ多くの方にご回答いただくことで、さまざまな方の状況を反映した信頼できる結果が得られます。

4 住民基本台帳から住所や名前など(個人情報)を抜き出すのはプライバシーの侵害ではないですか？

対象者の抽出にあたっては、国や自治体が法令等で定めた住民基本台帳の利用に関する手続きにのっとり、
学術研究実施のために認められる閲覧許可を得て、アンケートのご協力依頼と送付に必要な情報のみを
抽出しています。本アンケートは、国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査委員会において、
個人情報の扱いやプライバシー保護を含め、研究倫理上、問題がないことの承認を受けた上で実施しています。

5 住所や名前などの個人情報が漏(も)れるのではないですか？

アンケート書類を発送するための個人情報(住所・氏名)は、研究チームでは保有せず、業務委託先の新情報センターのみが保有し、個人情報保護制度のもと、ご回答くださった方の個人情報が漏(も)れることがないように厳重に取り扱います。個人情報は、調査以外の目的に使用することなく、調査終了後、新情報センターの規程に基づき速やかに裁断又は溶解により廃棄いたしますので、ご安心ください。

➡ 新情報センターの個人情報保護方針、取り扱いについて [URL https://www.sjc.or.jp/privacy/](https://www.sjc.or.jp/privacy/)

6 回答から個人を特定できるのではないですか？アンケート書類に番号がついているので心配です

アンケートの番号はご回答くださった方へ謝礼(※)をお送りするために使用します。送付先の宛名は、業務委託先において、アンケートの回答とは別に管理されますので、回答から個人情報が特定されることはありません。
このアンケートは、上記4の研究倫理審査を受けた上で実施し、個人情報保護の体制に関する認証評価を受けた新情報センターが回答を収集し整理します。研究チームが保有して集計に用いるのは、どなたの回答かがわからない数値化されたデータです。

※謝礼が不要な方は、アンケート末尾の「アンケートへのご意見」欄に謝礼不要と書いてください。





オモテ面もご覧ください

7 インターネットで回答したら、誰の端末から送られたのかが、わかるのではないですか？

インターネットの回答を集めるサーバーには回答した方の端末の情報が届くことになりますが、回答の受付を締め切った時点で、業務委託先において端末に関する情報を完全に除去し、そののちに集計を行います。また、回答の送信には暗号化がほどこされますので、安心してご回答ください。

8 答えたくない質問があります / 自分にあてはまる選択肢がありません

正確な結果につなげるために、できるだけお答えいただきたいところですが、どうしても答えたくない質問がありましたら、次に進んでいただいて構いません。回答は任意であり、回答しなくてもあなたに不利益になることはありません。途中でやめることもできます。一部しか答えられなかった場合にも、アンケートをご返送ください。また、あてはまる選択肢がない場合は、余白にあなたのご回答をお書きください。

9 なぜ、結婚や子ども、性別や恋愛についての質問がたくさんあるのですか？

昨今、日本でも家族や性の多様性への関心は高まりつつありますが、家族や性という面から見たときにさまざまな生き方をしている人たちは、数としては多くないかもしれませんが、依然として、日常生活の中で生きづらさを感じる場面が少なくありません。そうした人たちが全国にどれくらいいるのか、どのような生きづらさを感じているのかを把握するために、すべての方に家族や性について詳しくおたずねしています。全国にはさまざまな暮らし方をしている人がいますが、この調査は誰にとってもより暮らしやすい社会にしていこうための貴重なデータを収集するための調査です。答えにくいこともあるかもしれませんが、あなたのプライバシーや個人情報は厳重に守られますので、ご理解の上、お答えくださいますようお願いいたします。

10 アンケートに対して意見があります

最後のページ（インターネット回答の場合は最後の画面）の感想欄に、ご記入ください。
重要な意見として、学術研究および今後のアンケートの実施方法を改善するために参考にいたします。

11 このアンケートの結果はいつ、どこで見られますか？

2023 年度中をめどに結果の概要を公表する予定です。
概要の入手方法は、このアンケートのホームページでご案内いたします。

URL <https://zenkoku-chosa.jp>

アンケートにかんするお問い合わせ先

☎ 0120-100-190 [無料]

☎ 平日 9:00-12:00 / 13:00-17:00

✉ zenkoku-chosa@sjc.or.jp



zenkoku-chosa.jp

詳しくは Web サイトでも
ご案内しています

業務委託先 一般社団法人 新情報センター「家族と性と多様性」アンケート事務局（担当：安藤・廣野）

※ このアンケートは、国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査委員会において承認を受けた上で実施しています。
（承認番号 IPSS-IBRA #22002）

※ アンケートを返信用封筒に入れて投函する、または、インターネットで回答を送信することで、このアンケートへの協力に同意いただいたものとします。

インターネット回答のご案内

このアンケートは、インターネットでのご回答もできます

① アンケート回答の期限

2023年
2月21日(火) まで

➡ 回答の手順

STEP 1

下記の QR コードをスキャン、または URL を直接ブラウザに入力し、回答画面にアクセスしてください



QR コード

URL



STEP 2

下記のログイン ID とパスワードを入力し、ログイン後は画面の案内に従って 回答してください

ログイン ID

(数字 5 ケタ)

パスワード

(英数字 8 文字)

※この ID とパスワードはあなた専用です

インターネットで回答した方は、アンケート用紙を返送する必要はございません。
インターネットで回答を送信することで、このアンケートへの協力に同意いただいたものとします。

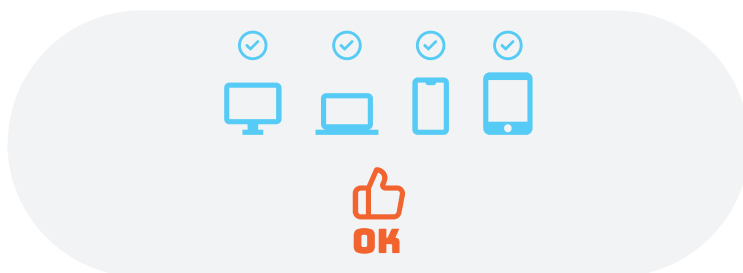
ウラ面につづきます





オモテ面もご覧ください

インターネット回答では
パソコン、スマートフォン、タブレットのいずれでもご回答いただけます。



(フィーチャーフォンでのご回答はお控えください)

- 必ず、対象となったご本人がご回答ください
- ご回答はお一人につき 1 回をお願いします
- ログイン ID やパスワードは、第三者に伝えないなど、取扱いには十分にご注意ください
- 本アンケートは 1 つ前の画面の入力情報までが自動保存されますので、仮に回答を中断した場合でもログイン ID とパスワードを入れることでご回答の続行が可能です
(ただしご回答を最後まで完了してしまうと、再度やりなおしはできません。ご注意ください)
- 前の画面に戻る場合は、ページの中に設けられた【戻るボタン】をご使用ください
(ブラウザの「戻る」ボタンや「戻る」メニューをご使用になりますと、それまでの回答がクリアされてしまう場合がございますのでご注意ください)



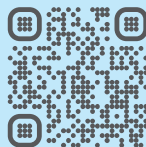
回答を終えたら、必ず【送信ボタン】を押し、「ご協力ありがとうございました」の
メッセージが表示されることをご確認ください

アンケートにかんするお問い合わせ先

☎ 0120-100-190 [無料]

☎ 9:00-12:00 / 13:00-17:00

✉ zenkoku-chosa@sjc.or.jp



zenkoku-chosa.jp

詳しくは Web サイトでも
ご案内しています

業務委託先

一般社団法人 新情報センター「家族と性と多様性」アンケート事務局 (担当: 安藤・廣野)



料金受取人払郵便



差出有効期間
令和5年4月
30日まで
(切手不要)

1 5 0 8 7 9 0
0 5 9

(受取人)

東京都渋谷区恵比寿 1-19-15
ウノサワ東急ビル1階
一般社団法人 新情報センター内

「家族と性と多様性」 アンケート事務局 行

「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」返送用

① アンケートご記入後、三つ折りにして封筒に入れ、
投函してください。(裏面に署名の必要はありません)

調査主体

研究代表者 厚生労働省 国立社会保障・室長 釜野さおり

研究分担者 早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 山内昌和

「家族と性と多様性」研究チーム(日本学術振興会 科学研究費助成事業)



SUPER GRIP・G オーシャンプラスチック仕様 スーパーグリップG

海から回収されたプラスチックを使ったボールペン。

クリップ側面 1



クリップ正面



クリップ側面 2



クリップ裏面



油性ボールペン・110円（税抜価格100円） BSGK-10FOP-WBN ホワイトオーシャンブルー

BSGK-10FOP-WBN 0.7mm・ノック式

- 軸 色：ホワイトオーシャンブルー
- インキ色：黒
- サ イ ズ：最大径φ10.6mm 全長146mm
- 名 入 れ：[さや] シルク印刷・パッド印刷・インクジェット印刷
[クリップ] パッド印刷



軸材にオーシャンプラスチックを使用しているためグリップの色味が若干異なる場合があります。



ゆうメール

家族と性と多様性に かんする全国アンケート

在中

2023年2月21日(火) までにご返信ください
ご回答いただいた方には500円のQUOカードをお送りします

記入用ペン同封

調査主体

研究代表者 厚生労働省 国立社会保障・人口動向研究部第2室長 釜野さおり
研究分担者 早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 山内昌和
「家族と性と多様性」研究チーム(日本学術振興会 科学研究費助成事業)

業務委託先・お問い合わせ先

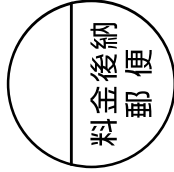
(発送元) 一般社団法人 新情報センター
「家族と性と多様性」アンケート事務局(担当 安藤・廣野)
東京都渋谷区南比寿1-19-15
☎ 0120-100-190 (平日9時-12時 / 13時-17時)



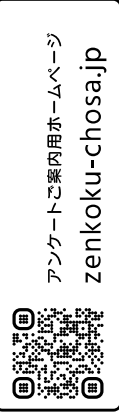
zenkoku-chosajp

詳しくは Web サイトでも
ご案内しています

郵便はがき



調査主体 研究代表者
厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所
人口動向研究部室長 釜野さおり
研究分担者
早稲田大学 教育・総合科学学術院教授 山内昌和
「家族と性と多様性」研究チーム



アンケートで案内用ホームページ
zenkoku-chosa.jp

(業務委託先)一般社団法人 新情報センター
「家族と性と多様性」アンケート事務局(担当:安藤・廣野)
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-15

家族と性と多様性に かんする全国アンケート

ご協力のお礼とお願い

この度は「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」にご協力いただき、誠にありがとうございます。いただいたご回答は暮らしやすい社会をつくるための研究や施策の提言等に広く役立ててまいります。

お答えいただいた内容は統計として取りまとめられ、個人情報報が外部に出るようなことはございません。回答は任意ですが、一人でも多くの方にご回答いただくことで、信頼できる結果につながります。ぜひご協力いただきますよう、お願いいたします。

このはがきはアンケートをお送りしたすべての方にお届けしています。まだご回答をいただいていない場合は、趣旨をご理解いただき、2月27日(月)までに郵送またはインターネットにて回答をお願いいたします。



アンケートはインターネットでも回答できます
<https://sjc.post-survey.com/zenkoku-chosa/>

※アンケート用紙がお手元にない方には再送します
下記の〈問い合わせ先〉にご連絡ください

電話 0120-100-190 [無料] 月～金 9:00-12:00/13:00-17:00

Mail zenkoku-chosa@sjc.or.jp

- 本状と行き違いでご回答済みの場合は何卒ご容赦ください
- ご回答いただいた方には、500円のQUOカードを3月中旬ごろに郵送いたします。

「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」 ご協力のお礼

拝啓

時下益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度はご多用中にもかかわらず、本調査にご協力いただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで、多くの方々からご協力をいただくことができました。

皆様からいただいた貴重なご回答を基に研究を進め、学会や論文で発表するほか、さまざまな媒体を通じて広く社会に還元してまいります。また、行政の施策、とりわけ LGBT のような人権にかかわる課題への取り組みに貢献するように努めてまいります。

些少ではございますが、謝礼の品(500 円分 QUO カード)を同封させていただきました。ご査収いただければ幸いです。

略儀ながら書中をもって、ご協力に心より感謝申し上げます。

敬具

※なお、2024 年以降実施予定の第 2 回調査に「(場合によっては)協力してもよい」とのご意向をお寄せいただきました皆様には、改めてアンケートをお送りいたします。今後転居等ございましたら、下記の調査実施機関の新情報センターまでお知らせいただければ大変ありがたく、何卒よろしくお願いいたします。

2023 年3月

<調査主体>

家族と性と多様性にかんする全国アンケート

研究代表者 国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部第 2 室長 釜野さおり
研究分担者 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 山内昌和

<業務委託先> 一般社団法人 新情報センター

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-19-15

電話：0120-100-190 (平日 9 時～12 時、13 時～17 時) 4 月以降は 03-3473-5231(代表)

「家族と性と多様性」アンケート事務局 担当：安藤・廣野



一般社団法人 新情報センターは、一般財団法人 日本情報経済社会推進協会から「プライバシーマーク」の付与認定を受けております。調査の実施にあたっては、個人情報の管理を徹底いたします。



「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」
ご協力の御礼 在中

<調査主体>

家族と性と多様性にかんする全国アンケート

研究代表者 厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所
人口動向研究部 第2室長 釜野さおり

研究分担者 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 山内昌和

<業務委託先> 一般社団法人 新情報センター

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-15

電話：0120-100-190（平日9時～12時、13時～17時）

「家族と性と多様性」アンケート事務局 担当：安藤・廣野

家族と性と多様性にかんする全国アンケート

1. アンケートとともに同封されている「インターネット回答のご案内」用紙をご用意ください。（表面に「ログインID」と「パスワード」が書かれています。）

2. IDとパスワードを入力し「次へ」のボタンをクリックするとログインされます。

ID、パスワードをご入力ください。

ID:

パスワード:

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

回答は、各ページ60分以内に送信をしてください。

JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

推奨ブラウザ

【Windows】

Chrome 最新版

Firefox 最新版

Microsoft Edge 最新版

【MacOS】

Chrome 最新版

Firefox 最新版

Safari 最新版

【Android】

標準ブラウザ（Chrome） 最新版

【iOS】

標準ブラウザ（Safari） 最新版

Chrome 最新版

次へ

-----<改ページ>-----

家族と性と多様性にかんする全国アンケート
ご協力をお願い

このアンケートは、厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所 室長・釜野さおりを中心とした調査チームが、国の研究費補助金を受け、日本全国にお住まいの18～69歳の1万8千人の方を無作為に選んでおこなう大規模アンケートです。
お答えになりにくい質問もあるかと思いますが、純粋に学術的見地からの質問となっております。アンケートへの回答は任意ですが、さまざまな方の状況をできるだけ正確に結果に反映するために、ぜひご協力くださいますよう、ご了承ください。

詳しくは、アンケートご案内のホームページをご覧ください。
<https://zenkoku-chosa.jp/>

■回答期間

2023年2月2日（木）0：00 ～ 2月21日（火）23：59まで

■所要時間

20～30分程度（最大設問数 65問）

■インターネット回答の方法

1. このページの一番下の「次へ」をクリックすると、アンケートが開始されます。
2. アンケートが開始したら、設問文の案内どおりに回答を進めてください。
3. 回答の途中で前のページに戻る場合は、画面上のグレーの「戻る」ボタンを使用してください。
ブラウザ上で「戻る」等の操作をしてしまうと、回答が続けられなくなります。
4. 万が一、進めなくなった場合は、お手数ですが、もう一度IDとパスワードを入れてログインし、再開してください。

■回答にさいしてのお願い

1. このアンケートは、封筒の宛名のご本人様に回答をお願いいたします。
2. ご回答は、お一人につき1回でお願いします。
3. お答えは、あてはまる選択肢をお選びください。
4. 正確にあてはまる選択肢がない場合でも、もっとも近いと思うものをお選びください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、具体的な内容を入力してください。
6. どうしても答えたくない/答えられない質問がある場合は、そのまま次の質問にお進みください。
ただし、ご回答必須の質問が一部あります。
7. 回答を完了したら、紙のアンケートは返送せず、そのまま破棄してください。

※インターネットで回答を送信することで、本アンケートへの協力に同意いただいたものといたします。
※ログインIDやパスワードは、第三者に伝えないなど、取り扱いには十分にご注意ください。

■お問い合わせ先

電話：0120-100-190[携帯電話、固定電話（IP含む）無料]

（受付時間 平日 9:00-12:00/13:00-17:00）

【業務委託先】 一般社団法人 新情報センター 「家族と性と多様性」アンケート事務局（担当：安藤・廣野）

調査主体

研究課題名「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為抽出調査の実施」
（文部科学省所管 日本学術振興会 科学研究費助成事業 課題番号 21H04407）

研究代表者 厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部第2 室長 釜野さおり
千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル6F [03-3595-2984]

研究分担者 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 山内昌和
新宿区西早稲田 1-6-1 [03-5286-1577]

「次へ」のボタンをクリックすると、アンケートが開始されます。

----- <改ページ> -----

はじめに、あなたの今のお仕事や、お仕事の経験について、うかがいます

[必須]

問1 あなたは現在、収入をともなう仕事をしていますか。「仕事」にはパート・アルバイト、
自営業の手伝いや内職も含みます。（1つ選択）

☒ 仕事を持ち、働いている

☐ 在職しているが、病気・育児などで休職中

☐ 仕事をしていない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問1で『3.仕事をしていない』 いずれかを選択した方のみ

問1① あなたはこの中のどれにあたりますか。（1つ選択）

☐ 学生

☐ 主に家事育児などをしている

☐ 失業中

☐ 定年退職・高齢のため無職

☐ 心身上の事情で働けない

☐ その他（具体的に ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問1で『1.仕事をもち、働いている』～『2.在職しているが、病気・育児などで休職中』 いずれかを選択した方のみ

問2 あなたのお仕事は大きく分けて、この中のどれにあたりますか。（1つ選択）

2つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。

☐ 正社員

☐ パート・アルバイト・臨時雇い

☐ 派遣社員

☐ 契約社員・嘱託

☐ 会社などの経営者・役員

☐ 自営業主・自由業者

☐ 家族従業者（家業の手伝い）

☐ 内職

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問1で『1.仕事をもち、働いている』～『2.在職しているが、病気・育児などで休職中』 いずれかを選択した方のみ

問3 あなたのお勤め先（職場）は、どのような事業をしていますか。

次の中でもっとも近いものを選んでください。（1つ選択）

2 つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。

※公務の場合は、勤め先の事業が他の選択肢にない場合のみ、「公務（政府・地方自治体固有の業務）」を選んでください。

※どの選択肢が適切かわからない場合は、「その他」に勤め先（職場）の事業内容を具体的にご入力ください。

- ☐ 農業、林業
- ☐ 漁業
- ☐ 鉱業、採石業、砂利採取業
- ☐ 建設業
- ☐ 製造業
- ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 情報通信業（出版, マスコミ業を含む）
- ☐ 運輸業、郵便業
- ☐ 卸売業、小売業
- ☐ 金融業、保険業
- ☐ 不動産業、物品賃貸業
- ☐ 学術研究、専門・技術サービス業
（広告, 著述・芸術家業を含む）
- ☐ 宿泊業、飲食サービス業
- ☐ 生活関連サービス業、娯楽業
（洗濯・理容・美容・浴場業を含む）
- ☐ 教育、学習支援業
- ☐ 医療、福祉
（保健衛生, 社会保険・介護事業を含む）
- ☐ 複合サービス事業（郵便局, 協同組合）
- ☐ その他のサービス業
（廃棄物処理, 整備, 修理, 職業紹介・派遣事業を含む）
- ☐ 政治・経済・文化団体、宗教団体
- ☐ 公務（政府・地方自治体固有の業務）
- ☐ その他（具体的に ）

----- <改ページ> -----

【回答者条件】

問1で『1.仕事を持ち、働いている』～『2.在職しているが、病気・育児などで休職中』 いずれかを選択した方のみ

問4 あなたは通常、お勤め先（職場）でどのような仕事をしていますか。

次の中でもっとも近いものを選んでください。（1つ選択）

2つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。

- ☐ 管理職（課長相当以上の役職）
- ☐ 専門職・技術職
- ☐ 事務職
- ☐ 販売・営業職
- ☐ サービスの仕事
（介護職員, 理美容師, 接客業, ビル管理人を含む）
- ☐ 保安の仕事（自衛官, 警察官, 消防士, 警備員など）
- ☐ 農林漁業の仕事
- ☐ モノを製造・加工する仕事
- ☐ 機械や設備・乗物を運転する仕事
- ☐ 建設現場の仕事・採掘の仕事
- ☐ 運搬・清掃・包装の仕事
- ☐ その他（具体的に ）

----- <改ページ> -----

【回答者条件】

問1で『1.仕事を持ち、働いている』～『2.在職しているが、病気・育児などで休職中』 いずれかを選択した方のみ

問5 あなたの会社・組織で働いている人の人数はこの中のどれにあたりますか。

身近な職場だけでなく、会社・組織全体でお答えください。

あなた自身、家族従業者、パートの方など、働いている方をすべて含めてください。（1つ選択）

2つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。

※ 省庁や自治体から給与をもらっている場合（公立学校の教師、消防署員など）は、官公庁に含めてください。ただし、公社や各種法人は官公庁に含めません。

- ☐ 1人（あなたのみ）
- ☐ 2～4人
- ☐ 5～9人
- ☐ 10～29人
- ☐ 30～99人
- ☐ 100～299人
- ☐ 300～499人

- ☐ 500～999 人
- ☐ 1000～1999 人
- ☐ 2000～9999 人
- ☐ 1 万人以上
- ☐ 官公庁
- ☐ わからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問1で『1.仕事を持ち、働いている』～『2.在職しているが、病気・育児などで休職中』 いずれかを選択した方のみ

問6 あなたの役職はこの中のどれにあたりますか。
もっとも近いものを選んでください。（1つ選択）

2つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。

- ☐ 役職なし
- ☐ 職長・班長・組長など
- ☐ 係長（係長相当）
- ☐ 課長（課長相当）
- ☐ 部長（部長相当）
- ☐ 社長、重役、役員、理事
- ☐ その他の役職（具体的に ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問1で『1.仕事を持ち、働いている』～『2.在職しているが、病気・育児などで休職中』 いずれかを選択した方のみ

問7 現在の会社・組織で何年間働いてきましたか。
自営業の方は、自営で働き始めてからの年数でお答えください。

2つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。

年間

※ 1 年未満の場合は、0（ゼロ）と入力してください。
整数でご入力ください。

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問1で『1.仕事をもち、働いている』～『2.在職しているが、病気・育児などで休職中』 いずれかを選択した方のみ

問8 ふだん、あなたは1週間あたり何時間働いていますか。残業も含めてください。

2つ以上仕事をお持ちの場合、主な仕事についてお答えください。

1週間あたり

時間

※休憩時間は除く

整数または小数第1位までご入力ください。

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問8で『1.』 に [100] より多く 数値を入力した方のみ

一週間（一ヶ月ではなく）の労働時間は【[回答：問8] 時間】でよろしいでしょうか

-----<改ページ>-----

問9 あなたに、これまでに次のようなことはありましたか。（複数選択可）

☐ 心身の病気やケガで休職したこと

☐ 産前産後休業や育児休業を取得したこと

☐ 介護休業を取得したこと

☐ 失業や退職後、無職でいたこと

☐ 他の理由の休職や無職（具体的に ）

☐ 上記のような経験はない

-----<改ページ>-----

問10 昨年1年間にあなたがお仕事で得た収入（税込）は、どれに近いですか。各種手当、賞与・ボーナスなども含めてお答えください。副収入（主な仕事以外による収入）、年金、給付金、家賃収入、配当金、仕送りなどは含みません。（1つ選択）

☐ 仕事で得た収入はなかった

☐ 100万円未満

☐ 100～200万円未満

☐ 200～300万円未満

☐ 300～400 万円未満

☐ 400～500 万円未満

☐ 500～600 万円未満

☐ 600～700 万円未満

☐ 700～800 万円未満

☐ 800～900 万円未満

☐ 900～1000 万円未満

☐ 1000～1100 万円未満

☐ 1100～1200 万円未満

☐ 1200～1300 万円未満

☐ 1300～1400 万円未満

☐ 1400～1500 万円未満

☐ 1500～1600 万円未満

☐ 1600～1700 万円未満

☐ 1700～1800 万円未満

☐ 1800万円以上
(具体的に 万円)
※1億円の場合は10000万円としてください

☐ わからない

----- <改ページ> -----

ここからは、あなたの健康や生活習慣について、うかがいます

問11 あなたの現在の健康状態は、いかがですか。（1つ選択）

☐ よい

☐ まあよい

☐ ふつう

☐ あまりよくない

☐ よくない

----- <改ページ> -----

問12 あなたは煙草（タバコ）を吸いますか。（1つ選択）

- ☐ 毎日吸っている
- ☐ とくとき吸う日がある
- ☐ 以前は吸っていたが最近1か月以上吸ってない
- ☐ 吸わない

-----<改ページ>-----

問13 あなたは、ふだんお酒を飲みますか。（1つ選択）

- ☐ ほとんど毎日
- ☐ 週に数回
- ☐ 週に1回程度
- ☐ 月に1回程度
- ☐ 年に数回
- ☐ 年に1回程度
- ☐ 飲まない
- ☐ 飲めない

-----<改ページ>-----

問14 この1年間、お酒を飲んで、次のようなことはありましたか。（複数選択可）

- ☐ イッキ飲みをした
- ☐ 酔いつぶれてしまった
- ☐ 飲みすぎて、嘔吐してしまった
- ☐ 飲みすぎて、記憶をなくした
- ☐ いずれの経験もない

-----<改ページ>-----

問15 あなたは、慢性的な病気または長期にわたる健康上の問題をかかえていますか。（複数選択可）

- ☐ 高血圧・動脈硬化・心疾患

☐ 糖尿病

☐ 悪性腫瘍（がん）

☐ うつ病や他のこころの病気

☐ その他（具体的に ）

☐ 健康上の問題はない

-----<改ページ>-----

問16 最近1か月間に、次の(1)～(6)のようなことが、どれくらいひんぱんにありましたか。
それぞれについて、あてはまるものを選んでください。（それぞれ1つ選択）

		い つ も	た い て い	と き ど き	少 し だ け	ま っ た く な い
(1) 神経過敏に感じましたか	→	☐	☐	☐	☐	☐
(2) 絶望的だと感じましたか	→	☐	☐	☐	☐	☐
(3) そわそわ、落ち着かなく感じましたか	→	☐	☐	☐	☐	☐
(4) 気分が沈み込んで、何が起ころっても 気が晴れないように感じましたか	→	☐	☐	☐	☐	☐
(5) 何をするのも骨折りと感じましたか	→	☐	☐	☐	☐	☐
(6) 自分は価値のない人間だと感じましたか	→	☐	☐	☐	☐	☐

-----<改ページ>-----

[必須]

問17 これまでに、次にあげるような経験はありましたか。（複数選択可）

☐ 生きる価値がないと感じた

☐ 死ねたらと思った、または、自死の可能性を考えた

☐ 自殺について考えたり、自殺をほのめかず行動をとったりした

☐ 自殺を図った

☐ 上のようなことはなかった

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問17で『1.生きる価値がないと感じた』～『4.自殺を図った』 いずれかを選択した方のみ

問18 「最近の1年間」、「小・中学校の頃」、「高校・16～18歳の頃」に次の(1)～(4)のような経験はありましたか。それぞれ「ある」、「ない」のどちらかを選んでください。

		(ア) 最近の1年間	
		ある	ない
(1) 生きる価値がないと感じた	→	☐	☐
(2) 死ねたらと思った、または、 自死の可能性を考えた	→	☐	☐
(3) 自殺について考えたり、 自殺をほのめかす行動をとったりした	→	☐	☐
(4) 自殺を図った	→	☐	☐

「最近の1年間」、「小・中学校の頃」、「高校・16～18歳の頃」に次の(1)～(4)のような経験はありましたか。それぞれ「ある」、「ない」のどちらかを選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

		(イ) 小・中学校の頃	
		ある	ない
(1) 生きる価値がないと感じた	→	☐	☐
(2) 死ねたらと思った、または、 自死の可能性を考えた	→	☐	☐
(3) 自殺について考えたり、 自殺をほのめかす行動をとったりした	→	☐	☐
(4) 自殺を図った	→	☐	☐

「最近の1年間」、「小・中学校の頃」、「高校・16～18歳の頃」に次の(1)～(4)のような経験はありましたか。それぞれ「ある」、「ない」のどちらかを選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

		(ウ) 高校・16～18歳頃	
		ある	ない
(1) 生きる価値がないと感じた	→	☐	☐
(2) 死ねたらと思った、または、 自死の可能性を考えた	→	☐	☐
(3) 自殺について考えたり、 自殺をほのめかす行動をとったりした	→	☐	☐
(4) 自殺を図った	→	☐	☐

-----<改ページ>-----

ここでは、学校に通っていた頃や、大人になってからの人間関係についてうかがいます

問19 小学校から高校時代のあいだに、次の(1)～(6)のようなことはありましたか。

(ア)と(イ)のそれぞれについて、「ある」、「ない」のどちらかを選んでください。

(ア) 自分が受けたこと
小・中学校や高校での友人や同級生による・・・

		ある	ない
(1) 不快な冗談、からかい	→	☐	☐
(2) 暴力的行為	→	☐	☐
(3) 「ホモ」「おかま」「レズ」 「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、 不快な冗談、からかい	→	☐	☐
(4) 「ホモ」「おかま」「レズ」 「おとこおんな」「オネエ」といったことで ふるわれる、 暴力的な行為	→	☐	☐
(5) 民族、人種、国籍などにかかわる不快な冗談、からかい	→	☐	☐
(6) 民族、人種、国籍などに関してふるわれる暴力的行為	→	☐	☐

小学校から高校時代のあいだに、次の(1)～(6)のようなことはありましたか。
 (ア)と(イ)のそれぞれについて、「ある」、「ない」のどちらかを選んでください。
 【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

		(イ) 見聞きしたこと	
		ある	ない
小・中学校や高校での友人や同級生による…			
(1) 不快な冗談、からかい	→	☐	☐
(2) 暴力的行為	→	☐	☐
(3) 「ホモ」「おかま」「レズ」 「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、 不快な冗談、からかい	→	☐	☐
(4) 「ホモ」「おかま」「レズ」 「おとこおんな」「オネエ」といったことで ふるわれる、 暴力的な行為	→	☐	☐
(5) 民族、人種、国籍などにかかわる不快な冗談、からかい	→	☐	☐
(6) 民族、人種、国籍などに関してふるわれる暴力的行為	→	☐	☐

-----<改ページ>-----

問20 大人になってから、次の(1)～(6)のようなことはありましたか。
 (ア)と(イ)のそれぞれについて、「ある」、「ない」のどちらかを選んでください。

		(ア) 自分が受けたこと	
		ある	ない
大人になってからの、身近な人による…			
(1) 不快な冗談、からかい	→	☐	☐
(2) 暴力的行為	→	☐	☐
(3) 「ホモ」「おかま」「レズ」 「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、 不快な冗談、からかい	→	☐	☐
(4) 「ホモ」「おかま」「レズ」 「おとこおんな」「オネエ」といったことで	→	☐	☐

ふるわれる、**暴力的な行為**

(5) 民族、人種、国籍などに
かかわる不快な冗談、からかい

→

●

●

(6) 民族、人種、国籍などに
関してふるわれる暴力的行為

→

●

●

大人になってから、次の(1)～(6)のようなことはありましたか。
(ア)と(イ)のそれぞれについて、「ある」、「ない」のどちらかを選んでください。
【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

大人になってからの、身近な人による… ▼		(イ) 見聞きしたこと	
		ある	ない
(1) 不快な冗談、からかい	→	●	●
(2) 暴力的行為	→	●	●
(3) 「ホモ」「おかま」「レズ」 「おとこおんな」「オネエ」といったことに かかわる、 不快な冗談、からかい	→	●	●
(4) 「ホモ」「おかま」「レズ」 「おとこおんな」「オネエ」といったことで ふるわれる、 暴力的な行為	→	●	●
(5) 民族、人種、国籍などに かかわる不快な冗談、からかい	→	●	●
(6) 民族、人種、国籍などに 関してふるわれる暴力的行為	→	●	●

-----<改ページ>-----

問21 過去1年間、必要なときに心配ごとを聞いてくれた人はいますか。（1つ選択）

- いた
- いなかった
- 心配ごととはなかった

-----<改ページ>-----

問22 過去1年間、必要なときに経済面で助けてくれた人はいますか。（1つ選択）

- いた
- いなかった
- 経済的な援助を必要としたことはない

-----<改ページ>-----

ここからは、あなたやご家族のことについて、うかがいます

[必須]

問23 あなたの生まれた年月と年齢をご入力ください。

年 月生まれ

[必須]

ここに設問文を入力します。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

現在 歳

----- <改ページ> -----

【回答者条件】

問23_2で『1.現在』 に [18] より少なく 数値を入力した

または

問23_2で『1.現在』 に [70] より多く 数値を入力した方のみ

あなたの年齢は 【[回答：問23_2] 歳】 です。よろしいですか？

----- <改ページ> -----

問24 あなたが生まれたのは、どちらの国ですか。（1つ選択）

日本以外の方は、国名(または地域)をご入力ください。

☐ 日本

☐ 日本以外の国（国名 ）

----- <改ページ> -----

問25 あなたの現在の国籍はどちらですか。

日本以外の方は、国名（または地域）をご入力ください。

☐ 日本

☐ 日本以外の国（国名 ）

----- <改ページ> -----

[必須]

問26 あなたには、親（保護者・養育者など）と離れて暮らした経験がありますか。（1つ選択）

ある場合、はじめて親と離れて暮らしたのは、あなたが何歳の時でしたか。

※親との死別は、「離れて暮らした経験」には含みません。

☐ 親と離れて暮らした経験がある（はじめて親と離れた時の年齢 歳）

☐ 親と離れて暮らした経験がない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問26で『1.親と離れて暮らした経験がある（はじめて親と離れた時の年齢』 いずれかを選択した方のみ

問26① あなたがはじめて親と離れて暮らした理由は、次のどれにあてはまりますか。（複数選択可）

☐ 入学・進学

☐ 結婚・同棲

☐ 就職・転職・転勤

☐ 親からの自立・独立

☐ 住宅事情や通勤通学の便など

☐ その他

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問26で『1.親と離れて暮らした経験がある（はじめて親と離れた時の年齢』 いずれかを選択した方のみ

問26② はじめて親と離れて暮らした時、あなたはどこに住みましたか。（1つ選択）

☐ 現在と同じ居住地

☐ 現在と同じ区市町村内

☐ 現在と同じ都道府県他の区市町村

☐ 他の都道府県（県名 ）

☐ 外国（国名と地域・都市名 ）

-----<改ページ>-----

問27 あなたは、中学校を卒業したとき（15歳の頃）、どちらにお住まいでしたか。（1つ選択）

☐ 現在と同じ居住地

☐ 現在と同じ区市町村内

☐ 現在と同じ都道府県他の区市町村

☐ 他の都道府県（県名 ）

☐ 外国（国名と地域・都市名 ）

----- <改ページ> -----

問28 5年前（2018年2月1日）は、どちらにお住まいでしたか。（1つ選択）

☐ 現在と同じ居住地

☐ 現在と同じ区市町村内

☐ 現在と同じ都道府県その他の区市町村

☐ 他の都道府県（県名 ）

☐ 外国（国名と地域・都市名 ）

----- <改ページ> -----

問29 あなたが通った学校について、(1)最後に通った（または現在通っている）学校と、(2)その学校の卒業・中退・在学中の別をお答えください。（それぞれ1つ選択）

(1) 最後に通った（または通っている）学校

☐ 小・中学校

☐ 高校

☐ 専門・専修学校（高卒後）

☐ 短大・高専

☐ 大学

☐ 大学院

☐ 上記以外の学校（具体的に ）

あなたが通った学校について、(1)最後に通った（または現在通っている）学校と、(2)その学校の卒業・中退・在学中の別をお答えください。（1つ選択）

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) 卒業・在学の別

☐ 卒業した

☐ 中退した

☐ 在学中（ 年生）

-----<改ページ>-----

問30 中学3年生の頃、あなたの成績は学年の中でどれくらいだったと思いますか。（1つ選択）

☐ 上の方

☐ やや上の方

☐ 真ん中のあたり

☐ やや下の方

☐ 下の方

-----<改ページ>-----

問31 あなたのお父さま（保護者1）とお母さま（保護者2）についておたずねします。最後に通った（または在学中の）学校は、それぞれ次のどれにあたりますか。卒業、中退、在学中は問いません。

※亡くなられている場合も、わかる範囲でお答えください。

(1) **お父さま**（1つ選択）

☐ 中学校（戦前の小学校（尋常科・高等科）・国民学校・青年学校）

☐ 高校（戦前の中学校・高等女学校・実業学校・師範学校）

☐ 専門学校（高卒後）

☐ 短大・高専（戦前の高校・専門学校・高等師範学校）

☐ 大学

☐ 大学院

☐ 上記以外の学校（具体的に ）

☐ その他（わからない、など）

あなたのお父さま（保護者1）とお母さま（保護者2）についておたずねします。最後に通った（または在学中の）学校は、それぞれ次のどれにあたりますか。卒業、中退、在学中は問いません。
【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) **お母さま**（1つ選択）

☐ 中学校（戦前の小学校（尋常科・高等科）・国民学校・青年学校）

☐ 高校（戦前の中学校・高等女学校・実業学校・師範学校）

☐ 専門学校（高卒後）

☐ 短大・高専（戦前の高校・専門学校・高等師範学校）

☐ 大学

☐ 大学院

☐ 上記以外の学校（具体的に ）

☐ その他（わからない、など）

----- <改ページ> -----

問32 お父さま、お母さまの現在の国籍はどちらですか。

日本以外の場合は、国名(または地域) をご入力ください。

※亡くなっている場合は、最後に有していた国籍をわかる範囲でお答えください。

(1) お父さま

☐ 日本

☐ 日本以外の国（国名 ）

お父さま、お母さまの現在の国籍はどちらですか。

日本以外の場合は、国名(または地域) をご入力ください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) お母さま

☐ 日本

☐ 日本以外の国（国名 ）

----- <改ページ> -----

問33 あなたのお父さま、お母さまは、現在どちらにお住まいですか。

(1) お父さま（1つ選択）

☐ 亡くなった

☐ あなたと同居

☐ あなたと同じ区市町村内

☐ あなたと同じ都道府県の他の区市町村

☐ 他の都道府県（県名 ）

☐ 外国（国名と地域・都市名 ）

☐ その他（わからない、など）

あなたのお父さま、お母さまは、現在どちらにお住まいですか。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) お母さま（1つ選択）

- ☐ 亡くなった
- ☐ あなたと同居
- ☐ あなたと同じ区市町村内
- ☐ あなたと同じ都道府県の他の区市町村
- ☐ 他の都道府県（県名 ）
- ☐ 外国（国名と地域・都市名 ）
- ☐ その他（わからない、など）

-----<改ページ>-----

問34 この1年間、お父さまや お母さまとどれくらい話をしましたか。電話やLINE、メールなどでのやりとりも含めます。

(1) お父さま（1つ選択）

- ☐ 亡くなった
- ☐ ほとんど毎日
- ☐ 週に1～4回
- ☐ 月に1～3回
- ☐ ほとんどしない
- ☐ その他

この1年間、お父さまやお母さまとどれくらい話をしましたか。電話やLINE、メールなどでのやりとりも含めます。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) お母さま（1つ選択）

- ☐ 亡くなった
- ☐ ほとんど毎日
- ☐ 週に1～4回
- ☐ 月に1～3回
- ☐ ほとんどしない
- ☐ その他

-----<改ページ>-----

問35 現在、あなたと一緒に暮らしている方は、あなたを含めて全部で何人ですか。
ひとり暮らしの方は「ひとり暮らし」を選択してください。

- ☐ ひとり暮らし
- ☐ あなたを含めて（ 人）（3か月以上不在の方は含めない）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問35で『1.ひとり暮らし』 いずれかを選択した方のみ

問35①-1 現在あなたは誰と一緒に暮らしていますか。あてはまる方すべて選んでください。

☐ 夫・妻・配偶者

☐ パートナー

☐ 彼氏・彼女

☐ 兄弟姉妹

☐ 娘

☐ 息子

☐ 娘の夫

☐ 息子の妻

☐ 孫

☐ 母親

☐ 父親

☐ 義理の母

☐ 義理の父

☐ 祖父母

☐ 他の親族

☐ 友人

☐ その他

☐ ペット

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問35で『2.あなたを含めて（』 いずれかを選択した方のみ

問35① 現在あなたは誰と一緒に暮らしていますか。あてはまる方をすべて選んでください。（複数選択可）

☐ 夫・妻・配偶者

☐ パートナー

☐	彼氏・彼女	
☐	兄弟姉妹	
☐	娘	
☐	息子	
☐	娘の夫	
☐	息子の妻	
☐	孫	
☐	母親	
☐	父親	
☐	義理の母	
☐	義理の父	
☐	祖父母	
☐	他の親族	
☐	友人	
☐	その他	
☐	ペット	

-----<改ページ>-----

ここでは、結婚や交際などについて、状況や希望をうかがいます

[必須]

問36 あなたは、現在、結婚（婚姻届を提出）していますか。（1つ選択）

☐	している
☐	していない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
問36で『1.している』 いずれかを選択した方のみ

問36④ 前の問で「現在、『結婚している』」と答えた方におたずねします。
相手の方について、それぞれあてはまるものを1つ選んでください。

(1) 相手の方は...（1つ選択）

☐	男性
☐	女性

☐ 女性

☐ 男性・女性にあてはまらない（具体的に ）

相手の方について、それぞれあてはまるものを1つ選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) 相手との同別居（1つ選択）

☐ 同居

☐ 別居（仕事のため）

☐ 別居（仕事以外の理由）

☐ その他（ ）

相手の方について、それぞれあてはまるものを1つ選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(3) 相手との普段の会話・やりとり（電話、LINE、メール等も含む）（1つ選択）

☐ ほとんど毎日

☐ 週に1～4回

☐ 月に1～3回

☐ ほとんどしない

-----<改ページ>-----

[必須]

問37 あなたには、現在、「婚姻届を出していないが結婚相手とみなしている人」がいますか。

事実婚や内縁関係、同棲関係、同性パートナーも含みます。結婚している方もお答えください。（1つ選択）

☐ いる

☐ いない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問37で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

問37① 前の問で「現在、『婚姻届を出していないが結婚相手とみなしている人』がいる」と答えた方におたずねします。

相手の方について、それぞれあてはまるものを1つ選んでください。

(1) 相手の方は...（1つ選択）

☐ 男性

☐ 女性

☐ 男性・女性にあてはまらない（具体的に ）

相手の方について、それぞれあてはまるものを1つ選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) 相手との同別居（1つ選択）

- ☐ 同居
- ☐ 別居（仕事のため）
- ☐ 別居（仕事以外の理由）
- ☐ その他（）

相手の方について、それぞれあてはまるものを1つ選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(3) 相手との普段の会話・やりとり（電話、LINE、メール等も含む）（1つ選択）

- ☐ ほとんど毎日
- ☐ 週に1～4回
- ☐ 月に1～3回
- ☐ ほとんどしない

-----<改ページ>-----

問38 あなたは、男性と、恋人として(1)交際や(2)同棲・同居したことがありますか。

(1) **男性**の恋人との交際（1つ選択）

- ☐ 現在、している
- ☐ 現在はしていないが、過去にしていた
- ☐ したことはない

あなたは、男性と、恋人として(1) 交際や(2) 同棲・同居したことがありますか。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) **男性**の恋人との同棲・同居（1つ選択）

- ☐ 現在、している
- ☐ 現在はしていないが、過去にしていた
- ☐ したことはない

-----<改ページ>-----

問39 あなたは、女性と、恋人として(1) 交際や(2) 同棲・同居したことがありますか。

(1) **女性**の恋人との交際（1つ選択）

☐ 現在、している

☐ 現在はしていないが、過去にしていた

☐ したことはない

あなたは、女性と、恋人として(1) 交際や(2) 同棲・同居したことがありますか。
【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) 女性の恋人との同棲・同居（1つ選択）

☐ 現在、している

☐ 現在はしていないが、過去にしていた

☐ したことはない

-----<改ページ>-----

問40 あなたには、次のような経験はありますか。（複数選択可）

☐ 婚姻届を出した相手と、離婚した

☐ 婚姻届を出した相手と、死別した

☐ 「婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人」と、離別した

☐ 「婚姻届を出していないが結婚相手とみなしていた人」と、死別した

☐ 上記のいずれも経験していない

-----<改ページ>-----

[必須]

問41 あなたは、結婚（再婚を含む）について、現在どのようにお考えですか。（複数選択可）

現在結婚していてもいずれにもあてはまらない場合は「上記にあてはまらない・現状のままでよい」を選んでください。

☐ いずれは結婚（婚姻届を提出）したい

☐ 選択的夫婦別姓が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい

☐ 同性婚が認められたら結婚（婚姻届を提出）したい

☐ いずれは「婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係」が欲しい

☐ 上記以外の希望がある（具体的に ）

☐ 上記にあてはまらない・現状のままでよい

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問41で『1.いずれは結婚（婚姻届を提出）したい』～『4.いずれは「婚姻届を出さないが結婚とみなせる関係」が欲しい』 いずれかを選択した方のみ

問41① 希望する相手の性別はどれにあてはまりますか。（1つ選択）

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ 男性でも女性でもよい
- ☐ 性別にこだわらない
- ☐ 上記以外（具体的に ）

----- <改ページ> -----

【必須】

問42 あなたは、交際について現在どのようにお考えですか。（1つ選択）
この問いでの「恋人」には結婚相手（届出にかかわらず）は含みません。

- ☐ 恋人として交際する相手がほしい
- ☐ 現在、恋人として交際している人がいる
- ☐ 恋人がほしいとは思わない
- ☐ その他（具体的に ）

----- <改ページ> -----

【回答者条件】

問42で『1.恋人として交際する相手がほしい』 いずれかを選択した方のみ

問42① 希望する相手の性別はどれにあてはまりますか。（1つ選択）

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ 男性でも女性でもよい
- ☐ 性別にこだわらない
- ☐ 上記以外（具体的に ）

----- <改ページ> -----

ここからは、お子さんの状況やご希望をうかがいます

[必須]

問43 あなたに、お子さんはいますか。現在あなたといっしょに住んでいないお子さんも含めた人数でお答えください。（1つ選択）

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人
- ☐ 4人
- ☐ 5人以上（具体的に 人）
- ☐ 子どもはいない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問43で『1.1人』～『5.5人以上（具体的に』 いずれかを選択した方のみ

問43① 18歳未満のお子さんは何人いますか。現在あなたといっしょに住んでいないお子さんも含めてお答えください。（1つ選択）

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人
- ☐ 4人
- ☐ 5人以上（具体的に 人）
- ☐ 18歳未満の子どもはいない

-----<改ページ>-----

[必須]

問44 あなたは（さらに）子どもを持ちたいと思いますか。養子や里子も含みます。（1つ選択）

- ☐ はい、子どもを（あと） 人持ちたい
- ☐ いいえ、（これ以上は）持ちたくない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問44で『2.いいえ、（これ以上は）持ちたくない』 いずれかを選択した方のみ

問44① 子どもを（さらに）持ちたいと思わない理由として、あなたにあてはまるものをすべて選んでください。（複数選択可）

☐
いつか持ちたいが、今はまだその時期ではないから

☐
自分が（これ以上は）子どもを持つことは考えたことがない、ほしくない

☐
相手がいないから

☐
経済的な理由

☐
年齢や健康上の理由

☐
自分の仕事（勤めや家業）の事情

☐
妻・夫・パートナーの仕事（勤めや家業）の事情

☐
家事・育児の協力者がいないから

☐
子どもを育てる社会環境が整っていないから

☐
パートナーが同性だから

☐
その他

-----<改ページ>-----

問45 出産や、子どもを持つことにかんして、あなた自身に次のような経験はありますか。
 (1)～(12)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（それぞれ1つ選択）

		経験した	登録した	専門家や関係者に相談した	関心はあるが何もししていない	左記のいずれもない	該当しない
(1) 医療機関におけるタイミング法、 排卵誘発など	→	☐	-	☐	☐	☐	-
(2) 医療機関における人工授精	→	☐	-	☐	☐	☐	☐
(3) 体外受精・顕微授精	→	☐	-	☐	☐	☐	☐
(4) 第三者からの精子や卵子の提供	→	☐	☐	☐	☐	☐	-
(5) 民間団体（医療機関以外）を通じた 第三者からの精子・卵子の提供	→	☐	☐	☐	☐	☐	-
(6) 代理出産を依頼する	→	☐	☐	☐	☐	☐	-
(7) 知人・友人・親戚等からの精子提供	→	☐	-	☐	☐	☐	☐
(8) 自宅で夫・パートナーの精子を使った 自身での人工授精（シリンジ法）	→	☐	-	☐	☐	☐	☐
(9) 養子・里親制度の利用	→	☐	☐	☐	☐	☐	-
(10) 将来子どもを持つため、医療機関で	→	☐	☐	☐	☐	☐	-

卵子・精子を凍結

(11) 精子提供者・卵子提供者になる

→



(12) 代理母になる

→



-----<改ページ>-----

ここでは、あなたのお宅（世帯）の暮らし向きや経済面についてうかがいます

問46 昨年1年間、あなたのお宅（世帯）では、全体でどれくらいの収入（税込）がありましたか。

生計を共にしている方々の分も合わせ、すべての収入（年金、給付金、家賃収入、配当金、仕送りなどを含む）についてお答えください。（1つ選択）

☐ 世帯の収入はなかった

☐ 100万円未満

☐ 100～200万円未満

☐ 200～300万円未満

☐ 300～400万円未満

☐ 400～500万円未満

☐ 500～600万円未満

☐ 600～700万円未満

☐ 700～800万円未満

☐ 800～900万円未満

☐ 900～1000万円未満

☐ 1000～1100万円未満

☐ 1100～1200万円未満

☐ 1200～1300万円未満

☐ 1300～1400万円未満

☐ 1400～1500万円未満

☐ 1500～1600万円未満

☐ 1600～1700万円未満

☐ 1700～1800万円未満

☐ 1800万円以上
（具体的に 万円）

※1億円の場合は10000万円としてください

☐ わからない

----- <改ページ> -----

問47 あなたのお宅（世帯）の預貯金等（貯蓄）の総額はどれくらいですか。
もっとも近いものを選んでください。（1つ選択）

※貯蓄とは、金融機関への預貯金、これまで払い込んだ保険金(掛け捨て保険は除く)、株式・信託・債券等、財形貯蓄、社内預金等のことを
いいます。自営業者世帯の場合は、事業用の貯蓄も含めてください。
額の大小にかかわらず、総額に含めてください。

☐ 貯蓄はない

☐ 50 万円未満

☐ 50～100 万円未満

☐ 100～200 万円未満

☐ 200～300 万円未満

☐ 300～400 万円未満

☐ 400～500 万円未満

☐ 500～600 万円未満

☐ 600～700 万円未満

☐ 700～800 万円未満

☐ 800～900 万円未満

☐ 900～1000 万円未満

☐ 1000～1500 万円未満

☐ 1500～2000 万円未満

☐ 2000～2500 万円未満

☐ 2500～3000 万円未満

☐ 3000 万円以上
(具体的に 万円)

※1億円の場合は10000万円としてください

☐ わからない

----- <改ページ> -----

問48 あなたのお宅(世帯) では、過去1年の間に、経済的な理由で次のようなことが
ありましたか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。

(1) 電気・ガス料金の未払い

☐ あった

☐ なかった

あなたのお宅(世帯)では、過去1年の間に、経済的な理由で次のようなことがありましたか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) 家賃の滞納

☐ あった

☐ なかった

☐ 非該当(賃貸ではない)

あなたのお宅(世帯)では、過去1年の間に、経済的な理由で次のようなことがありましたか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(3) 住宅ローンの滞納

☐ あった

☐ なかった

☐ 非該当(住宅ローンはない)

あなたのお宅(世帯)では、過去1年の間に、経済的な理由で次のようなことがありましたか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(4) その他の債務不履行

☐ あった

☐ なかった

----- <改ページ> -----

問49 あなたは、日頃の生活の中で、次のようなことについて悩みや困りごとがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。(複数選択可)

☐ 自分の健康

☐ 自分の仕事や就職

☐ 自分の恋愛や結婚

☐ 出産・子育てや子どもを持つことについて

☐ 家族の介護

☐ 現在の収入や家計

☐ 住まい

☐ 老後の生活

☐	家族・親族間の人間関係
☐	職場の人間関係
☐	職場以外の友人・知人との関係
☐	近隣・地域での人間関係
☐	ハラスメントや差別的な扱い・不利益
☐	家族の健康
☐	子どもの教育
☐	子どもの生活
☐	親の生活
☐	その他
☐	とくにない

-----<改ページ>-----

問50 あなたは、現在の生活全般に満足していますか。（1つ選択）

← 非常に満足	非常に不満 →
12345 ←-----→	
☐ 1 非常に満足	
☐ 2	
☐ 3	
☐ 4	
☐ 5 非常に不満	

-----<改ページ>-----

ここでは、男女の役割、家族、性のあり方についてのお考えをうかがいます

問51 次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。（それぞれ1つ選択）

そう 思う	どち らか	どち らか	そう 思わ
----------	----------	----------	----------

		ない といえ ばそう 思わな い	といえ ばそう 思う
(1) 男女が一緒にくらすなら結婚すべきである	→	☐	☐
(2) 結婚したら、子どもは持つべきだ	→	☐	☐
(3) 結婚せずに、子どもを持ってもよい	→	☐	☐
(4) 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	→	☐	☐
(5) 夫と妻は、名字（姓）を同じにする必要はなく、名字が違ってよい	→	☐	☐
(6) 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ	→	☐	☐
(7) 男どうしや、女どうしのカップルが、子どもを育ててもよい	→	☐	☐

----- <改ページ> -----

問52 以下の人が同性愛者や性別を変えた人だったらあなたはどのように思いますか。
 (1)～(6)のそれぞれについて、あなたのお気持ちやお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

		嫌 だ ど ち ら か と い え ば 嫌 だ	ど ち ら か と い え ば 嫌 で は な い	嫌 で は な い
以下の人が同性愛者だったら… (それぞれ1つ選択)				
(1) 職場の同僚	→	☐	☐	☐
(2) 自分の子ども	→	☐	☐	☐
(3) 仲の良い友人	→	☐	☐	☐

以下の人が同性愛者や性別を変えた人だったらあなたはどのように思いますか。
 (1)～(6)のそれぞれについて、あなたのお気持ちやお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。
 【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

		嫌 だ ど ち ら か と い え ば 嫌 だ	ど ち ら か と い え ば 嫌 で は な い	嫌 で は な い
以下の人が性別を変えた人だったら… (それぞれ1つ選択)				

(4) 職場の同僚	→	☐	☐	☐	☐
(5) 自分子ども	→	☐	☐	☐	☐
(6) 仲の良い友人	→	☐	☐	☐	☐

-----<改ページ>-----

ここでは、あなたの性別、恋愛、性にかかわることをうかがいます
これらの質問は、性のあり方を多角的にとらえた学術研究、および国・自治体の取り組みの検討資料として活用するためにおたずねするものです。

[必須]
問53 あなたの性別を選んでください。[出生時の戸籍・出生届の性別]（1つ選択）
※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことをさします。

☐ 男
☐ 女

[必須]
問54 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別（問53で選択したもの）と同じだと考えていますか。（複数選択可）

☐ 出生時の性別と同じ
☐ 別の性別だと考えている
☐ 違和感がある

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
問54で『2.別の性別だと考えている』～『3.違和感がある』 いずれかを選択した方のみ

今の認識にもっとも近い性別を選んでください（1つ選択）

☐ 男
☐ 女
☐ 男性・女性にあてはまらない（具体的に ）

-----<改ページ>-----

[必須]
問55 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものを選んでください。（1つ選択）

☐ 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない[異性のみに性愛感情を抱く人]
☐ ゲイ・レズビアン・同性愛者[同性のみに性愛感情を抱く人]
☐

- ☐ バイセクシュアル・両性愛者[男女どちらにも性愛感情を抱く人]
- ☐ アセクシュアル・無性愛者[誰に対しても性愛感情を抱かない人]
- ☐ 決めたくない・決めていない
- ☐ 質問の意味がわからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問55で『5.決めたくない・決めていない』 いずれかを選択した方のみ

問55① その理由として、もっとも近いものを選んでください。（1つ選択）

- ☐ 自分は異性愛者ではなく、クィア、パンセクシュアルなど、別のアイデンティティをもっている
- ☐ まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている、1つに決められない
- ☐ 自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない
- ☐ 使われていた用語や、質問の意味がわからなかった
- ☐ その他（具体的に ）

-----<改ページ>-----

問56 次の(1)~(3)について、(ア)これまでのことと、(イ)最近の5年間のことについて、それぞれもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたが恋愛感情を抱く相手

(ア) これまで（1つ選択）

- ☐ 誰に対しても恋愛感情を抱いたことがない
- ☐ 男性のみ
- ☐ ほとんどが男性
- ☐ 男性と女性同じくらい
- ☐ ほとんどが女性
- ☐ 女性のみ
- ☐ 上記にあてはまらない

次の(1)~(3)について、(ア)これまでのことと、(イ)最近の5年間のことについて、それぞれもっとも近いものを選んでください。
【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(イ) 最近の5年間（1つ選択）

☐ 誰に対しても恋愛感情を抱いたことがない

☐ 男性のみ

☐ ほとんどが男性

☐ 男性と女性同じくらい

☐ ほとんどが女性

☐ 女性のみ

☐ 上記にあてはまらない

次の(1)~(3)について、(ア)これまでのことと、(イ)最近の5年間のことについて、それぞれもっとも近いものを選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) あなたが^ひ性的に惹かれる相手

(ア) これまで (1つ選択)

☐ 誰に対しても性的に惹かれたことがない

☐ 男性のみ

☐ ほとんどが男性

☐ 男性と女性同じくらい

☐ ほとんどが女性

☐ 女性のみ

☐ 上記にあてはまらない

次の(1)~(3)について、(ア)これまでのことと、(イ)最近の5年間のことについて、それぞれもっとも近いものを選んでください。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(イ) 最近の5年間 (1つ選択)

☐ 誰に対しても性的に惹かれたことがない

☐ 男性のみ

☐ ほとんどが男性

☐ 男性と女性同じくらい

☐ ほとんどが女性

☐ 女性のみ

☐ 上記にあてはまらない

次の(1)~(3)について、(ア)これまでのことと、(イ)最近の5年間のことについて、それぞれもっとも近いものを選んでください。
【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(3) あなたがセックスをする相手

(ア) これまで (1つ選択)

- ☐ セックスをしたことがない
- ☐ 男性のみ
- ☐ ほとんどが男性
- ☐ 男性と女性同じくらい
- ☐ ほとんどが女性
- ☐ 女性のみ
- ☐ 上記にあてはまらない

次の(1)~(3)について、(ア)これまでのことと、(イ)最近の5年間のことについて、それぞれもっとも近いものを選んでください。
【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(イ) 最近の5年間 (1つ選択)

- ☐ セックスをしたことがない
- ☐ 男性のみ
- ☐ ほとんどが男性
- ☐ 男性と女性同じくらい
- ☐ ほとんどが女性
- ☐ 女性のみ
- ☐ 上記にあてはまらない

-----<改ページ>-----

問57 あなたの周りの人について、おたずねします。職場の同僚（過去も含む）や、近しい友人、親せきや家族に、同性愛者はいますか。
(1つ選択)

- ☐ いる
- ☐ そうかもしれない人がいる
- ☐ いないと思う
- ☐ いない

-----<改ページ>-----

問58 職場の同僚（過去も含む）や、近しい友人、親せきや家族に、性別を変えた、あるいはそうしようと考えている人はいますか。（1つ選択）

- ☐ いる
- ☐ そうかもしれない人がいる
- ☐ いないと思う
- ☐ いない

----- <改ページ> -----

ここでは、性の多様性にかかわる、国や自治体の取り組みについてのお考えをうかがいます

問59 次のような制度や取り組みについて、あなたは賛成ですか、反対ですか。
あなたのお考えにもっとも近いものを選んでください。（それぞれ1つ選択）

		賛成	やや賛成	やや反対	反対
(1) 同性カップル（女どうし・男どうしのカップル）が、法的に結婚できる制度	→	☐	☐	☐	☐
(2) 妻と夫の姓（名字）を同じにしなくても、法的に結婚できる制度（選択的夫婦別姓制度）	→	☐	☐	☐	☐
(3) 親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里子として迎え、育てることのできる制度	→	☐	☐	☐	☐
(4) 女どうしのカップルが、生殖補助医療などによって、子どもを持てるようにする制度	→	☐	☐	☐	☐
(5) 職場・学校・地域で、同性愛者や性別を変えた人も、差別なく公平に扱われるための法律・条例の整備	→	☐	☐	☐	☐
(6) 職場、学校、地域における、多様な性のあり方についての啓発	→	☐	☐	☐	☐
(7) 同性愛という性のあり方があることや、性別を変えたいと望む人のことを、義務教育で教えること	→	☐	☐	☐	☐

----- <改ページ> -----

問60 お住まいの自治体のパートナーシップ制度についておたずねします。
あてはまるものを選んでください。

(1) あなたのお住まいの自治体に、パートナーシップ制度はありますか。（1つ選択）

- ☐ 制度がある・導入が決定している
- ☐ 制度はない

- ☐ 制度があるかどうか、わからない

ここに設問文を入力します。

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

(2) 現在あるかどうかに関わらず、パートナーシップ制度を利用したいですか。（1つ選択）

- ☐ 利用している・利用予定である
- ☐ 利用を検討している
- ☐ 自分が利用できるような制度や条件が整ったら利用したい
(具体的な条件や制度)
- ☐ 相手がいれば利用したい
- ☐ 利用しない
- ☐ 制度の内容を知らない

----- <改ページ> -----

あなたのお住まいや、お引越しの希望などをうかがいます

問61 あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。（1つ選択）

- ☐ 持ち家（一戸建て）
- ☐ 持ち家（マンションなどの集合住宅）
- ☐ 公団・公社・公営などの賃貸住宅
- ☐ 民間の借家または賃貸アパート
- ☐ 社宅・公務員住宅などの給与住宅
- ☐ その他（具体的に)

----- <改ページ> -----

[必須]

問62 あなたは、現在お住まいの場所から引っ越したいと思いますか。（1つ選択）

- ☐ すぐにでも引っ越したい
- ☐ できれば引っ越したい
- ☐ いずれは引っ越したい
- ☐ 今の場所に住み続けたい

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問62で『1.すぐにでも引っ越したい』～『3.いずれは引っ越したい』 いずれかを選択した方のみ

問63 引っ越したい理由は何ですか（複数選択可）

- ☐ 経済的な理由（家賃など）
- ☐ 教育に関する理由（入学・通学など）
- ☐ 仕事に関する理由（就職・転職など）
- ☐ 住宅に関する理由（家の購入・広さなど）
- ☐ 地域への帰属意識（Uターンなど）
- ☐ 環境上の理由（近所の騒音、治安など）
- ☐ 家族関係の変化（結婚・同棲、パートナーとの別れなど）
- ☐ 支援をするため・受けるため（介護など）
- ☐ 自立（しがらみから自由になる、自分らしく生きたい、など）
- ☐ 刺激を得るため（違う世界を経験したいなど）
- ☐ 家族の移動に伴って
- ☐ その他（具体的に ）
- ☐ 理由はない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

問62で『1.すぐにでも引っ越したい』～『3.いずれは引っ越したい』 いずれかを選択した方のみ

問64 希望する引っ越し先は、どこですか。（1つ選択）

- ☐ 現在の居住地と同じ区市町村
- ☐ 現在と同じ都道府県の他の区市町村
- ☐ 他の都道府県（県名 ）
- ☐ 外国（国名と地域・都市名を入力 ）
- ☐ わからない

-----<改ページ>-----

問65 これから5年以内に、引っ越す可能性はありますか。（1つ選択）

- ☐ 大いにある
- ☐ ある程度ある
- ☐ あまりない
- ☐ まったくない

-----<改ページ>-----

この研究グループでは、2024年以降、第2回調査の実施を予定しております

あなたは第2回調査にご協力いただけますか。調査内容は簡潔になる予定です。

- ☐ 協力してもよい
- ☐ 場合によっては協力してもよい
- ☐ 絶対に協力したくない

「協力してもよい」「場合によっては協力してもよい」を選んだ方については、今回のアンケート配布のために住民基本台帳から抽出させていただいたご住所とお名前の情報を、業務委託機関である新情報センターにて厳重に保管し、次回アンケートの送付に使用させていただきます。

実際にご協力いただくか否かは、任意となります。

-----<改ページ>-----

アンケートの外国語訳を参照して回答した方へ

（どの言語にも該当しない人は、何も選ばず「次へ」をクリックして進んでください。）

回答此份問卷調查表時，參閱了網頁裡所登載的中國語繁體字版了嗎？

回答此份問卷調查表時，參閱了網頁里所登載的中國語簡體字版了嗎？

Did you refer to the English version of the questionnaire on our website?

본 양케이트 조사에 응답할 때 홈페이지에 기재된 한국어 번역판을 참조하였습니까?

Você precisou consultar a tradução em português de nosso Site,para responder este questionário?

Khi trả lời bản câu hỏi này, bạn có tham khảo phiên bản tiếng Việt trên trang chủ không?

Sumangguni ka ba sa Ingles na bersyon ng palatanungan sa aming website?

- ☐ 是 / Yes / 예 / Sim / Có / Oo
- ☐ 否 / No / 아니오 / Não / Không / hindi

-----<改ページ>-----

以下では、アンケートへの感想をおたずねします。
今後の研究の参考とさせていただきますので、できる限りお答えいただけると幸いです。

アンケートへのご意見

Q1 アンケート全般について（1つ選択）

- ☐ 関心をもてた
- ☐ ある程度、関心をもてた
- ☐ あまり関心をもてなかった
- ☐ 関心をもてなかった

Q2 質問に使われている言葉について（1つ選択）

- ☐ わからない言葉はなかった
- ☐ わからない言葉がいくつかあった
- ☐ わからない言葉がかなりあった
- ☐ わからない言葉ばかりだった

Q3 このアンケートについて、ご意見などがありましたら、ご自由にご入力ください。 上では十分に回答できなかったことを、補足していただくこともできます。

質問は以上です。下の「送信」ボタンを押して、ご回答を送信してください。

-----<改ページ>-----



Topic

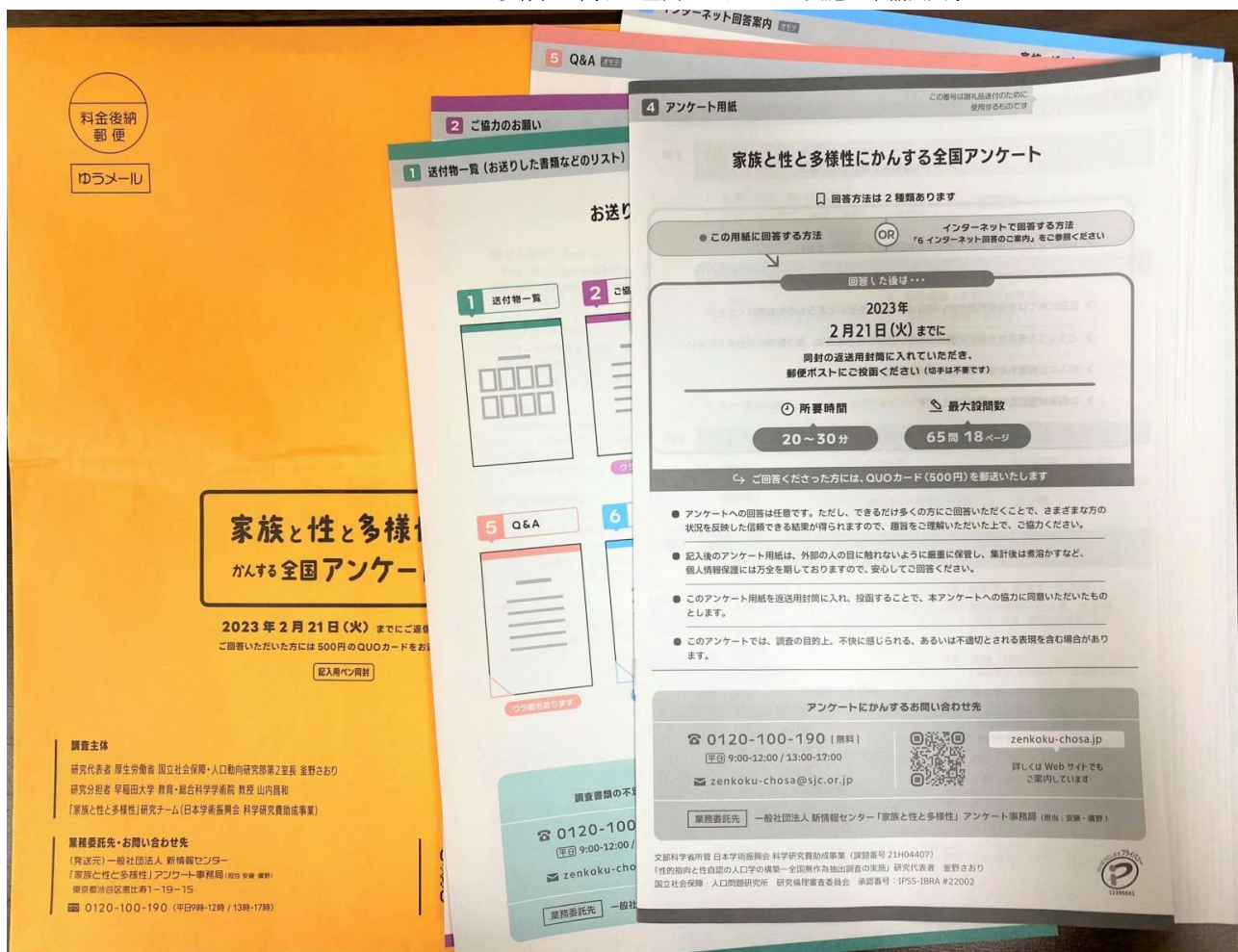
トピック

多様性に関する全国アンケートを実施

家族と性と多様性に関する全国アンケートを実施

ー全国の18～69歳の方18,000人を対象としてー

早稲田大学教育・総合科学学術院の山内 昌和（やまうち まさかず）教授、国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部の釜野 さおり（かまの さおり）室長、金沢大学人間社会研究域人間科学系の岩本 健良（いわもと たけよし）准教授、大手前大学国際看護学部の藤井 ひろみ（ふじい ひろみ）教授、法政大学グローバル教養学部の平森大規（ひらもり だいき）助教らの研究グループは、2023年2月1日より、無作為に選んだ全国の18～69歳の方18,000人を対象に「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」を実施します。この調査で得られる無作為抽出の量的データを用いて、多様な性的指向^{*1}や性自認のあり方^{*2}、異性・同性との交際や結婚経験などが、人びとの心身の健康、経済状況、居住地の移動経験や希望、子どもをもつ経験や希望、親との関係などの生活実態や意識と、どのように関連しているのかを明らかにします。



(1) これまでの研究で分かっていたこと

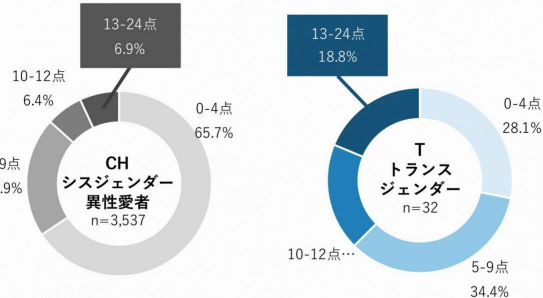
レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、アセクシュアル（LGBTA）を含む性的マイノリティが日本社会で直面する課題については、性的マイノリティを対象にした量的調査や、聞き取り調査などを通じて明らかにされつつあります。しかし、日本における性的マイノリティの割合を推定することや、性的マイノリティと、そうでない人との生活実態や意識を比較することが可能な調査研究は限られていました。

そこで、私たちの研究チームでは2019年1～2月にかけて、大阪市で回答者を住民基本台帳から無作為に抽出した調査を実施し、大阪市民の性的指向と性自認のあり方の分布を示しました。その結果、回答者のうち3.3%がLGBTAのいずれかに該当することが明らかになりました

(https://osaka-chosa.jp/files/preliminary_results.pdf)。また、性的マイノリティとそれ以外の人たちについて、精神的健康の状態を統計的に比較しました。たとえば、異性愛者でシスジェンダーの人に比べ、トランスジェンダーやゲイ・レズビアン・バイセクシュアルの人びとは、深刻な心理的苦痛を感じている可能性が高く（図1、2）、また、自殺企図・自殺未遂割合が高いことがわかりました（図3、4）(<https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/> * 20200111セクマイ医療福祉教育パネル.pdf)。

トランスジェンダーのK6値は、シス・異性愛者より有意に大きい＝メンタルヘルス良くない

K6値 =13-24点（深刻な心理的苦痛を感じている可能性）
シス・異性愛者 6.9% トランス 18.8% (約2.5倍) 有意差あり

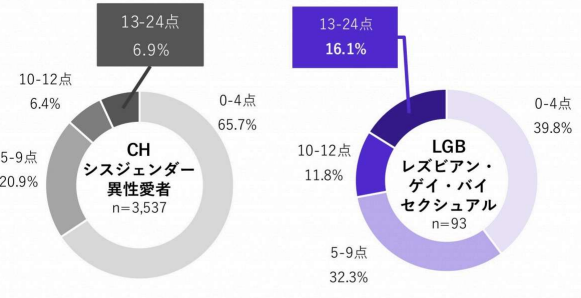


K6値 =10点以上（気分・不安障害にあてはまる可能性）
シス・異性愛 13.3% トランス 37.5% (約3倍、有意差あり)

図1：性自認のあり方と心理的苦痛の関係

LGBのK6値は、シス・異性愛者より有意に大きい＝メンタルヘルス良くない

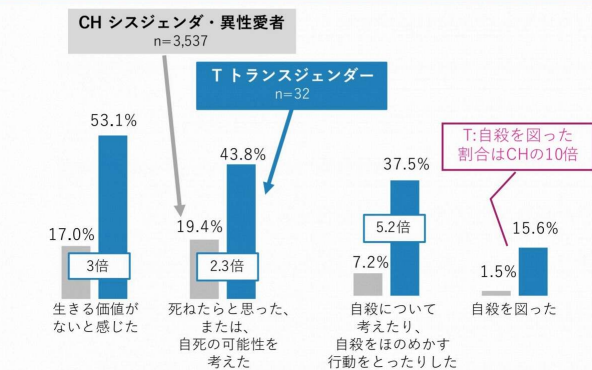
K6値 =13-24点（深刻な心理的苦痛を感じている可能性）
シス・異性愛者 6.9% LGB 16.1% (約2.3倍) 有意差あり



K6値 =10点以上（気分・不安障害にあてはまる可能性）
シス・異性愛 13.3% LGB 28.0% (約2倍、有意差あり)

図2：性的指向と心理的苦痛の関係

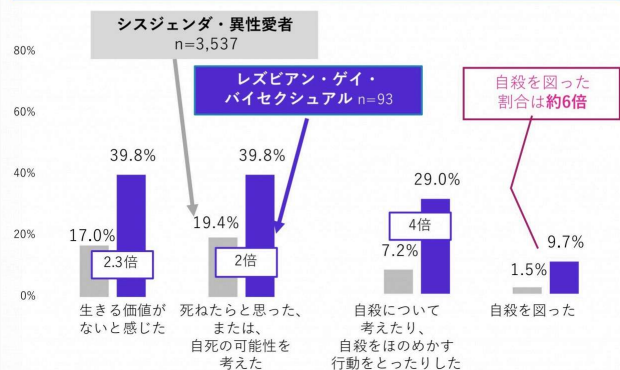
トランスジェンダーの自殺企図・自殺未遂経験割合は、シス・異性愛者に比べ、有意に高い



・全項目で、CH [シス・異性愛] より、T [トランス] の経験割合の方が高い (有意差あり $p < 0.05$)

図3：性自認のあり方と自殺企図・自殺未遂経験の関係

LGBの自殺企図・自殺未遂経験割合は、シス・異性愛者に比べ、有意に高い



・全項目で、CH [シス・異性愛] より、LGB [レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル] の経験割合の方が高い (有意差あり、 $p < 0.05$)

図4：性的指向と自殺企図・自殺未遂経験の関係

ただし、2019年の調査は大阪市民対象の調査であったため、日本全体については、まだわかっていません。そこで、全国に住む18～69歳の18,000人を対象にアンケート調査を実施し、多様な性的指向や性自認のあり方、異性・同性との交際や結婚経験などと人びとの生活実態や意識との関連について検討することにしました。

(2) 今回の研究で新たに実現しようとする事

本調査を実施することで、大きく分けて3つのことが実現できます。第1に、本調査では性的指向と性自認のあり方についてさまざまな設問をたずねているため、何割の人が自分自身を同性愛者であると認識しているか、何割の人が男性と女性の両方に性的に惹かれるのか、何割の人が出生時の性別に違和感をもっているのか、何割の人が男性の恋人と交際した経験があるのか、等の点について、明らかにすることができます。

第2に、1つの調査の中で、性的指向、性自認のあり方、恋愛・交際・結婚経験に加え、心身の健康、経済状況、居住地の移動経験や希望、子どもをもつことへの関心、家族やジェンダーに関する考え方などの生活実態や意識を広くたずねているため、性的指向や性自認のあり方が異なることで、生活実態や意識にどのような違いが生じるのかについて、統計的に比較することができます。つまり性的マイノリティの生活実態と意識には、性的マイノリティ以外の人たちと比べ、統計的に意味がある違いがあるのかを検証できます。特に、これまで性的指向や性自認のあり方との関連が明らかにされてこなかった、結婚や交際の経験と希望、子どもをもつ経験や希望、居住地移動の経験と希望など、人口学的な事項との関連を検証することができます。

第3に、この調査では、対象者を日本全国から無作為に抽出しているため、日本全体に当てはまる結果を得ることが期待できます。信頼性のあるデータを得るためには、きちんとした調査票が重要です。本研究では、とりわけ回答者が性的マイノリティであるかそうでないかにかかわらず、誰もが性的指向や性自認のあり方を的確に回答できるような質問項目を開発するために、多くの人びとの協力を得て予備調査を実施するなど、慎重に準備を重ねてきました。また、本調査は、結婚や交際に関しては、相手についても、男性と女性の二元的な性別ではなく、どちらにも属さない性別の人も含めて捉えることができるように設計されています。なお、本調査の実施にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所の倫理審査委員会に審査申請をおこない、研究倫理上、問題がないことの承認を受けています。（承認番号 IPSS-IBRA#22002）

※「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」の詳細については、<https://zenkoku-chosa.jp/> をご覧ください（2023年2月上旬開設予定）。

※これまでの研究については、<https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/> をご覧ください。

（3）研究の波及効果や社会的影響

本調査は、全国で無作為に抽出された人びとに、恋愛・性的惹かれ、セックスの相手の性別、性的指向アイデンティティ、交際・同棲・結婚経験など性や家族に関して広くたずねているため、現在の日本における多様な性や家族の状況を描くことができます。

性的指向や性自認のあり方は、年齢や、男女という性別について言われてきたのと同様に、人びとの生活のありとあらゆる側面に関連している可能性があります。したがって、これまでの多くの調査で性別や年齢をたずねてきたように、国、自治体、学術グループが主体となる調査に、性的指向や性自認のあり方を基本属性の1つとして含める必要があると考えています。この調査には、回答者の家族や性に関する設問が多く含まれますが、これら以外の問いは、いわゆる一般的な調査でたずねられているようなものです。これまで、性的指向や性自認のあり方をたずねる問いを調査に含めることは、控えるべきであるとされてきました。センシティブ

な事柄であり、また日本では性的指向や性自認のあり方についてたずねられる機会も少なく、特に一般的な調査においては、これらの項目を含めても回答者が適切に回答できないのではないかという懸念があったからです。しかし、この調査の実施を通じて、誰もが対象となりうる一般的な調査において、性的指向や性自認のあり方をたずねる質問を含めても問題ないということを示すことができます。

また、結婚や交際の経験と希望、子どもをもった経験や希望、居住地移動の経験と希望など、人口学的な事項などを調べるため、これまで注目されてこなかった領域においての性的指向や性自認のあり方に関わる施策につながる差異や格差に関するデータを提供することができます。

（４）研究者からのコメント

私たちは、信憑性のある量的データに基づいて性的マイノリティの置かれた状況を明らかにすることが重要だと考え、まだ日本では誰も手をつけてこなかった、全国規模の無作為抽出調査の実施に向け、さまざまな準備を進めてきました。この調査は、全国から無作為に選ばれた18歳から69歳の方18,000人に郵送されています。できるだけ多くの方に回答していただくことで、より正確な結果を得ることができます。ぜひとも多くの方にご協力いただきたいと考えています。

（５）用語解説

※1 性的指向

どの性別に性愛感情が向くか。同性のみに性愛感情を抱く同性愛（レズビアン、ゲイ）、男女どちらにも性愛感情を抱く両性愛（バイセクシュアル）、誰に対しても性愛感情を抱かない無性愛（アセクシュアル）、異性のみに性愛感情を抱く異性愛（ヘテロセクシュアル）などが含まれる。

※2 性自認のあり方

性自認（女性、男性、Xジェンダー、ノンバイナリーなど、本人が自分自身はどの性別であるという持続性のある自己認識（アイデンティティ）を持っているか）と出生時に割り当てられた性別（出生時の性別、と表記）の関連のあり方。性自認と出生時の性別が異なるトランスジェンダーと、性自認と出生時の性別が同じであるシスジェンダーが含まれる。

（６）研究助成

研究費名：文部科学省所管 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究A

研究課題名：性的指向と性自認の人口学の構築―全国無作為抽出調査の実施

研究代表者名（所属機関名）：釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）

Links

＞ [早稲田大学研究者データベース](#) 山内 昌和

Tags

[プレスリリース](#), [研究活動](#)

Posted

Tue, 31 Jan 2023

法政大学平森助教、国立社会保障・人口問題研究所釜野室長らの研究チームが 日本初の性的マイノリティの生活実態に関する 全国無作為抽出調査の結果を公表

法政大学 GIS（グローバル教養学部）の平森大規助教、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の釜野さおり室長らの研究チーム（※）は、2023年2～3月に日本に居住する18～69歳の18,000人を対象に郵送法（ウェブ回答併用）を用いた全国無作為抽出調査「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」を実施しました。性的マイノリティの人口割合を推定し、性的マイノリティと、そうでない人との生活実態や意識を比較できる全国無作為抽出調査は、日本で初めての取り組みです（研究チーム調べ）。

研究チームでは、現在作成中の調査報告書に先駆け、回答者の性的指向と性自認のあり方、家族と居住の状況、困りごと、対人関係、こころの状態（K6得点）、家族・性・制度に関する認識と考え方に関する結果速報を公表しました。

詳しい結果概要（PDF）：<https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI2/ZenkokuSOGISummary20231027.pdf>

※メンバー：岩本健良（金沢大学准教授）、小山泰代（社人研室長）、申知燕（昭和女子大学専任講師）、武内今日子（東京大学特任助教）、千年よしみ（社人研特任主任研究官）、藤井ひろみ（大手前大学教授）、布施香奈（社人研室長）、山内昌和（早稲田大学教授）

◆調査目的

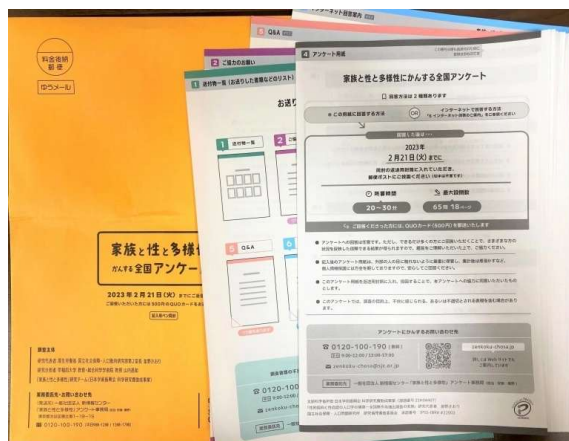
本調査は、多様な性的指向や性自認のあり方、交際や結婚経験などが、人びとの心身の健康、経済状況、居住地の移動経験や希望、子どもをもつ経験や希望、親との関係などの生活実態や意識と、どのように関連しているのかを明らかにすることを目指して実施したものです。

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、アセクシュアル（LGBTQA）を含む性的マイノリティが日本社会で直面する課題については、性的マイノリティを対象にした量的調査や、聞き取り調査などを通じて明らかにされつつあります。しかし、日本における性的マイノリティの割合を推定することや、性的マイノリティと、そうでない人との生活実態や意識を比較することが可能な調査研究は限られていました。そこで、私たちの研究チームでは2019年1～2月に大阪市で回答者を住民基本台帳から無作為に抽出した調査（<https://www.osaka-chosa.jp/>）を実施し、大阪市民の性的指向と性自認のあり方の分布や、こころの状態の比較などを行いました。

2019年の調査結果は大阪市民の状況に限られていましたが、今回は、日本全体について明らかにするため、全国に住む18～69歳の18,000人を対象に本調査を実施し、性的指向や性自認のあり方、異性・同性との交際や結婚経験などと人びとの生活実態や意識との関連について検討することにしました。

◆調査方法

- 調査名称：家族と性と多様性にかんする全国アンケート
- 調査期間：2023年2～3月
- 母集団と標本抽出：全国の18～69歳の住民。2020年国勢調査時の基本単位区から360地点を抽出。地域ブロック11と都市規模5を組み合わせたセルの人口に比例する抽出地点数を配分。各地点の住民基本台帳から等間隔で合計18,000人を抽出（層化二段無作為抽出法）
- 調査票の配布と回収：郵送法（ウェブ回答併用）、不着等を除く対象者数17,855、有効回答数5,339、有効回収率29.9%
- 調査主体：「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為抽出調査の実施」研究チーム
- 調査委託機関：一般社団法人 新情報センター



◆主な調査結果

1. 回答者の 3.5%が「ゲイ・レズビアン」「バイセクシュアル」「アセクシュアル」「トランスジェンダー」のいずれかに該当
2. 子どもを持ちたい人の割合は、自認する性別が「男性・女性にあてはまらない」人では 33.3%、[トランスジェンダー] では 31.3%、「同性愛者・両性愛者」では 38.6%で、全体の 23.4%より高い
3. 引越し希望者は全体の 45.5%に対し、「男性・女性にあてはまらない」人では 66.7%、[トランスジェンダー] では 65.6%、「同性愛者・両性愛者」では 76.3%
4. 「深刻な心理的苦痛を感じている可能性」のある人の割合 (K6 得点 13 点以上) は、全体では 1 割未満 (7.6%)。「男性・女性にあてはまらない」人と [トランスジェンダー] では 25.0%、「同性愛者・両性愛者」では 21.1%で、2 割台
5. 9 割の人が身近に性別を変えた人は「いない」・「いないと思う」と回答。「男性・女性にあてはまらない」人や [トランスジェンダー] でも 3 人に 2 人が「いない」・「いないと思う」と回答
6. 自分の子どもが同性愛者だった場合には 47.8%が、性別を変えた人だった場合には 47.2%が「嫌だ」・「どちらかといえば嫌だ」と回答。同僚や友人が同性愛者や性別を変えた人だった場合には 2 割未満がそのように回答

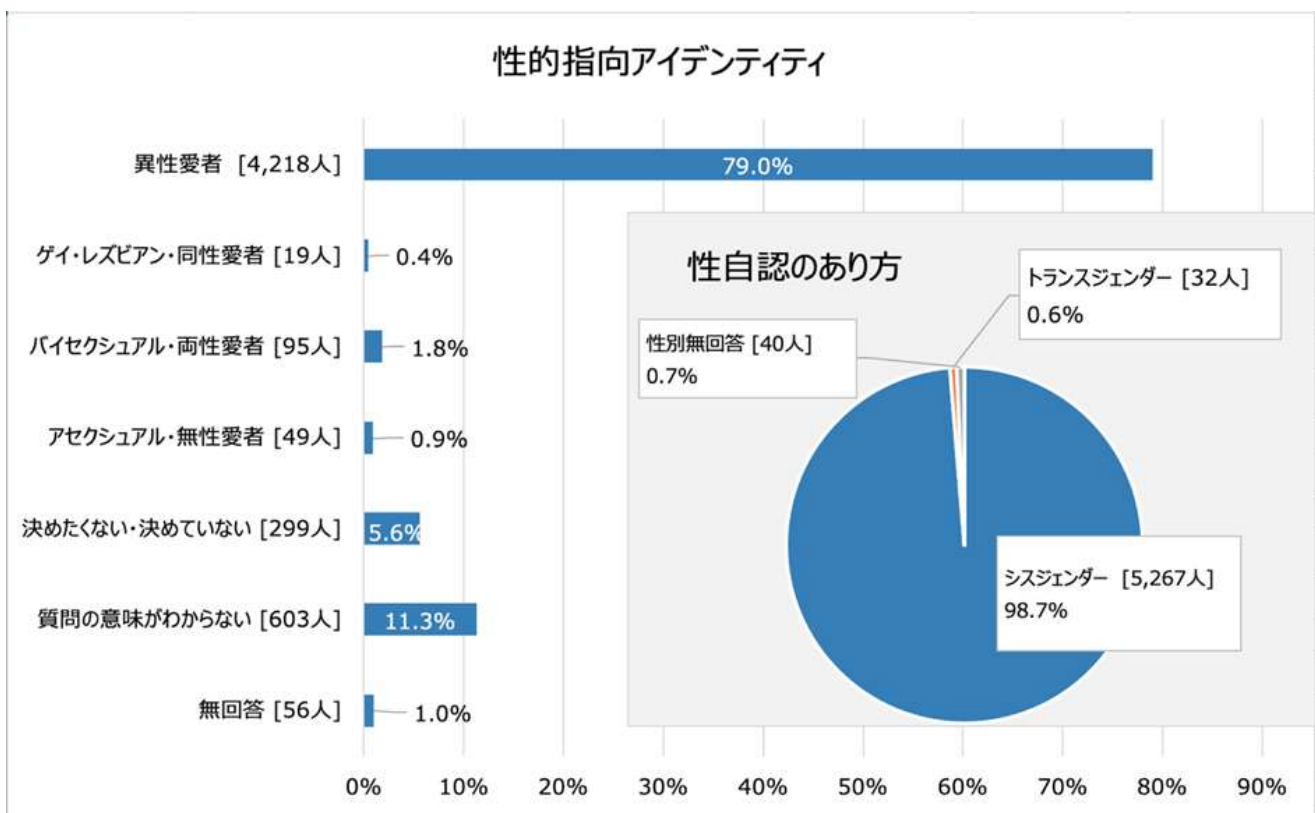


図 1 回答者の性的指向アイデンティティと性自認のあり方 [n=5,339]

◆研究の波及効果や社会的影響

本調査は、全国で無作為に抽出された人びとに、恋愛・性的惹かれ、性的指向アイデンティティ、交際・同棲・結婚経験など性や家族に関して広くたずねているため、現在の日本における多様な性や家族の状況を描くことができます。

これまで、性的指向や性自認のあり方をたずねる問いは、センシティブな事柄であり、また日本では性的指向や性自認のあり方についてたずねられる機会も少なく、特に誰もが対象となりうる一般的な調査においては、これらの項目を含めても回答者が適切に回答できないのではないかという懸念から避けるべきである、といわれてきました。しかし、この調査が実施できたことで、一般的な調査において、性的指向や性自認のあり方をたずねる質問を含めた調査が実施可能であること、および性的指向や性自認のあり方による集計の可能性を示すことができました。

この調査経験および調査結果をベースに、これまで注目されてこなかった領域において、性的指向や性自認のあり方に関わる施策につながる差異や格差に関するデータを提供することができます。

◆研究者からのコメント

私たちは、厳密な統計的手順を踏まえて作成された量的データに基づいて性的マイノリティの置かれた状況を明らかにすることが重要だと考え、日本では誰も手をつけていなかった、全国から無作為抽出された対象者への調査を検討してきました。2023 年になり、ようやく住民基本台帳からの無作為抽出による郵送調査という方法で、それを実現することができました。予算の都合上、事前にはがきで挨拶とお願いを送るプロセスを省略したため、対象となった皆様のもとには、突然、調査書類一式が郵便受けに届く状況でご協力をお願いせざるを得なかったことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。また、それにもかかわらず、ご回答をお寄せくださった 5,000 人以上の方々に、厚くお礼を申し上げます。皆様のご回答のおかげで、これまでの準備や調査書類を無駄にすることなく、全国データとして公表することができました。大変貴重なデータとして、引き続きさまざまな角度からの分析を行い、その結果をもとに、家族と性の状況にかかわらず、暮らしやすい社会のあり方の検討に役立ててまいります。

- ※ ここでは、性的指向アイデンティティおよび現在認識する性別の問いに基づく結果を、各選択肢に「」をつけて表記しています。性自認のあり方については、出生時に届け出された性別と現在認識する性別の問いへの回答をもとにトランスジェンダーとシスジェンダーを分類しており、回答者自身が回答したものではないことを強調するため [] をつけて、[トランスジェンダー] と表記しています。
- ※ 本調査は、日本学術振興会科学研究費助成事業（課題番号 21H04407）「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為抽出調査の実施」の助成を受けて実施したものです。
- ※ 本調査の実施にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査委員会による承認を受けています。（承認番号 IPSS-IBRA#22002）
- ※ 「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」の詳細については、以下の URL をご覧ください。
<https://zenkoku-chosa.jp/>
- ※ これまでの研究については、以下の URL をご覧ください。
<https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/>
<https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI2/>

【取材に関するお問い合わせ先】

法政大学 総長室広報課 E-mail:pr@adm.hosei.ac.jp Tel:03-3264-9240

【調査内容に関するお問い合わせ先】

法政大学 GIS(グローバル教養学部) 助教 平森大規 E-mail:daiki.hiramori.43@hosei.ac.jp

「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」の結果概要

本研究チームでは、2024 年春の公表に向け、現在、調査結果の報告書をまとめています。この概要は、それに先駆け、一部の結果を紹介するものです。

- ※ この概要に掲載されている数値や本文は、データの精査過程で今後、変更されることがあります。
- ※ 本概要には、回答者の自認する性別、シスジェンダー・トランスジェンダー別、性的指向アイデンティティ別などの属性による集計結果を示しているものが含まれますが、いずれもいわゆるクロス集計の形で回答分布の結果を記述的に示したものであり、因果関係を示すものではない点に注意が必要です。なお、報告書の公表後、これらの属性等による違いについて、他の要因を考慮した分析や、統計的検定等を行なっていく予定です。
- ※ 本調査の実施にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査委員会による承認を受けています。(承認番号 IPSS-IBRA#22002)

調査の目的

本調査は、多様な性的指向や性自認のあり方、交際や結婚経験などが、人びとの心身の健康、経済状況、居住地の移動経験や希望、子どもをもつ経験や希望、親との関係などの生活実態や意識と、どのように関連しているのかを明らかにすることを旨として、2023 年 2～3 月、日本に居住する 18～69 歳の方を住民基本台帳から層化二段無作為抽出法によって 18,000 人抽出し、実施したものです。

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、アセクシュアル（LGBTA）を含む性的マイノリティが日本社会で直面する課題については、性的マイノリティを対象にした量的調査や、聞き取り調査などを通じて明らかにされつつあります。しかし、厳密な統計的手順を踏まえたデータに基づいて日本における性的マイノリティの割合を推定することや、性的マイノリティと、そうでない人との生活実態や意識を比較することが可能な研究は限られていました。そこで、私たちの研究チームでは 2019 年 1～2 月に大阪市内で回答者を住民基本台帳から無作為に抽出した調査（<https://www.osaka-chosa.jp/>）を実施し、大阪市民の性的指向と性自認のあり方の分布を示し、こころの状態の比較などを行いました。

ただし、2019 年の調査結果は大阪市民の状況に限られていたため、日本全体についてはわかりませんでした。そこで、今回は、全国に住む 18～69 歳の 18,000 人を対象に調査を実施し、性的指向や性自認のあり方、異性・同性との交際や結婚経験など人びとの生活実態や意識との関連について検討することにしました。

この調査の特徴は、以下のとおりです。

第 1 に、本調査では性的指向と性自認のあり方についてさまざまな設問を通してたずねているため、何割の人が自分自身を同性愛者であると認識しているか、何割の人が男性と女性の両方に性的に惹かれるのか、何割の人が出生時の性別に違和感をもっているのか、何割の人が男性の恋人と交際した経験があるのか、等の点について、明らかにすることができます。

第 2 に、性的指向や性自認のあり方が異なることで、生活実態や意識にどのような違いが生じるのかについて、統計的に比較することができます。つまり性的マイノリティの生活実態と意識には、性的マイノリティ以外の人たちと比べ、統計的に意味がある違いがあるのかを検証できます。特に、これまで性的指向や性自認のあり方との関連が明らかにされてこなかった、結婚や交際の経験と希望、子どもをもつ経験や希望、居住地移動の経験と希望など、人口学的な事項との関連を確認することができます。

第3に、対象者を日本全国から無作為に抽出しているため、日本全体に当てはまる結果を得ることが期待できます。信頼性のあるデータを得るためには、綿密に設計された調査票が重要です。本研究では、とりわけ回答者が性的マイノリティであるかそうでないかにかかわらず、誰もが性的指向や性自認のあり方を的確に回答できるような質問項目を開発するために、多くのひとの協力を得て予備調査を実施するなど、慎重に準備を重ねてきました。また、本調査は、結婚や交際に関しては、相手についても、男性と女性の二元的な性別ではなく、どちらにも属さない性別の人も含めてとらえることができるように設計されています。

調査の結果

1 回答者の性的指向と性自認のあり方

本調査では、性的マイノリティをとらえる人口学的設問を導入しました。性的指向アイデンティティおよび性自認のあり方の問への回答は次のとおりです¹。

すべての回答者 5,339 人のうち、自身のことを「異性愛者」と回答したのが 4,218 人（79.0%）、「ゲイ・レズビアン・同性愛者」と回答したのが 19 人（0.4%）、「バイセクシュアル・両性愛者」と回答したのが 95 人（1.8%）、誰に対しても性愛感情を抱かない「アセクシュアル・無性愛者」と回答したのが 49 人（0.9%）、「決めたくない・決めていない」と回答したのが 299 人（5.6%）、「質問の意味がわからない」と回答したのが 603 人（11.3%）でした。

現在認識する性別が、出生時に割り当てられた性別（以下、出生時性別）と同じである（以下「シスジェンダー」）と回答したのは 5,267 人（98.7%）でした。それに対し、現在認識する性別が、出生時性別とは別の性別だととらえている、または違和感がある（以下「トランスジェンダー」）と回答したのは 32 人（0.6%）でした。このうち、出生時性別が「男」で現在の認識が「女」（4 人）または「男性・女性にあてはまらない」（10 人）と回答したのは 14 人（0.6%）、出生時性別が「女」で現在の認識が「男」（4 人）または「男性・女性にあてはまらない」（14 人）と回答したのは 18 人（0.6%）でした。

全回答者のうち、「ゲイ・レズビアン」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」に当てはまるのは 140 人（2.6%）²、それに「アセクシュアル」を含めると 186 人（3.5%）³ でした。なお参考までに、「ゲイ・レズビアン」「バイセクシュアル」「アセクシュアル」「決めたくない・決めていない」「トランスジェンダー」の合計は 472 人（8.8%）になりますが、別の試験的調査⁴では、「決めたくない・決めていない」と回答した人の 22～54%は異性愛者の可能性がある」と指摘されており、「決めたくない・決めていない」と回答した人すべてを性的マイノリティとみなすことには留意が必要です。

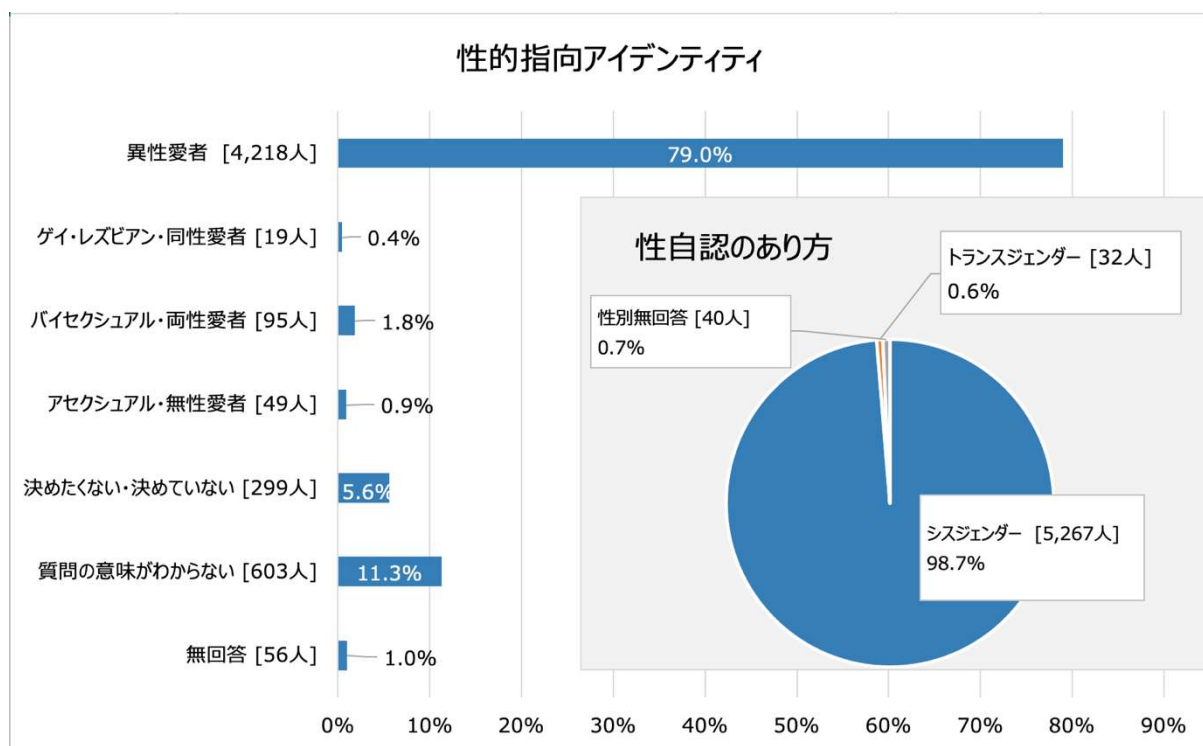
¹ この調査には回答者の性的指向をとらえる設問を複数含めていますが、以下では、性的指向アイデンティティの問いに基づく結果を、各選択肢に「」をつけて表記します。性自認のあり方については、前述の基準に従ってトランスジェンダーとシスジェンダーを分類しており、回答者自身がその回答したものではないことを強調するため「」をつけて、「トランスジェンダー」および「シスジェンダー」と表記します。自認する性別が男/女である場合、それぞれ「男性」「女性」と表記します。また、集計結果の記載にあたっては適宜、回答者が現在認識する性別を、自認する性別、または、性自認、シスジェンダー・トランスジェンダー別を、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別を、性的指向別と、それぞれ略記する場合があります。

² 140 人の内訳：「ゲイ・レズビアン」「バイセクシュアル」(LGB)114 人に、「トランスジェンダー」(T)で性的指向の設問に LGB 以外の回答をした 26 人を足した数

³ 186 人(LGBT)の内訳：LGBT 140 人に「アセクシュアル」(A)で「トランスジェンダー」ではない 46 人を足した数

⁴ Hiramori, Daiki, Saori Kamano, and Takeyoshi Iwamoto. 2021. "Are All of the "Undecided" Sexual/Gender Minorities? A Queer Demographic Analysis of an Experimental Study to Improve SOGI Questions"（性的指向の自認を「決めたくない・決めていない」人はみな性的マイノリティなのか？——「性的指向・性自認に関する設問の改善に向けた試験的調査」のクア人口学的分析）、アメリカ人口学会大会配布資料、2021/05/07

図表 1 回答者の性的指向アイデンティティと性自認のあり方 [n=5,339]



* 性的指向アイデンティティの設問：

問 55 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人] >
- 2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人] >
- 3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人] >
- 4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人] >
- 5 決めたくない・決めていない > ①へ
- 6 質問の意味がわからない > 問 56へ

* 性自認のあり方の設問：

問 53 あなたの性別に○をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別](○は1つ)

- 1 男
- 2 女

※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことをさします。

問 54 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別 (問 53 で○をつけたもの) と同じだととらえていますか。左側で2や3に○をした方は、今の認識をお答えください。

(○はいくつでも)

- 1 出生時の性別と同じ
- 2 別の性別だととらえている >
- 3 違和感がある >

今の認識にもっとも近い性別 (○は1つ)

- 1 男
 - 2 女
 - 3 男性・女性にあてはまらない
- 具体的に

2 家族および居住の状況と希望

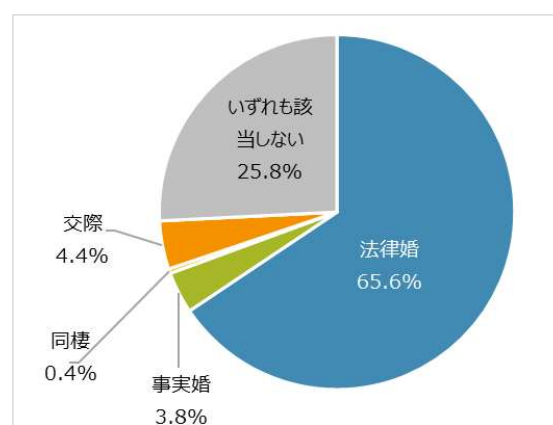
現在のパートナー関係

結婚や交際に関する複数の問いの回答を組み合わせ、現在の回答者のパートナー関係を、「法律婚（をしている）」「事実婚（をしている）」「同棲（している）」「交際（している）」「いずれも該当しない」の5つに分類したところ、「法律婚」が65.6%、「事実婚」が3.8%、「同棲」が0.4%です。これらを合わせた69.8%は、パートナーと生活をともにしている人の割合といえるでしょう。一方、「交際」が4.4%、「いずれも該当しない」が25.8%であり、これら30.2%はパートナーと生活をともにしていないといえるでしょう。

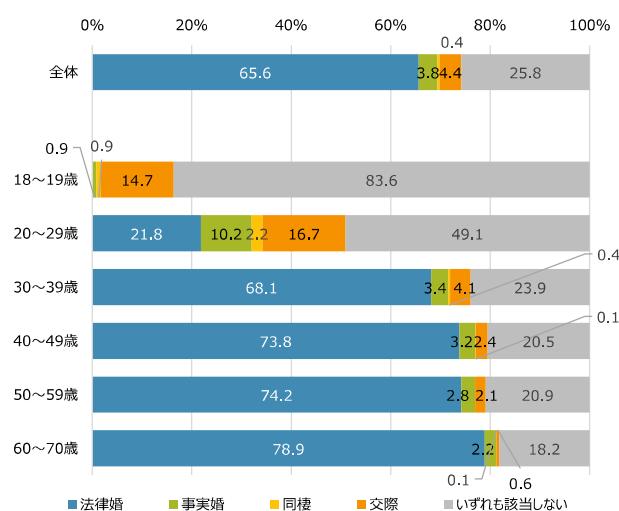
年齢でみると、「法律婚」が多くなるのは30歳以降ですが、20～29歳では「事実婚」が10.2%を占めています。また、18～19歳、20～29歳では「交際（している）」の割合が15%前後であることが分かります。

自認する性別でみると、「法律婚」や「事実婚」の割合に男女の間に大きな差はありませんが、「男性・女性にあてはまらない」人では、「法律婚」の割合は「男性」や「女性」の約半分で、「同棲」の割合が4.2%と高くなっています。【トランスジェンダー】でもこれと同様の傾向がみられます。また、性的指向別にみると、「同性愛者・両性愛者」では「事実婚」の割合が8.8%と他のカテゴリーよりも高い一方、「いずれも該当しない」の割合も43.0%と高いことが示されました。

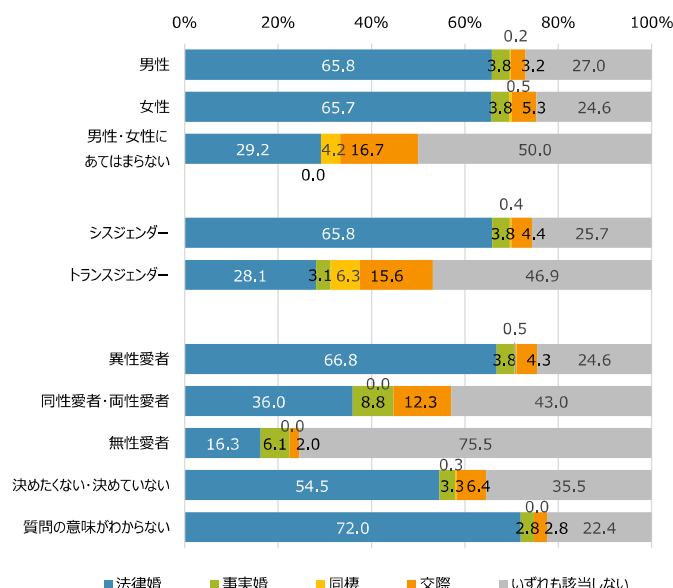
図表2 現在のパートナー関係 [n=5,339]



図表3 現在のパートナー関係（全体、年齢別） [n=5,339⁵]



図表4 現在のパートナー関係（性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]



⁵ 年齢別、性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別の各カテゴリーの該当者数（n）は、p.21、付録の付表4に記載しています。

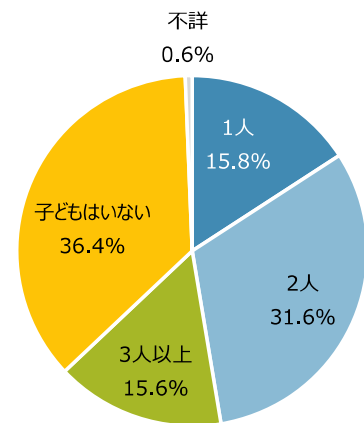
子どもの数と今後の希望

回答者の子どもの数は、現在一緒に住んでいない子どもを含め、「2人」が約3割（31.6%）、「1人」が15.8%、「3人以上」が15.6%です。これらを合わせて子どものいる人の割合とすると63.0%となりますが、子どものいない回答者の割合も3人に1人を超える36.4%でした。

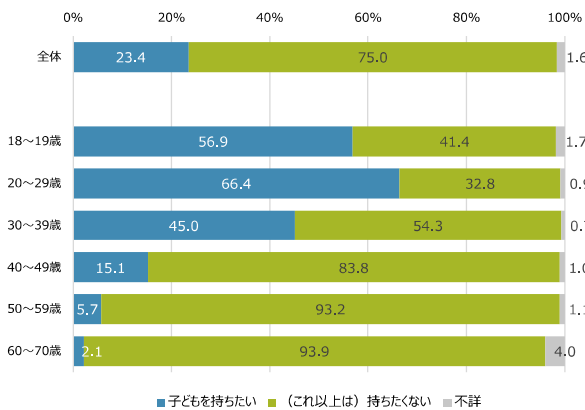
次に、「あなたは（さらに）子どもを持ちたいと思いますか。養子や里子も含みます」とたずねました。「持ちたい」と回答した割合は全体の23.4%、年齢別では20代でもっとも高い66.4%、次いで10代で56.9%、30代で45.0%の順でした。また、40代では1割台、50代では約6%が子どもを望んでいることもみてとれます。

自認する性別でみると、「男性・女性にあてはまらない」では「男性」（24.4%）や「女性」（22.7%）よりも高い33.3%、シス・トランス別でみると、「トランスジェンダー」では「シスジェンダー」（23.5%）よりも高い31.3%、性的指向別でみると、「同性愛者・両性愛者」では「異性愛者」（24.4%）より高い38.6%でした。

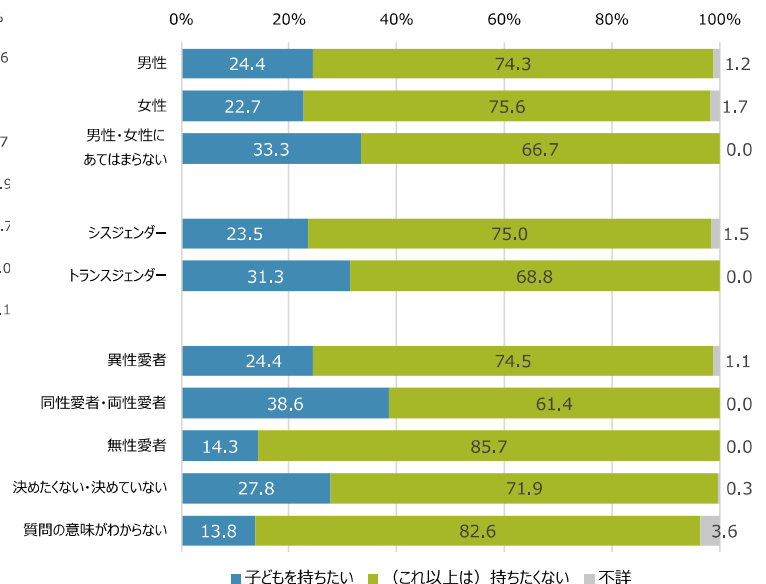
図表5 子どもの数の分布 [n=5,339]



図表6 子どもを持ちたいか否か（全体、年齢別） [n=5,339]



図表7 子どもを持ちたいか否か（性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]

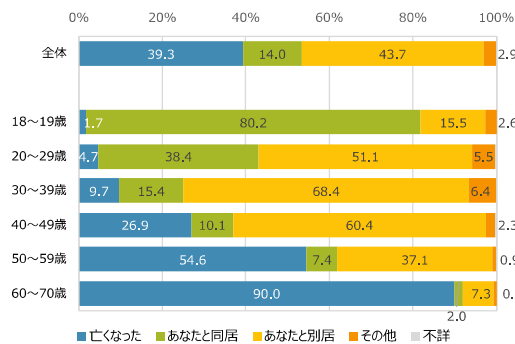


親との同別居

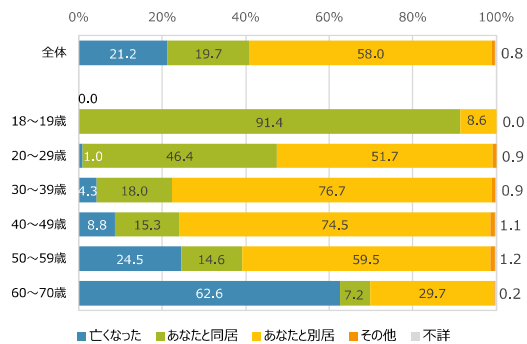
この調査では父親・母親の現在の居住地についてたずねています。回答者と両親との同居・別居に着目してみると、父親については、全体でみると、亡くなっているのは約 4 割（39.3%）、同居しているのは 14.0%、別居しているのは 43.7%でした。年齢別にみると、父親と同居している割合は 18～19 歳では 8 割を越えています（80.2%）、20 代では 38.4%、30 代で 15.4%と年齢とともに低下していきます。

母親については、全体でみると、亡くなっているのは約 2 割（21.2%）、同居しているのも約 2 割（19.7%）、別居しているのは 58.0%でした。年齢別にみると、母親と同居しているのは、18～19 歳で 91.4%と 9 割を越えています、20 代に入ると 46.4%と半分を割り、30 代から 50 代まではおおむね 15%～18%台にあります。

図表 8 父親との同別居（全体、年齢別）
[n=5,339]



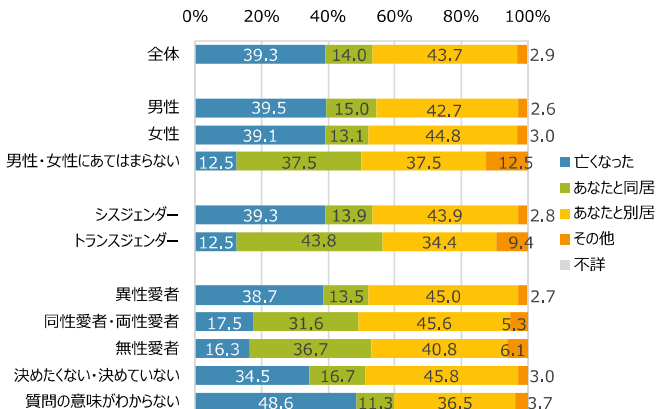
図表 9 母親との同別居（全体、年齢別） [n=5,339]



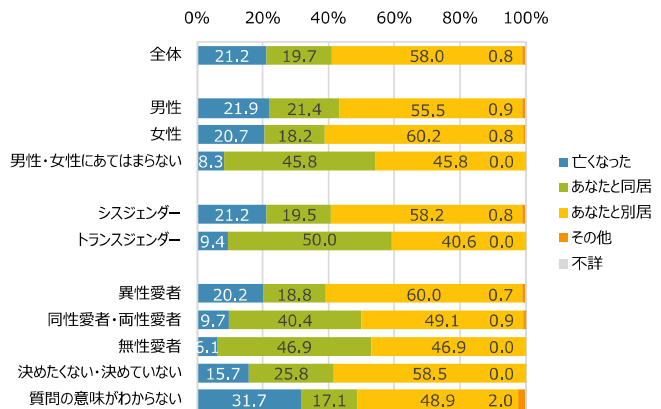
自認する性別でみると、「男性・女性にあてはまらない」では、父親と同居している割合が 37.5%であり、[男性]（15.0%）、[女性]（13.1%）よりも高い結果となっています。シス・トランス別でみると、[シスジェンダー]では父親と同居する割合が 13.9%であるのに対し、[トランスジェンダー]では 43.8%と大きな違いがみられます。性的指向別では、「無性愛者」では父親と同居する割合が 36.7%でもっとも高く、「同性愛者・両性愛者」ではそれに次ぐ 31.6%でした。

母親との同居について、自認する性別でみると、「男性・女性にあてはまらない」では、母親と同居している割合が 45.8%ともっとも高くなっています。シス・トランス別でみると、[トランスジェンダー]で母親と同居している割合が 50.0%と高くなっています。性的指向別では、「無性愛者」で母親と同居する割合が 46.9%、「同性愛者・両性愛者」で 40.4%と 4 割を超える高さとなっています。

図表 10 父親との同別居（全体、性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]



図表 11 母親との同別居（全体、性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]



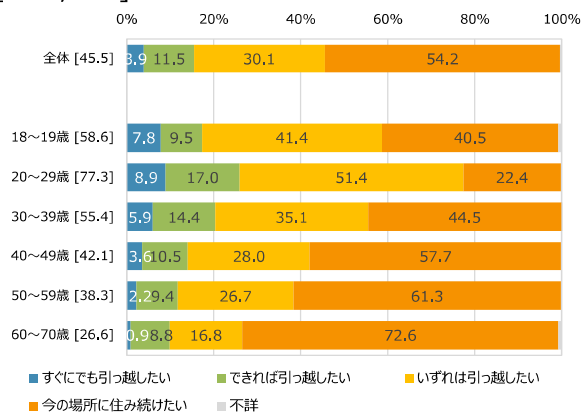
今後の引っ越しの希望

この調査では、現在の住まいから引っ越したいかどうかをたずねています。「すぐにでも引っ越したい」、「できれば引っ越したい」、「いずれは引っ越したい」の3つを「引っ越したい」（図表上では各カテゴリーのあとに〔 〕で表記）としてまとめると、全体では半数弱の45.5%が「引っ越したい」、54.2%が「今の場所に住み続けたい」と回答しています。

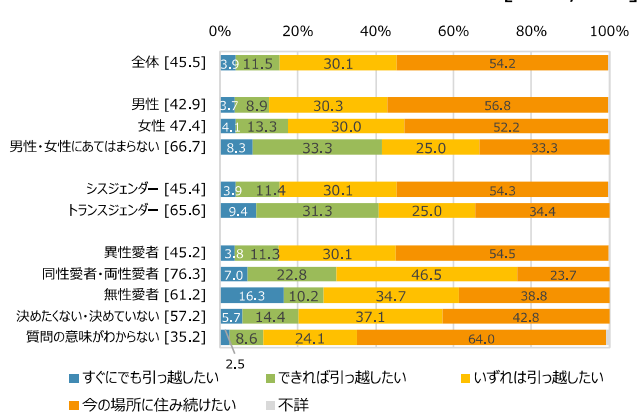
年齢別にみると、18歳～19歳と20代で「引っ越したい」の希望が高く、18～19歳で58.6%、20代では77.3%が「引っ越したい」と回答しています。「引っ越したい」という回答者の割合は、30代以降減少し、60代では26.6%です。

自認する性別では、「引っ越したい」という回答者の割合は、〔男性〕（42.9%）よりも〔女性〕（47.4%）でやや高い一方、「男性・女性にあてはまらない」（66.7%）ではさらに高い割合となっています。シス・トランス別では、「引っ越したい」という回答者の割合は、〔シスジェンダー〕では全体とほぼ同じ45.4%ですが、〔トランスジェンダー〕では65.6%と高い割合となっています。性的指向別では、「引っ越したい」という回答者の割合は、「異性愛者」で45.2%、「同性愛者・両性愛者」で76.3%、「無性愛者」で61.2%、「決めたくない・決めていない」と回答した人では57.2%となっており、「異性愛者」よりも高い傾向がみられます。

図表 12 今後の引っ越しの希望（全体、年齢別）
[n=5,339]



図表 13 今後の引っ越しの希望（全体、性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）
[n=5,339]

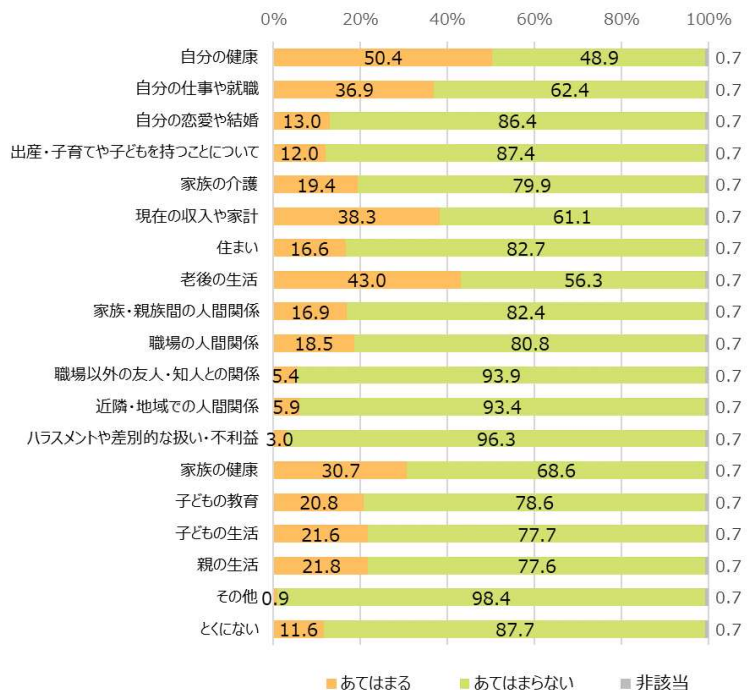


3 日常の困りごと、いじめ・暴力の被害、こころの状態（K6）

日常の困りごと

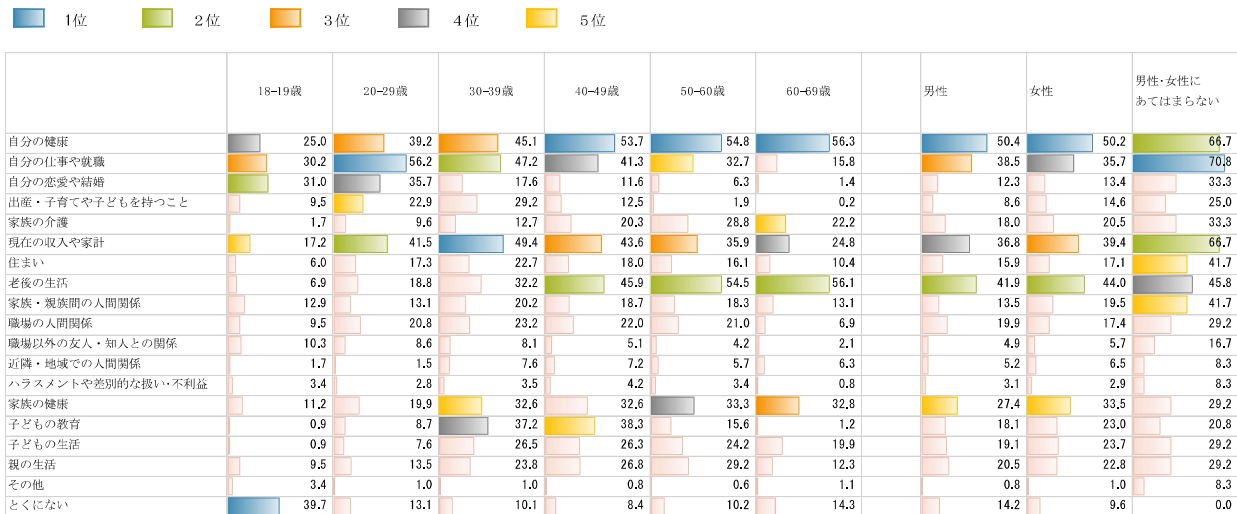
この問いでは17の項目を挙げて、日常生活の中で悩みや困りごとがあるかどうかをたずねました（複数回答）。その結果、「自分の健康」については、17項目中でもっとも多い、約半数（50.4%）の人が悩みや困りごとがあると回答しています。以下、選択した人の割合が高い項目は、「老後の生活」が43.0%、「現在の収入や家計」が38.3%、「自分の仕事や就職」が36.9%、「家族の健康」が30.7%と続いています。悩みや困りごとが「とくにない」とした人の割合は1割強（11.6%）でした。

図表 14 日常の困りごと選択割合（複数回答）[n=5,339]

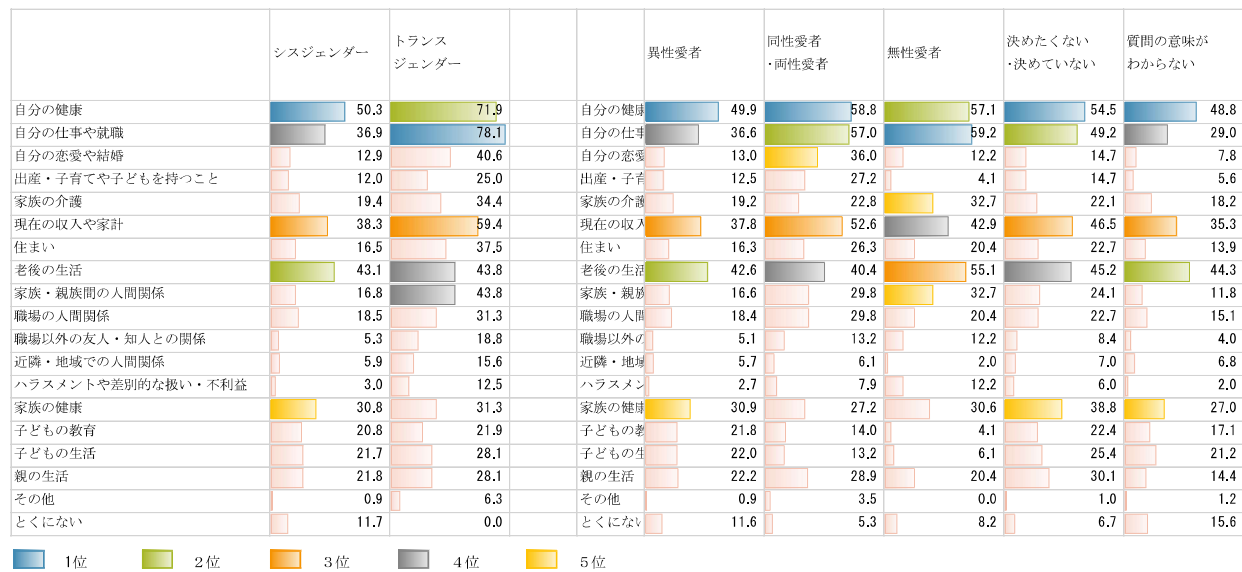


年齢別や性自認別、シス・トランス別、性的指向別などの属性別にみても、おおむね、上記の5項目が上位に現れています。年齢別でみたときには、18～19歳では「とくにない」（39.7%）がもっとも多いこと、次いで多いのが「自分の恋愛や結婚」（31.0%）であること、20～29歳でも「自分の恋愛や結婚」（35.7%）が4番目に高い割合を示しているといった傾向がみられます。この「自分の恋愛や結婚」は、性的指向別にみたときの「同性愛者・両性愛者」においても第5位の位置を占めています（36.0%）。また、30～39歳、40～49歳では「子どもの教育」（それぞれ37.2%、38.3%）を挙げる人の割合が高いことも分かります。〔トランスジェンダー〕の人たちでは「自分の健康」（71.9%）や「自分の仕事や就職」（78.1%）を挙げる割合が非常に高いということも示されました。他方、悩みや困りごとが「とくにない」という人の割合は、年齢別では40～49歳を底とした分布となっている、性自認の「男性・女性にあてはまらない」人たちや、シス・トランス別の〔トランスジェンダー〕の人たちではこれを選んだ人がいなかった、性的指向別では「同性愛者・両性愛者」や「無性愛者」では異性愛者の半分程度の値となっている、といった傾向がみてとれます。

図表 15 日常の困りごと選択割合（複数回答）（年齢別、性自認別）[n=5,339]



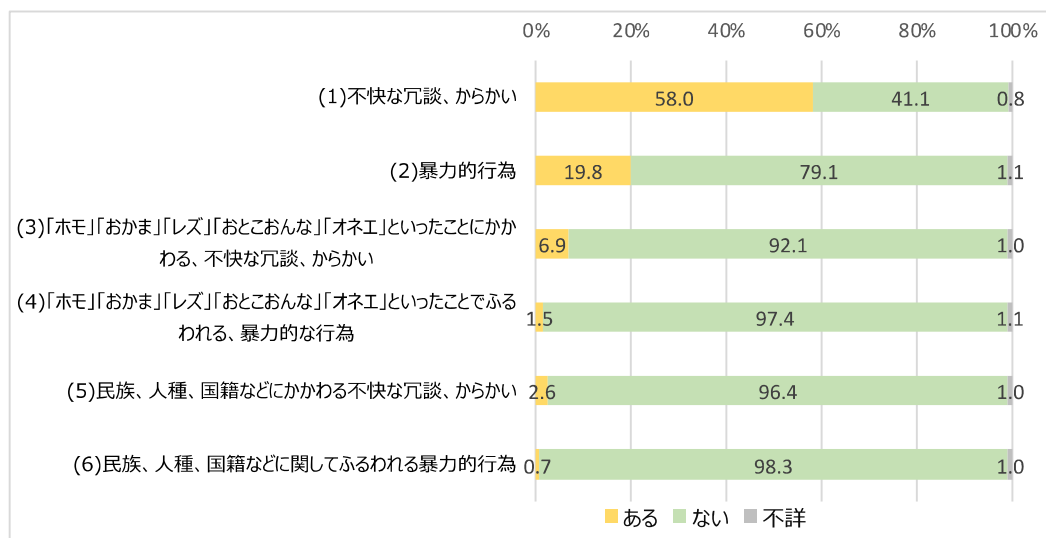
図表 16 日常の困りごと選択割合（複数回答）（シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



小学校から高校時代に経験した不快な冗談・からかい、暴力的行為

小学校から高校時代に、友人や同級生から「不快な冗談・からかい」は 58.0%の人が、「暴力的行為」は 19.8%の人が受けた経験がありました。「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といった不快な冗談、からかいは 6.9%の人が、それらに関する暴力は 1.5%の人が経験していました。民族、人種、国籍に関することでは、不快な冗談・からかいは 2.6%の人が、暴力的な行為は 0.7%の人が経験していました。

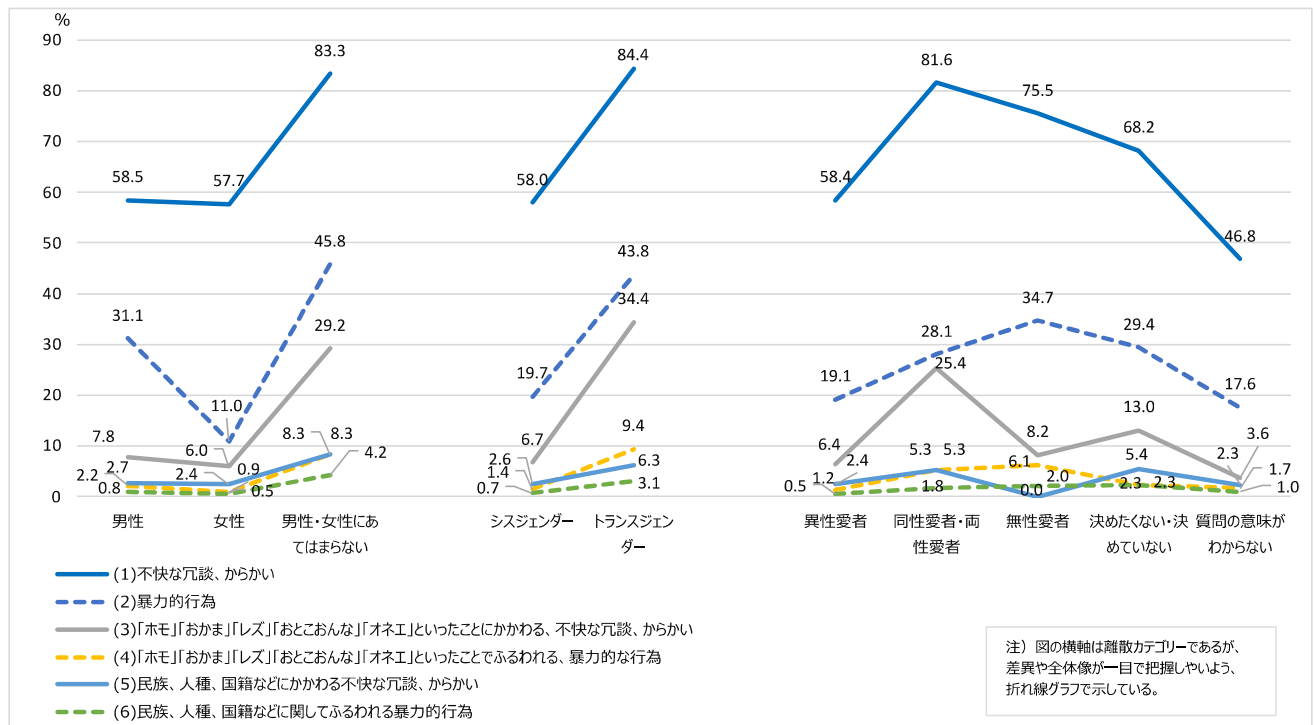
図表 17 小学校から高校時代に不快な冗談・からかい、暴力的行為を受けた経験 [n=5,339]



これらの経験について、自認する性別、シス・トランス別、性的指向別にみると、どのカテゴリーでも、「不快な冗談、からかい」を受けた割合がもっとも多く、「民族、人種、国籍などに関してふられる暴力的行為」がもっとも少なく、ほぼこの番号順に少なくなっています。自認する性別では、「男性・女性にあてはまらない」と答えた人がどの項目でも【男性】や【女性】より顕著に多く受けており、男女間では【女性】がやや少ない傾向にあります。シス・トランス別では、【トランスジェンダー】がどの項目も【シスジェンダー】よりかなり多く、「不快な冗談・からかい」は 84.4%が、「暴力的行為」は 43.8%が、「ホモ」「おかま」などの不快な冗談・からかいは 34.4%が、それらに関する暴力は 9.4%が経験していました。性的指向別では、「異性愛者」よりも、「同性愛者・両性愛者」、「無性愛者」、「決めたくない・決めていない」人が多く受けています。不快な冗談・からかいは「同性愛者・両性愛者」が全体的にも（81.6%）、「ホモ」「おかま」などに関するものも（25.4%）もっとも多く経験し、「暴力的行為」は「無性愛者」が 34.7%と最も多く経験しています。また、民族・人種・国籍などにかかわる「不快な冗談、からかい」や「暴力的行為」ともに、「男性・女性にあてはまらない」と答えた人、【トランスジェンダー】、非異性愛者は、いずれもそれ以外の人よりも多く経験しています。

図表 18 小学校から高校時代に不快な冗談・からかい、暴力的行為を受けた経験

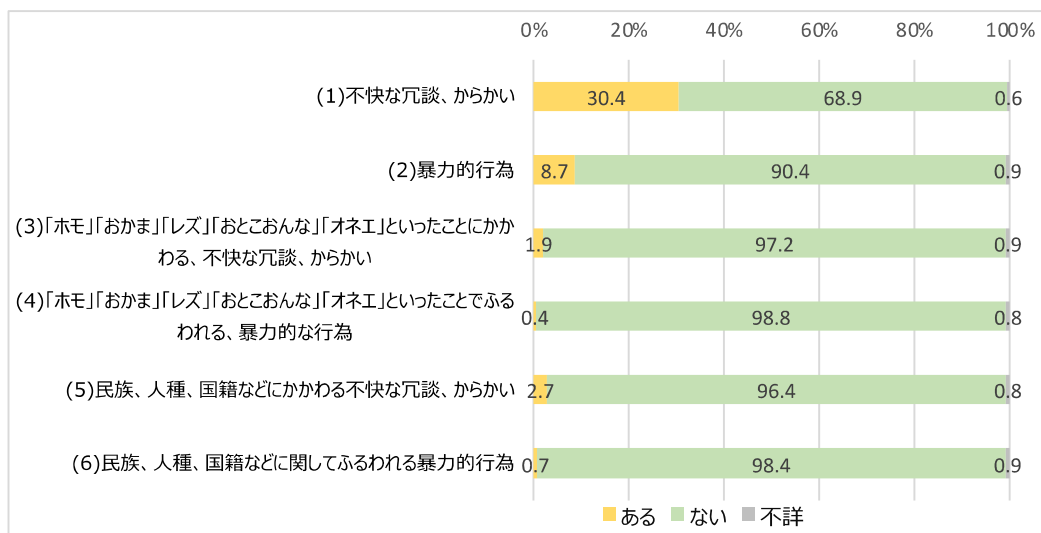
(性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別) [n=5,339]



大人になってから経験した不快な冗談・からかい、暴力的行為

大人になってからでも、身近な人からの「不快な冗談・からかい」は 30.4%の人が、「暴力的行為」は 8.7%の人が受けた経験がありました。「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といった不快な冗談、からかいは 1.9%の人が、それらに関する暴力は 0.4%の人が受けた経験がありました。民族、人種、国籍に関することでは、不快な冗談、からかいは 2.7%の人が、暴力的な行為は 0.7%の人が受けた経験がありました。

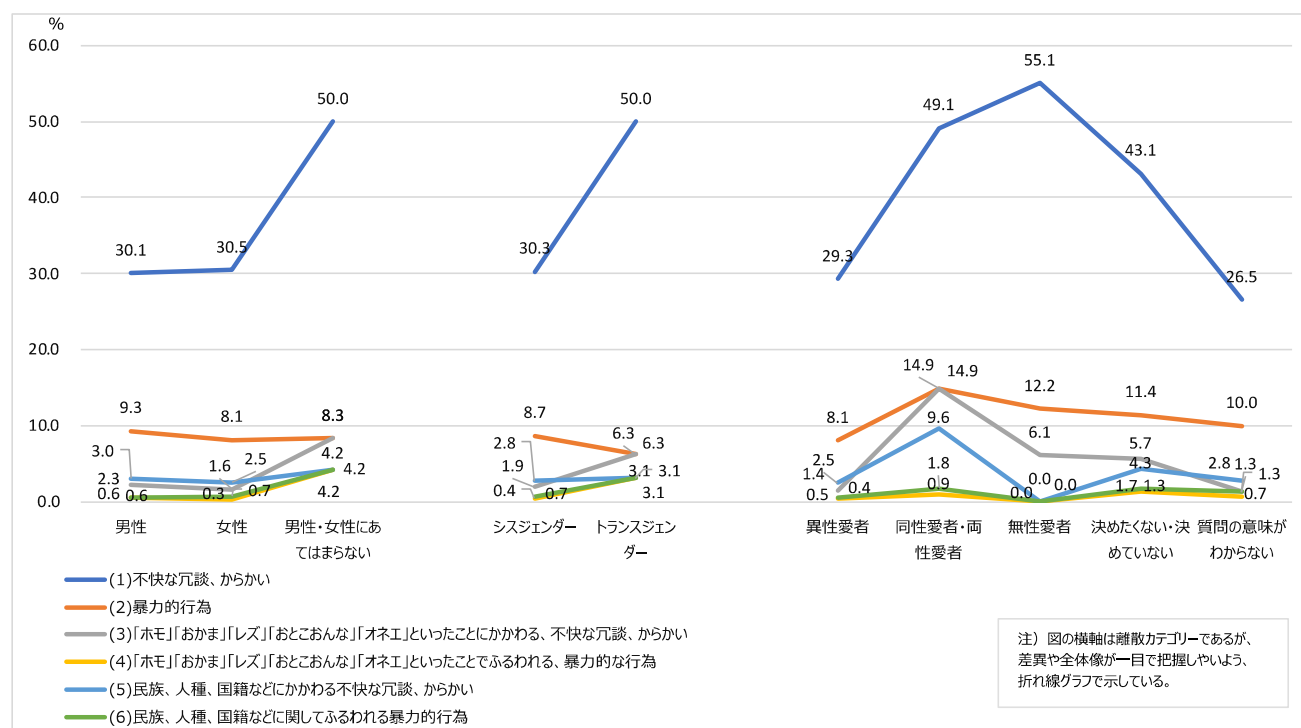
図表 19 大人になってから、不快な冗談・からかい、暴力的行為を受けた経験 [n=5,339]



自認する性別、シス・トランス別、性的指向別にそれぞれ分けてこれらの経験の有無をみると、どのカテゴリーでも、「不快な冗談、からかい」を受けた割合がもっとも多く、「民族、人種、国籍などに関してふるわれる暴力的行為」がほぼすべての項目でもっとも少なく、おおよその番号順に少なくなっています。自認する性別では、暴力的行為は3つのカテゴリーでほぼ差がないものの、それ以外では「男性・女性にあてはまらない」と答えた人がどの項目でも「男性」や「女性」より多く受けています。男女間では、ほとんど差がないが、「女性」が少なくなっています。「トランスジェンダー」はほとんどの項目で「シスジェンダー」よりも多く、「不快な冗談・からかい」を受けた経験は50.0%の人がありました。性的指向別では、「異性愛者」よりも、「同性愛者・両性愛者」、「無性愛者」、「決めたくない・決めていない」人が全般に多く経験しています。「不快な冗談、からかい」は「無性愛者」が55.1%ともっとも多く、それ以外の項目は「同性愛者・両性愛者」がもっとも多く、中でも「暴力的行為」、「ホモ」「おかま」などの不快な冗談は、ともに14.9%と多くなっています。また、民族・人種・国籍などにかかわる「不快な冗談、からかい」や「暴力的行為」とともに、「男性・女性にあてはまらない」と答えた人、「トランスジェンダー」、「無性愛者」を除く非異性愛者は、いずれもそれ以外の人よりも多く受けています。

不快な冗談・からかいや暴力的行為を受けた経験は、おおむね、小学校から高校時代よりも、大人になってからの方が少なくなっていますが、民族・人種に関することについては、両者間に大きな差はあまりみられませんでした。

図表 20 大人になってから、不快な冗談・からかい、暴力的行為を受けた経験
(性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別) [n=5,339]

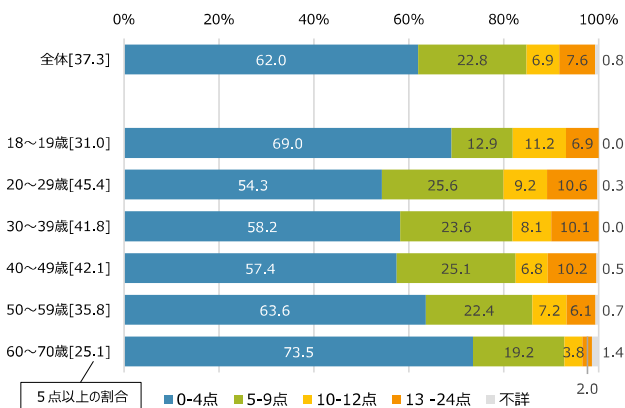


最近 1 ヶ月の心の状態（K6 値）

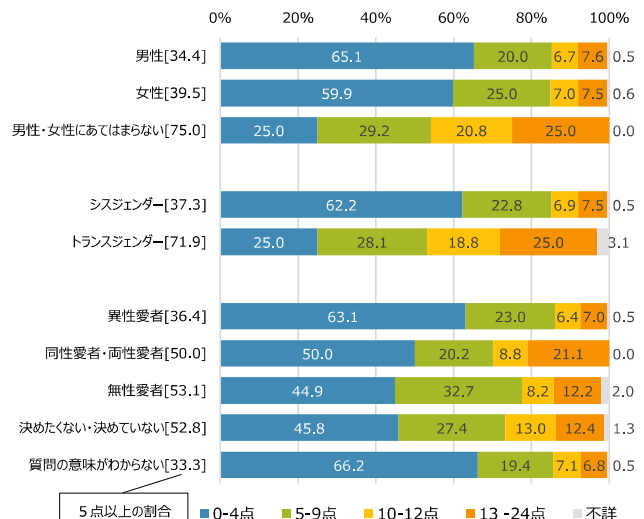
最近 1 か月のこころの状態を、「神経過敏に感じましたか」、「絶望的だと感じましたか」、「そろそろ、落ち着かなく感じましたか」、「気分が沈み込んで、何が起こっても気分が晴れないように感じましたか」、「何をしても骨折りだと感じましたか」、「自分は価値のない人間だと感じましたか」の 6 項目でたずねました。「まったくない」を 0 点、「少しだけ」を 1 点、「ときどき」を 2 点、「たいてい」を 3 点、「いつも」を 4 点とし、6 項目を合計した上で（K6 得点⁶）、0～4 点、5～9 点、10～12 点、13 点以上に分け、それぞれの得点にあてはまる人の割合を示しました。

全体では「0～4 点」が 62.0%、5～9 点が 22.8%、10～12 点が 6.9%、13 点以上が 7.6%でした。年齢別にみると、「心理的ストレスを抱えている可能性」があるとされる 5 点以上の割合（図表上では各カテゴリーのあとに [] で表記）については、20 代から 40 代では 4 割台となっており、10 代や 50 代以上に比べて高い傾向がみられました。K6 得点が 5 点以上の割合は、[男性] の 34.4%、[女性] の 39.5%に対して「男性・女性にあてはまらない」では 75.0%、[シスジェンダー] の 37.3%に対して「トランスジェンダー」では 71.9%、「異性愛者」の 36.4%に対して「同性愛者・両性愛者」では 50.0%、「無性愛者」では 53.1%でした。このように、K6 得点が 5 点以上の割合は、[シスジェンダー] や「異性愛者」に比べ、[トランスジェンダー] や「男性・女性にあてはまらない」、「同性愛者・両性愛者」、「無性愛者」の方が高くなっていました。また、「深刻な心理的苦痛を感じている可能性」があるとされる 13 点以上の割合は、「男性・女性にあてはまらない」と「トランスジェンダー」では 25.0%で、[男性] または [女性] を自認している、ないしは [シスジェンダー] に比べ、高いことがわかりました。性的指向による差はやや小さいものの、K6 得点が 13 点以上の割合は、「同性愛者・両性愛者」では「異性愛者」の 7.0%より 14.1 ポイント高い 21.1%でした。

図表 21 最近 1 ヶ月間の心の状態（K6 値）（全体、年齢別）[n=5,339]



図表 22 最近 1 ヶ月間の心の状態（K6 値）（性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



⁶ うつ病を含む気分障害、不安障害をスクリーニングするために Kessler ら（2003）が開発した尺度。橋本（2010）に倣い、3 つ以上の項目に無回答だった 37 人（0.9%）は除外し、無回答が 1 項目か 2 項目の人については、回答された項目の平均値を代入し、K6 得点を算出した。なお、5 点以上は「心理的ストレスを抱えている可能性」、10 点以上は「気分・不安障害に相当する可能性」、13 点以上は「深刻な心理的苦痛を感じている可能性」があるとされています。

Kessler, R.C., Barker, P.R., Colpe, L.J., Epstein, J.F., Gfroerer, J. C., Hiripi, E., Howes, M.J., Normand, S.T., Manderscheid, R.W., Walters, E.E., Zaslavsky, A.M. 2003. "Screening for serious mental illness in the general population." Archives of General Psychiatry 60:184-189.

橋本英樹. 2010. 「今後の国民生活基礎調査の在り方についての一考察（第 2 報）」『厚生指標』57(3):1-7.

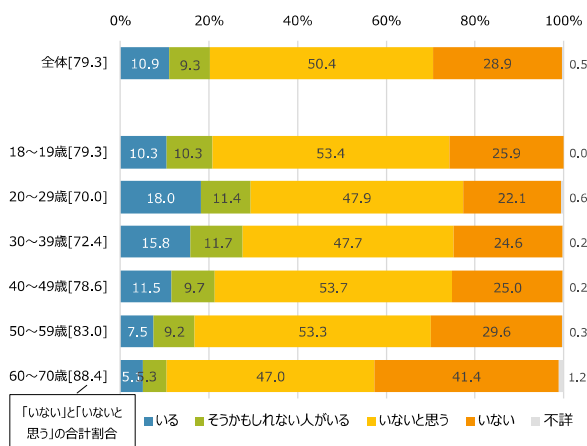
4 家族・性のあり方についての認識と考え方

同性愛者や性別を変えた人が、身近にいるか否かの認識

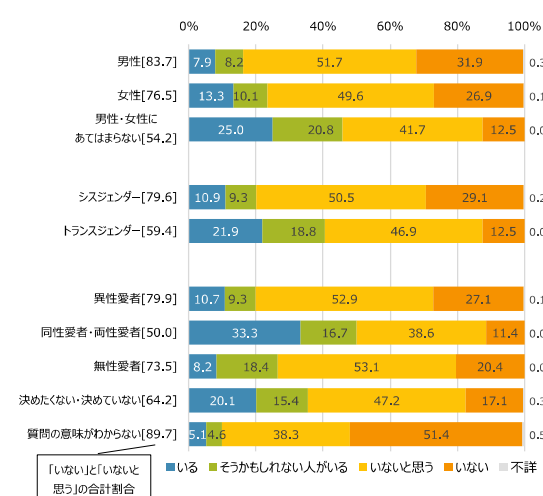
この調査では、身近な人の中に性的マイノリティがいるかどうかについて、「職場の同僚（過去も含む）や、近しい友人、親せきや家族に、同性愛者はいますか」、「職場の同僚（過去も含む）や、近しい友人、親せきや家族に、性別を変えた、あるいはそうしようと考えている人はいますか」という2つの設問でたずねました（選択肢：「いる」、「そうかもしれない人がいる」、「いないと思う」、「いない」）。「いる」と答えた割合は、同性愛者については10.9%、性別を変えた人については4.7%でした。

このうち同性愛者については、10代から40代では「いる」と答えた割合が10%台であり、20代で18.0%、30代で15.8%、40代で11.5%、50代で10.3%であるのに対し、50代では7.5%、60代では5.1%でした。これを自認する性別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別でみると、同性愛者が身近に「いる」と認識する割合が高いのは、「男性・女性にあてはまらない」と答えた人（25.0%）、[トランスジェンダー]（21.9%）、[同性愛者・両性愛者]（33.3%）、[決めたくない・決めていない]と答えた人（20.1%）でした。

図表 23 身近に同性愛者がいるか否か（全体、年齢別） [n=5,339]

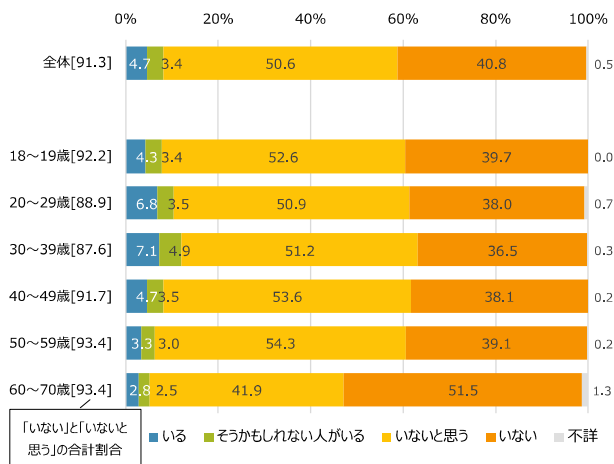


図表 24 身近に同性愛者がいるか否か（性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別） [n=5,339]

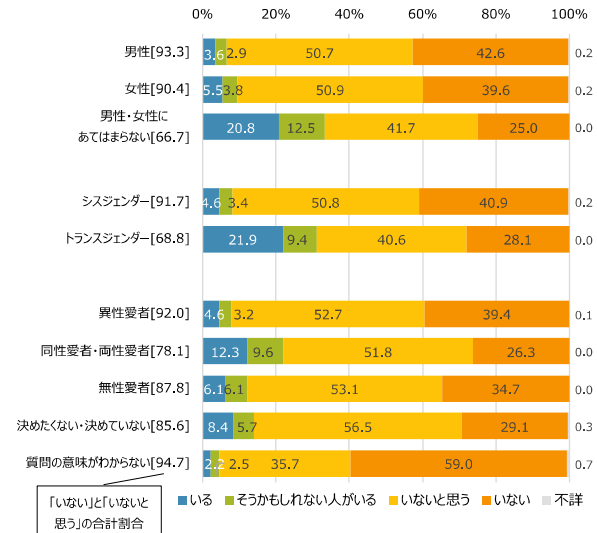


性別を変えた人・そうしようと考えている人については、同性愛者についての場合と比べ、「いる」「そうかもしれない人がいる」の割合が低く、相対的に割合の高い20代と30代でも7%前後でした。自認する性別、シス・トランスの別、性的指向アイデンティティ別に分けてみると、「男性・女性にあてはまらない」では20.8%、[トランスジェンダー]では21.9%、「同性愛者・両性愛者」では12.3%でした。これらの割合は、[男性]や[女性]、あるいは[シスジェンダー]に比べると相対的に高いものの、2割台にとどまっています。また、性別を変えた人・そうしようと考えている人が身近に「いない」もしくは「いないと思う」割合は（図表上では各カテゴリーのあとに「」で表記）、「男性・女性にあてはまらない」では66.7%、[トランスジェンダー]では68.8%でした。このように、性別二元制の枠にあてはまらない、あるいは[トランスジェンダー]である回答者の3人に2人は、身の回りに自身と同じ境遇の人のいない環境下にある可能性が示されました。

図表 25 身近に性別を変えた人がいるか否か（全体、年齢別）[n=5,339]



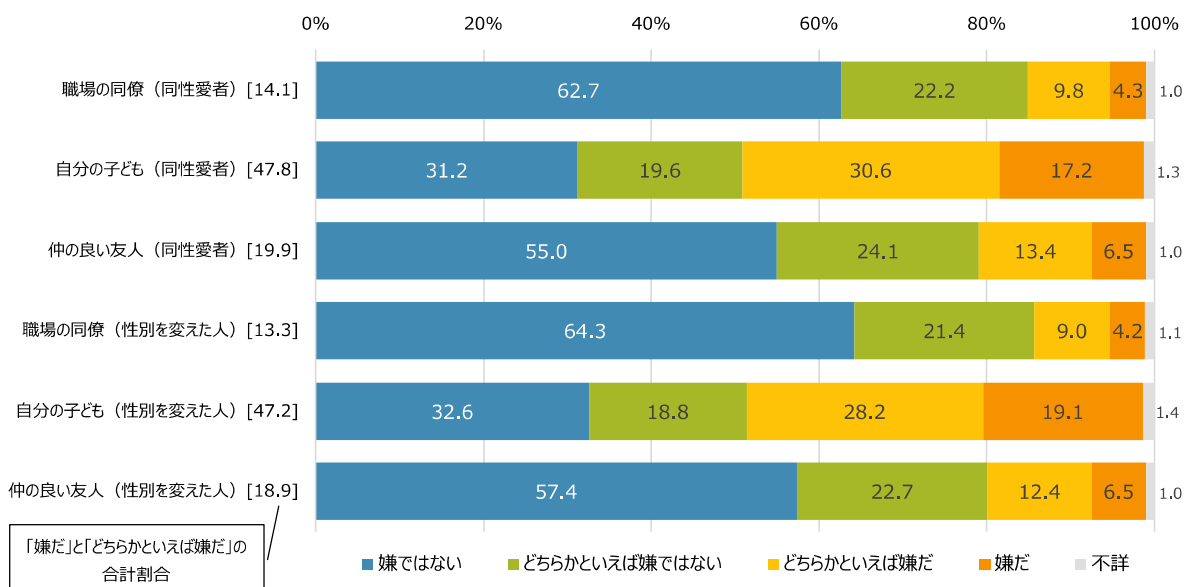
図表 26 身近に性別を変えた人がいるか否か（性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）[n=5,339]



身近な同性愛者や性別を変えた人についての考え方

職場の同僚、自分の子ども、仲の良い友人が同性愛者だった場合にどう思うか、また性別を変えた人だった場合にどう思うかを、「嫌ではない」、「どちらかといえば嫌ではない」、「どちらかといえば嫌だ」、「嫌だ」の4つの選択肢を用いてたずねました。職場の同僚が同性愛者だった場合には14.1%が、性別を変えた人だった場合には13.3%が「嫌だ」もしくは「どちらかといえば嫌だ」と回答しました（図表上では各カテゴリーのあとに〔 〕で表記）。仲のよい友人が同性愛者だった、あるいは性別を変えた人だった場合には、その値はそれぞれ19.9%、18.9%でした。このように、同僚や友人が性的マイノリティの場合に否定的な感情を示す人は2割未満です。一方で、自分の子どもが同性愛者だった、あるいは性別を変えた人だった場合には、約半数（47.8%、47.2%）の人が、「嫌だ」または「どちらかといえば嫌だ」と回答しています。

図表 27 身近な人が同性愛者・性別を変えた人だったらどう思うか [n=5,339]

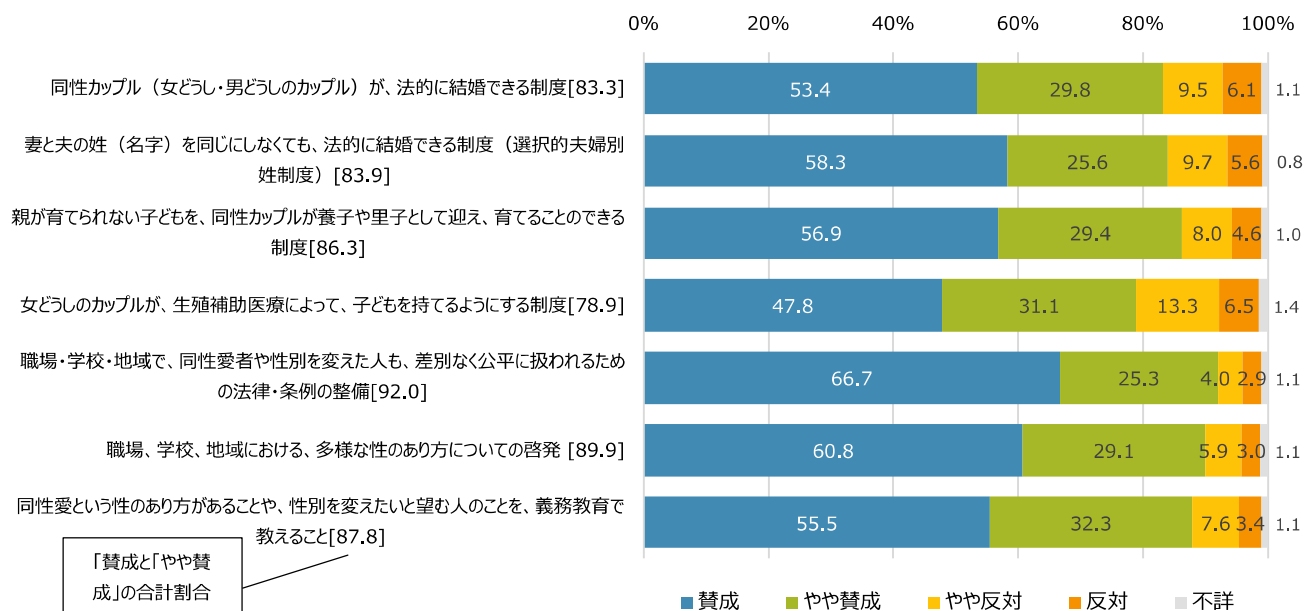


5 性の多様性にかかわる制度や課題についての考え方および制度の認知

家族と性の多様性にかかわる制度についての考え方

家族と性の多様性にかかわる制度や取り組みについては、7 項目の考え方を提示し、「賛成」、「やや賛成」、「やや反対」、「反対」の 4 つの選択肢から選んでもらいました。7 項目の考え方のいずれも、「賛成」または「やや賛成」と答えた割合（以下、賛成割合）は 75%を超えており、4 人中 3 人はそれらの考え方に賛同していることがわかりました。賛成割合がもっとも高いのは「職場・学校・地域で、同性愛者や性別を変えた人も差別なく公平に扱われるための法律・条例の整備」（92.0%）、次いで「職場、学校、地域における、多様な性のあり方についての啓発」（89.9%）でした。「同性愛という性のあり方があることや、性別を変えたいと望む人のことを義務教育で教えること」（87.8%）および「親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里親として迎え、育てることのできる制度」（86.3%）の賛成割合は 85%を超え、「妻と夫の姓（名字）を同じにしなくても、法的に結婚できる制度（選択的夫婦別姓制度）」（83.9%）および「同性カップルが法的に結婚できる制度」（83.3%）の賛成割合は 80%を超えていました。「女どうしのカップルが、生殖補助医療などによって、子どもをもてるように支援する」（78.9%）への賛成割合は、他の項目に比べて低いものの、約 8 割が賛同していることがわかりました。

図表 28 家族と性の多様性にかかわる制度についての考え方の分布 [n=5,339]

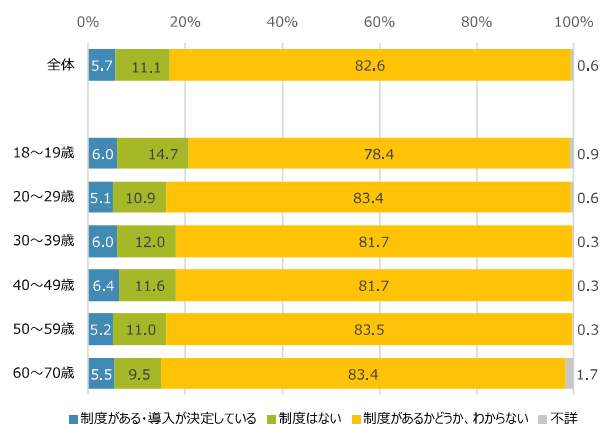


※各回答の選択割合の小数点第 2 位を四捨五入しているため、図表で示される「賛成」と「やや賛成」の割合を足し合わせた結果が、[] 内の数値と異なる場合もあります。

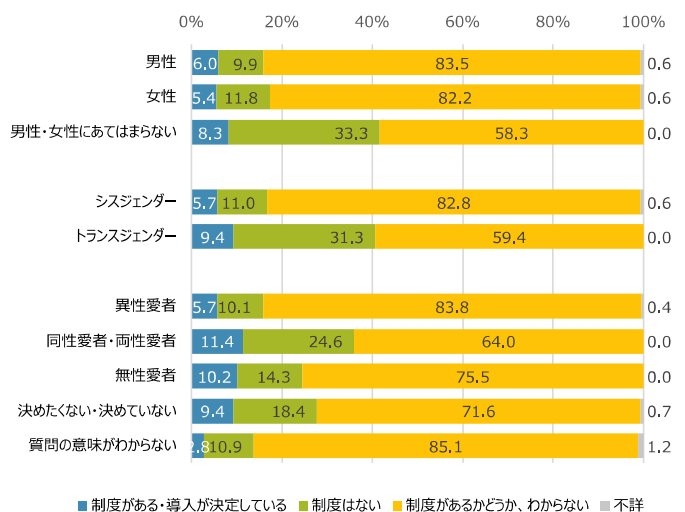
パートナーシップ制度の認知

家族と性の多様性に関わる自治体の取り組みが、回答者にどの程度認知されているかを調べるため、住んでいる自治体にパートナーシップ制度があるか否かをたずねました。「制度があるかどうか、わからない」の回答に注目すると、その選択割合は全体では82.6%で、パートナーシップ制度の有無の認知は全般に低いことがわかりました。年齢別でも、10代では7割台（78.4%）、20代以上では8割台（81.7%～83.5%）で、大きな違いはみられません。自認する性別でみると、「男性・女性にあてはまらない」人の選択割合は58.3%で、[男性]の83.5%や[女性]の82.2%に比べて低く、同様にシス・トランス別にみると[シスジェンダー]の82.8%に対し、[トランスジェンダー]では59.4%でした。性的指向アイデンティティ別では、「同性愛者・両性愛者」の64.0%がもっとも低く、「異性愛者」と「質問の意味がわからない」で8割台（それぞれ83.8%、85.1%）、「無性愛者」と「決めたくない・決めていない」で7割台（それぞれ75.5%、71.6%）でした。自治体によって詳細は異なるものの、多くのパートナーシップ制度で対象とされているのは同性カップルであるにもかかわらず、「同性愛者・両性愛者」の6割台が「わからない」と答えていました。なお、今後、回答者の居住地の調査時点でのパートナーシップ導入状況を考慮した集計も試みる予定です。

図表 29 パートナーシップ制度の認知（全体、年齢別）
[n=5,339]



図表 30 パートナーシップ制度の認知（性自認別、シス・トランス別、性的指向アイデンティティ別）
[n=5,339]



付録：調査方法

対象者の抽出

本調査では、母集団を全国に居住する18～69歳の人口とし、2022年1月1日時点の住民基本台帳に登録されている外国籍を含む18～69歳の18,000人を実査の対象としました。対象者は、総務省統計局により実施された2020年国勢調査時の基本単位区から層化二段無作為抽出法で抽出された360の基本単位区の居住者です。全国を11の地域ブロック（北海道、東北、北関東、南関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、北九州、南九州）と5つの自治体類型（大都市、人口20万人以上の市、人口10万人以上～20万人未満の市、人口10万人未満の市、町村）に区分し、各地域ブロック・自治体類型の人口規模に応じて360地点を配分し、各地点の住民基本台帳から50人を等間隔で抽出しました。対象者の抽出作業は、調査委託機関である一般社団法人 新情報センターが2022年11～12月に実施しました。

対象者の男女別にみた年齢別地域ブロック別の分布は付表1の通りです。

付表1 男女別年齢別都道府県別にみた抽出数⁷

男性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	12	50	57	77	84	73	353
東北	15	95	101	146	125	95	577
北関東	11	84	81	115	118	96	505
南関東	83	504	565	646	692	434	2,924
北信越	10	65	91	131	133	91	521
東海	40	143	212	289	247	200	1,131
近畿	40	207	249	317	331	249	1,393
中国	17	69	95	123	114	97	515
四国	8	19	48	56	52	26	209
北九州	17	85	123	153	120	131	629
南九州	13	67	76	99	84	98	437
計	266	1,388	1,698	2,152	2,100	1,590	9,194
女性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	11	42	63	90	69	72	347
東北	20	82	107	139	142	133	623
北関東	16	62	80	83	107	97	445
南関東	69	475	454	565	678	435	2,676
北信越	7	68	94	127	90	93	479
東海	24	151	175	233	221	215	1,019
近畿	37	218	229	331	365	277	1,457
中国	19	65	65	103	135	98	485
四国	8	28	41	59	52	53	241
北九州	20	80	105	156	137	123	621
南九州	17	58	64	101	98	75	413
計	248	1,329	1,477	1,987	2,094	1,671	8,806

⁷ 対象者の抽出および回収状況の付表および本文における男女は、住民基本台帳上の性別に基づいています。

付表 2 男女別年齢別都道府県別にみた抽出率

男性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	0.27	0.22	0.21	0.22	0.25	0.22	0.22
東北	0.20	0.25	0.22	0.25	0.22	0.16	0.22
北関東	0.17	0.24	0.21	0.23	0.25	0.22	0.23
南関東	0.24	0.23	0.24	0.22	0.24	0.21	0.23
北信越	0.15	0.19	0.25	0.26	0.28	0.20	0.24
東海	0.28	0.18	0.24	0.26	0.23	0.23	0.23
近畿	0.20	0.19	0.22	0.22	0.23	0.22	0.22
中国	0.25	0.20	0.25	0.25	0.25	0.22	0.24
四国	0.25	0.12	0.26	0.22	0.22	0.11	0.19
北九州	0.22	0.21	0.27	0.27	0.24	0.25	0.25
南九州	0.25	0.26	0.24	0.26	0.24	0.24	0.25
計	0.23	0.21	0.24	0.24	0.24	0.21	0.23
女性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	0.26	0.19	0.24	0.25	0.19	0.19	0.21
東北	0.28	0.24	0.25	0.25	0.26	0.21	0.24
北関東	0.26	0.21	0.23	0.18	0.24	0.22	0.22
南関東	0.21	0.23	0.20	0.20	0.26	0.22	0.22
北信越	0.12	0.22	0.27	0.27	0.19	0.20	0.22
東海	0.18	0.21	0.22	0.23	0.22	0.25	0.22
近畿	0.19	0.21	0.21	0.23	0.25	0.23	0.22
中国	0.30	0.20	0.18	0.21	0.29	0.21	0.23
四国	0.27	0.18	0.23	0.24	0.22	0.21	0.22
北九州	0.26	0.20	0.23	0.27	0.25	0.22	0.24
南九州	0.33	0.22	0.20	0.26	0.26	0.18	0.23
計	0.22	0.22	0.22	0.22	0.24	0.22	0.22

注) 抽出率は千分率(‰)で表示

2022年1月1日時点の住民基本台帳の登録人口に占める割合を千分率で示したのが付表2です。抽出する人数が少ない地域や年齢層でばらつきは生じやすいものの、おおむね0.20～0.26‰の範囲におさまっており、抽出された対象者は想定する母集団からおおむね偏りなく抽出されているといえましょう。

調査票の配布と回収

調査は郵送配布、郵送回収(WEB 回答併用)方式で行いました。対象者への調査票は、2023年2月1日に郵送し、回答の締め切りは同年2月21日に設定しました。その後、2023年2月15日にお礼状を兼ねた督促状を対象者に発送し、督促状では回答期限を2月27日(研究チームが準備した調査説明のホームページでは2月28日)まで延長する旨も告知しました。外国語話者の対象者のために、調査説明のホームページに、中国語(繁体字、簡体字)、英語、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語、タガログ語による説明と調査票を掲載しました。

調査票の回収は、郵送とインターネットのいずれかとし、郵送の場合は調査票と一緒に送付された料金受取人払の返送用封筒に、回答済みの調査票を封入したものを回答者が郵便ポストに投函する方式としました。インターネットの場合は調査票と

一緒に送付されたユニーク ID とパスワードを利用してインターネット上に開設された調査票に回答者が回答を入力する方式としました。回答者に対する謝礼は 500 円のクオカードとし、回答が確認された後に日を改めて送付しました。調査書類の送付、調査票の回収、謝礼の送付の作業は、一般社団法人 新情報センターに委託しました。

回収状況

回収された調査票の数は、2023 年 4 月 15 日までに届けられた 5,485 票でした。回収された調査票のうち、146 票は無効と判断し（白票 1 票、記入状況の極端に悪い 10 票、本人以外の回答と考えられる 131 票、郵送とウェブの両方に回答したうちの重複分の 4 票）、それらを除いた 5,339 票を有効回収票としました。有効回収票のうち、郵送による回収は 3,126 票（58.6%）、インターネットによる回収は 2,213 票（41.4%）でした。対象者のうちの 142 人については、転居などによる宛先不明として調査票が配布されずに新情報センターへ戻された他、抽出作業時のミスが判明した 3 人は調査対象から除外しました。

調査票が届いたとみられる 17,855 人の対象者に対する有効回収票の比である有効回収率は 29.9%です。付表 3 には、有効回収率を男女別年齢別都道府県別に整理しました。同表によれば、有効回収率は男性よりも女性で高く、男性の場合は 18～19 歳や 20～29 歳で低く 60～69 歳で高いのに対し、女性では 30～39 歳や 40～49 歳で高くなる傾向がみられました。例えば、もっとも高い値を示すのは 30～39 歳の女性の 38.2%、次いで 40～49 歳の女性の 36.9%であり、もっとも低い値を示すのは 18～19 歳の男性の 18.4%でした。

付表 3 男女別年齢別都道府県別にみた有効回収率

男性							
地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	33.3	18.0	29.8	31.2	28.6	28.8	28.0
東北	13.3	18.9	26.7	29.5	34.4	37.9	29.3
北関東	18.2	22.6	25.9	21.7	21.2	38.5	25.5
南関東	18.1	19.0	24.8	22.6	25.4	33.9	24.6
北信越	10.0	18.5	31.9	23.7	30.1	34.1	27.6
東海	20.0	21.0	26.4	26.6	28.7	29.0	26.5
近畿	17.5	21.3	24.5	21.1	24.5	29.7	24.0
中国	11.8	14.5	29.5	17.1	18.4	37.1	22.9
四国	25.0	21.1	31.3	33.9	28.8	46.2	32.1
北九州	29.4	16.5	26.0	22.9	25.0	26.7	24.0
南九州	7.7	19.4	13.2	25.3	26.2	32.7	23.6
計	18.4	19.4	25.7	23.8	26.1	32.6	25.4

女性

地域ブロック	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	計
北海道	27.3	38.1	33.3	36.7	37.7	31.9	35.2
東北	45.0	26.8	33.6	38.1	38.7	36.1	35.8
北関東	37.5	32.3	37.5	37.3	31.8	28.9	33.5
南関東	27.5	28.8	39.6	35.4	31.4	28.7	32.7
北信越	14.3	33.8	43.6	44.9	32.2	39.8	39.2
東海	45.8	40.4	40.0	40.3	33.0	36.3	38.0
近畿	21.6	29.8	31.9	33.8	30.4	35.7	32.1
中国	21.1	36.9	50.8	40.8	33.3	26.5	35.9
四国	25.0	42.9	29.3	30.5	23.1	41.5	32.4
北九州	20.0	33.8	35.2	36.5	29.9	32.5	33.2
南九州	11.8	17.2	48.4	35.6	27.6	28.0	30.8
計	27.8	31.4	38.2	36.9	31.8	32.7	34.0

注) 有効回収率は百分率(%)で表示。分母は調査票が届いたと考えられる対象者の数(17,855)、分子は有効回収数である。なお、対象者の年齢は住民票上の年齢であり、実査の時期の関係で回答者が調査票に記入した年齢とは異なる場合がある。ただし、有効回答票のうちの9票については住民票上の年齢を特定できない形での回答であったため、この表の数値には含めていない。

年齢、自認する性別、シスジェンダー・トランスジェンダーの別、性的指向アイデンティティの分布

本概要で集計に用いた属性(年齢、自認する性別、シスジェンダー・トランスジェンダーの別、性的指向アイデンティティ)の各カテゴリーの該当者数(n)は、付表4のとおりです。

付表4 年齢、自認する性別、シスジェンダー・トランスジェンダー別、性的指向アイデンティティ別、該当者数

年齢5歳階級	n	自認する性別	n	シス・トランス別	n	性的指向アイデンティティ	n
18～19歳	116	男性	2,304	シスジェンダー	5,267	異性愛者	4,218
20～29歳	687	女性	2,971	トランスジェンダー	32	同性愛者・両性愛者	114
30～39歳	995	男性・女性にあてはまらない	24	不詳	40	無性愛者	49
40～49歳	1,241	不詳	40			決めたくない・決めていない	299
50～59歳	1,221					質問の意味がわからない	603
60～70歳	1,077					不詳	56
不詳	2						
合計	5,339	計	5,339	計	5,339	合計	5,339

家族と性と多様性にかんする全国アンケート結果概要

Summary Report of the National Survey of Family, Gender/Sexuality, and Diversity

発行日：2023年10月27日（改訂日：2024年2月21日）

著 作：釜野さおり・岩本健良・小山泰代・申知燕・武内今日子・千年よしみ・平森大規・藤井ひろみ・
布施香奈・山内昌和

編集・発行：「性的指向と性自認の人口学—全国無作為抽出調査の実施」研究チーム（代表 釜野さおり）
〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F 国立社会保障・人口問題研究所 内

※ 本調査は、日本学術振興会科学研究費助成事業「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為抽出調査の実施」(JSPS 科研費 JP21H04407)の助成を受けて実施したものです。

家族と性と多様性にかんする全国アンケート（全国 SOGI 調査）報告書
Report of the National Survey of Family, Gender/Sexuality, and Diversity

発行日：2025 年 3 月 31 日 第 1 版第 1 刷発行
著作：釜野さおり・岩本健良・小山泰代・申知燕・武内今日子・千年よしみ・
平森大規・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和

編集・発行：JSPS 科研費「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為抽出調査の実施」研究チーム
(代表 釜野さおり)

〒169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1
早稲田大学 社会科学総合学院 釜野研究室内 SOGI 調査研究所
